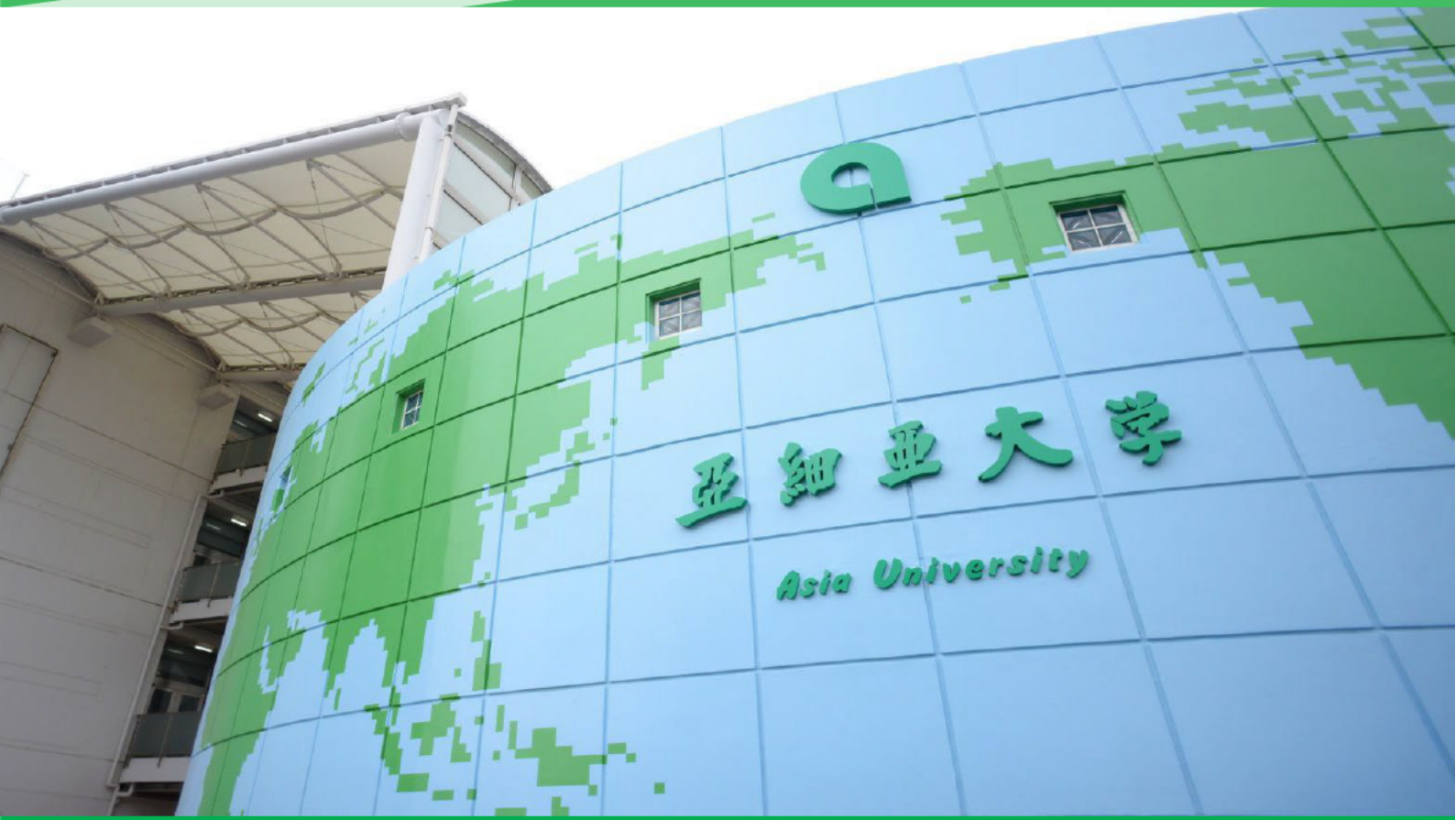
日本応用心理学会

第89回大会発表論文集



亜細亜大学　令和５年８月２６日（土）
８月２７日（日）

日本応用心理学会
第89回大会発表論文集

大会テーマ
「ポストコロナとデータ社会の応用心理学」

2023年8月26日（土）～27日（日）

亜細亜大学

目　　次

大会シンポジウム・ワークショップ・特別講演・研修会

大会企画シンポジウム ---------- 1

8月26日（土）13:30-15:00　1階　200教室

ポジティブ心理学の潮流と応用

－ポストコロナ時代における健康で幸福な生き方を考える－

司会・進行：　木村　友昭（MOA 健康科学センター）

話題提供者：　伊坂　裕子（日本大学）

銅直　優子（流通科学大学）

柏木　　仁　（亜細亜大学）

特別講演 ---------- 2

8月27日（日）12:50-13:50　1階　200教室

AI に創造性は可能か？

司会：　鈴木 信幸（亜細亜大学経営学部長）

講師：　東条　　敏（亜細亜大学経営学部データサイエンス学科）

大会企画ワークショップ① ---------- 3

8月26日（土）16:20-17:50　3階　236教室

ポストコロナにおける心身の健康づくり－チェアヨガの実践－

司会：　東浦 拓郎　（亜細亜大学）

話題提供者：鹿内 菜穂　（亜細亜大学）

大会企画ワークショップ② ---------- 4

8月27日（日）15:00-16:30　3階　236教室

Consider The Agentic Self of Japan Youth -International Comparative Approach Based on Dopaminergic activity and Working Memory-

Presenter: Mahiro TAKAZAWA (National Hospital Organization Tokyo Medical Center)

Workshop Planner: Fumihiko ITAGAKI (Asia University)

Speaker: Kenji ITOH (National Hospital Organization Tokyo Medical Center)

Discusser: David TURK (University of Bristol)

Koichi TSUNODA (National Hospital Organization Tokyo Medical Center)

自主企画ワークショップ① ---------- 5
8月26日（土）10:00-11:30　　2階　223教室
カウンセリング，心理療法のアジアからの発信（４）
林潔　（白梅学園短期大学）
高橋浩子（山手教育研究所）
加藤博己（駒澤大学）
竹内啓恵（東京農業大学・樹づ木合同会社）
李　同帰（北京大学）
Nagongbiling（内モンゴル自治区国際蒙医病院）
高橋良博　（駒澤大学）

自主企画ワークショップ② ---------- 6
8月26日（土）10:00-11:30　　2階　222教室
インターネット環境を利用した質問紙調査
― 最近の Web 調査における研究の傾向と留意点 ―
企画・司会：　松田浩平(東北文教大学)
話題提供：　三保紀裕(京都先端科学大学)
西川一二(大阪商業大学)
指定討論：　小川悦史(亜細亜大学)・松田浩平

自主企画ワークショップ③ ---------- 7
8月26日（土）10:00-11:30　　2階　221教室
コロナ禍での子どもたちの発達と健康
～大切な人の笑顔を見ずに子どもは育つか～
企画・司会：　田中真介（京都大学国際高等教育院）
話題提供：田中真介
山本英彦（医療 問題研究会）
古賀真子（コンシューマネット・ジャパン）
指定討論:　戸松太一（京都大学大学院）
横井川美佳(京都大学大学院)
本原琴美　（竹富町立大原中学校）

自主企画ワークショップ④ ---------- 8
8月26日（土）10:00-11:30　3階　233教室
女性アスリートの成長発達段階における指導者の役割
-以外と知られていないハラスメントの実態等を子どもの権利条約の視点と併せて紹介します-

寅嶋　静香（奈良教育大学、京都工芸繊維大学）
権野めぐみ（京都工芸繊維大学）
来田　宣幸（京都工芸繊維大学）
藤林　園子（甲子園大学）

自主企画ワークショップ⑤ ---------- 9
8月26日（土）10:00-11:30　3階　232教室
ポストコロナ時代の心理学の教育を考える
企画・司会：伊藤令枝（日本大学理工学部）
話題提供：　有木永子（日本大学国際関係学部）
外島　裕（日本大学商学部）
指定討論：　藤田主一（日本体育大学）

自主企画ワークショップ⑥ ---------- 10
8月27日（日）10:00-11:30　2階　223教室
社会に役立つ応用心理学研究を考える
－ 道路交通社会を例とした貢献と課題 －
企画・話題提供者：大谷　亮（（一財）日本自動車研究所）
司会・話題提供者：小菅英恵（（公財）交通事故総合分析センター
話題提供者：　中西　誠（株式会社電脳）
中野友香子（科学警察研究所）

自主企画ワークショップ⑦ ---------- 11
8月27日（日）10:00-11:30　2階　222教室
いじめ問題のロール・プレイングを教員研修で取り組む
小・中学校の教員研修、学級現場での活用に向けて
高橋　秀和（アウェアネス＆ グロースアプローチ研究）

自主企画ワークショップ⑧ ---------- 12
8月27日（日）10:00-11:30　2階　221教室
デジタル技術と心理学の融合事例
近野　恵（富士通株式会社）
井手健太（富士通株式会社）
紺野剛史（富士通株式会社）
桐生正幸（東洋大学社会学部）

自主企画ワークショップ⑨ ---------- 13
8月27日（日）10:00-11:30　3階　233教室
自己信頼性の育ちを尊重した発達診断、障害児教育
- 発達研究と自閉症児教育を通した考察 -
塚田直也（筑波大学附属視覚特別支援学校）
飯島杏那（筑波大学附属久里浜特別支援学校）
福田　睦（京都大学総合人間学部卒業）
田中真介（京都大学国際高等教育院）

研修会A ---------- 14
8 月 26 日（土）15:20-16:20　3階　235教室
産業保健心理学領域における AI 活用の現状、課題、可能性について
宮中大介（株式会社ベターオプションズ、慶應義塾大学総合政策学部）
司会：島田恭子（東洋大学；ココロバランス研究所）

研修会B ---------- 15
8 月 27 日（日）14:00-15:00　3階　235教室
AIが犯罪予測と警察業務をどう変える？
- 最適化アルゴリズムとフィールド実験から学ぶ -
梶田真実（株式会社Singular Perturbations・東京大学 空間情報科学研究センター）
司会：桐生正幸（東洋大学）

口頭発表　第１日　８月 26 日（土）

セッション①－1福祉・相談・医療（会場：224 教室）　15：20～16：20

座長　岩﨑　和子・堀　恭子

①-1-1	擬人化エージェントを用いたリモート心理カウンセリングの実践的研究	○岩﨑 和子　京都工芸繊維大学 李 潤杰 京都工芸繊維大学大学院 権野 めぐみ 京都工芸繊維大学 来田　宣幸　京都工芸繊維大学	16
①-1-2	慢性疼痛に関する保有者割合および発生時対処行動－年代別および職業別での比較－	○岡 恭正 京都工芸繊維大学大学院 来田 宣幸 京都工芸繊維大学	17
①-1-3	ある福祉施設職員の介護観とキャリア・コミットメントについての質問紙調査－経験年数に着目して－	○堀 恭子　聖学院大学心理福祉学部	18

セッション①－2 医療・看護・犯罪（会場：224 教室）　16：30～17：50

座長　山本　勝則・中村　創

①-2-1	沈黙の概念	○山本 勝則　名寄市立大学	19
①-2-2	精神科専門の訪問看護ステーション CISE（チセ）設立の意図と経過	○伊東 新太郎 訪問看護ステーションCISE 山本 勝則　名寄市立大学 神崎 明奈　東札幌病院	20
①-2-3	精神科訪問看護におけるCOVID-19に対する感染対策（予防と防御）-看護管理者の取り組み-	○中村 創　株式会社 N・フィールド 山本 勝則 名寄市立大学 堀 淳　株式会社 N・フィールド	21
①-2-4	犯罪予測に基づく巡回ルート最適化―ブラジル・ベロオリゾンテ市におけるケーブル窃盗防止の実証実験とその有効性評価―	○梶田 真実 株式会社Singular Perturbations／東京大学空間情報科学研究センター	22

【口頭発表②】8月26日（土）　15:20-17:50　　225教室

セッション②－1交通（会場：225教室）　15：20～16：20

座長　松浦　常夫・前田　楓

②-1-1	散歩コース図から見た散歩度が高い歩行の特徴	○松浦 常夫　実践女子大学人間社会学部 矢野 伸裕　科学警察研究所	23
②-1-2	幼児の道路横断可否判断は母親の予想と一致するのか	○中野 友香子　科学警察研究所交通科学部 金内 さよ　科学警察研究所交通科学部	24
②-1-3	「こども隙間転落防止プロジェクト」に関する啓発活動の効果―防護動機理論に基づく分析―	○前田 楓　立教大学現代心理学部 橋本 博文　大阪公立大学大学院文学研究科	25

セッション②－2教育（会場：225教室）　16：30～17：50

座長　寅嶋　静香・静間　健人

②-2-1	運動系部活動におけるハラスメントの実態調査　第一報 ～大学生女子アスリートを対象とした後ろ向き調査より～	○権野 めぐみ　京都工芸繊維大学 寅嶋 静香　奈良教育大学 来田 宣幸　京都工芸繊維大学	26
②-2-2	運動系部活動におけるハラスメントの実態調査 第二報 ～ケーススステディ(インタビュー)による文言分析から～	○寅嶋 静香　奈良教育大学 権野 めぐみ 京都工芸繊維大学 来田 宣幸　京都工芸繊維大学	27
②-2-3	乱数の聴き取とりによる銘記力・保持力・想起力を示した実証例－高齢者５０歳代から７０歳代の男女 ７人による銘記力・保持力・想起力の調査－	○吉岡 節夫　BRLM高速学習アカデミー	28
②-2-4	災害伝承施設における来館者体験の分析―東日本大震災・原子力災害伝承館の2022年度までの来館者アンケートを用いて―	○静間 健人　東日本大震災・原子力災害伝承館	29

口頭発表　8月27日（日）

セッション③−1原理・人格（会場：224教室）　14：00〜15：00

座長　浮谷　秀一・森本　康太郎

③-1-1　「血液型性格学」は信頼できるか（第32報）— 大村政男による血液型と地域性（県民性）との関係を探る —　○浮谷 秀一 東京富士大学　藤田 主一 日本体育大学　30

③-1-2　日本語版ポジティブイラショナルビリーフ尺度作成の試み　○森本 康太郎 福井県立大学キャリアセンター　31

③-1-3　Web調査による心理尺度構成の留意点 −妥当性項目の検討−　○片岡 大輔 株式会社日本能率協会マネジメントセンター　32

セッション③−2認知・発達・感情（会場：224教室）　15：10〜16：10

座長　金山　英莉花・平沼　博将

③-2-1　ヒトならびに表情分析AIが評定する表情と魅力の関連　○山口 茉優 早稲田大学大学院人間科学研究科　杉森 絵里子 早稲田大学学術院　33

③-2-2　幼児の空間認知能力と身振りが音程知覚に及ぼす影響　○金山 英莉花 同志社大学大学院心理学研究科　内山 伊知郎 同志社大学心理学部　34

③-2-3　２歳児クラスの食事場面における園児への対応状況−事故予防の観点からの分析−　○平沼 博将 大阪電気通信大学共通教育機構　高井 由佳 大阪産業大学デザイン工学部　服部 敬子 京都府立大学公共政策学部　35

【口頭発表④】8 月 27 日（日）　14:00-16:30　　225 教室

セッション④−1 犯罪（会場：225 教室）　14：00〜14：40

座長　若林　鉄也・戴 伸峰

④-1-1　再犯防止に資する仮釈放に向けた対策について―美祢社会復帰促進センターにおける「満期出所ゼロプロジェクト」の実施について―　○若林 鉄也　法務省美祢社会復帰促進センター　36
齊藤 了　法務省美祢社会復帰促進センター
春口 千津　法務省美祢社会復帰促進センター

④-1-2　量刑相場に対する一般市民の態度に関する社会心理学的研究：性犯罪を例に　○戴 伸峰 台湾国立中正大学犯罪抑制学科　37

セッション④−2社会・産業（会場：225 教室）　15：10〜16：30

座長　中井　宏・柿本　敏克

④-2-1　看護師，介護福祉士の就業継続に影響を及ぼす要因 〜職業コミットメントからの検証〜　○古矢 香里　医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院看護部　38

④-2-2　パスワードの使い回しを防ぐには？－防護動機理論に基づく検討－　○中井 宏　大阪大学大学院人間科学研究科　39
秋保 亮太　大阪大学大学院人間科学研究科

④-2-3　理想について考えること、義務について考えることが社会的相互作用の度合いに与える影響について－仮想世界ゲーム電子版を用いた研究展開－　○柿本 敏克　群馬大学情報学部　40
細野 文雄　群馬大学情報学部

④-2-4　金融行動の個人差とリスクマネジメントが詐欺脆弱性に与える影響　○佐々木 美加　明治大学商学部　41

ポスター発表（教育発表）①　8月26日（土）

ポスター発表（教育発表）①　（会場：2号館1階ロビー）　16：20～17：50
在籍責任時間：奇数番号 16：20～17：05　　偶数番号 17：05～17：50

教育

1A-01　部活動指導者育成指標の作成に関する研究　○吉田 浩之 群馬大学共同教育学部；来田 宣幸 京都工芸繊維大学　42

1A-02　ロール・プレイングの可能性－教育現場をささえる取組み－　○時田 学　日本大学商学部　43

1A-03　高校入学時の時間的展望と精神的健康が登校回避感情に与える影響—高校入学時オリエンテーションでの調査より—　○和田 万紀　日本大学法学部；小野村 樹美　都立神代高等学校；須永 範明　日本大学文理学部　44

1A-04　理科の実験場面における教示の内容が操作パフォーマンスに与える影響　○辻井 寿典 大阪大学蛋白質研究所；来田 宣幸 京都工芸繊維大学　45

1A-05　集中の度合いが第二言語学習の効率に及ぼす影響—Near-infrared Hemoencephalographyを集中度の指標として—　○山内 春佳 帝塚山大学大学院心理科学研究科；松田 浩平 東北文教大学人間科学部　46

1A-06　一般大学学生の教師に関するイメージの調査について（2）— 「教職に就きたい」「できれば教職に就きたくない」に着目して —　○軽部 幸浩 日本大学商学部；藤田 主一 日本体育大学　47

産業

1A-07　建設作業者における安全行動の促進要因の分析　○高橋 明子　労働安全衛生総合研究所；三品 誠　有限会社サイビジョン；菅 知絵美　労働安全衛生総合研究所　48

1A-08　バーンアウト尺度の比較――何を燃え尽きと呼ぶのか?――　○井川 純一　東北学院大学　49

1A-09　消防職員のワーク・エンゲイジメントを高める資源構造に関する研究―レジリエンスと人間関係に注目して―　○西堀 まゆ　大妻女子大学人間文化研究科　堀 洋元　大妻女子大学人間関係学部　50

1A-10　組織社会化過程における研修転移と新規参入者のパフォーマンス－縦断的データによる調整媒介モデルの検討－　○竹内 倫和　学習院大学経済学部　51

1A-11　職場での発言しやすさと発言を抑制する理由に関する基礎調査　○和田 一成　西日本旅客鉄道株式会社安全研究所　田中 春奈　西日本旅客鉄道株式会社イノベーション本部　堀下 智子　西日本旅客鉄道株式会社安全研究所　小倉 有紗　西日本旅客鉄道株式会社安全研究所　吉田 裕　関西大学社会安全学部　52

1A-12　コロナ禍におけるワークライフバランスの変化－ワークライフバランスシートによる定量的な分析－　○田畑 智章　東海大学経営学部　江澤 美花　東海大学情報通信学部　53

社会

1A-13　人気があるからおいしく感じる－直感的および熟慮的判断が人々の味の評価に及ぼす効果－　○橋本 博文　大阪公立大学大学院文学研究科　前田 楓　立教大学現代心理学部　54

1B-14　お土産に対する魅力度に影響を及ぼす要因の検討　【教育発表】　○中嶋 遥平　日本大学商学部　佐々木涼夏　日本大学商学部　露木 麻衣　日本大学商学部　山田 紗永　日本大学商学部　山本 真菜　日本大学商学部　55

1B-15	昆虫食に対する印象に影響を与える要因の検討【教育発表】	○猪鼻 ももこ 日本大学商学部 森 千紗 日本大学商学部 佐藤 洋亮 日本大学商学部 黒澤 慶大 日本大学商学部 山本 真菜 日本大学商学部	56
1A-16	「推し活」における行動・心理的側面と空想傾向および主観的幸福感との関連	○菅野 智子 立正大学 山村 豊 桜美林大学	57

発達・福祉・文化

1A-17	乳児のネガティブ情動表出直後の父親・母親行動と幼児のアタッチメント安定性との関連－離乳食場面における親子のやり取りの観察を通して－	○福田 佳織 東洋学園大学人間科学部 森下 葉子 文京学院大学人間学部 尾形 和男 放送大学教養学部	58
1A-18	思春期における精神的健康度と自己理解の関連性－20答法と3つの願いのカテゴリー分析をもとに－	○本原 琴美 竹富町立大原中学校 田中 真介 京都大学国際高等教育院	59
1A-19	孤立状態にある単身中高年者におけるコミュニケーションの志向性の違いによるSNS利用と孤独感との関連	○村山 陽 東京都健康医療センター研究所 長谷部 雅美 聖学院大学	60
1A-20	新型コロナ禍下の「別れ」	○佐々木 美智子 龍桜高等学校看護学科専門課程	61
1A-41	わが国における「HSP」概念の受容と広がり－「HSP」関連書籍のタイトルの共起ネットワーク分析から－	○福井 義一 甲南大学 杉森 美佑奈 株式会社アソウ・アルファ	62

【ポスター発表（教育発表）①】8月26日（土）　16:20-17:50　　2号館1階ロビー

交通・犯罪・災害

1A-21　無信号横断歩道における歩行者横断判断に関する行動意図モデルの検討　○小嶋 理江 名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所　青木 宏文 名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所　西澤 智恵子 トヨタテクニカルディベロップメント株式会社　伴 和徳 トヨタテクニカルディベロップメント株式会社　63

1A-22　幼少期の手つなぎ経験が保護者の危険認識や監視に及ぼす影響- 家庭における安全教育に関する一考察 -　○大谷 亮 一般財団法人日本自動車研究所自動走行研究部　64

1A-23　児童・生徒の交通事故死傷における「進学効果」と交通違反行為の関連　○矢野 伸裕 科学警察研究所交通科学部　65

1A-24　高齢ドライバーの運転と健康への自己評価が先進運転支援システムの評価に及ぼす影響　○森泉 慎吾 帝塚山大学心理学部　蓮花 一己 帝塚山大学　66

1B-25　集団凝集性がチームでの意思決定に及ぼす影響—帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）を用いて—【教育発表】　○猪瀬 詩乃 大妻女子大学人間関係学部　小原 彩輝 大妻女子大学人間関係学部　春原 愛美 大妻女子大学人間関係学部　関 絢菜 大妻女子大学人間関係学部　藤原 莉子 大妻女子大学人間関係学部　水上 静 大妻女子大学人間関係学部　宮川 眞衣 大妻女子大学人間関係学部　持田 綾乃 大妻女子大学人間関係学部　横山 千智 大妻女子大学人間関係学部　西堀 まゆ 大妻女子大学大学院人間文化研究科　堀 洋元 大妻女子大学人間関係学部　67

スポーツ・健康

1A-26　スポーツ・運動に対する2種類の潜在的態度(2) －シングルカテゴリーIATを用いた再検討－　○大橋 恵 東京未来大学こども心理学部　澤海 崇文 流通経済大学社会学部　藤後 悦子 東京未来大学こども心理学部　井梅 由美子 東京未来大学こども心理学部　68

1A-27	日体大版剣道イメージ尺度（NIKS（ニックス））の作成（3）— 剣道部員と一般学生 —	○古澤 伸晃　日本体育大学 新里 知佳野　日本体育大学 八木沢 誠　日本体育大学 軽部 幸浩　日本大学 藤田 主一　日本体育大学	69
1A-28	大学剣道女子選手の心理的特性と身体的特性—特に反応時間について—	○新里 知佳野　日本体育大学 古澤 伸晃　日本体育大学 八木沢 誠　日本体育大学 軽部 幸浩　日本大学 藤田 主一　日本体育大学	70
1B-29	口腔機能が知的作業量に及ぼす影響－ミント味のガムおよび清涼菓子に着目して－【教育発表】	○中 萌里　日本大学商学部 飯田 翔大　日本大学商学部 諏訪 一輝　日本大学商学部 深見 将志　日本大学商学部	71
1B-30	ライフスキルと競技特性不安の関係性について【教育発表】	○河本 敏彰　日本大学商学部 野崎 愛乃　日本大学商学部 相原 美保　日本大学商学部 深見 将志　日本大学商学部	72

臨床・相談・看護

1A-31	患者の看護満足度と「看護の質」評価の関係について	○稲野辺 奈緒子　東京女子医科大学看護学部/立正大学大学院心理学研究科 古屋 健　立正大学心理学部	73
1A-32	4種の診療科における多職種連携の比較	○異儀田 はづき　立正大学大学院心理学研究科／東京女子医科大学看護学部 古屋 健　立正大学心理学部	74

【ポスター発表（教育発表）①】8月26日（土）　16:20-17:50　2号館1階ロビー

1A-33　ChatGPTを活用したコミュニケーション支援の検討－AIは熟練した上司よりも部下との信頼関係を築けるか－
○井手 健太 富士通株式会社　75
紺野 剛史 富士通株式会社
近野 恵　富士通株式会社

1A-34　催眠でそんなことができると本気で思ってるんですか？ その2―いわゆる「催眠」モノのアダルト・ビデオ作品の説明文をテキストマイニングで斬る―
○中谷 智美 甲南大学大学院人文科学研究科　76
福井 義一 甲南大学文学部

1A-35　その問題，心理の専門家に相談しますか？ その5―Yahoo!知恵袋における「家族関係の悩み」カテゴリーの質問の分析―
○澤田 戒　甲南大学大学院人文科学研究科　77
福井 義一 甲南大学文学部

1A-36　夫婦の家事分担の程度と日常のストレスおよび夫婦関係満足度について
○井梅 由美子　東京未来大学こども心理学部　78

認知・感情・原理・その他

1A-37　F. ゴーブル著『第三勢力 － マズローの心理学』に関する留意点について
○三島 斉紀　神奈川大学経済学部　79

1A-38　法思想・法意識の法社会学と心理学の位置づけに関する考察
○廣島 克佳　マンション管理士　80

1A-39　繰り返し提示された刺激の印象への飽きやすさ傾向の影響
○富田 瑛智 帝塚山大学心理学部　81
栗延 孟　浦和大学社会学部

1B-40　消費行動が地域愛着に及ぼす影響 ～祖師谷・砧地域を対象として～
【教育発表】
○森 涼馬　日本大学商学部　82
本木 葵　日本大学商学部
飯田 希未香 日本大学商学部
赤本 美羽　日本大学商学部
増子 涼香　日本大学商学部
塚原 悠斗　日本大学商学部
時田 学　日本大学商学部

ポスター発表（教育発表）② 8月 27 日（日）

ポスター発表（教育発表）② （会場：2号館1階ロビー） 15：00～16：30
在籍責任時間：奇数番号 15：00～15：45 偶数番号 15：45～16：30

教育

2A-01 生徒会広報誌を用いた中学生へのいじめ防止教育の効果の検証
○大門 耕平 東北学院大学
荻本 竜也 江兄弟社中学校
来田 宣幸 京都工芸繊維大学
83

2A-02 私立工科系学生の修士課程進学動機に影響を与える要因―心理学的特性・学生生活・結果期待からの影響―
○石田 拓矢 目白大学大学院心理学研究科
庄司 正実 目白大学心理学部
84

2A-03 教職課程における福祉教育のカリキュラム編成に関する基礎的研究（1）－教職課程学生の社会福祉関連職種等調査を中心として－
○石橋 裕子 帝京科学大学
林 幸範 学研アカデミー保育士養成コース
85

2A-04 習い事や課外活動の指導者にとって「気になる保護者」とは－応援席ハラスメントにつながる保護者の態度－
○藤後 悦子 東京未来大学こども心理学部
井梅 由美子 東京未来大学こども心理学部
大橋 恵 東京未来大学こども心理学部
86

2A-05 学校教員のバーンアウト症状と職場の同僚性認知との関係
－交差遅延効果モデルと同時効果モデルによる検討－
○磯和 壮太朗 名古屋芸術大学教育学部
今井田 貴裕 人間環境大学心理学部
87

2A-06 現実逃避傾向尺度の開発
― 中学生・高校生を対象にして ―
○三島 浩路 中部大学現代教育学部
88

2A-07 いじめ容認態度を測定する尺度の因子不変性の検討
○堀 孝司 甲南大学大学院人文科学研究科
福井 義一 甲南大学文学部
89

【ポスター発表（教育発表）②】8月27日（日）　15:00-16:30　　2号館1階ロビー

産業

2A-08 コロナワクチン接種が高カロリー食品への態度に及ぼす影響－大学生を対象とした調査－　○井上 裕珠　日本大学商学部　90

2A-09 英国保育施設管理職のマネジメントの特徴－就業継続支援の観点から－　○山本 睦　常葉大学保育学部　91

2A-10 インクルーシブ職場環境評価の枠組み作成の試み－インクルージョン・マネージメント成熟度の事例検討－　○渡辺 めぐみ 常磐大学大学院人間科学研究科　92
伊東 昌子　成城大学経済研究所
岡田 麗子　独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

2B-11 肉を擬人化すると食べたくなくなるのか？【教育発表】　○青山 朋実　日本大学商学部　93
安藤 将太　日本大学商学部
尾山 凜　日本大学商学部
佐藤 聖也　日本大学商学部
井上 裕珠　日本大学商学部

2B-12 みんなで食べると太りにくい？食べ物のシェアが太りやすさの判断に及ぼす影響【教育発表】　○山岡 咲喜　日本大学商学部　94
石井 文也　日本大学商学部
下薗 仁也　日本大学商学部
寺倉 麻結奈 日本大学商学部
井上 裕珠　日本大学商学部

社会

2A-13 人権問題意識が差別への態度に及ぼす影響の検討　○岡本 ひなこ　立正大学大学院心理学研究科　95

2A-14 味覚が人物評価に及ぼす影響　○谷口 淳一　帝塚山大学心理学部　96

2A-15 大学生のCOVID-19予防行動と陰謀論信念および批判的思考　○久保田 健市　名古屋市立大学　97

2A-16 容姿(顔)の自己評価と他者評価の一致性－顔写真の計測分析による検討－ ○九島 紀子 ビューティ＆ウェルネス専門職大学 98

2B-17 エスカレーターでの歩行・両側停止における多元的無知と行動 【教育発表】 ○今井 大智 大阪大学人間科学部 99
秋保 亮太 大阪大学大学院人間科学研究科
中井 宏 大阪大学大学院人間科学研究科

2A-18 非行少年の立ち直り可能性認知に関する尺度作成の試み ○富永 日向子 立正大学大学院心理学研究科 100

発達・福祉・文化

2A-19 我々は和菓子に四季を感じるか？-幼児，成人，高齢者を対象とした発達的検討- ○伴 碧 大阪大学大学院基礎工学研究科 101

2A-20 幼児期初期における鏡像反応の発達的特徴について－発達に課題のある幼児の鏡像反応と発達検査課題との関係性について－ ○高木 玉江 大阪成蹊大学教育学部 102

2A-21 子育てにおける保護者のポジティブな経験の重要性—発達支援を利用する保護者へのアンケート調査をもとに— ○横井川 美佳 京都大学大学院人間・環境学研究科 103
田中 真介 京都大学国際高等教育院

(2A-22 は欠番)

交通・犯罪・災害

2A-23 特殊詐欺防止研究 1－特殊詐欺被害者の騙された状態を判定する特殊詐欺推定－ ○近野 恵 富士通株式会社 104
井手 健太 富士通株式会社
紺野 剛史 富士通株式会社
桐生 正幸 東洋大学社会学部

2A-24 特殊詐欺防止研究2－ディセプション型心理実験と特殊詐欺被害者が騙されるメカニズムの検討－
○紺野 剛史 富士通株式会社
井手 健太 富士通株式会社
近野 恵 富士通株式会社
桐生 正幸 東洋大学社会学部
105

2A-25 若年運転者の運転意識が急ぎ運転行動に及ぼす影響
○今井 靖雄 無所属
蓮花 一己 帝塚山大学
106

スポーツ・健康

2A-26 競争心が大学生アスリートの心理的スキルに及ぼす影響
○青木 滉一郎 日本大学スポーツ科学部研究所
種ケ嶋 尚志 日本大学スポーツ科学部
107

2A-27 弓道に対するイメージ
○濱 保久 北星学園大学文学部
108

2A-28 悲観主義者による困難対応と well-being の関係
○アニーシャ ニシャート 創価大学教育学部
109

2A-29 「諦めたら試合終了」とは限らない－楽観性と自分への優しさによる建設的な諦め方－
○本多 麻子 東京成徳大学応用心理学部
110

2A-30 花を用いた心理療法で作成された生け花画像の評価に関する検討
○内田誠也 一般財団法人MOA健康科学センター
田中英明 一般財団法人MOA健康科学センター
本村明嘉 一般社団法人MOAインターナショナル
111

臨床・相談・看護

2A-31 「いい子」傾向がある者の心理的不適応について
○関谷 美希 日本女子大学大学院
村井 あかり 日本女子大学大学院
山口 舞 日本女子大学大学院
岡本 吉生 日本女子大学大学院
112

【ポスター発表（教育発表）②】8月27日（日） 15:00-16:30 2号館1階ロビー

2A-32 保育所等の預かり場面における子どもの不安を和らげる養育者の対応
－アタッチメント傾向との関連より－
○山口 舞 日本女子大学大学院家政学研究科 113
村井 あかり 日本女子大学大学院人間生活研究科
関谷 美希 日本女子大学大学院人間生活研究科
岡本 吉生 日本女子大学家政学部

~~2A-33 不合理な信念のパターンと不安の関連について－大学受験生を対象とした研究－~~ ~~○竹内 利光 河合塾~~ ~~114~~ 【発表取消】

2B-34 SNSへの依存を多次元的に測定する尺度の日本語版作成の試み—その信頼性の検討 —
【教育発表】
○加堂 生織 甲南大学文学部 115
鶴岡 未悠 甲南大学文学部
福井 義一 甲南大学文学部

認知・感情・原理・その他

2A-35 箱庭療法により心身症状や人間関係を回復できた症例の治療過程の一考察
○松浦 智子 応用心理カウンセラー協会 116

2A-36 高嶋正士と偉大性心理学—鎌倉時代に生きた親鸞聖人の偉大性について（2）—
○藤田 主一 日本体育大学 117

2A-37 心的外傷後成長に関連するライフスタイル因子について
○田中 英明 一般財団法人MOA健康科学センター 118
伊坂 裕子 日本大学
伊藤 令枝 日本大学
木村 友昭 一般財団法人 MOA健康科学センター

2B-38 ソーシャルスキルと外見的魅力が異性への好意度に及ぼす影響
【教育発表】
○藤澤 虎太郎 日本大学商学部 119
小林 里緒 日本大学商学部
佐藤 隆成 日本大学商学部
深見 将志 日本大学商学部

大会企画シンポジウム

ポジティブ心理学の潮流と応用

－ポストコロナ時代における健康で幸福な生き方を考える－

司会・進行：　木村　友昭　（MOA 健康科学センター）
話題提供者：　伊坂　裕子　（日本大学）
　　銅直　優子　（流通科学大学）
　　柏木　仁　　（亜細亜大学）

キーワード：心的外傷後成長、首尾一貫感覚、コーリング（天職感）

【企画の趣旨】

2021 年の日本応用心理学会（第 87 回大会）において、大会企画シンポジウム「新型コロナウイルスがもたらした対人不安と、アフターコロナの対人関係へ向けて」が開催された。コロナ禍での WEB 開催であり、ネガティブな面が強調されたのは当然であるが、それから２年を経過した今、ウィズコロナからポストコロナの時代を見据えて、個人や組織が健康で幸福な生き方や価値が模索されているように思える。

本年のシンポジウムでは、ポジティブ心理学を研究に、教育に、活動に、実際に応用されている先生方から話題提供をいただき、ポストコロナ時代の人、組織、社会について、参加の諸先生方とともに話し合いを深めたい。

【話題提供】

◇日本の文化とポジティブ心理学

（伊坂裕子：日本大学）

1998 年, アメリカ心理学会の会長であったセリグマンにより提唱されたポジティブ心理学は,「心理学が単なる病理や弱さ，被害の学問ではなく，強さや美徳の学問である」という理念が多くの人の支持を得て, 新しいムーブメントとなった。日本では，2000 年代に注目されはじめ，2010 年代に入って急速な広がりをみせた。2011 年３月に派生した東日本大震災は，PTG（Post-Traumatic Growth: 心的外傷後成長）への関心を高めたといえる。PTG はつらい体験をするほど高くなることも報告されており（伊坂, 2018）ポジティブ心理学の視点からは「つらさ」を感じることは悪いことばかりでなく，人格的成長を促す意味があると考えられる。

その後，日本のポジティブ心理学は心理学のさまざまな領域と結びついて急速に発展した。ポジティブ心理学で主要なテーマとされる主観的幸福感やウェルビーイングは，文化によって異なることから，日本の文化的影響を考慮した研究も多い。新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延は，社会の価値観に大きな影響を与えた。文化的価値観の影響を考慮した研究は，今後のポジティブ心理学の可能性を広げるものと思われる。道徳観や人生の意味とスピリチュアルな態度に関する研究を通して，ポストコロナ時代に文化とポジティブ心理学の視点を組み入れることで広がる可能性を考えてみたい。

◇SOC の形成について考える

（銅直優子：流通科学大学）

ストレス対処能力の一つとして首尾一貫感覚（Sense of Coherence：SOC）があり、これは、深刻なストレスを経験した人たちの中で健康を維持できている人たちに見られた共通特徴から見いだされた（アントノフスキー，1987）。この能力が高い者はライフクライシスに直面しても前向きに生き抜くことが可能であるとされている。SOC は、直面した出来事を自分にとって理解できるものとして認知する力（把握可能感）、直面した問題に対し有効な対処資源を活用し対処することが出来ると感じられる力（処理可能感）と日々の直面した出来事が不幸なことであっても自分にとって意味のあることだと捉えることのできる力（有意味感）の３つの要素から構成されている。SOC の形成には成人期ぐらいまでの良好な人生経験が大きく影響するといわれていることから、青年期から成人期への移行段階にある大学生にとっては重要な時期と考えられる。しかし、新型コロナの流行により、対面での大学生活が激減したことで良好な人生経験を獲得する機会も減少している。また、対面での大学生活が始まってもこれまでとは違った生活様式を求められることから、対人関係の在り方にも変化が生じ、良好な人生経験の機会が減少したままとなっていると考えられる。そこで、ポストコロナの大学生活の中で SOC を育むために何が必要であるかを検討していきたい。

◇働くことにおけるコーリングの意義と弊害に関する考察

（柏木　仁：亜細亜大学）

近年、働くことに関する研究でコーリング（calling）という古くて新しい概念が取り上げられている。コーリングとは、個人が自らの職業や役割をどのように捉えているかを意味する主観的概念であり、個人がある職業（役割）に人生の目的として情熱的に強く惹かれている状態を意味する（柏木, 2015）。いわば、天職に就いているような感覚である。

コーリングはウェルビーイングを構成する意味・意義に特に関わる概念であり、仕事には幸福感ではなく意義を求めるべきであり、それが持続的な満足感を得るために必要であるという主張（ペッパーコーン, 2021）もある。自分の職業をコーリングとして捉える（コーリング感を持つ）人は、仕事を単なる義務として捉える人よりも、自信がある、よく働く、他者や集団を自主的に助けようとする、情動がプラス傾向である、仕事を楽しむ等のメリットや特徴がある（Duffy, Allan and Dik, 2011）。

一方、コーリング感を持つことによる弊害や課題もある。例えば、コーリング感があるにも関わらず、組織の様々な制約等により、組織の職務と個人の夢の実現を両立できなくなることや、コーリングと思える職業があるにもかかわらず、現実としてそれに就くことができないことでストレスを感じることもある（柏木, 2019）。天職にこだわることが、生き生きと働くことへの可能性や職業選択の自由度を狭めてしまうことにつながってはいけないものの（柏木, 2021）、働くことや自らの活動に意味・意義を感じられることは、ポストコロナ時代を生きていく上で重要であると考える。

（きむら　ともあき・いさか　ひろこ・どうべた　ゆうこ・かしわぎ　ひとし）

特別講演

AIに創造性は可能か？

司会：　鈴木 信幸（亜細亜大学経営学部長）
講師：　東条 敏（亜細亜大学経営学部データサイエンス学科）

ヒューバート・ドレイファスはその著書「コンピュータには何ができないか」の中で三度版を改めて（1972, 1979, 1992）人工知能が実現不可能であることを説いた。曰く，コンピュータが計算という手段によって解決できる問題はコンピュータの中の閉世界から帰結できることだけであり，新しい知識を創造することはできない。とりわけ，人間の感性に結びついたもの，すなわち愛情や倫理観，芸術的創造性は期待できないという主張である。この論争は2500年前のプラトンにまで遡る。プラトンのイデア論によれば，この世の事象はすべて理想的な抽象世界からの投影である。ならば逆に人間の所作はすべて完璧な論理体系に還元されて説明できる。もし論理化されて機械化できるなら，これは人工知能の実現肯定派とみることができる。それから1000年余を経たデカルトは，肉体的存在と精神的存在を分離する二元論を唱えた。肉体は物質的存在であり，そこに精神が宿ることはできないなら，同じく物質的なコンピュータにも精神の上層にある知能は宿らない。さらにそれから300年を経た1956年，ダートマス会議という学会で人工知能ということばが認知される。哲学者のジョン・サールは強いAIと弱いAIを峻別し，コンピュータが意識や自我を持ちうるとする立場（強いAI）をデカルト風に懐疑的に見て，AIが単なる知能のシミュレータであるとする立場（弱いAI）を取った。

さて，AIブームが取り沙汰されたさなかに起きたこのコロナ騒動である。健全な経済活動は全世界的に3年間に渡ってストップし，未知であるがゆえに安全サイドを取ろうとする医学の立場と，統計の読み方に無知であるメディアによって翻弄される日々を余儀なくされた。期待されたAIではあったが，この人類全体のピンチには無力であった。結局パンデミックの過去のデータの蓄積がなかったことで，AIが我々にコロナに「正しく」処する方法を提案することはなかった。すなわち，AIは結局はデータあってのものであり，未知の事態を解決する力は皆無である。

ところで創造とは未知のものを構成することである。AIにとって創造とはいかようなものと考えたらよいだろうか。創造と言ってわかりやすい例としては，芸術があるだろう。人間は新しい芸術に出会うと戸惑う。初めてストラヴィンスキーを聞いたとき，初めてピカソを見たとき，それをすぐ「いい」と言う人はいない。いいと認められるには，その良さを見る目を育成する期間が必要がある。ましてコンピュータが何か新しい創作をしても，すぐそれをいいと判断できる人はいない。コンピュータの創作力を懐疑的に思う人は多いだろうし，まして件の芸術作品の創作者がコンピュータであると知れたらこの多数派の人たちはむしろ嫌悪感を抱くのではあるまいか。これは「不気味の谷」，すなわちリアルに人間に近いロボットを不気味に感じるのと同様，人間の感性を機械に真似される不快感にも通ずる。

強いAIと並んでAI懐疑派がしばしば口にするのが「記号接地問題」である。コンピュータの中にあるのは数学・論理学に従った記号の羅列である。その記号列が抽象的な表現を超えて何か具体的な意味を持つためには，記号列を実世界に結びつける（接地する）作業が必要である。ところが悲しいかな，コンピュータには接地に必要な感覚器官，目や耳も皮膚もない。あるのは人工の視覚・聴覚のシミュレータであり，そこには感性への接地はない。ある日コンピュータが新しいカクテルを提案し，ある人がそのカクテルをレシピどおりに作って試飲したら大変おいしかったということがあるかも知れないが，コンピュータ自身は「おいしい」を知ることもない。ある日コンピュータが新しい曲を作り，人間がそれを演奏したらとても感動的な曲であったということがあるかも知れないが，コンピュータ自身は曲に感動することもない。

さて芸術においても，コンピュータの中の表現は記号列である。先のドレイファスの議論に戻れば，コンピュータの閉世界性から得られるものは，人間がコンピュータの中に書いた記号列の順列組み合わせに限られる。これを創造と呼ぶかどうか。それとも，人智の及ばない十分に遠い組み合わせなら創造と呼んでかまわないか。我々もやはり記号列の操作による導出可能性を閉世界における創造の限界と捉えるが，この組み合わせの遠さを測るために計算量（計算機にかかる時間的負荷）を考察する。文芸作品の創作においては，俳句の解空間の大きさ（50音×17文字）は広く膾炙されるところである。しかし実世界に接地するとそれがどのくらいの数で，コンピュータによる創作時間が非決定性チューリングマシンとしてどのくらいの手間（計算量）なのか。本講演では，こうした閉世界のサイズを見積ながら，創造性の定義として妥当な「落としどころ」を議論する。

（とうじょう さとし）

略歴：

1981年　東京大学工学部計数工学科卒業
1983年　東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了
1995年　東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士（工学）
1983年 ～ 1995年　（株）三菱総合研究所
1995年 ～ 2000年　北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授
2000年 ～ 2016年　同教授
2016年 ～ 2023年　改組により先端科学技術研究科教授
2023年 ～　亜細亜大学経営学部データサイエンス学科教授

情報処理学会，人工知能学会会員

大会企画ワークショップ

ポストコロナにおける心身の健康づくり－チェアヨガの実践－

企画：日本応用心理学会第 89 回大会委員会
話題提供者：鹿内菜穂[1]（非会員）
司会者：東浦拓郎[2]（非会員）
([1,2]亜細亜大学)

キーワード：チェアヨガ，健康，運動

【趣旨】

ヨガには，つなぐ，結ぶという意味がある。単にポーズをとることではなく，揺らいだり乱れたりする心身を見つめ，それを自身でコントロールしていこうとする中で，幸福を見出すことがヨガのねらいである。

ヨガを実施することで，身体機能の向上（Hishikawa et al., 2019; Oken et al., 2016）や関節症関連の痛みの緩和（Chen et al., 2010; Garfinkel, 1998; Park et al., 2017; Park et al., 2020），不安や抑うつ，倦怠感の減少（Eyre et al., 2017; Gothe & McAuley, 2016; Kim & Terry, 2011; Kai et al., 2016; Schuver & Lewis, 2016; Oken et al., 2006; 鹿内, 2022）など多くの効果が認められるようになってきた。さらに，ヨガにおける認知的負荷，認知機能の維持または改善についても盛んに議論されている（Gothe et al., 2017; Hishikawa et al. 2019, Sr PAA et al., 2020; Yang et al., 2016）。

ヨガ人口は，かつては若い女性に偏重していたが，最近では男性や高齢者も増加してきた（Yoga Alliance, 2016）。さらに，コロナ禍を経験した結果，運動不足への懸念や世界的な健康志向の高まりにより，ヨガがもたらす効果への期待は益々上がり，これからも注目されるだろう。スポーツ庁が発表しているコロナ拡大の健康二次被害としては，代表的なものに，ストレスの蓄積，体重の増加，生活習慣病の発症・悪化，体力の低下，腰痛や肩こり，地域交流・社会参加の低下，また子どもの発育・発達不足などが挙げられている。健康に対する意識だけでなく，今後はそれに対していかに対応し，行動に移し，かつ継続し得るについて課題となるだろう。

そこで，本ワークショップでは，ポストコロナで運動不足を感じている方や自宅でもトレーニングを実践したい方，無理なく運動を続けたい方，ヨガに関心はあるものの始めるきっかけがなかった方などを対象に，椅子を使ったヨガ「チェアヨガ」を紹介し，実践する。チェアヨガは椅子に座って行ったり，椅子を支えにして行ったりすることで，筋力に自信がない方や初心者でも安心して気軽に取り組むことができる。膝や腰に負担がかかりにくいこともメリットの一つである。ヨガマットや専門的な道具も不要であり，ワークショップ当日は動きやすい服装で参加可能である。

ウィズコロナ時代の健康二次被害を振り返るとともに，ヨガの実践方法である「八支則」を簡単に紹介し，チェアヨガを体験して頂く。そして，ポストコロナにおける健康づくりについてフロアと議論したい。

（しかない　なお）

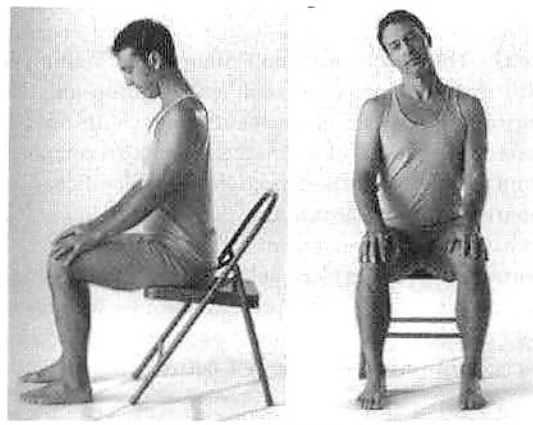


Figure 1 呼気と首のストレッチ

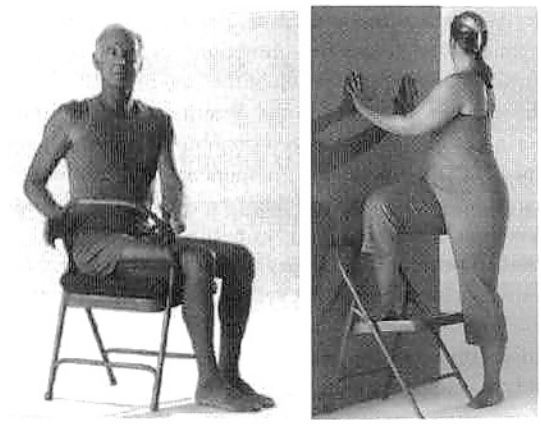


Figure 2 ねじりのポーズ



Figure 3 三角のポーズ

【引用文献】

McCall, T. (2007) *Yoga as medicine: The yogic prescription for health and healing*. Bantam Books. （中原尚美（監訳）(2015). メディカル・ヨガ－ヨガの処方箋－ バベルプレス）

Consider The Agentic Self of Japan Youth

－International Comparative Approach Based on Dopaminergic activity and Working Memory －

Presenter	: Mahiro TAKAZAWA	(National Hospital Organization Tokyo Medical Center)
Workshop planner	: Fumihiko ITAGAKI	(Asia University)
	Kenji ITOH	(National Hospital Organization Tokyo Medical Center)
Speaker	: David TURK	(University of Bristol)
Discusser	: Koichi TSUNODA	(National Hospital Organization Tokyo Medical Center)

Key words: Agentic Self, Working Memory, Ownership, Dopamine, Random Number Generation task.

【Aim】 The White paper on Children and Young people (2019) found that compared with European, North American or Korean participants the youth in Japan reported lower levels of self-satisfaction (45% compared to around 80%) and experienced lower self-efficacy (40% compared to 80%). Given the detrimental impact from Covid-19 on self-development following this report, it is important that we explore self, agency, and cognition in young people today. In this presentation, we will discuss a novel cognitive neuroscience approach to exploring cross-cultural differences in self between Japan and the UK.

So far, we have developed a unique random number generation paradigm as a culture-free working memory task. With this method, it is possible to estimate the components of executive functions which is recently regarded as a representation of the "agentic self."

Dr Turk will present the results of a preliminary experiment exploring the relationship between dopamine, agency ownership effects in memory and we will then discuss how this methodology can be used to explain differences in working memory performance.

【Self, Ownership, Agency & Dopamine】 Extensive research over the past 50 years has shown that the self has a significant impact on cognition, which may have yielded important benefits in our evolutionary past. A widely studied phenomenon in this area is the 'self-reference effect' (SRE) on memory, whereby information explicitly encoded in relation to self is more likely to be subsequently remembered than similar information associated with others. Turk and colleagues also showed memory biases for information that was incidentally presented with self-cues (e.g., face), indicating automatic, unconscious affective and attentional processes may underpin these memorial advantages. These memorial advantages have been mostly associated with long-term memory, but more recently, Ahmed et al. (2021) showed that self-processing also impacts on children's working memory performance.

Recent research has employed more naturalistic forms of self-association using object ownership (Cunningham et al., 2008). This paradigm has shown reliable ownership effects in memory in children, adults, and amnesic patients. These memorial effects are enhanced when participants have a choice over the items they own (Cunningham et al., 2011). The concept of ownership is fundamental to Western, capitalist societies and instilled into socio-cultural norms. The importance of material possessions to the self has been further illustrated by the endowment effect, whereby self-owned items are ascribed a higher monetary value and viewed more positively than similar items owned by others, as extensions of the self. Turk, Itagaki, and colleagues (Collard et al., 2020) utilized a novel endowment task to show a relationship between endowment bias and ownership effects in memory in UK, but not Japanese participants.

Functional imaging studies have identified a network of cortical midline brain regions, and areas associated with hedonic reward via dopaminergic pathways that appear to differentiate self-owned items from those possessed by others (Turk et al., 2011). Dopamine may therefore hold the key to explaining individual differences in ownership effects, both within and across cultural boundaries. Dopamine has been shown to play a significant role in the sense of personal agency and to exogenous attention towards cues indicating reward or personal salience. It is also important in working memory performance.

Recent research has shown that it is possible to measure tonic levels of cortical dopamine from human tear samples (Sharma et al., 2019) employing the Schirmer's test protocol analysed using a direct competitive chemiluminescent enzyme - linked immunosorbent assay (ELISA). We will present the results of a preliminary experiment exploring the relationship between dopamine, agency and ownership and discuss how this may be applied to studying individual differences in working memory performance.

(This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number 23K02563)

【References】

Ahmed, Z., et al. (2021) Can the 'self' enhance children's verbal working memory? *Poster presented at the Society for Research in Child Development biennial meeting.*

Collard, P., et al. (2020) *Conscious Cognition, 78*, 102865

Cunningham, S.J., et al. (2008) *Consciousness and Cognition, 17(1),* 312-318

Cunningham, S.J., et al. (2011) *Memory, 19(5),* 449-61

Sharma, N.S., et al., (2019) *Indian Journal of Ophthalmology, 67(1)*, 38-41.

Turk, D.J., et al., (2011) *Mine and Me: Exploring the Neural Basis of Object Ownership. J. of Cognitive Neuroscience, 23*(11), 3657-3668.

(TAKAZAWA M, ITAGAKI F, ITOH K, TURK DJ, TSUNODA K)

自主企画ワークショップ

カウンセリング，心理療法のアジアからの発信（４）

林潔[1]　高橋浩子[2]　加藤博己[3]　竹内啓恵[4]　李同帰[5*]　Nagongbiling[6*]　高橋良博[3]
([1]白梅学園短期大学　[2]山手教育研究所　[3]駒澤大学　[4]東京農業大学・樹づ木合同会社　[5]北京大学
[6]内モンゴル自治区国際蒙医病院

キーワード：蒙医インタラクティブ療法　森林散策カウンセリング　禅

【目的】

この報告は，この地域外の人々には情報発信を，地域内の人々には取り組みについての再認識をはかることを意図している。カウンセリング，心理療法の普遍性，文化，個別性が課題となる。

「ヒポクラテスの名によれる　ギリシャの昔　斯道の光明，西のあさぼらけ　東亜は更にはるかなる　神話の蔭ににほう跡　源流二つ，彼と此　（東京医科大学校歌）」カウンセリング，心理療法の場合も同様であろう。 また，中国の学生相談の発展の初期には，ファン・フミン，松原達哉の役割がある。

”Kabai-Zin”以前のカウンセリング，心理療法の分野での禅の西欧への影響は少なくない。比較的最近の例では，Dialectical Behvior Therapy の Linehan（1993）では，アプローチとして，第一に行動と現実の受容を強調する。これは東洋のスピリチュアリテイとマインドフルネス，禅についての経験と習得によるものである。

精神科医 Searls は「ノンヒューマン環境論」（邦訳　みすず書房）を著している。人のこころを支え，伸ばすものは，人間だけではない。森林散策カウンセリングは，森林という非日常的な場面で自分を見つめ直す試みといえる。

伝説の黄帝以降というか，中国にはさまざまな養生法が生まれている。今日それらについて，科学的な視点から捉え直し，発展させようという動向がある。蒙医心身インタラクティブ療法は，モンゴルの伝統的な療法に現代の技術を応用する手続きである。

加藤博己　禅心理学研究の歴史を振り返る

2017 年に始まった本企画は，途中コロナ禍によりオンラインでの発表など形態を変えて継続し，はや 7 年目となった。

2017 年にはマインドフルネスを用いた心理療法の種類や，米国大手 IT 企業を中心とした研修形態でのマインドフルネスブーム，東洋思想の影響を受けた心理療法・カウンセリングを紹介した。2018 年には禅とマインドフルネスへの心理学的研究と臨床的応用の特徴や，集中型瞑想（止）と洞察型瞑想（観）を併修する観点から禅とマインドフルネスを比較した。2019 年には禅瞑想とマインドフルネス瞑想の発生・語源から両者を比較した。2020 年には禅とカウンセリング・心理療法の関係の経緯を刊行された論文・図書を挙げて紹介した。2021 年には禅を用いたカウンセリング・心理療法とマインドフルネスを用いたカウンセリング・心理療法の相違点を取り上げた。

今回は一度原点に立ち返り，禅療法が生まれたきっかけとなる禅心理学研究が歩んできた道のりを振り返り，その歴史的意義や成果，課題などを共有したい。

李同帰　納貢畢力格　蒙医インタラクティブ療法とその認知メカニズムの初探

蒙医心身インタラクティブ療法は「天人合一」蒙医全体観思想を指導し，心身統一理論を基礎とし，集団叙事治療を主な特徴とする総合心理治療方法である。好転した患者が自分の人生の物語と治療の経験を述べ，セラピストがケースを分析し，それによって教育を達成し，患者を激励し，感化し，さらに患者間の相互作用で患者に共感，自信の再構築をより容易に達成させる。そのため，患者はセラピストと自分の悩みを話し合う必要はなく，他人のケースや患者間の相互扶助効果を通じて，心の悟りを得て，心の健康状態を高めさせる。また治療形式には音楽療法（医師と患者が自分で作った歌），経絡養生体操などの内容が含まれており，治療過程を楽にさせ，訪問者が治療に参加する時に恥感がなく，心理防御などの問題を引き起こしません。

蒙医インタラクティブ療法は物理環境の雰囲気の誇張，セラピストの理論説明し，訪問者の共感を通じて，良い相談関係を築き，これらの方法で訪問者の共感（Empathy）を刺激し，内在的な心理資本（psychological capital）を目覚めさせ，その内的作業モデル（internal working models
）を変えて，良い治療効果が得られます。

竹内啓恵　森林環境を活用したカウンセリングについて

昨今，現代社会における人々と自然との関わりは希薄になってきており，その多くは，無機質な室内で一日を過ごし，そこで生じたストレスを気軽に発散させる方法や場所を見出せず，苦しんでいる姿が散見される。その一方で，日常からの気分転換や運動不足の解消等で，緑のある場所へ出かけていく人々も少なくない。本来，私達人間も自然の一部であり，大昔から人々は森林と共に暮らしてきた歴史がある。動物，植物，鳥，昆虫，微生物などの生命体が存在する森林では，さまざまな条件下で互いに共生しながら生きていくシステム（生態系）が存在する。これらは，私達社会における人と人との関係性にも類似する点が多くみられるのである。森林内を散策しながらカウンセリングをするカウンセラーは，適宜，クライエントの抱える問題に準じた自然要素やエピソードを投げかけ，対話をすることにより，クライエントは自然を享受するとともに，無理なく自己を振り返り，新たな自己発見や問題解決への気づきが得られていく。そして，日常生活における身近な自然への楽しみや新たな問題に対処する応用力が自然と得られていく姿もみられるようになるのである。

東洋の叡智と西洋の知識との統合 この過程の実現に関して心理学の果たすべき役割には，極めて大きいものがあると言うことができよう（秋重,1983）。

引用文献

秋重義治　1983　東洋の英智と西洋の知識の統合　秋重義治博士遺稿集編集委員会　秋重義治博士遺稿集　道元禅の大系　八千代出版

Linehan,M.M.　1993　*Cognitive behavioral treatment of borderline personality disorder*. N.Y. Guilford Press.　（はやしきよし　たかはしひろこ　かとうひろき　りとんぐ　なごびりんぐ　たけうちひろえ　たかはしよしひろ）

インターネット環境を利用した質問紙調査

― 最近の Web 調査における研究の傾向と留意点 ―

企画・司会：　松田浩平(東北文教大学)
話題提供：　三保紀裕(京都先端科学大学)
西川一二(大阪商業大学)
指定討論：　小川悦史(亜細亜大学)・松田浩平
キーワード：Web 調査，信頼性，妥当性

【企画の趣旨】

心理学やマーケティングをはじめ多くの分野で調査研究に Web が活用されている。応用心理学の領域では，COVID-19 の猖獗が Web 調査への移行に拍車を掛けたようである。Web 調査は簡便に多数のデータが収集でき有用な手段である。そのいっぽうで，調査研究のエキスパートからは，調査会社やデータの信頼性，回答傾向や反応バイアス等などに迷いや疑念があるとの指摘もある。このような疑問に対し，本ワークショップでは，最近のウェブ調査の傾向やデータ収集・分析の留意点等について若手研究者の方から話題提供いただき，参加の諸先生とともに理解を深めることを目的にしている。

また本企画者の経験から，学会誌に投稿された論文原稿でも回答者の属性と年齢の不一致など明らかに矛盾したもの，調査趣旨を理解しない回答者の扱い，項目間で矛盾した回答の扱いなど議論すべき内容が多いように感じる。研究の正当性や倫理的な問題にも及ぶ。また，Web 調査は簡便に実施できると誤解されやすいせいか，調査の計画立案や項目設定からデータ解析を含めた結果の検証など心理学研究法，心理調査法や心理学統計法などに関する研究能力を欠いたまま調査を始めたと思われる論文原稿が多くなったと感じる。

しかしながら，回答傾向を詳細に分析できる等の利点を活かした信頼性の高い測定が行われた研究報告が増えるなど利点も多く，研究者や研究背景による差が顕著である。

このワークショップでは，Web 調査の IT 技術的な問題ではなく，調査研究における Web 画面と紙筆による回答傾向は同じなのか，また違うとすればどのような傾向が見られるかなど検討すべきことは多い。他にも回答時の選択バイアスや 1 画面に提示できる文章量や情報量などデスクトップ PC での回答とスマートフォンによる回答の違いなど研究者が理解すべきことが多い。議論すべき点は以下のようになろう。

1) Web 調査と紙筆調査による結果の差異
2) 調査目的や調査尺度による適不適の問題
3) いわゆるダメ回答のチェック方法について
4) Web 調査での研究倫理の扱い(含，個人情報保護)
5) 解答者の負担感の差異やそれによる回答の変動など

本ワークショップは，古い時代の調査研究経験者が若手・中堅として Web 調査を精力的に進めているお二人の先生から話題提供いただき，古い調査研究者である企画者が指定討論者として質問する様式で進めてゆきたい。

三保紀裕先生からは，調査会社による Web 調査による研究が増加していることを踏まえて，近年の研究手法や分析傾向についてご紹介頂き，ご専門であるキャリア教育の立場から調査研究について，研究者ならではのご経験から問題提起をお願いする予定である。

西川一二先生からは，Web 調査の心理学研究法や心理調査法からみた技術的なことや，実施上の留意点や技法などを含めて調査の現状について話題提供を頂く予定である。

小川悦史先生からは、応用心理学の隣接領域でもある経営学の立場からコメントを頂く予定である。

【話題提供者】

Web 調査会社活用の背景要因と調査実施における課題

三保紀裕(京都先端科学大学)

近年，日本では Web 調査会社を活用した研究調査結果の報告が増加傾向にある。Web 調査会社の活用自体を否定するものではないが，活用事例の増加に伴う複数の問題も生じてきているようである。そもそも，何故 Web 調査会社の活用が増加してきているのだろうか？この問いに対して，ここでは 2 つの視点から話題提供を行うことにしたい。

1 つ目の視点は，研究動向から見た考察である。登壇者の研究領域を事例として，海外の研究雑誌に掲載されている研究･分析手法の傾向について検討を行った。その結果として，調査実施にあたっての複数の課題を見出すことができた。このことは，日本における Web 調査会社を活用の背景を考える上でも参考になるものである。そこで，当日はこれらの結果について紹介することを通じて，Web 調査会社活用の背景と課題について問題提起をしたい。

2 つ目の視点は，調査の具体的実施という観点である。登壇者はキャリア教育を専門分野としており，学生のキャリア発達に関する関連領域を中心に調査研究を実施している。その過程において Web 調査会社を活用した調査に加え，縦断調査についても複数の経験を有している。このような調査の実施にあたっては，具体的手続において様々な課題や困難を経験してきているが，これらは論文では示されない部分でもある。しかしこの点にこそ Web 調査会社活用の背景要因が隠れていると言ってよい。このような実施上の生々しい課題に関する話題提供を通じて，表題の問いについて考えていくことにしたい。

Web 調査で心理尺度を用いる際の留意点とその対策

西川一二(大阪商業大学)

Web 調査の利点には，調査実施のコストの低さやデータ回収の早さなどたくさんあるが，その反面で，Web 調査に関する問題も明らかになっている。例えば，Web 調査の参加者には，質問項目の回答に労力を使わなくなる(「努力の最小限化」現象に陥る)回答者が一定数，存在し，それが一部起因して，Web 調査のデータには，ダメ回答(例えば，ストレートライニング回答や超短時間回答など)の多さが問題となっている。またこのダメ回答が，分析結果にどのような影響を及ぼすのか？が懸念されている。このような問題の中で近年，Web 調査に対して，有効的な活用方法が提言されている。その中では，読みやすい項目にする事や回答形式を変更する事といった対策が提案されている。しかし心理学の質問紙調査のように既存の心理尺度を用いる場合，この尺度の回答形式や項目内容を変える事は容易ではない。心理尺度を用いる際の対策を考える必要がある。今回の話題提供では，Web 調査と紙筆調査による心理尺度の分析結果の差異を示し，その差異が考えられる要因を考察する。また Web 調査におけるダメ回答のチェックの方法を提供し，この対策方法について考えてみる。

コロナ禍での子どもたちの発達と健康

～大切な人の笑顔を見ずに子どもは育つか～

○企画・司会　田中真介[1]
○話題提供　田中真介[1]・山本英彦[2]・古賀真子[3]
○指定討論　戸松太一[4]・横井川美佳[4]・本原琴美[5]

([1]京都大学国際高等教育院、[2]医療問題研究会、[3]コンシューマネット・ジャパン、[4]京都大学大学院、[5]竹富町立大原中学校)

キーワード：コロナ対応、保育・教育、ワクチン被害、精神的健康度、自己認識、他者理解

【企画の趣旨】

コロナウイルスへの感染防止のため、2020年から約3年間にわたって三密回避、緊急宣言、マスク着用、ワクチン接種等の対策が推進された。しかし、これらの対応では、広範で大規模な感染拡大を防ぐことはできなかった。一方で、こうしたコロナ対応によって、子どもたちの健康・発達を阻害する影響が出始めている。基礎的な発達研究、政策分析、及び医療・教育・療育の現場からの報告を受けて、子どもたちの生命・健康・発達を尊重し保障するための、よりより保育・教育・子育てのあり方について討議する。

…

【話題提供１】

山本英彦「新型コロナウイルス感染症の実態とワクチンの問題点　～今後の感染症対策・予防接種のあり方を考える～」

新型コロナウイルス感染症（Covid-19）の疾患としての特徴と重症度について、自らのコロナ罹患の経験も含めて示す。一方、日本政府及び厚労省が推進してきたコロナワクチンの効果は、発症予防及び重症化予防のいずれについても疑問で、ワクチン接種者数・接種回数が増えるにつれて副作用による重篤な健康被害が急速に拡大している。しかし、厚労省は医療機関から報告のあった健康被害のほとんどを不認定とするとともに、被害を隠蔽し補償を回避する政策を行ってきた。具体的な副作用被害の実態に関する事実資料をもとに、ワクチンによって超過死亡が増加している実態を示し、国のワクチン政策の問題点を検証する。

ワクチン接種を公的制度として導入するためには、厳密なRCT研究（ランダム化比較試験）等を通じて、そのワクチンの安全性（危険性）、有効性（無効性）、及び必要性（不必要性）が明確に確証されなければならない。コロナワクチンはそのいずれにも問題が残されている。とくに0歳～10歳代の子どもたちや20～30歳代の若年層への接種は不要であるだけなく、有効性や安全性も確認されていない。

新型コロナは、ワクチンでなく高齢者中心に罹患した場合のリスクの高い人たちへの行政的・医療的支援で乗り切るべき疾患である。コロナ医療崩壊で明らかとなった日本の脆弱な公衆衛生対策を指摘し、保健所拡充やクラスター対応、死亡例対策の必要性と医療体制の整備についても言及する。

…

【話題提供２】

古賀真子「コロナ対応の問題点と今後の医療行政のあり方～保育・教育現場での感染症予防対策を考える～」

1970年代の予防接種禍4大訴訟後、MMRワクチン薬害事件を経て1994年に予防接種法が改正され、国の医療政策が見直されてきた。2000年に入って多くの外国製ワクチンの導入が図られ、複数のワクチンの同時接種による死亡など副反応被害が相次いでいる。2010年には、子宮頸がんの予防のためとしてHPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンの大規模接種によって多数の少女が副反応被害に見舞われた。被害訴訟が提起され、2023年現在、全国4ヵ所での集団訴訟が証人尋問に入った段階にある。

本当に必要なワクチンや行政や医療現場での対応が模索される中、2020年の新型コロナ発生では感染症対策に多くの改変が試みられた。しかしながらワクチンの導入や法改正、現在も続く接種勧奨には多くの疑問が投げかけられている。医療機関から厚労省に報告されている事例だけでも、ワクチン後の死亡者数は2000名以上に達しており、そのほか心筋炎、心膜炎、血栓症ほか有害事象の報告件数は3万6千件を超えている。報告にまで至っていない被害事例はさらに多いと推定され、健康被害を受けた方たちの救済は程遠い状況にある。

筆者らはワクチンを含むコロナ問題に深く取り組み、HPでの情報発信に努めてきた（https://consumernet.jp/）。また免疫学とウイルス学の最新の研究成果をもとに、新型コロナの実態とコロナワクチンについて、副作用被害の問題と被害救済の具体的な方法をまとめた2冊の冊子を上梓した。わが国の感染症対策の歴史を振り返り、世界の流れに逆行する日本の過剰なワクチン依存体質の具体的な実例を示す。今後、子どもから高齢者に至る全世代が、感染症対策としての予防接種にどう向き合うべきかを考えるために最も重要となる基本情報を提供したい。

…

【指定討論】

１）戸松太一「コロナ対応が乳幼児の内受容感覚、表情認知、社会的参照の発達へ与える影響」

情動機能の形成には、内臓-血管系・自律神経系・免疫系等の身体内部の生理状態に関する「内受容感覚」が重要である。コロナ禍での内受容感覚の揺らぎ、また三密回避やマスク着用による表情の遮蔽によって他者の感情の理解が困難となり自己信頼性の発達が抑制される実態を報告する。

２）横井川美佳「コロナ対応による自己認識の脆弱化　～幼児の自画像描画の変化をもとに～」

コロナ前後の幼児の自画像描画の変化を分析した。コロナ後には鼻や耳など重要な顔の部位を描かない傾向があった。三密回避やマスク着用などのコロナ対応によって相手の表情や気持ちの理解が困難となっている可能性がある。

３）本原琴美「コロナ対応による思春期の精神的健康と自己信頼性への影響　～小中学生へのアンケート調査～」

小学3～6年生180名、中学1～3年生119名を対象に「一般健康調査」と「自己理解アンケート」を実施し、思春期の心の健康と自己信頼性へのコロナ対応の影響を検討した。小5女子と中1～3女子で自己理解のネガティブ度が高く、精神的な健康度が特に低下していた。コロナ対応と心の健康及び自己信頼性の発達との関連について討議する。

…

【参考文献】

田中真介・塚田直也・横井川美佳・本原琴美（2022）「幼児期・児童期・青年期の自己信頼性の発達診断と保育・療育」―日本応用心理学会第88回大会発表論文集

（たなかしんすけ、やまもとひでひこ、こがまさこ、とまつたいち、よこいがわみか、もとはらことみ）

自主企画；女性アスリートの成長発達段階における指導者の役割

-以外と知られていないハラスメントの実態等を子どもの権利条約の視点と併せて紹介します-

○寅嶋静香[12]　権野めぐみ[2]　来田宣幸[2]　藤林園子[3]（非会員）
（[1]奈良教育大学、京都工芸繊維大学・　[2]京都工芸繊維大学・甲子園大学[3]）

キーワード：スポーツハラスメント・子どもの権利条約・指導者の役割

【今回の自主企画を応募した目的です】

女性アスリートの成長発達段階におきまして、特に月経開始以降の成長発達時期は、指導者の関りが大変重要となっています。今回、この企画では、スポーツ指導者の、特に女性スポーツアスリートに対するハラスメント（暴力・暴言・セクシャルハラスメント等）の事例から、いわゆる適切な指導とは何か、指導者の果たすべき役割とは、指導者と女性アスリートが密になりやすい関係性の分析…など、スポーツ指導者の役割を、改めて問い直す機会創出の場とすることを目的とします。そして、子どもの権利条約の視点と合わせながら、できるだけ多くの方々がこの問題が人権を脅かす行為であることや、健康を害する危険性が多大にあることを知って頂く機会＝啓発の機会としても機能させていくことも、第二の目的とさせて頂きます。

【今回の自主企画の方法です】

・本自主企画では、3名の発表者による、各々の調査結果、調査事例、ケーススタディ等を発表して頂きながら、目的にて述べた内容をディスカッションしていきたいと考えます。聴講者のみなさんからの質問や活発な質疑応答を求めます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

・発表者；寅嶋静香；恋愛禁止！？を言い渡された高校時代の部活動体験における語り分析、恋愛禁止をなぜ実施したのか、指導者側の語り分析等の発表、および子どもの権利条約の視点からみた、恋愛禁止との関連性についてお話する予定です。恋愛はなぜ禁止されるのか…？禁止することで何をメリットとして指導者は捉えているのか…等を発表しますどうぞ宜しくお願い致します（時間が許せば、ですが、本大会権野めぐみ氏・来田宣幸氏らと共同で大会発表したセクシャルハラスメントの別事例をご紹介したいと考えています）。

・発表者；権野めぐみ先生；FAT（Female Athelete Triad＝女性アスリートの三主徴（疲労骨折や無月経（月経不順含む）が同時進行的に生じ、これらの背景には、摂取エネルギーの不足（摂食障害含む）が背景にあり、3つが連関して生じる、女子アスリート特有の健康障害であるといわれています；近年では男子も問題になっている摂取エネルギーの不足と疲労骨折問題が明文化されてきました）とハラスメントの関係について、そのメカニズムにおける解説を加えながら、ケーススタディをご紹介していきます。

指導者の基本的な健康知識及び健康障害に対する無知は、女性スポーツアスリートの健康を、やはり害してしまう恐れがあることがよくわかります。そしてアスリート自身も学びを深めていくべきではないか、という視点も持ち合わせながら、発表致します。皆さんからのご意見を頂戴したく思いますので、活発な質疑を宜しくお願いいたします。

・発表者；藤林園子；トップレベルの女子アスリートに日々接する機会が多い藤林先生の環境は、トップレベルゆえの悩みや日々の健康状態の保持が難しいこともあるようです。指導者のかける一言、指導者がどう接したか、トップへの道のり等、ケーススタディをご報告いただきます。

・総合司会；来田宣幸先生；トータル3名の論壇者の報告に関して司会を務めて頂きながら、簡単にご紹介してもらいます。また、3名の発表後に質疑応答などを取りまとめて頂きます。普段なかなかこのような問題と接することのない方々にこそ知って頂きたいという視点から、聴講者の皆様より、ご意見を頂戴する可能性もありますため…どうぞ宜しくお願いいたします。

【結果の一部ご紹介します】

表1．恋愛禁止規則を破った場合の処罰に関するアンケート調査結果（N＝31）より

恋愛禁止規則を破った場合の処罰（重複回答有;N=31）	（名）	（%）
顧問からお説教・呼び出され一部体罰（頭を叩く等）	28	77.7
強制的に退部・自主退部という形を促される（退部勧告）	16	44.4
謹慎処分（期間は学校によるため一定ではない）	16	44.4
試合出場禁止，練習試合出場禁止，レギュラー外し	14	38.8
外出禁止（寮生活；期間は学校によるため一定ではない）	9	25
部室，コートなどの掃除を一人で実施	6	16.6
そのほか（土下座，立ち続ける，謝罪を全員へ　等）	4	11.1

…上記のように、一部体罰等を含むハラスメント（恋愛禁止自体がハラスメントであるが…）が散見されています。強制的に退部を促されたり、頭を叩かれたり、謹慎処分を受けたり…と多岐に渡ります。他、全員へ向けて謝罪を行ったり（なんの謝罪でしょうか…？）、土下座、立ち続ける等の罰則規定も、一部の学校部活動では見られていました。皆さんはどうお感じになりますか…？（昭和は既に終わったが…）

【最終ディスカッションに向けて…】

上記結果に対する考察ですが、恋愛を成就させて対人コミュニケーションを円滑に進めることは、ある種精神衛生状態が良好であり、自尊心や充実感が高い状況の証である、との報告もあります[1]。これを強く裏付ける形で、過去にオリンピアンとして活躍していた元水泳選手の伊藤華英選手のメッセージには、まさに恋愛を推奨し、スポーツパフォーマンスUPへと繋がる話が記載されておりました[2]（よろしければご参照ください）。ということは、今回の結果は一体？…ここは当日、ディスカッションできれば幸いに思います。

今回の自主企画におきまして、様々な意見が得られると思われます。それまで過ごしてきたバックグラウンドの影響や、多様性の認識にまつわる問題、さらには子どもの権利条約という、世界でも子どもたちの人権や幸せを考える法律との関係性、そもそもハラスメントは「刑罰対象」であるという刑法学の視点…など、多様な形で議論が展開されていくと思われます。皆様が感じた率直な意見、さらには今後選手たちを守るべき視点の議論等、たくさんのメッセージをお待ちしております。どうぞ、宜しくお願いします。

【利益相反（COI）】ございません

【引用文献】

1）神薗紀幸，ほか（2006）青年の恋愛関係と自己概念及び精神的健康の関連．広島大学総合科学部紀要，（22）；93-104.
2）「「部活と恋愛」は本当にいけないことなのか？海外コーチはみな言う、「もっと恋愛をしろ」と―」（2018年8月11日記事）．https://the-ans.jp/bukatsu/bukatsu-discussion/33035/．スポーツ文化育成総合ニュースサイト．（2022年12月28日閲覧）．

（とらしま　しずか・ごんの　めぐみ・きだ　のりゆき・ふじばやし　そのこ）

ポストコロナ時代の心理学の教育を考える

企画・司会：伊藤令枝（日本大学理工学部）
話題提供：有木永子（日本大学国際関係学部）
話題提供：外島裕（日本大学商学部）
指定討論：藤田主一（日本体育大学）
キーワード：大学教育，心理教育，自己理解

【企画の背景】

2020年ごろに世界規模で流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）だが，日本ではその拡大抑制のために，同年3月以降，緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用をはじめとした，いわゆる「密」を回避する政策が実行された。そして，個々の行動，人と人とのつながりや対人関係だけでなく，よりマクロな経済・社会活動やその構造までも，長期間にわたって何らかの影響を受け続けることとなった。2023年5月，COVID-19の感染症法上の位置づけが，それまでの2類相当（医療体制に関する行政の強い関与，外出自粛要請など）から5類相当（医療機関での通常対応，外出自粛なし等）に変更されたが，コロナ禍に伴った諸事象は今後も，何らかの爪痕を残し続け，人々はその中でポストコロナ時代を生活していくことになるだろう。

さて，教育活動は，COVID-19の影響を大きく受けたもののひとつである。義務教育課程にかかわる学校や高等学校では，2020年3月から数か月に及ぶ一斉休校が実施され，その後，自宅学習や遠隔授業，分散登校などの工夫によって順次，再開され，2023年現在，プレコロナの状況に戻りつつある。

一方，大学は，学生の県境間移動や，大教室での一斉講義などもあり，小・中・高等学校等と比べて感染リスクが高い。そのため，大学の約9割が，2020年度前学期の授業開始を予定よりも延期した上で（文部科学省，2000），遠隔授業のかたちで教育・研究活動を開始した。その後，対面型の授業が徐々に回復したが，大学には，講義だけでなく，ゼミや演習，実習などさまざまな授業形態があり，大学組織にとっても，学生や教員にとっても，対面授業と遠隔授業の割合はさまざまである。心理学の教育は，心理学系学生を対象とした講義，演習，実験・実習のほか，教職課程学生，非心理学系学生への講義など幅広く，教育のありかたやコロナの影響も一様ではないが，遠隔型授業であっても，学生が対面と同等の専門知識やスキル，技能を習得できるように，教員には多大な工夫が求められた。

教育活動は，臨床場面でのスーパーヴィジョン，企業での研修などのようなかたちでも行われている。このような教育は，専門知の習得を目的とした大学教育と質的に異なり，学習者が今後，実務をすすめていく上で基本となるものであり，職務遂行行動に密接に関連していることが特徴である。特に企業の場合は，企業の規模や業務内容などによって異なるものの，年次研修，職位別研修など，職務遂行に必要な知識やスキルの習得のためのさまざまなプログラムが実施されている。心理学者による心理教育は，職務遂行にかかわる自己理解とメタ認知を促進する研修として取り入れられており，たとえば，心理検査を実施して，そのフィードバックを実施する場合もある。コロナによって，あらゆる経済・産業活動が変容していったが，企業では，テレワークや時差通勤，地方移転などが推進された。プレコロナでは出社あるいは合宿で行われることの多かった企業研修も，コロナ禍では遠隔型での実施が増加した。なお，従来は研修を受けることが困難だった就労者の積極的な参加も認められた。

【遠隔型教育の形態と特徴】

遠隔型の教育には，学習者が任意の時間に学習できるオンデマンド型，Zoom Video Communications社によるZoomやMicrosoft社のTeams等を用いて，リアルタイムでの対話を行う同時双方向型，両者の組み合わせであるハイブリッド型やハイフレックス型等の形式がある（金・森川・若本，2021）。これら遠隔型の学習では，通勤通学に伴う負担が軽減され，また，特にオンデマンド型では反復的な学習も可能である。その一方で，機器の保有状況や通信環境等のハード面に多くを依存せざるを得ず，経済的負担の大きさやVDT（Visual Display Terminal）症候群などの身体的，精神的疲労も指摘されている（内田・黒澤，2021）。また，対面型と比較して，学習者による自己管理がより一層求められ，継続的な学習も困難になりやすい。それに加えて，学習実態の見えにくさ，コミュニケーションや情報共有機会の制限などが伴い，学習者は孤立感を深めたり抑うつに陥りやすくなったりしたことは，既にさまざまな研究で指摘されている。

【ポストコロナに向けた教育のありかた】

教育は本来，学習側と教授側との相互作用，学習者同士の相互作用の中で成立し，知識の習得だけでなく，学習者の発達を促進するものである。中でも心理学は，科学的方法論に基づいて個々にアプローチし，また各個人の私的体験を一般行動原理に高められることが特徴であり（辻，1971），専門知やスキルの伝達だけでなく，学習者自身の自己理解に寄与する学問である。したがって，それらが制限されやすい遠隔型の教育は，知識や技能の習得，学習に対する動機づけ，メンタルヘルス，学習者自身の自己理解などに大きな影響を及ぼすものであり，それは，教育にかかわる誰しもが実感してきたことであろう。

2023年の本年はまさに，ポストコロナに向けて，教育，産業経済，地域活動，大規模イベントなど，社会が再び動き出した元年と位置づけられよう。それは，これまでのコロナ禍で制限されていた人々の回復の過程であると同時に，対面に対する適応困難，コロナ禍の中で隠れていた個々の問題の顕在化などの新たな事象に遭遇することでもある。

そこで，本ワークショップでは，大学教育場面，臨床場面，企業研修場面での教育事例を紹介しながら，コロナ禍による活動制限が教育へ与えた影響を改めて振り返り，流動的な状況のなかでの，よりよい心理学の教育のありかたを探っていきたい。

【利益相反】

本ワークショップ企画において，利益相反（COI）があることを付記する。

【引用文献】

金　衿佳・森川　慧子・若本　夏美（2021）．遠隔授業と対面授業，その課題と可能性－コロナ禍から新しい学びへ　Asphodel, *56*, 77-107

文部科学省（2000）．新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について　Retrieved June 4, 2023 from https://www.mext.go.jp/content/202000513-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf

辻敬一郎（1971）．心理学一般教育の問題点－心理学講義について－　名古屋大学教養部紀要, *15*, 41-48

内田知宏・黒澤泰（2021）．コロナ禍に入学した大学一年生とオンライン授業－心身状態とひきこもり願望　心理学研究, *92*, 374-383

（いとうよしえ・ありきながこ・としまゆたか・ふじたしゅいち）

社会に役立つ応用心理学研究を考える

－ 道路交通社会を例とした貢献と課題 －

企画・話題提供者：大谷　亮（(一財）日本自動車研究所）
司会・話題提供者：小菅英恵（(公財）交通事故総合分析センター）
話題提供者：中西誠（株式会社電脳）
話題提供者：中野友香子（科学警察研究所）
キーワード：応用心理学・道路交通社会・研究と実践

【企画趣旨】

ある生活領域（現場）の心理学的な問題を科学的なアプローチによって解明し，対策を講じていくこと（解決）が応用心理学に携わる者（応用心理学者）の目標であり，様々な領域において心理学の活用が実現されている。

心理学的な問題の解明や解決を科学的なアプローチにより講じるには，実験室の研究がそのまま社会の諸問題に適用できないこと（波多野，1974）や，理論と実践の関係（Lewin. K, 1964）を理解することが応用心理学者の要件となる。すなわち，統制条件下での法則定立的な研究に終始すると，多種多様な現場の荒波に即した対策が困難となり，逆に，現場の個々の状況に対して理論なく場当たり的な対策を講じると，非効率的な対応となるといった難しさがあり，この困難に日々直面しつつ，バランスの良い研究を遂行することが求められる。

応用心理学の目標の一つである心理学的な問題の解決に目を転ずると，人間を「測ること」と「変えること」といった目的があり，これを可能にする心理学的な技術が存在する。「測ること」の例としては，心理アセスメント，適性検査，さらには能力検査などがあり，「変えること」の例には，カウンセリング，コーチング，教育などがある。

「人間を測ること」の実現には，例えば，適性検査などの技術を社会実装するためのスキームの構築と普及に難しさがある。また，「人間を変えること」には，スキームの構築に加え，クライエント・クライアント・教育受講者の態度変容（大谷，2022）が伴わなければ，効果が期待できない状況となる。

本企画では，道路交通社会を例として，研究と実務に従事される話題提供者から情報提供いただき，理論と実践のバランスや，人間を「測ること」と「変えること」の難しさと今後の方向性を共有する。このため，中西誠氏には適性診断を例として「人間を測ること」，中野友香子氏からはシートベルト着用に関する研究から「人間を変えること」について情報をいただく。また，小菅英恵氏には地域住民のリスク認知の点から，各種対策案の普及の難しさについてのお話いただく。

ある生活領域の心理学的な問題には，その領域に特化した課題とともに，全ての生活領域に共通した普遍的な課題もあると推察される。本企画の中で，道路交通社会以外の領域を対象とされる研究者皆様にも，共感をいただける部分があると想像する。そこで，本企画では，話題提供者との質疑応答の後，フロアの皆様との領域を超えた議論を行う予定である。

【話題提供】

●中西誠（株式会社電脳）

株式会社電脳では，主に自動車教習所で使用される OD 式安全性テスト®（以下：OD 式）という，運転適性検査を開発販売している。OD 式は 1967 年に開発され，現在では年間に約 100 万人が受検をしている。心理検査として，主に作業検査法から測定される運転適性度と、インクブロット検査や質問紙法から測定される安全運転度の 2 側面から安全に運転するための資質を測定し，それぞれ運転操作のスムースさや，安全に運転するための性格や態度を評価しており，低評価者ほど事故・違反経験者の割合が高くなっている。このような適性検査を用いることで，運転者自身の特性を把握し，運転する上で自分の苦手さや弱点を知るためのツールとして，安全運転教育に活用されている。また，一つの検査を使い続けることによって，時代によるヒトの変化なども検討することが可能になるのではないだろうか。

●中野友香子（科学警察研究所）

本報告では，シートベルト着用を促す交通安全教育に関する研究を紹介する。現在自動車内のすべての座席でシートベルトを着用することが義務化されている。シートベルトは命を守るために有効であり，かつ，簡便に着用できる装置であるものの，シートベルトを着用するという行動を促すことは難しい。そこで本研究では，行動変容に関する心理学の基礎研究や技術を活用して，小集団で話し合うことを主体とした安全教育を試作した。さらに，幼児の母親を対象としてこの教育を試行実施し，シートベルト非着用の背景にある心理的要因，及び，教育により非着用者が自らの行動を改善しようとする意図が高くなるプロセスを探索的に検討することにより，心理学の理論と実践をつなぐことを試みた。本研究を一事例とし，人を変えることの難しさと心理学の応用可能性，心理学と教育実践の連携可能性について考えたい。

●小菅英恵（(公財）交通事故総合分析センター）

多くの人々にとって住みやすい社会には，安全な交通社会の実現が不可欠である。それには，根拠に基づいた交通事故防止の立案（EBPM：Evidence-based policy making）の過程が極めて重要となる。ITARDA（交通事故総合分析センター）はこの EBPM の基盤となる大規模な『交通事故統計』データを保有しており，県や市などの地域単位の交通事故リスク評価をはじめ，住民を対象とした安全意識・態度などを調査し，地域の人々の交通事故発生につながる心理・行動を科学的に分析，また心理検査の結果なども用いて，地方行政，警察，民間企業等と各種交通安全対策の立案や提言を行なっている。交通安全研究の目指すところは社会実装であるが，現場の専門家の不在，資金不足，横断的体制の構築の難しさなど課題が横たわっている。ここでは，いかに心理学研究を社会実装につなげていくかについても議論を進めたい。

【参考・引用文献】

波多野完治(1974). 現代応用心理学 2 応用心理学の方法 モーリス・ルクラン（編） 波多野完治（監訳） 白水社.
Lewin, K.(1964). Field theory in social science：selected theoretical papers. In D. Cartwright（Ed）. New York：Haper & Row.
大谷亮(2022). 歩行者事故低減に向けた子どもに対する安全教育および周囲の監視に関する研究. 一般社団法人日本損害保険協会 自賠責運用益拠出事業について.
https://jibai-info.jp/results/2022/01.html（参照 2023.04.08）

（おおたに あきら・こすげ はなえ・なかにし まこと・なかの ゆかこ）

いじめ問題のロール・プレイングを教員研修で取り組む

小・中学校の教員研修、学級現場での活用に向けて

高橋　秀和
（アウェアネス＆グロースアプローチ研究）

いじめ　ロール・プレイング　教職員研修

自主ワークショップの目的

2022年12月、文部科学省は『生徒指導提要』を改訂し、新たに、いじめの未然防止教育の取り組みに『学校においては、（教科としての）道徳科や学級・ホームルームなどの時間に、実際の事例や動画など教材に生徒同士で検討したり、いじめ問題のロールプレイを行ったりするなど、体験的な学びの機会を用意することが求められています。』との方向性を打ち出した。

『生徒指導提要』にもとづてロールプ・レイングが活用されるに好機に、対人援助技術、心理技術であるロール・プレイングを点検する好機である。

わが国に初めて外林(1950)により心理劇が、首藤(1950)によりロール・プレイングが紹介され、また一早く、時田(1951)が、学級の児童に適用し効果をあげた実践研究を第11回日本応用心理学会で発表されており、応用心理学とロール・プレイングは縁が深いものがある。

ここ最近では、台ら(2002)によりロールプレイングの理論と実際のシンポジウムがもたれたり、高橋(2013)はサイコドラマ、ロール・プレイングをもっと身近なにんとするために、保育者など対人援助者の研修に役立つ心理劇について、自主シンポジウムが提供され、ている。

児童・生徒間のいじめは、理不尽であり、心理的な侵襲も社会集団的な圧力も大きく、人間関係を育てるでなく、分断し、人をミゼラブルに孤立せしめるものであり、成人にあてはめるならハラスメントに相当し、対応を急がれる今日的な課題である。

これらの歴史的背景、今日的な課題をふまえて、児童・生徒のためのいじめ防止の体験的な学習に、ロール・プレイングをいかに提供するのが望ましいかを、参加者と体験的に探索するワークショップを提供致するものである。

問題

いじめの事例や脚本があって、その筋書きや台詞にそって配役、演じてみれば、それぞれの人の気持ちになれて、好ましくないと体験的に理解されるかもしれない。演技とは言え、いじめられての嫌な気持ち、いじめて発散、爽快な感じはリアルであり、どう処理されるのだろうか。

テレビで放映されていた金八先生の番組内での金八先生によるいじめの授業は、生徒の立場を逆転させ、今度は、金八先生が、ひたすらいじめた生徒をあげつらい。迫力満点にいたぶるものであった。はたして、生徒役、視聴者がいじめはしないと思うに至る効果があったのだろうか続編がない。

とある人になってみるロール・プレイングにしても、役割交代にしてもも、優れて大事な技法であるが、いつ、どう使うのが、判断、選択が求められるところである。

方法

事例に即して検討する資料として時田（1961,1974）などあるが、日々の学級経営と連動しており、読解の労大きく、また、当時と今とでは、教職員も、児童・生徒の気風も変化している。

現時点での現場に適用するにあたり、適切な探索方法として、このワークショップでは、今いる教職員同士が対面したと想定し、擬似的にいじめ問題にかかるロール・プレイングのワークを体験し、その体験をお互いにフィードバックし合い、ロール・プレイングの取り扱い方つまり運用力を向上にかかせない観点や技術を確認するものである。

模擬的な体験ワークについて

参集してくださった方々に体験していただくワークは、好ましい実例をあげ、体験していただくだけでなく、それをした場合とそうはしなかた場合との対比を意識していただく。

ワーク１　安全、信頼できるグループつくりのためのウォーミング･アップ

ワーク２　教育相談領域で、言葉かけ、感受性の訓練になるロール・プレイングとして定評のあるたまごのワーク

ワーク３　早川(2017)の提案で始まり、八木橋(2018)など、道徳科で試行されている、直接いじめ体験をしなくても、その場面を想像することいじめ予防の大切さの体験を深める演出法を体験

想定されるディスカッションの内容

①グループ、学級つくりには、正直に感想を話せる関係、取り上げる事象やテーマについて、余裕をもって感じ、考えを深め合っていける柔軟性が大切である。

②人は、相手役の言葉かけに影響され、言われた当人にしてみれば、敏感に感じ、感情が動く。対処、反応の仕方も、聴いているうちに高まってくる。

③大人と言えども、いじめられる役になっけみると、いかにストレスフルで、きついかが判る。児童、生徒がその役になってみるのは、いかがなものか。

④職員研修は、大人同士で、大人のグッドフォローも入り楽でしたけど、学級では、大人は担任のみ。日頃から学級の生徒の感性や理解力を育てること、担任が児童生徒の心情を察し、寄り添う力が大切。心理劇で言う補助自我、特にダブルのセンス、機能を担任がふくらまし発揮してこそ、成功裏に運べる。

⑤今かかえている個別固有の事例で検討したい。

文献

時田光人1974 教育心理劇の構想 日本文化科学社
外林大作監修千葉ロール・プレイング研究会編 1981 教育の現場ににおけるロールプレイングの手引　誠信書房
早川浩隆編 2017 実感的に理解を深める！体験的な学習　役割演技でつくる道徳授業　明治図書

（たかはし　ひでかず）

デジタル技術と心理学の融合事例

○近野恵[1]　井手健太[1]　紺野剛史[1]　桐生正幸[2]
([1]富士通株式会社　[2]東洋大学社会学部)
キーワード：デジタル技術，心理学，融合

【背景・目的】　近年，ChatGPTをはじめとする生成AIが一般的に普及するなどデジタル技術の発展は目覚ましい。一方で，多様化する犯罪や，多様性が求められるコミュニケーションなど，複雑化する社会課題に対し，デジタル技術だけで解決することは困難となっている。これらを解決するために，人を深く理解する必要があると考え，デジタル技術と心理学の知見を融合したコンバージングテクノロジーの研究を進めている。本稿では二つの融合事例を報告する。一つ目は，AIと犯罪心理学を融合した特殊詐欺未然防止技術である。昨年度は，1回目の実証について報告した。今回は，2回目の実証について報告する。二つ目は，ChatGPTを活用したコミュニケーション支援の検討である。また，融合技術における今後の方向性についての討論も予定している。

AIと犯罪心理学を融合した特殊詐欺未然防止技術

【背景】　高齢者を標的とする特殊詐欺は増加しており，2022年の被害額は361億円に上った。未然防止策として，現在の特殊詐欺AIは加害者側の通話データを音声解析することで不審なキーワードを検知する。しかし，詐欺の手口は巧妙に変化するため限定的な手口しか検知できない。またプライバシーへの懸念から改良が望まれていた。

【目的】　富士通，東洋大学，尼崎市の3者で共同研究を行った。加害者側の検知ではなく，様々な手口で共通する被害者側の「騙されそうな状態」の検知に着目し，汎用的な特殊詐欺推定AIの開発と，プライバシーに配慮した安心して自宅に設置できる非接触センサーの実現を目指した。

【方法】　尼崎市在住の67～84歳の男女28名が実験に参加した。「騙されそうな状態」を実験するため，事前に告知した虚偽の実験を実施後，特殊詐欺を模擬し“身分証明書を提示することで，あなただけに特別に追加報酬がある”と，騙す内容の録音音声を流した。音声を聞いている間の生理反応（脈拍・呼吸）と心理状態（緊張・混乱）をミリ波などの非接触センサーおよびアンケートで測定した。実験後，参加者からの身分証明書提示の有無により「騙された」かを判定した。終了後に参加者に真の内容を告知した。なお，本実験は，東洋大学社会学部の倫理委員会の審査による承認（P220065）を得たうえで実施された。

【結果】　目的変数を騙されたかの有無，説明変数を生理反応にしてAIモデルの学習を行った結果，非接触センサーで得られた生理反応を用いて，尼崎市の参加者の「騙されそうな状態」を75%の精度で判定することに成功した。本AIを活用して特殊詐欺リスクが高い場合に家族のスマートフォンへ通知し，詐欺被害を防止する機能も開発した。

【今後の展望】　本技術の実用化に向け尼崎市の高齢者宅でのモニター実験などを実施し，本AIモデルの機能や性能の更なる向上を図る。



Figure 1　特殊詐欺推定AIの適用

ChatGPTを活用したコミュニケーション支援の検討

【目的】　社員のエンゲージメント向上のため，1対1のミーティング（1on1）の導入が増えている。実際の1on1では，部下から上司の考えを求められ場合が多いが，回答に納得感が得られない場合，モチベーション低下が生じる。そこで，不慣れな上司でも部下と円滑なコミュニケーションを築くため，ChatGPTを活用した支援を目指している。

本発表では，熟練者およびChatGPTの回答が，部下の満足度につながるか主観的，客観的な評価から検証を行った。

【方法】　富士通株式会社で働く一般社員5名（男性，平均31.4歳）が部下として参加した。上司に質問するシーンを想定し，共通の5つの質問を用いた。参加者には質問を自らが発したと仮定して，上司役からの回答を聞くよう指示した。上司役の回答は，ChatGPTおよび熟練者が作成した回答を，参加者に伏せて聞かせた。いずれも150文字以内で作成し自動音声で再生した。ChatGPTの回答は，ChatGPT 3.5を使用し，2023年5月20日に作成した。回答音声を聞いている時の生理指標（呼吸数，心拍数）と心理尺度（POMS2，AffectGrid，満足度）を測定した。

【結果】　心理尺度，生理指標について，上司役がChatGPTと熟練者の場合を比較した。その結果，心理尺度は，熟練者が上司役の時の方が，AffectGrid（活性，快適），POMS2（熟活力，友好）および満足度が有意に高値であった。一方，ネガティブな感情を示すPOMS2（怒り・敵意，混乱・当惑，抑うつ，疲労・無気力，総合気分）については有意に低値であった。生理指標では，ChatGPTが上司役の時，心拍数が有意に高値であった。

【考察】　評価結果から，熟練者による回答の方が参加者を満足させ，参加者がより快適に感じることが示された。各上司役に対して参加者に事後ヒアリングした結果から，熟練者が部下からの質問を受け止めて回答するため，部下は快適に回答を聞けると推測される。

【今後の展望】　ChatGPTを1on1の支援ツールとして利用するには回答を作成する際に，部下からの質問を入力するだけではなく，「内容を一度肯定してから回答する」のような条件を，心理学的知見を用いて追記することで，熟練者を模倣した回答を得られ，1on1の支援ツールとして活用できる可能性がある。

. Table 1　事後ヒアリングの回答例

熟練者	ChatGPT
✓寄り添っている感じ ✓参加したくない理由も引き出そうとしている	✓否定が入っていて印象が良くなかった ✓根本的な理由を深堀せずに，思い浮かぶ対策を並べている感じ

【まとめ】以上の事例から，デジタル技術に心理学の知見を融合することで，より実課題に適した解決策を創出できる可能性が示唆された。今後も，デジタル技術と心理学の融合や連携をより活性化し，社会課題の解決に貢献していきたい。

【利益相反】本研究は著者が所属する富士通株式会社の研究費で実施された。

（ちかの めぐみ・いで けんた・こんの たけし・きりう まさゆき）

自己信頼性の育ちを尊重した発達診断、障害児教育

- 発達研究と自閉症児教育を通した考察 -

○塚田直也[1]　飯島杏那[2]（非会員）　福田睦[3]（非会員）　田中真介[4]
([1]筑波大学附属視覚特別支援学校 [2]筑波大学附属久里浜特別支援学校 [3]京都大学総合人間学部卒業 [4]京都大学国際高等教育院）

キーワード：幼児期、自閉症教育、発達診断、自己信頼性、相互尊重性

【企画の趣旨】

近年、幼児教育や学校教育の現場では、子どもの将来の自立や社会参加のためという理由により、大人が望ましいと考える行動（個別的諸機能）を教え、身に付けさせようとする傾向が強まっている。特に、いち早く生活スキル等を育成するための早期教育や、社会的自立を促す障害児教育では、特定の行動ができたことや大人の指示通りに遂行できたことが評価され、子どもの気付きや発見、一人一人の個性的で多彩な表現が見落とされたり、軽視されたりしがちである。

これまでの乳幼児期、学童期、青年期の発達研究や自閉症児療育の実践研究により、自己信頼性（自分自身の価値を発見し、尊重する力）と社会的交流性（自分と世界のつながりをつくりだす力）の育ちが、手指、認知、運動など個別的諸機能の発達を支えていることが指摘されている。

本ワークショップでは、自閉症教育の実践報告と幼児期の自己信頼性と相互尊重性の発達連関に関する研究報告をもとに、自己信頼性が個別的諸機能の発達の原点となる大切な力となることを提起したい。その上で、指定討論者や参加者との討議を通して、自己信頼性を援助する方法を検討するとともに、そうした方法を発達診断や保育・療育・教育実践、子育てに生かすために必要な方策を考えてみたい。

【話題提供１】

飯島杏那「自己信頼性の育ちを大切にした自閉症教育」

家庭生活から一歩踏み出し、集団生活を始める幼児期の指導では、子どもの好きなことを尊重し、大人がそれらに合わせて関わることを通して、共感関係を形成することが欠かせない。そうした共感関係を基盤とした社会的交流を積み重ねていくことで、子どもは、「自分が大切にされていること」を実感し、自分自身の価値に気付き、思いや願いといった内面世界を表現するようになっていく。そうした表現を身近な大人に受けとめてもらう経験を通して、子どもたちは、身近な大人が自分の行為に応答する大切な存在であることを発見する。すると、次第に、身近な大人の言動に興味をもち始める。その結果、大切な大人を追いかけたり、まねたりするなど、多彩なつながりが生成・発展していく。こうした幼児期を経て、子どもたちは学校教育へと歩みを進める。

本校は、知的障害を伴う自閉症児が学ぶ特別支援学校である。小学部には各学年６名の児童が在籍し、教師３名で指導している。近年は、学習指導要領をより踏まえ、子どもの将来像から目標や指導内容を設定し、実践している。しかし、こうした指導では、今を生きる子どもの多彩で、豊かな表現が見落とされてしまうのではないかと危惧している。

そこで、小学部３年生のＨ児を対象児として、新版Ｋ式発達検査2001等を実施し、自我発達の水準を押えた上で、自己信頼性の育ちを尊重した指導を試みた。

Ｈ児は、話し言葉を獲得し、一往復程度の簡単な会話ができる。着替え等、生活スキルを獲得しており「手のかからない子」である。一方で、教師の指示を聞き、「わかった。」と言いつつ、指示とは異なることを行い、笑顔で「見て見て。」と言う。相手の言葉の価値を感受することが難しく、自我の拡大・充実に援助を求めていることがうかがえる。

Ｈ児のように一見、自立的に行動できる子どもは、生活技能や学習態度の育成を目的とした受動的な指導を受けやすい。その結果、自分の大切さを実感する経験が不足し、自己信頼性の育ちが制約される場合があるのではないか。

実践報告をもとに、大人が考える望ましい行動を形成する教育ではなく、子どもの多彩な表現を受けとめ、子どもが自分の価値を実感していく教育のあり方や意義を考えたい。

【話題提供２】

福田　睦「幼児の自己信頼性と他者尊重性の発揮に周囲の大人が与える影響について」

日本の児童の自己信頼性は小学生において国際的に低水準であることが知られているが原因は明らかでない。また、自己信頼性が、善悪の判断や愛他的行動につながり、他者尊重性を発揮させることが示されている。

本研究では、幼児へのインタビューおよび配分課題、保護者と保育者へのアンケート調査を実施した。配分課題とは、同色の立方体の積み木10個を２および３皿に均等に分けさせることで幼児期の自我発達の水準を図る手法である。本研究では、こうした従来の課題に加え、10個の飴玉を「①家族２名と自分」、「②好きな／嫌いな友だちと自分」に自由に分けるという条件を設定し、配分結果と理由を確認した。

保護者・保育者のアンケート結果と、子どもの自由配分課題の結果と配分理由では、注目すべき連関がみられた。以下、特に筆者が注目した２事例を紹介する。

家族３者の課題（①）でのみ配分量に差をつけた子どもたちは、保護者による子どもの自己信頼性の評価および、子どもが幸せになれるかといった子どもへの信頼が低い。一方、保育者は、子どもの他者尊重性を高く評価した。保育場面では、片づけをテキパキと行う一方で、自由遊びの時間に何をして遊ぶか困っていたり、友達の輪に自分から入ることができずにいたりした。また、その子は、保育者から「他の子の分も片づけてくれてありがとう」という声かけがあったことや、保護者から「手伝うことはないか」聞くように言われていると発言したことから、大人の望む行動を自分の行動の理由にしていることがうかがえた。

両方の課題（①②）で自分に最小量の１個を配った子どもは、保護者の子どもへの信頼が「わがままに育っているから幸せになれるか不安」と極端に低かった。保育者は、「自分の願いや気持ちを言葉にして伝えることができない」と自己信頼性を低く評価した。子どもから「喜ばれなかったので、もうお手伝いをしたくない」という発言もあり、保護者の子育てへの不安と子どもの不安との連関も推察された。

次に保護者への調査で特徴的な事例を紹介する。理想の子ども像で学力や人気といったステータスに関する選択肢を避けた保護者は、保護者自身の理想の自分達成率が低かった。その子どもはインタビューで、嫌いなものを答えることに抵抗した。保護者自身の生き方への不安と、子どもが自分の気持ちと向き合い、表現することの連関が示唆された。

【総合考察】

自己信頼性により、私たちは自分や相手を信じ、互いにつながることができる。大切な相手とつながった自己信頼性により、私たちは、過去－現在－未来を生きる自身の価値を認識し、次には、外界の価値を大切にするようになっていく。

【参考文献】田中真介・塚田直也・横井川美佳・本原琴美（2022）「幼児期・児童期・青年期の自己信頼性の発達診断と保育・療育」―日本応用心理学会第88回大会発表論文集
（つかだなおや、いいじまあんな、ふくだむつみ、たなかしんすけ）

研修会

産業保健心理学領域における AI 活用の現状、課題、可能性について

○宮中大介[1][2]（非会員）（[1]株式会社ベターオプションズ　[2]慶應義塾大学総合政策学部）
司会：島田恭子（東洋大学；ココロバランス研究所）
キーワード：産業保健心理学　AI 活用　職場のメンタルヘルス対策

人工知能（以下、AI）は深層学習（ディープラーニング）の登場以降学術のみならず社会的にも大きな注目を集めており、ここ数年は画像生成や Chat（チャット）GPT に代表される大規模言語モデルが新聞報道やテレビ等の一般向け報道でも話題に上るようになった。そこで今回は当領域における AI 活用の現状と課題、可能性についてビジネスと研究の二足の草鞋を履く立場から私見を開陳したいと考えている。本研修会に参加頂く方は AI、産業保健心理学領域に詳しくない方も多いと思われるので、適宜簡単な説明を加える予定である。

日本で産業保健心理学が応用される領域を大きく分けると、労働安全衛生法をはじめとする法律に従った取り組みが求められる分野とそれ以外の分野に分けられる。前者の代表的な領域としては産業医制度、ストレスチェック制度、健康診断等が挙げられるが、現状 AI 活用は進んでいない。その理由としては、法律やガイドラインで AI 活用が認められていないこと、ブラックボックス化が特徴となる AI と説明責任が求められるこれらの制度との相性が良くないことが考えられる。例えば、ストレスチェック制度は、データが収集しやすいため AI 活用が出来そうに思えるが、実施方法が法律、政令、省令、指針、マニュアルによってがんじがらめになっており、AI 活用の余地が小さいのが現状である。制度の目的がハイリスク者の特定ではなくメンタルヘルス不調の未然防止とされていることからも、他の医療領域で実践されているような AI による予測・判別機能を生かしづらいのが現状である。

ここ数年話題の Chat（チャット）GPT については、既に医療分野での応用に関する研究も登場している（Ayers et al., 2023）が、産業医を中心とする団体からは、データベースや過去の事実に基づく情報収集、論文検索、個人情報、組織の機密に関する情報の入力を避けるべき場面とする意見が出ており（日本産業衛生学会産業保健 AI 研究会, 2023）、産業医が過去の判例を調査する、休復職判断等労働者への対応の参考にするといった Chat（チャット）GPT の使い方は難しいと考えられる。

法律やガイドラインに縛られない領域では AI が一定程度活用されている。例えば、勤怠ログや週次や月次といった間隔で実施されるいわゆるパルスサーベイから得られた情報を AI で分析し、リスクが高い労働者を特定するというサービスが一部民間企業によって提供されている。このようなハイリスク者のスクリーニングへの AI の活用は医療分野では実践例が多いが、職場のメンタルヘルス対策としてのスクリーニングの有効性については否定的な研究も存在する（Strudwick et al., 2023）ため留意が必要である。その他の AI 活用が進んでいると思われる分野は、セルフケアアプリである。コロナ禍以降日本においても増加しており、マインドフルネス等の心理療法のエッセンスを取り入れ、レコメンド機能やユーザーとのコミュニケーションに AI を活用している事例が見られる。

今後、産業保健心理学領域で AI 活用を進めていく上で実現可能性が高いのは法律やガイドラインに束縛されない領域において、人間のアイデアを拡張していく、業務の自動化や効率化を図るといった方向性であるように思われる。例えば、企業の労働者を対象とするメンタルヘルス研修において Chat（チャット）GPT を補助ツールとして活用していくことが考えられる。例えば、産業保健心理学においては、メンタルヘルスの改善やワーク・エンゲイジメントを向上させるための研修がいくつか考案されているが、そのうちの 1 つにジョブ・クラフティング研修があり、コンテンツが公開されている（島津明人, 2019）。ジョブ・クラフティングをするために、「仕事のやり方への工夫」、「周りの人への工夫」、「考え方への工夫」に関して、研修受講者に具体的な行動を考えてもらうことになるが、人によってはそれが難しい場合もある。そこで、Chat（チャット）GPT を活用し、本人の状況を与えた上で、「仕事のやり方への工夫」で出来る点はないか良いか質問し、アイデアの参考とすることが考えられる。仮に、利用者が違和感を持つ回答が得られた場合は、本人なり研修講師が訂正することで、大規模言語モデルで生じるハルシネーション（AI の幻覚)を訂正することが考えられる。

その他の AI の活用法としてはカウンセリングの業務効率化やデータ分析によるカウンセリング効果の検証やカウンセリング品質の改善が考えられる。例えば、クライアントが入力した主訴のテキストを AI で要約する、あるいは主訴から事例の難易度や相談カテゴリーを判定し、カウンセラーの割り当ての参考情報とするといった使い方が考えられる。その他、テキストベースのカウンセリングが実施されている場合にカウンセラーの発話を AI によりコーディングし、カウンセリングのアウトカムとの関連を分析することで、カウンセリングの品質向上に役立てることも考えられる。

医療等の他分野に比較すると産業保健心理学領域での AI 活用は現状低調であるように思われれる。厚生労働省をはじめとする行政当局と大学、産業医等の実務家、企業による議論を進めることで AI 活用の範囲を広げていく、活用事例を作っていく必要があるように思われる。

【引用文献】

Ayers, J. W., Poliak, A., Dredze, M., Leas, E. C., Zhu, Z., Kelley, J. B., ... & Smith, D. M. (2023). Comparing physician and artificial intelligence chatbot responses to patient questions posted to a public social media forum. JAMA internal medicine.

日本産業衛生学会産業保健 AI 研究会(2023).産業保健分野における ChatGPT をはじめとする大規模生成モデル利用の注意点について 日本産業衛生学会産業保健 AI 研究会　Retrieved July 12, 2023, from https://drive.google.com/file/d/1-6qSTS6FvhxoaRtNKcZGYNLliuh6gWHO/view

島津明人(2019) .ジョブ・クラフティング研修プログラム実施マニュアル 慶応義塾大学総合政策学部島津明人研究室　Retrieved July 12, 2023, from https://hp3.jp/wp-content/uploads/2019/09/14.pdf

Strudwick, J., Gayed, A., Deady, M., Haffar, S., Mobbs, S., Malik, A., ... & Harvey, S. B. (2023). Workplace mental health screening: a systematic review and meta-analysis. Occupational and Environmental Medicine.

（みやなかだいすけ）

AI が犯罪予測と警察業務をどう変える？
- 最適化アルゴリズムとフィールド実験から学ぶ -

梶田真実（株式会社 Singular Perturbations・東京大学　空間情報科学研究センター）

司会：桐生正幸（東洋大学）

キーワード：犯罪予測、経路策定、警察業務活用

本研修会では、AI を活用した犯罪予測が警察の警ら活動の効率化にどのように貢献するかに焦点を当てお話ししていきたいと思います。警ら業務の遂行に対して、予測技術単体では業務活用に対してまだギャップがあります。重要なのは予測技術単体ではなく、警察官の警ら巡回業務での課題を解決することです。ここでは、具体的な課題と、その課題の解決に向けた AI の活用方法についてお話ししたいと思います。

これまでに、北米を中心に行われてきた犯罪データを用いた予測と警察活動へのその応用は、犯罪抑止効果を確認し、多くの法執行機関での採用を拡大してきました（Ratcliffe et al 2011 [1], Mohler et al 2015[2]）。しかし、予測技術の具体的な運用方法は現場の警察官の裁量に委ねられており、警ら巡回ルートの最適化や、データに基づく警らの効果測定についての研究はまだ不十分であるという課題がありました。これに対処するため、我々は予測に基づく巡回ルート最適化アルゴリズムを開発し、「パトロールスコア」という新たな指標を提案して、その効果を評価する方法を考案しました。

まず、時空間犯罪予測について紹介します。時間や場所に関して特徴的なパターンを持つ犯罪種が多数存在します。これらのパターンを学習するための予測モデルとして、我々が開発した予測アルゴリズム SPLM 法（Murakami et al 2020, 2021[3,4]）を用い、その精度検証結果についても触れたいと思います。

予測に基づく警ら活動は、犯罪抑止効果を高めることが期待されますが、限られたリソースで広範なエリアを効率よく巡回する経路を考えるのは難しく、煩雑な作業となります。そのため、我々は予測に基づき、犯罪が起きやすい場所を優先的に巡回する経路を自動生成するルーティング最適化アルゴリズムを開発しました。このアルゴリズムについて説明した上で、シカゴ、サンフランシスコ、東京の Larceny/Theft に関する犯罪オープンデータを用いて、予測に基づくルーティング最適化アルゴリズムの効果を検証します。また、犯罪抑止効果を数値評価するための新しい指標として「パトロールスコア」を定義し、上記の 3 都市における巡回ルートの策定と最短経路とのベンチマーク比較を実施しました（Figure1）。

我々のアルゴリズムは、ブラジルのミナスジェライス州、ベロ・オリゾンテ市（以下、BH 市）で実際にケーブル盗難に焦点を当てて警察業務で試験的に運用されました。具体的には、2022 年の 8 月と 9 月の 2 ヶ月間にわたり、ケーブル盗難を対象とした巡回ルート最適化を行い、BH 市警察の協力のもと、提案した巡回ルートを実際の警ら活動に活用しました。

市警団に対しては、パトカーに乗車する警察官にはモバイルアプリを、彼らを管理する司令官には警ら業務管理を管理するウェブアプリを提供しました。ウェブアプリでは犯罪予測に基づき、その時に最適な警らルートを策定し、パトカー乗務する警察官に向け指示書を作成することができます。指示書はパトカー乗車する警察官のモバイルアプリに送られ、担当警察官は指定されたルートを辿って警らが可能です。実際に巡回した GPS 情報はモバイルアプリを通じて自動的に記録されます。この GPS 情報を収集し、予測と巡回アルゴリズムを活用しパトロールしたエリアを GPS 位置から 200m 拡幅したエリア（treatment area）として、BH 市内のそれ以外のエリアを、アルゴリズムを活用せず普段通りの業務を実施したエリア（control area）として定義します。この二つのエリアについて、実証実験期間前と実証実験期間中の犯罪発生数の比較を実施しました。（Figure2）

その結果として、実証実験期間前と期間中の各 2 ヶ月間で、ケーブル盗難の発生件数の変化を測定し比較したところ BH 市全体では 68.5%減少しました。さらに、犯罪予測とルート最適化アルゴリズムを活用したエリア（treatment）では 79%減少、活用していないエリア（control）では 56%減少しました。これは、犯罪予測に基づくパトロール経路最適化により、効率的に犯罪を防止することができたことを示唆しています。

本研修会では、我々の取り組みの詳細を説明し、AI と犯罪予防の可能性について深く議論したいと思います。我々が提案するこれらの手法が警察業務の効率化に貢献し、結果的に犯罪を減少させ、社会をより安全にするための一助となることを期待しています。

Figure 1：犯罪予測に基づく最適巡回経路（青）と最短経路（緑）、犯罪は性地点（赤）の比較。青いルートが緑のルートに比べ赤い地点の近傍を通る傾向が高い。

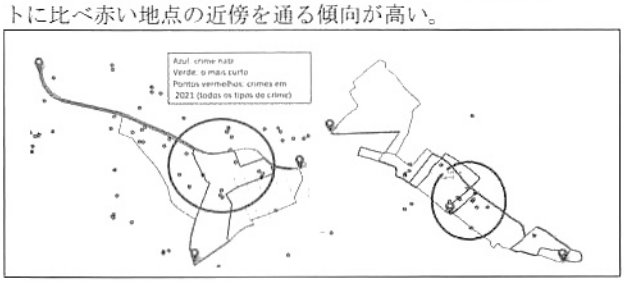
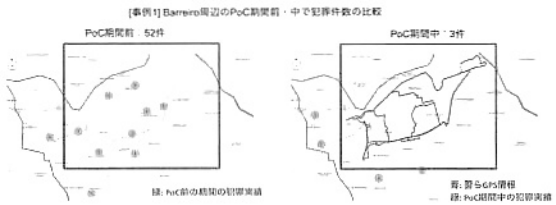


Figure 2：BH 市内 Barreiro 地区の実証実験期間前と実証実験期間中のケーブル盗難発生状況と警ら GPS 位置情報の比較



【引用文献】

[1] Ratcliffe, J. H. et al (2021) Journal of Experimental Criminology, 17(1): 15-41.
[2] Mohler, George O. et al (2015). Journal of the American Statistical Association 110(512):1399–1411.
[3] Murakami, D., Kajita, M., & Kajita, S. (2020). ISPRS International Journal of Geo-Information, 9(10), 577.
[4] Murakami, D., Kajita, M., Kajita, S., & Matsui, T. (2021). Spatial Statistics, 43, 100520.

（かじた　まみ）

研究発表（口頭発表）

擬人化エージェントを用いたリモート心理カウンセリングの実践的研究

○岩﨑和子[1]　李潤杰[2]　権野めぐみ[1]　　来田宣幸[1]
([1]京都工芸繊維大学　[2]京都工芸繊維大学大学院)

キーワード：擬人化エージェント、リモート、心理カウンセリング

【緒言】現代のストレス社会では心理カウンセリングのニーズが高まっているが、うつ病の受診率は2割程度と低い（藤原，1995）。悩み苦しむ人に対して心理カウンセラーによる心理カウンセリングを適切に届けられていない問題があり、サービスギャップと呼ばれている（Kushner & Sher, 1989）。

近年、ICT技術の進歩によって、オンラインサービスが広まり、スマーフォンやパソコンのカメラで撮影した表情を読み取り、擬人化エージェントの表情などに変換し、遠隔画面に表示することも容易になった。人間や動物に似たふるまいをするアバターや相互作用が可能な技術的インターフェースの擬人化エージェントはコミュニケーションツールとして活用可能性が広がっている。擬人化エージェントを用いた遠隔心理カウンセリングには、クライエントの緊張感を低減し、気軽に心理カウンセリングが受けられる環境を構築できる可能性を有すると考えられ、サービスギャップを解消するための1つの方策といえる。

しかし、擬人化エージェントカウンセリングについては、模擬カウンセリングによる効果は検討されているが、実際のカウンセリング内容に基づいた効果については不明な点が多い。そこで、本研究では、擬人化エージェント心理カウンセリングの効果について、実際のカウンセリング場面で複数回使用した場合におけるクライエントによる印象を明らかにすることを目的とする。

【方法】クライエント役の対象者は20代から70代までの男女合計12名であった。実施時期は2022年10月から2023年3月までであった。カウンセラーの表情をゲーミングパソコンのカメラで撮影し、顔変換ソフト（Animaze©）で変換し、ビデオ通話システム（GoogleMeet©）を用いて接続したクライエント役の端末（PC、タブレット、スマートフォン）の画面に、森を背景としたフクロウの姿として再生させた。

この環境での心理カウンセリングを40分間行った。その後、ウェブ上のフォームおよび5分間程度の半構造化面接を用いて擬人化エージェントカウンセリングに関する印象についてたずねた。対象者には3回の心理カウンセリングセッションを実施した。

【結果および考察】12人の対象者のうち、ドロップアウトとした対象者がいたため、3回の擬人化エージェントカウンセリングに参加した8名を質問調査の分析対象とした。質的評価および量的評価の検討から以下の6つの点が観察された。

1) 最初の違和感　初回、対象者は、違和感を感じる場合があった。具体的には、「最初、不思議な感じがあった。」「フクロウの動きがぎこちない」とのコメントがみられた。ただし、「2回目で慣れ、違和感がない。」「前回よりさらにアバター感を感じなかった」「場面のアバターに戸惑ったのは、はじめだけ。」とのコメントがあり、2回目以降に慣れが生じている様子がうかがわれた。質問調査の「話をすることに緊張を感じていませんでしたか」に対する回答は、1回目は低く、2回目、3回目と高い値となった（1回目，3.25 ± 1.39; 2回目，3.75 ± 1.71; 3回目，3.88 ± 1.54）。

2) 話しやすさ　「話しやすかったですか」への回答は1回目から3回目まで高い値であり（1回目，4.75 ± 0.43; 2回目，5.00 ± 0.00; 3回目，4.88 ± 0.33）、擬人化エージェントを用いることで話しやすくなる可能性が示された。話しやすくなった理由を質問調査の結果から検討すると、「（リアルな）人では身構えるが、そのハードルが低い。ぬいぐるみに話しかける感じで、癒された。」「カウンセラーの表情や様子をうかがうなどの気を使わないですんだ」「リアルな人の表情の反応でなく、表情が現れないアバターなので、気を遣わず楽だ。」「重たい内容を見知らぬ他人に話しやすいようにアバターなら話しやすいと感じた。」の回答があり、カウンセラーの情報量が少ないことが話しやすさにつながった可能性が考えられる。

3) 受け止め　緊張感が低下し、話しやすくなるだけでなく、話すことに対して相手による受け止め感についても変化がみられた。受け止めに関する結果は1回目が4.75 ± 0.43、2回目が4.88 ± 0.33、3回目が5.00 ± 0.00であった。具体的には「フクロウの目が大きく、黙っている間も閉じたり瞬きしたりして、ちゃんと聞いてもらっている感じがし、安心した。」「人間語が話せるぬいぐるみのような温かさをもっている」「アバターの目がこちらを見ていていると感じ、話せている感じがあった。」がみられ、動きの重要性がうかがわれた。

4) 擬人化エージェントの親しみやすさ　アバターに対する親しみや温かな雰囲気に対する得点は1回目より2回目と3回目には変化がみられた（1回目，4.75 ± 0.43; 2回目，4.88 ± 0.33; 3回目，4.88 ± 0.33）。具体的なコメントとしては「普遍的な可愛さ、愛らしさに癒され、2回目を楽しみにしていた。」「ぬいぐるみのような姿で、目が大きく、表情があり、可愛い。話しやすい」「不思議・不自然な感じというよりも、癒される」「やわらかく、やさしさが話しやすい」などのように、擬人化エージェント自体が有する癒やし効果が認められた。

5) 自己開示　さらに本研究で注目すべき点として、自己開示の得点が上昇する結果が得られた。自己開示に関しては、人間には弱みを見せにくいが、ぬいぐるみなので弱みを見せやすいことがその背景にあると考えられる。

6) 課題　ただし、表情が見えないことをポジティブに捉える人もいればネガティブに捉える人もいた。「沈黙の間は、アバターだと表情が読めず、少し戸惑ったが、話をするのをやめようとは思わなかった」とのコメントがあり、個人による違いにも配慮する必要性がうかがわれた。

【利益相反】利益相反（conflict of interest; COI）はない。

【引用文献】

藤原茂樹（1995）一般人口におけるうつ病の頻度および発生要因に関する疫学的研究．慶應医学, 72, 511-528.

Kushner, M. G. & Sher, K.J.（1989）Fear of psychological treatment and its relation to mental health service avoidance. Professional Psychology. Research and Practice, 20(4): 251.

（いわさき　かずこ・り　じゅんけつ・ごんの　めぐみ・きだ　のりゆき）

慢性疼痛に関する保有者割合および発生時対処行動

年代別および職業別での比較

○岡恭正[1]　来田宣幸[2]
([1]京都工芸繊維大学大学院　工芸科学研究科　[2]京都工芸繊維大学　基盤科学系)

キーワード：慢性疼痛，サービスギャップ，年代別

【目的】

筋骨格系慢性疼痛は治療に要する医療費に加えて，休職などの就労機会の損失，労働力の低下，Quality of Life の低下などに影響を与えるため，社会経済的観点からも大きな問題となっている．実際に，慢性疼痛による社会的損失額は年間6,400 億ドルと推定されており，これは心臓病等の他の疾患と比較しても極めて大きな損失額である（Gaskin,2012）．

しかし，この筋骨格系慢性疼痛は生命を脅かす痛みではない理由などから，個人の基準によって適切な対処が行われていない可能性が考えられる．このように援助サービスが必要にもかかわらず，サービスを利用しない状態は心理学の分野ではサービスギャップと呼ばれ，実際うつ病やパニック障害を抱えた人が医療機関を利用する割合は 2 割程度と言われている（Kushner,1991）．そこで筋骨格系慢性疼痛においてもこのサービスギャップ問題が生じているのではないかと仮説をたてた．

本研究では筋骨格系慢性疼痛のサービスギャップ問題に関して，保有者割合と発生時対処行動について部位別，年代別傾向を明らかにすることを目的とした．

【方法】

2022 年 12 月にインターネット調査会社の登録モニター1800 名（20 代から 70 代の各年代男性 150 名，女性 150 名）から回答データを取得した．

質問項目は次の 2 項目とした。1 つ目は，身体各 8 部位（首，肩，肘，手首・手，腰，股関節，膝，足首・足）に対し，直近 1 年以内に週 2 回以上出現する 3 ヶ月以上続く慢性的な痛みの有無を 2 件法で求めた．2 つ目は、先の質問で痛みがありと答えた部位に対して，その痛みが生じたときに対処した行動について 5 種類の対処行動（病院受診，リハビリテーション，鍼灸・整骨院・整体，マッサージ，自分対処）に対し経験の有無をそれぞれ 2 件法で求めた．

データ分析は、慢性疼痛の有無に関して，疼痛を有する部位数で 4 群（疼痛なし，1 か所あり，2 か所あり，3 か所以上あり）に分け，χ^2 検定を用いて年代別で保有者割合を比較した．次に χ^2 検定を用いて年代別で部位ごとに保有者割合を比較した．対処行動に関しては自分対処以外の行動ありと自分対処を含む対処行動なしの 2 群に分け，χ^2 検定を用いて部位別，年代別で比較した．統計処理には SPSS Statistics 28.0（日本 IBM 社製）を用い，有意水準は 5 %とした．

【結果】

結果 1：慢性疼痛保有部位数の年代別比較

表 1 に年代別の慢性疼痛保有部位数を示した。70 代では、1 か所保有が他の年代と比較して有意に高い値であった。30 代では、3 か所以上保有が他の年代と比較して有意に高い値であった．

表1 慢性疼痛保有部位数の年代別比較

	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	n = 325	n = 325	n = 324	n = 324	n = 324	n = 324
	n　%	n　%	n　%	n　%	n　%	n　%
0	236 (72.6)	216 (66.5)	218 (67.3)	218 (67.3)	218 (67.3)	213 (65.7)
1	35 (10.8) a	36 (11.1) a	39 (12.0) a	40 (12.3) a	37 (11.4) a	61 (18.8) b
2	26 (8.0)	25 (7.7)	23 (7.1)	27 (8.3)	29 (9.0)	29 (9.0)
3+	28 (8.6) b	48 (14.8) c	44 (13.6) b	39 (12.0) b	40 (12.3) b	21 (6.5) a

$\chi^2 = 28.359$　$p = .019$

結果 2：部位ごと慢性疼痛保有年代別比較

表 2 に部位ごとの慢性疼痛保有者の割合を年代別に示した。20 代では膝（4.9%）が他の年代と比較して有意に低い値であり，30 代では手・手首（9.5%）が他の年代と比較して有意に高い値であった．60 代では膝（12.0%）が他の年代と比較して有意に高い値であり、70 代では首（8.6%）が他の年代と比較して有意に低い値であった．

表2 部位ごと慢性疼痛保有年代比較

	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	
	n = 325	n = 325	n = 324	n = 324	n = 324	n = 324	
	n　%	n　%	n　%	n　%	n　%	n　%	
首	42 (12.9) b	56 (17.2) b	51 (15.7) b	51 (15.7) b	43 (13.3) b	28 (8.6) a	*
肩	47 (14.5)	64 (19.7)	55 (17.0)	55 (17.0)	60 (18.5)	37 (11.4)	
肘	11 (3.4)	9 (2.8)	15 (4.6)	11 (3.4)	9 (2.8)	6 (1.9)	
手首	14 (4.3) a	31 (9.5) b	18 (5.6) a	23 (7.1) a	15 (4.6) a	15 (4.6) a	*
腰	52 (16.0)	70 (21.5)	68 (21.0)	61 (18.8)	55 (17.0)	51 (15.7)	
股関節	15 (4.6)	10 (3.1)	12 (3.7)	16 (4.9)	19 (5.9)	15 (4.6)	
膝	16 (4.9) a	21 (6.5) b	18 (5.6) b	27 (8.3) b	39 (12.0) c	32 (9.9) b	**
足首	13 (4.0)	15 (4.6)	14 (4.3)	14 (4.3)	18 (5.6)	19 (5.9)	

結果 3　対処行動 2 群部位別比較，年代別比較

表 3 は慢性疼痛を経験している人を対象として対処行動の有無を部位別に示した。部位間の比較の結果，有意ではなく、年代別に比較でも有意ではなかった．

表3　対処行動2群部位別比較

		あり		なし	
		n	%	n	%
首	n = 271	146	(53.9)	125	(46.1)
肩	n = 318	172	(54.1)	146	(45.9)
肘	n = 61	35	(57.4)	26	(42.6)
手首	n = 116	55	(47.4)	61	(52.6)
腰	n = 357	217	(60.8)	140	(39.2)
股関節	n = 87	42	(48.3)	45	(51.7)
膝	n = 153	76	(49.7)	77	(50.3)
足首	n = 93	47	(50.5)	46	(49.5)

$\chi^2 = 11.687$　$p = .113$

【考察】

本研究では慢性疼痛保有部位数に関して，30 代を中心とする勤労世代が多くの部位に慢性疼痛を抱える現状が明らかになった．またその保有は部位によっても年代傾向が存在することが明らかとなり，部位ごとでの慢性疼痛対策の必要性が示唆された．また対処行動においては部位別，年代別での違いはなかったが，約 4 割～5 割の人が対処行動を行わず，慢性疼痛を抱え続けていることが明らかとなった．この結果から慢性疼痛分野におけるサービスギャップ問題の存在が示唆され，今後の対策を検討していく必要がある．

【利益相反】無

【引用文献】

1）Gaskin DJ and Richard P：The economic costs of pain in the United States.J pain.2012；13：715-724

2）Kushner, M. G., & Sher, K. J. The relation of treatment fearfulness and psychological service utilization: An overview. Professional Psychology：Research and Practice.1991； 22： 196-203.

（おかやすまさ・きだのりゆき）

ある福祉施設職員の介護観とキャリア・コミットメントについての質問紙調査

－経験年数に着目して－

堀　恭子
（聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科）

高齢者介護施設職員、介護観、キャリア・コミットメント、

【目的】日本では高齢化の進展を受けて介護サービス需要の高まり共に、介護の質や職場環境についての検討が行われている。本研究では、ある福祉施設職員への質問紙調査から、職員の介護観や仕事観について検討した。

【方法】調査は2022年10月配布から11月までのおよそ30日間、介護施設職員に白石・大塚他（2010）の，4件法19項目からなる介護観尺度，白石・藤井他（2010）の5件法10項目からなるキャリア・コミットメント尺度質問紙調査を行った。回収された58名分の回答を分析対象とした。

【倫理的配慮】本研究は聖学院大学倫理委員会の承認を得て行われた（聖学院大学第22-14C号）。研究協力中止の自由と、匿名化による個人情報保護を説明し回答をもって協力への同意を得たと判断した。【利益相反】なし

【結果】有効回答数は58枚であった。回答者の性別は男性17名，女性36名，無回答１名，未記入3名，年齢は年齢29歳以下6名、30代11名，40代13名，50代15名，60歳以上10名，未記入3名であった。介護・医療経験年数（以下経験年数）は5年未満17名，5～10年未満6名，10~20年未満17名，20年以上10名，複数回答1名，未記入7名，所有資格（複数回答）は介護職員初任者研修8名，介護職員実務者研修8名，介護福祉士20名，ケアマネージャー5名，看護師8名，理学療法士5名，社会福祉士3名，その他58名であった。

介護観について，探索的因子分析を行った結果，3因子構造であることが分かった。第1因子を「利用者・自分の行動への振り返り重視」，第2因子を「利用者の安心重視」，第3因子を「家族の意向・利用者の安全重視」と名付けた。因子間相関を求めたところ，第2因子は第1因子第3因子双方と相関関係が認められたが、第1因子・第3因子間に相関は認められなかった。また，各因子について，性差，介護職と介護職以外（以下職種分類）の得点平均，年齢別5群間，経験年数別4群の各得点平均を比較したところ，いずれも有意差が認められなかった。キャリア・コミットメントについては，主因子法による探索的因子分析を行ったところ，第1主成分からなる1因子構造であると判断できた。また，質問項目１「給料が下がっても、介護（高齢者支援）の分野で仕事がしたい」のみ、因子負荷量が極端に低かった。したがって、この項目を除いた9項目得点合計をキャリア得点とし，比較をおこなった。性差，職種分類，年齢別5群，経験年数別4群でキャリア得点を比較したところいずれも有意差は認められなかったが，主成分分析を行い，年齢群高低2群（49歳以下と50歳以上）×経験年数長短2群（10年未満と10年以上）の4群で分散分析を行ったところ、介護経験年数の長い群でキャリア・コミットメント得点が高い傾向にあることがわかった。

【考察】対象となった職員の介護観は，先行研究では4因子構造でそれぞれ「考え，振り返る実践重視」「家族の意向・安全重視」「残存能力・機能重視」「組織内のルール・規範重視」と名付けられていた。先行研究の第4因子は経験年数や教育・資格との関連で優位な主効果，交互作用がみられなかったことを考えると，抽出された因子は先行研究結果から大きく逸脱するものではないとかんがえられるが，本調査で抽出された因子には，より行動に着目する傾向がみられ，第2因子「利用者の安心重視」が第1因子，第3因子双方と相関がみられたということは，介護をするうえで常に「利用者の安心」を意識しながら仕事をしていると考えられた。また，キャリア・コミットメントについては，先行研究におけるキャリア・コミットメント高群の特徴として，低群に比して，年齢が高く，経験年数も長いと結論づけている。本調査では，年齢の高低にかかわらず，経験年数が長いほどキャリア得点が高い結果を得た。先行研究では，キャリア得点と介護観，離職傾向についても検討しており，同様の検討を加え比較していきたいと考える。

◆引用文献

白石旬子・藤井賢一郎・大塚武則・影山優子・今井幸充（2010）．個性が尊重されない「組織風土」における，「キャリア・コミットメント」の高い介護職員の離職意向と「介護観の関連　老年社会科学．　33（1）34-46.

白石旬子・大塚武則・影山優子・藤井賢一郎・今井幸充（2010）．介護老人福祉施設の介護職員の「介護観」に関する研究　介護福祉学. 17（2）164-175.

（謝辞）本稿をまとめるにあたり，多くのご助言を頂きました和光大学名誉教授いとうたけひこ先生，データ入力にご尽力くださいました木下恵美さんに，感謝申し上げます。

なお，本研究は2022年度SOMPO福祉財団ジェロントロジー研究助成を受け行われた。

（ほり　きょうこ）

沈黙の概念

山本勝則
（名寄市立大学事務局）
キーワード：沈黙、コミュニケーション、意味）

【動機と目的】

人間関係を促進するには、コミュニケーション技術が欠かせない。コミュニケーションの中でも「沈黙」を取り上げた動機は、以下のことである。

第一の動機は、沈黙がコミュニケーションにどのような影響を与えるのかがわからなかったことである。患者の話を聞くためには、相手の話に口を挟まずに沈黙する必要がある。しかし、沈黙は気まずい雰囲気や話しにくさを生むこともある。そこで沈黙はコミュニケーション場面で有効なのかどうかという疑問が生じた。第二の動機は、一方的に話したり、相手が話しているうちに口を出してしまったり、沈黙をうまく使うことができない学生がいたことである。反対に長い沈黙が続く学生もいた。そこで、沈黙の使い方の指導が必要になった。第三の動機は、コミュニケーションの改善方法として、最も容易に思えることが沈黙だったことである。コミュニケーションが苦手な者がその技術を向上するには、習得が容易な技術に取り組む必要がある。発言内容や動作はコントロールが難しい。一方、沈黙するか否かということは二者択一であり、比較的調整しやすいと考えた。

文献で見出した方法を取り入れて、患者と看護師との対話を録音し、発言時間と沈黙時間とをストップウォッチで測定した。それにより、会話の交代がほとんど間を置かずになされ、一方の話が終わらないうちに他方が話し始めることもあることが分かった。また、双方とも無言の時間が続いた後の発言では、話題が変わりやすい傾向があった。

以上の計量的研究で一定の時間的傾向を見出すことができたが、疑問や困難にも直面した。一方が無言で他方が発言している場合と、両者とも無言の場合とをどのように区別するか、沈黙という言葉が何を意味しているかなどをはっきりさせないと、現象の意味の解釈が極めて限定される。さらに、両方とも発言している場合がかなりあり、最初に想定した“一方が話をしているときには他方は沈黙して聞いているだろう”という前提が崩れた。つまり、沈黙する＝「聞く」ということか？それともそれらは独立した事象なのか？もし独立した事象なら、沈黙には相手の話を聞いている沈黙と、そうではない沈黙とがあることになる。さらに、誰の沈黙に注目するかという問題にも直面した。我々の研究が“ケアする側の沈黙”に注目していたのに対して、臨床心理学や精神医療では、“ケアを受ける側の沈黙”に注目していた。

これらの疑問、相違、困難を無視して計量的研究を継続することはできず、沈黙の全体像を概観することが必要になった。沈黙について概観するために、論文、書籍等で沈黙に言及しているものを集め始めた。その第一弾として、今回は、非系統的に集めた資料を概観し、沈黙の意味を抽出する。

【方法】

文献の収集期間は1995～2023年であり、分析期間は2023年1月～2023年6月である。研究対象は非系統的に収集した日本語か英語で記載された論文と書籍である。

分析方法は、沈黙の多様な分類方法を試行錯誤した後、分類枠組みを二つに絞った。枠組みの一方は、用語の定義である。これは「沈黙とは○○である」ということと共に、「○○ならば、それを沈黙と呼ぶ」という関係が成立するものである。もう一方の枠組みは、より緩い関係であり、沈黙の意味の説明と沈黙の種類の分類を含む。最後に、それらの分類・整理方法で見出されたデータを統合して、沈黙という言葉の本質的要素を抽出した。

【結果】

1．発言や発声がないこととしての沈黙

「だまりこむこと」「くちをきかないこと」「発話しないこと」「黙っている時間」「黙ること」などのような表現で、無言の状態としての沈黙を記述している文献があった。

2．無言の時間の長さによる定義

沈黙を無言の時間とした場合、それぞれ0秒以上（間がない）、2秒以上、10秒以上を沈黙としている論文があった。

3．情報を伝えないこととしての沈黙

病気の予後などの不都合な情報を伝えないことを、沈黙と表現している文献がかなりあった。

4．主張しないこととしての沈黙

自己主張をしないことを沈黙と表現する場合があった。フェミニズムや、差別に対して、主張せずにいることを沈黙と表現していた。

5．行動しないこととしての沈黙

「音をださないこと」「活動しないこと」「じっとしていること」などのように「行動」がないことを沈黙としている文献があった。文学の書籍等では「静寂そのもの」や静かさの比喩的表現として用いられることがあった。

6．その他の説明

「沈黙と感じる時間」「特定の意味を与えられずにあらゆる意味を含むもの」「沈黙の意味や役割は多種多様」などの説明があり、含意の複雑なものもあった。

7．沈黙の種類

沈黙の種類には、「諸刃の剣としての沈黙」「相手の反応をうかがう沈黙」「拒絶」「暗黙の同意」「暗黙の非同意」「保護的沈黙」などがあった。

8．沈黙の有用性

沈黙は「相手に言葉を整理する機会を与え、自分がしていることについて考える時間を与える」「誰かに自分の気持ちを伝える力強い手段となる」「心身の平和を育む空間である」「侵入に対する防御である」などの記述があった。

【考察】

沈黙は意味が不明瞭なまま用いられたり、結果6や7のように多様な意味で使われたり、定義は困難である。しかし、一つの共通した傾向が見られた。それは、結果1の「発言や発声がないこと」、結果3の「情報を伝えないこと」、結果4の「主張しないこと」、結果5の「行動しないこと」に含まれている“不在”である。これらは「○○がない」「○○しない」など、ないことを共通する要素としている。ただし、それは「沈黙」が無力であることを意味してはいない。結果8の沈黙の有用性に引用した書籍『THE POWER OF SILENCE』で述べているように、沈黙は有用で力がある。

今後の課題として「沈黙」する側の「沈黙」と、「沈黙」される側の「沈黙」の意味の異同を調べる必要がある。

【結論】

「沈黙」に共通する要素は「不在」であり、ないものは、発声、主張、情報、行動、動きなどである。

【利益相反】

開示すべきCOI関係にある企業などはない。

（やまもとかつのり）

精神科専門の訪問看護ステーションＣＩＳＥ（チセ）設立の意図と経過

○伊東新太郎[1]　山本勝則[2] 神崎明奈[3]
([1]訪問看護ステーション CISE　[2]名寄市立大学　[3]東札幌病院)
キーワード：訪問看護ステーション、ACT、早期介入

2023年4月より北海道札幌の地に精神科専門の訪問看護ステーションＣＩＳＥ（チセ）を設立した。本稿では、設立の意図と経過を振り返り、今後の取り組みに役立てたい。まず、精神科専門にした意図を説明する。2004年より精神科の地域移行が始まり、様々な施策が行われ、精神科のアウトリーチの分野では2003年にACT-Jが始まったことを皮切りに、全国でACTを実践する団体が作られてきた。ACT（assertive community treatment＝包括型地域生活支援）とは、重度慢性の精神疾患の方々を地域で支えるシステムで、多職種構成、24時間対応、生活支援も含めたワンストップ型の包括型支援である。筆者は以前帯広のACT十勝という精神科のクリニックで訪問看護をしており、当事者の方々の地域生活を支援し、ACTの普及を願う一方で、普及に必要な様々なハードルを乗り越えるのは難しいのではないかとも感じていた。そこで、今後の精神科の地域移行におけるアウトリーチとして、普及可能でかつ地域生活に効果的なシステムを作れないだろうかと思った。そうした中で札幌の精神科の訪問看護ステーションで友人となった看護師（副代表取締役）が、一緒に設立しよう言ってくれたことをきっかけに、話が進んだ。設立にあたり、具体的に取り組んできたことの順を追って説明する。

１．理念やシステムに関する話し合い

毎週水曜日の夜にリモートミーティングを行ってきた。理念は、精神障がい当事者の方々がより良い地域生活ができることとし、対象の利用者は重度の精神障がいの方と、発症初期の方や若年層の当事者を中心とし、ACTと早期介入を行うこととした。早期介入は若年層の当事者を医療に落とし込んでしまうとの懸念もあるが、ヤングケアラー、未受診者・医療中断、引きこもりなど様々な課題が見えたことや、海外では早期介入のアウトリーチを行っている地域があったことで必要性を感じた。システムとしては従来の30分の医療的支援が中心の訪問看護ではなく、ACTを参考とした生活支援や家族支援、就労支援、心理療法などまで含めた包括的な関りを目指す。また、利用者の担当制やミーティングの頻度などをスタッフとの話し合い、支援の質と普及のしやすさを目指したい。そうした私たちの訪問看護介入によりリカバリーや地域生活継続にどのように影響を与えるかの客観的データも調べていきたいと考えている。

訪問看護以外の地域活動も取り組む予定であり、早期介入を本格的に行うための広く一般に向けた相談業務や、精神科入院経験者の住む権利を尊重するための住宅確保事業も行いたいと考えている。

２．広報活動

つながりのある医療関係者への広報活動や、研修会で新たな人脈づくりを行い、地道にステーションの認知度を上げてきた。ステーションは、収入のほとんどが訪問看護の診療報酬のため利用者への訪問看護の指示をもらう必要があり、医師への認知度は重要にはなるが、医療機関によってはステーションの選定を精神保健福祉士が担っている場合もある。また、利用者側から医師に訪問看護を希望し、医師が利用者の希望するステーションに指示を出すこともあるため、コメディカルや、利用者本人へも認知度を上げておくことが必要となる。

３．法人形態の選択

設立には、何らかの法人格が必要とされ、病院や背景となる団体を持たずに設立する場合は、株式会社、合同会社、NPO法人、一般社団法人などの選択肢がある。それぞれの法人の特色は割愛するが、私たちは融資を受けやすく、かつ今後の事業展開の自由度を求めて株式会社を作ることとなった。

４．人材確保

設立メンバーは、一緒に仕事をしたことのある仲間や、副代表と同じ草野球チームに所属していた仲間である。設立にあたり、理念やシステム、もしくは経営的なことに至るまで、定まらないことがいくつかあったがそういったものを信頼関係のある仲間に許容してもらえたのは大きなメリットである。

５．事務所や電子カルテ、訪問車両などの物理的環境の準備

事務所は、効率的に訪問活動を行う上である程度立地の良い場所である必要があり、かつ訪問車両の駐車場を確保する必要がある。私たちは、これまた副代表の草野球チームの人脈が活き、札幌の中心部に近い豊平区の地に、条件を満たす事務所を相場より安い賃料で借りることができた。他の物理的環境としては電子カルテや車両などがあり、事務所で過ごす時間よりも訪問の合間の車内の方が時間のあるスタッフにとっては、電子カルテや電子機器が出先で仕事を完結するために重要となる。訪問車両は、メンテナンスや仕入れも含め信頼できる整備会社に一任できると業務が円滑に進む。私たちの場合は事務所の近くに仕入れと整備を任せられる自動車会社があったためそこに一任している。

６．初期費用の調達

診療報酬は申請してから振り込まれるまでに二か月程度かかり、最初の二か月は収入が得られないため、設備投資や人件費など初期費用が必要である。融資を受けて資金を準備する場合、創業者が５年以上のその業務の経験があれば日本生活金融公庫が融資を行ってくれることが期待でき、銀行よりハードルは低い。他に収入の懸念として、利用者が見込めるかという問題は大きい。私たちは、精神科病院の医師やPSW、地域の相談室と人脈ができていたため、開設当初から予想以上に紹介依頼を受けることができた。

７．行政手続き

ステーションは、その活動開始の二か月前に役所や厚生局に各種の申請手続きが必要となる。会社として手続きもあり、給与の支払いや雇用保険、厚生年金の加入などの必要がある。ステーションとしての手続きは自身でも勉強すれば可能だが、会社の手続きは煩雑なため、社会保険労務士などに頼む方が確実である。

以上のようにして2023年4月に開設にいたった。多くの方のご尽力に感謝を述べるとともに、これからも地域の課題と向き合った組織にしていけるよう精進していきたい。

精神科訪問看護における COVID-19 に対する感染対策（予防と防御）

-看護管理者の取り組み-

○中村創[1]　山本勝則[2]　堀淳[1]
([1]株式会社 N・フィールド　[2]名寄市立大学)

キーワード：精神科訪問看護ステーション、感染対策、管理職者

【目的】本研究の目的は、精神科訪問看護ステーションの管理者が、COVID-19 の流行によって受けた影響と、COVID-19 の流行に対して行った対処とを、流行前から 2023 年５月以降まで経過に沿って明らかにすることである。

【方法】本研究のデザインは半構造化インタビューによる質的記述的研究である。インタビューはリモートシステムを用いて実施した。

研究対象候補者にアンケートソフトにより研究目的と調査内容を文書で説明し参加への同意を得た。同意の得られた研究対象候補者を研究対象者とした。

本研究の研究対象者は COVID-19 の流行前（2020 年１２月以前）から管理職に就いている精神科訪問看護ステーションの管理職者３名で、COVID-19 に関する１．流行前から流行直後、２．流行直後から流行の最中、３．流行の最中から 2023 年５月、４．2023 年５月以降それぞれの時期に受けた影響と行った対処、について語ってもらった。

分析は以下の手順で行った。録音したインタビュー記録を逐語録にした。その後、感染対策に該当する行動、感染対策により受けたステーションの影響、CODID-19 感染拡大により管理者が受けた心的負担に注目してデータを抽出した。また、精神科訪問看護ステーション管理職経験のある共同研究者が運営に関するデータを抽出した。

研究依頼実施前に「日本応用心理学会倫理綱領」を研究者３名全員で精読し、抵触しないことを確認した。倫理的配慮としてインタビュー実施前に研究内容を文書で研究参加者に説明し十分に理解を得られたうえで同意を得た。またインタビュー開始前に口頭で説明し、再度同意を得た。その際、研究は自由参加であり辞退しても不利益は被らないこと、個人が特定されないようにすべて匿名とすることを確約した。

【結果】研究対象者は３都道府県の訪問看護ステーション３施設それぞれの管理者３名であった。訪問看護ステーションの管理者が、COVID-19 の流行によって受けた影響と、COVID-19 の流行に対して行った対処は以下の通りである（感染対策に影響を与えた因子：【 】で表記、語られた対処法：[ ] で表記）。

１．流行前から流行直後

［利用者に直接触れる医療機器（パルスオキシメーターなど）は訪問の都度アルコール消毒を実施］していたが［看護師の表情が見えないことにより利用者の安心が損なわれるので花粉症や風邪症状がない限りマスクを着用せず訪問を実施］していた。また［移動用の車中にアルコール消毒ボトルを常備し、訪問が終了して後の手指消毒をする以外の対策はなかった］［訪問に行く前の手洗い］のみという状況であった。

２．流行直後から流行の最中

［事前にマスク着用とアルコール消毒を徹底することを利用者に伝える］[換気や距離を話しての訪問を事前に依頼する］［事務所内の清掃と消毒を徹底する］[出勤時に必ずマスクを着用して出勤］［プライベートでの外出を控える］といった対策をとっていた。一方で［感染対策の必要性を感じつつ、「どこまでやればいいのか」という迷い］[時差出勤を利用する訪問スタッフはいなかった］と語る管理者がいた。

３．流行の最中から 2023 年５月

［感染拡大初期からの対策を継続］[利用者と距離がとれない場合玄関先での対応］[訪問先のグループホームや施設のルールに則った感染対策を実施］[求めに応じてフェイスシールド､ガウン着用での訪問を実施］といった対策をとっていた。また［認定看護師による感染対策の研修会に参加し訪問看護での落としどころが見えた］と語る管理者がいた。

４．2023 年５月以降

［一訪問一マスクを継続］［事業所内の清掃と消毒を継続］といった対策をとっていた。一方で［訪問の環境によってはマスクを外す］［マスク着用は利用者の自己判断を尊重する］と語る管理者がいた。

【今後とろうと考えている感染対策】の長期的なものに[マスクを外すようになっても手洗い、アルコール消毒は継続する］［事務所内の環境整備、消毒を継続する］［スタッフに対するパンデミックは来るという意識付け］が対策としてあげられた。

【看護師のキャリアによる影響】として［病棟、手術室、といった職務経験により感染対策に対する意識は病院が基準］と語る管理者がいた。

【管理者が感じた心理的負担】として［スタッフが濃厚接触判定を受けたことによる事業所閉鎖に伴う不安］［心無い言葉を受けた際の衝撃］［離職の懸念があるスタッフへの配慮］［同居家族がいることによる自宅での緊張持続］があったと語る管理者がいた。

【考察】精神科訪問看護ステーションにおける感染対策は、管理職者がステーションに所属する以前に働いていた施設での経験に影響を受けていることが明らかになった。手術室や感染病棟での勤務経験をもつ看護師が管理職者、もしくはスタッフにいるステーションでは、COVID-19 拡大前においても有事に備えた感染対策を想定していた。また感染拡大に伴い開催された研修に参加した管理者は、受けていない管理者と比較して大きな迷いを抱かず対策を立てることができていた。このことにより訪問看護ステーションにおける感染対策として、感染対策を実施した経験の活用、もしくは早急な研修による適切な情報の必要性が示唆された。

また、訪問スタッフが濃厚接触者認定を受けたことに伴い事業所閉鎖となったステーションではスタッフが強い責任を感じ離職を懸念した所長がいた。スタッフの濃厚接触認定、感染に備えたフォロー体制確立の必要性が示唆された。

【今後の課題】本研究で対象となった訪問看護ステーションは複数の訪問看護ステーションで運営される組織に属していたため、通常みられる有事での運営上の危機に関するデータ抽出には至らなかった。今後さらに研究の拡大が必要と思われる。

【利益相反】本研究において報告すべき利益相反関係に当たる企業などはない。

（なかむら はじめ・やまもと かつのり・ほり じゅん）

犯罪予測に基づく巡回ルート最適化

ブラジル・ベロオリゾンテ市におけるケーブル窃盗防止の実証実験とその有効性評価

○梶田真実[1,2]
([1]株式会社 Singular Perturbations　[2]東京大学)

キーワード：犯罪予測、経路策定、警察業務活用

犯罪予測とそれに基づく警らルート作成アルゴリズムを使って、ブラジル・ミナスジェライス州 Belo Horizonte 市（以下、BH 市）のケーブル盗難を対象に犯罪抑止効果を検証した結果について検証する。

【目的】

本研究の目的は、犯罪予測に基づく巡回ルート最適化アルゴリズムを開発し、これを警察業務で活用した実証実験を実施し、犯罪抑止効果を検証することである。

これまでに犯罪データと予測を活用した警ら活動の最適化に関する実証研究が北米を中心に行われてきた（Ratcliffe et al 2011 [1], Mohler et al 2015[2]）。しかし、警ら巡回ルートの最適化の防犯効果についてはまだアルゴリズムの提案や実地における実証実験を通じた検証が行われていない。そこで、本研究では、第一に予測に基づく巡回ルート最適化のアルゴリズムを提案し、犯罪抑止効果の検証を「パトロールスコア」という指標を用いて数値評価し検証する。次に、このアルゴリズムを元に BH 市のケーブル盗難を対象に行った、犯罪予測による警らルート最適化実証実験の効果を検証することを目的とする。

【方法】

まず、公開されている犯罪オープンデータを用いて予測に基づくルーティング最適化アルゴリズムの効果検証を行う。具体的には、シカゴ、サンフランシスコ、東京の Theft/Larceny の罪種データを用いて予測精度を数値評価した。予測には著者らが開発した予測アルゴリズム SPLM 法（Murakami et al 2020, 2021[3,4]）を用い、KDE とベンチマーク比較を実施した。さらに、犯罪予測に基づく巡回ルート最適化アルゴリズムを提案する。犯罪抑止効果を数値評価するために距離当たり犯罪遭遇率に相当する指標「パトロールスコア」を定義する。3 都市について、予測をもとに犯罪が起きやすいところを重点的に巡回するルートを策定し、パトロールスコアについて最短経路とのベンチマーク比較を実施する。

次に、ブラジルの BH 市市警団とともにケーブル盗難を対象とした巡回ルート最適化の実証実験を 2022 年 8,9 月の 2 ヶ月間実施した。市警団に対しては、パトカーに乗車する警察官にはモバイルアプリを、彼らを管理する司令官には警ら業務管理を管理するウェブアプリを提供し、実証実験を実施した。ウェブアプリでは犯罪予測に基づき、その時に最適な警らルートを策定し、パトカー乗務する警察官に向け指示書を作成する。指示書はパトカー乗車する警察官のモバイルアプリに送られ、担当警察官は指定されたルートを辿って警らが可能となる。実際に巡回した GPS 情報はモバイルアプリを通じて自動的に記録される。この GPS 情報を収集し、予測と巡回アルゴリズムを活用しパトロールしたエリアを GPS 位置から 200m 拡幅したエリア（treatment area）として、BH 市内のそれ以外のエリアをアルゴリズムを活用せず普段通りの業務を実施したエリア（control area）として定義した。この二つのエリアについて、実証実験期間前と実証実験期間中の犯罪発生数の比較を実施した。（Figure1）

【結果】

。実証実験期間前と期間中の各 2 ヶ月間で、ケーブル盗難の発生件数の変化を測定し比較したところ BH 市全体では 68.5%減少した。さらに、犯罪予測とルート最適化アルゴリズムを活用したエリア（treatment）では 79%減少、活用していないエリア（control）では 56%減少した（Figure2）。これは、犯罪予測に基づくパトロール経路最適化により、効率的に犯罪を防止することができたことを示唆している。

Figure 1：BH 市内 Barreiro 地区の実証実験期間前と実証実験期間中のケーブル盗難発生状況と警ら GPS 位置情報の比較

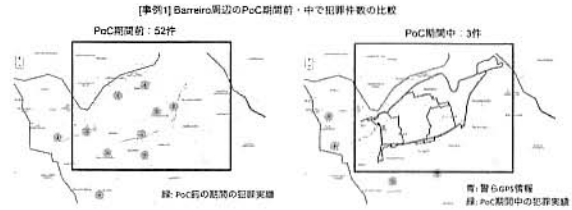
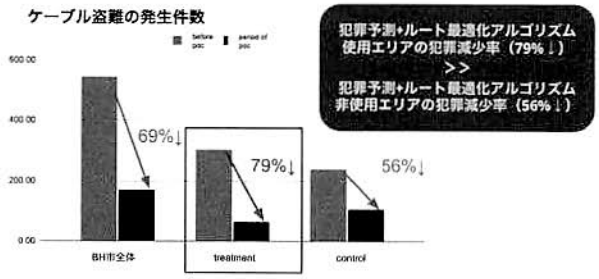


Figure 2：ケーブル盗難発生件数の実証実験期間前・中の減少率の比較



【考察】

本研究の結果、犯罪予測に基づく巡回ルート最適化アルゴリズムは、各都市の犯罪データに対して高精度な予測結果を出すことができた。さらに、ベロオリゾンテ市での実証実験では、提案したアルゴリズムによる巡回ルートの最適化がケーブル窃盗の減少に寄与したことが確認された。本研究の結果から、犯罪予測を使用し巡回ルート最適化は、犯罪防止に効果的であり、警察のリソースをより効果的に活用することができることが示唆された。

【利益相反】本研究に利益相反はありません。

【引用文献】

[1] Ratcliffe, J. H. et al (2021) Journal of Experimental Criminology, 17(1): 15-41.
[2] Mohler, George O. et al (2015). Journal of the American Statistical Association 110(512):1399–1411.
[3] Murakami, D., Kajita, M., & Kajita, S. (2020). ISPRS International Journal of Geo-Information, 9(10), 577.
[4] Murakami, D., Kajita, M., Kajita, S., & Matsui, T. (2021). Spatial Statistics, 43, 100520.

（かじた　まみ・むらかみ　だいすけ・かじた　せいじ）

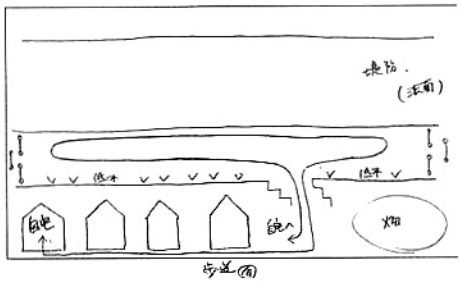
散歩コース図から見た散歩度が高い歩行の特徴

○松浦常夫[1]　矢野伸裕[2]
([1]実践女子大学人間社会学部　[2]科学警察研究所)
キーワード：散歩度、散歩目的、散歩コース図

【目的】
歩行を２つに分類すると、実用歩行あるいは交通歩行と呼ばれる目的地が定まった通勤や買い物のような歩行と、レクレーション歩行とよばれる特に目的や目的地がない散歩のような歩行に分かれる。しかしこの分類は形式的なものであって、実際には通勤や買い物歩行にも散歩的要素が含まれていることもあるし、逆に散歩中に用事を行うこともある。そこで本研究では、歩行の散歩度、すなわち歩行における散歩要素の強さを調べて、散歩度が高い歩行の特徴を明らかにする。また、人々はどのような歩行をしているかを、パーソントリップ調査では調べていない項目を用いて調べ、さらに、散歩的歩行における性差と年齢差を明らかにする。

【方法】
研究対象：一般の市民（豊田市交通安全学習センター訪問者）207 人と高齢者（焼津市シルバー人材センター登録者）105 人の計 312 人を対象とした。うち、男性は 162 人、女性は 150 人であった。
調査方法：散歩コースを記入する質問紙を用いた。対象者には、散歩だけでなく散歩らしさを少しでも含んだ歩きも対象とし、散歩をしない人も対象となること、散歩コースを記入するにあたっては簡単なコース図でも構わないこと、回答をいつでも中止しても良いことを伝えた。
質問項目：代表的な散歩コースを思い出し、それをコース図として紙に描いてもらい、そのコース図の散歩について質問することとした。個々の質問は、「スタート（家）からゴール（家）まで矢印線で結ぶ、立ち寄り地点と目的地（あれば）をコース図上に記入する、目的地の種類とそこでの活動と滞在時間、散歩時間帯、同伴者、コース所要時間、散歩度」であった。散歩度は%とし、０%は全く散歩でない、100%は完全に散歩とした。また、コース図を著者が見て、コース上に遊歩道・川沿いの道があるか、公園・寺を通るかを判定した。経路パターンも往復型、ループ型等に分類した。

【結果】
回答状況：性別や年齢は 312 人すべてが記入していたが、コース図を描かなかったり、歩行ルートを知るためのスタートからゴールまでの矢印線を引かなかったり、滞在時間やコース所要時間を記入しなかったり、散歩度を記入しなかった人がいた。歩行ルートが不明な人は 25 人（8%）、散歩度が不明な人は 36 人(12%)いた。記入されたコース図の例を下に示す。



61 歳男性のコース図（散歩度 100%）

散歩者の特性と散歩特性：1 人が 56%と最も多かったが、2 人連れ以上では子どもや孫、あるいは伴侶との散歩が多かった。歩行ルートの型で最も多いのは往復型で(48.4%)、次いでループ型が 32.1%と多かった。遊歩道や川沿いの道や田園に囲まれた道など散歩にふさわしい道や公園、神社・仏閣など運動や自然観照などのレクレーションにふさわしい場所を組み込んでいた人は半数を占めた。散歩度の平均は 58%であったが、「全く散歩ではない」を意味する 0%が 40 人(155%)、1-49%が 52 人(19%)、50%が 48 人(17%)、51-99%が 52 人(19%)、「完全に散歩である」を意味する 100%が 84 人(30%)いた。
散歩行動の性差と年齢差および散歩度の高い歩行の特徴:

散歩特性	性差		
	男性		女性
散歩時間帯	早朝が多い(32%)		午前が多い(39%)
滞在時間		n.s	
所要時間		n.s	
目的地			スーパーや学校・保育園等が多い
経路パターン		n.s	
歩行ルートの環境	遊歩道・川沿いが多い		遊歩道等がないルートが多い
同伴者	1人が多い（67%）		子・孫とが多い(23%)

散歩特性	年齢差		
	20-39	40-64	65-
散歩時間帯	夜が多い	夕方が多い	夜が少ない
滞在時間		n.s	
所要時間			長い（56分）
目的地	目的地なしが少ない 学校・保育園が多い	公園が少ない	目的地なし、公園が多い 学校・保育園が少ない
経路パターン	往復型が多い		ループ型、ループ往復併用型が多い
歩行ルートの環境	遊歩道等がないルートが多い		遊歩道等、公園の２つを通るルートが多い
同伴者	1人が少ない 子・孫とが多い		1人が多い 子・孫とが少ない

散歩特性	散歩度	
	高い	低い
散歩時間帯		n.s
目的地滞在時間		n.s
所要時間	長い	短い
目的地	なし(80%)	コンビニ(43%)、店舗(42%)、学校・保育園(35%
経路パターン	ループ型とループと往復併用型(75%)	往復型(43%)
歩行ルートの環境	川沿いの道や遊歩道を歩いた人(80%)	川沿いの道等、公園を通らなかった人(43%)
性別	n.s	
年齢	65-74歳（72%）	20-39歳(44%)
同伴者	伴侶(71%)、犬(83%)	
地域（対象者）	焼津市の高齢者(65%)	豊田市の人々(55%)

【考察】本研究では、散歩度の導入によって他の歩行と比較した散歩の特徴を明らかにした。結果は、散歩に関する先行研究とほぼ一致した。買物等の実用的歩行でも 40%程度の散歩度を示したのは、歩行目的の多様性と散歩の定義の難しさを示す。【利益相反】利益相反はありません。

【引用文献】
松浦常夫・西田泰・矢野伸余裕 (2023). 歩行目的と散歩行動に関する交通心理学的研究. 日交研シリーズ A.日本交通政策研究会.
Matsuura, T., & Yano, N. (2023). Behaviors of pedestrians on streets with roadside strips. Transportation research interdisciplinary perspectives, 19, 100799.
（まつうら つねお・やの のぶひろ）

幼児の道路横断可否判断は母親の予想と一致するのか

○中野友香子[1]　金内さよ[1]（非会員）
([1] 科学警察研究所交通科学部）

キーワード：幼児、道路横断、親子

【目的】幼児が死亡・重傷となった歩行事故の約 6 割は，道路横断中に発生している（警察庁交通局，2021）。子の安全な道路横断行動を形成するためには，親が模範を示して家庭内でも教育を繰り返すことが推奨される（中野, 2023）。しかし多くの親がその重要性に理解を示しつつも，実際には家庭内で交通安全教育を行っていないという（Morrongiello & Barton, 2009）。この理由について，親が子の道路横断可否判断能力の未熟さを十分には理解していないために，無自覚に悪い見本を示し教育機会を逃している可能性がある。ただし親による子の横断可否判断能力の理解度に関する基礎データは不足している。そこで本研究では幼児とその母親を対象とした調査を行い，まず子の道路横断可否判断と類似場面における横断経験との関連を検討し，母親との日常的な行動が子の横断可否判断に及ぼす影響を検証する。その上で，母親による子の道路横断可否判断の回答予想と子の実際の回答との関連を検討し，母親による子の横断判断能力の理解度を検証する。

【方法】所属機関の倫理審査委員会の承認を得て調査を実施した（承認番号：2022006）。

参加者は調査専門会社のモニターから募集した 5-6 歳児（男児 16 名，平均 6.1 歳，「一人っ子」が 9 名）と母親（平均 39.2 歳）の 31 ペアであった。令和 4 年 10～12 月の 10:00～18:00 に，東京都 23 区内の会議室にて 1 組ずつ調査を実施した（休憩を含み平均 29 分）。インフォームドコンセントを行った後，子に対する面接調査を実施して録音・録画をし，別室で母親に対する質問紙調査を実施した。終了後に交通ルールの資料を配布した。

子に対する面接調査の方法　子に対する発達検査の実施経験がある女性 2 名が面接員を担当した。ラポール構築後，子が一人で急いで帰宅している時に知らない人が危険な道路横断をする仮想場面のイラストを，14 インチのモニターに示しながら質問をした。仮想場面は 4 種類あり（表 1），参加者により場面 1 と 2，場面 3 と 4 の提示順を入れ替えた。各場面における横断可否判断（道路を横断するか否か），横断経験（類似場面で親と横断した経験）を尋ねた。他に安全教育の経験も尋ねたが本報告では扱わない。面接後に，録画・録音データを基に横断可否判断の回答を「渡る」「渡らない」に分類し，横断経験の回答は「あり」「なし」に分類した。場面 3 で横断可否判断の回答が曖昧であった 2 名及び横断経験の回答が欠測であった 5 名は，当該データを用いた分析から除外した。

母親に対する質問紙調査の方法　母親に自記式質問紙を渡し，同居家族の人数，運転免許保有状況，徒歩での外出頻度等の基本属性，子の面接調査における横断可否判断の回答予想（「渡ると回答」「渡らないと回答」「その他」の 3 択）を尋ねた。ただし場面 3 の回答予想で「その他」を選んだ 4 名，場面 4 で「その他」を選んだ 1 名は当該データを用いた分析から除外した。他に安全教育の実施状況や，仮想場面の類似場面における子との横断経験等も尋ねたが本報告では割愛する。

【結果】

1. 調査参加者の基本属性　同居家族は平均 3.8 名（$SD = 0.7$，欠測 1 名），運転免許保有者は 80.6%であった。母子の徒歩での外出頻度は「週 1 回以上～ほぼ毎日」が 93.6%であり，参加者が日常的に一緒に徒歩で外出していることを確認した。

2. 各場面における子の横断可否判断と横断経験との関連　全員が「渡らない」と判断した場面 2 を除き，子の横断可否判断と横断経験の回答の関連を検討するため，Cramer の連関係数を算出した（表 2）。子の横断可否判断と横断経験の関連は，場面 1 と 3 において有意であり，場面 4 において有意傾向であった。いずれの場面において「渡る」と判断した子ほど，類似場面で渡ったことが「ある」と回答した。

3. 子の横断可否判断と母親による子の回答予想との関連　全員同じ回答であった場面 2 を除き，子の横断可否判断と，母親による子の横断可否判断の回答予想の関連を検討するため，Cramer の連関係数を算出した（表 2）。場面 1，3，4 における子の回答と母親による子の回答予想との関連は，有意とは認められなかった。すなわち母親の予想は実際の子の回答と一致していなかった。母親の予想に反して子が「渡る」と判断したペアも散見され，こうしたペアが全体に占める割合は場面 1 で 52%，場面 3 で 20%，場面 4 で 10%であった。

【考察】子の横断可否判断の回答と，類似場面における親との横断経験の回答とが関連していたことから（結果 2），危険な行動をせずに親が普段から模範を示すことが，子の安全な横断可否判断につながるといえる。母親による子の横断可否判断の回答予想は子の回答と一致せず，母親の予想に反して子が危険な判断をする場合もあり（結果 3），親が子の道路横断可否判断能力を十分には理解していないことが示された。

子どもの交通安全は親の主要な関心事である。よって，親に対して，自分の予想と子の判断との間に齟齬が生じている可能性への気づきを与えることが，親の交通安全に対する関心を高め，親による模範的な行動や子との交通安全に関する対話や教育を促すことにつながる可能性がある。本結果を踏まえて今後は，子どもの歩行事故防止に向けた親による模範行動及び交通安全教育を促すための介入方法を検討したい。

【利益相反】本稿に関し開示すべき利益相反関連事項はない。

【引用文献】

警察庁交通局 (2021). 令和 4 年春の全国交通安全運動の概要と交通事故分析（幼児・児童）について https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bunseki/anzenund ou/040324harukou.pdf (2023 年 5 月 30 日)

中野友香子 (2023). 年長児はどのように道路横断の判断をするのか ―面接調査の結果から― 月刊交通, 54 (4), 33-41.

Morrongiello, B., & Barton, B. (2009). Child pedestrian safety: Parental supervision, modeling behaviors, and beliefs about child pedestrian competence, *Accid Anal Prev*, 41 (5), 140-1046

（なかの ゆかこ・かねうち さよ）

表 1　提示した仮想場面（4 種類）

場面 1	横断歩道があり信号が青点滅
場面 2	横断歩道があり信号が赤点灯
場面 3	横断歩道がなくトラックが通過
場面 4	横断歩道がなく自動車 2 台が停車中

表 2　子の回答・母親による子の回答予想とその連関変数

	場面 1	場面 2	場面 3	場面 4
①子の横断可否判断の回答（「渡る」の%）	64.5%	0.0%	58.6%	12.9%
②子の横断経験の回答（「あり」の%）	64.5%	22.6%	53.8%	29.0%
③母親による子の横断可否判断の回答予想（「渡ると回答」の%）	25.8%	0.0%	58.6%	32.3%
①と②の Cramer の連関係数	0.58**	–	0.45*	0.39†
①と③の Cramer の連関係数	0.18	–	0.03	0.07

† $p < 0.1$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

「こども隙間転落防止プロジェクト」に関する啓発活動の効果

――防護動機理論に基づく分析――

○前田　楓[1]　橋本博文[2]
([1]立教大学現代心理学部心理学科　[2]大阪公立大学大学院文学研究科)

キーワード：防護動機理論、リスク認知、社会実装

【目的】

本研究の目的は、駅構内における列車とホームの隙間転落に関する安全啓発の取り組みである「こども隙間転落防止プロジェクト」の効果について、防護動機理論に基づき分析することにある。

こども隙間転落防止プロジェクト　鉄道利用時の安全性向上に関する取り組みの一つに、列車とホームの隙間に転落する事故を防ぐための啓発がある。過去3年間の統計データの分析結果によると、列車とホームの隙間に転落してしまう人たちのうち、10歳未満の子どもが相対的に多い事実が示されている。西日本旅客鉄道株式会社や大阪市立デザイン教育研究所等が現在共同で展開している「こども隙間転落防止プロジェクト」は、子どもの隙間転落事象を踏まえ、保護者や子ども自身に隙間転落への危険性を意識してもらうことを目的とする取り組みである。より具体的には、「スキマモリ」というキャラクターを作成し、「こわいけどおもしろい」というコンセプトのもと、絵本や広告を通じて安全啓発を行っている。

本研究の目的　本研究では、メッセージの受け手に恐怖を喚起する脅威アピールの有効性を説明するための防護動機理論（Rogers, 1983）を踏まえつつ、上述したプロジェクトの効果を検証する。防護動機理論では、認知過程において「脅威評価」と「対処評価」の二つが生じ、それらの評価が結合することによって防護動機が喚起され、最終的に対処行動につながると考えられている。本研究では、プロジェクトを展開する中で隙間転落事故という脅威についてアピールすることにより、そのプロジェクトを知った受け手にとっての隙間転落に対する脅威評価（「深刻さ認知」「生起確率認知」）と対処評価（「反応効果性認知」「自己効力感」）が、隙間転落の対処行動に実際につながるか否かを分析の主眼に据える。

【方法】

調査対象者　こども隙間転落防止プロジェクトの一環として実施した調査にご協力いただいた保護者166名（男性37名、女性128名、回答なし1名、年齢は20代から60代）。

質問項目　まず、列車とホームの隙間転落に対する認知を測定するために防護動機理論の認知過程に基づいて作成した4項目について7件法で回答を求めた。具体的な項目内容は、「子どもが隙間に転落してしまうことによる被害は、かなり深刻なものだと思う（深刻さ認知）」「自分の子どもが隙間に転落してしまう可能性はかなり高いと思う（生起確率認知）」「きちんと注意さえすれば、隙間に転落してしまう危険は十分に避けられると思う（反応効果性認知）」「子どもが隙間に転落しないように行動する自信が私にはある（自己効力感）」であった。続いて、隙間転落への対処行動について尋ねる項目についても本研究独自に作成した。これらの項目では、保護者の方が子どもに対して隙間転落についての危険性を伝えるか否かという点（意識伝達尺度）と、実際に転落しないように具体的な対処行動を取るか否かという点（対処行動尺度）を把握することを念頭に作成され、それぞれの項目については7件法で尋ねられていた。具体的な項目の内容として、たとえば意識伝達については「列車とホームのすきまが危ないということについて子どもと話し合うことがある」を含む3項目（α=.75）、対処行動については「列車に乗り降りするときには、子どもと手をつなぐようにしている」を含む3項目（α=.77）であった。

【結果】

「脅威評価」と「対処評価」に関連する項目（深刻さ認知、生起確率認知、反応効果性認知、自己効力感）の得点と、隙間転落の対処に関する尺度（意識伝達、対処行動）の得点との相関係数をまず算出した（Table 1）。その結果、意識伝達尺度の得点と深刻さ認知、生起確率認知、自己効力感の項目の得点の間には正の相関が示された（$rs \geqq .15, ps \leqq .05$）。対処行動尺度に関しても、深刻さ認知、生起確率認知、自己効力感の項目の得点との間に正の相関が示された（$rs \geqq .21, ps \leqq .01$）。また、深刻さ認知と生起確率認知（$r = .21, p < .01$）、反応効果性認知と自己効力感認知（$r = .38, p < .01$）との間にはそれぞれ正の相関が示され、生起確率認知と自己効力感認知との間には負の相関が示された（$r = -.29, p < .01$）。

続いて、意識伝達尺度と対処行動尺度のそれぞれを従属変数、「脅威評価」と「対処評価」に関連する項目を独立変数とする重回帰分析（強制投入法）を行った。その結果、意識伝達に対しては、深刻さ認知（$\beta = .22$）、生起確率認知（$\beta = .18$）、自己効力感（$\beta = .18$）が有意な正の効果を示した。対処行動についても同様に、深刻さ認知（$\beta = .17$）、生起確率認知（$\beta = .27$）、自己効力感（$\beta = .33$）が有意な正の効果を示した。

Table 1.　各変数の記述統計量と変数間の相関

変数名	*M* (SD)	1	2	3	4	5
1. 深刻さ認知	6.13 (1.14)					
2. 生起確率認知	4.56 (1.64)	.21**				
3. 反応効果性認知	5.47 (1.50)	.00	-.14			
4. 自己効力感	5.14 (1.27)	.15	-.29**	.38**		
5. 意識伝達	4.40 (1.14)	.30**	.18*	.04	.15*	
6. 対処行動	6.45 (0.80)	.28**	.21**	.14	.30**	.40**

$^{**}p < .01, ^{*}p < .05$

【考察】

本研究の結果から、隙間転落についての危険性を子どもに伝えるという意味においては、脅威評価（深刻さ認知、生起確率認知）が強く影響を与える可能性が示された。このことから、隙間転落の「脅威」アピールは、隙間転落事故防止に関する啓発の一助となることが示唆された。対処評価の枠組みにおいては、自己効力感が意識伝達や対処行動に肯定的な影響を与える可能性が示された。これらの結果から、今後の具体的な展開においては、隙間転落に関する脅威のアピールに加え、保護者の方に「子どもに隙間転落させないための自信」を持たせるような安全啓発を実施する必要があるといえる。本研究の調査対象者は、10歳未満の子どもの保護者であった。保護者の隙間転落に対する意識や行動をいかに変えていくか、その具体的な手立てを検討することは、今後の取り組みの指針を定める上でも有益である。もちろん、保護者のみならず、子ども自身の意識や行動の変容に効果をもたらす要因を特定していくことが今後の重要な課題である。

（まえだ かえで・はしもと ひろふみ）

運動系部活動におけるハラスメントの実態調査　第一報

～大学生女子アスリートを対象とした後ろ向き調査より～

○権野めぐみ[1]　寅嶋静香[2]　来田宣幸[1]
([1]京都工芸繊維大学　[2]奈良教育大学・京都工芸繊維大学)

キーワード：ハラスメント，運動系部活動，女子大学生アスリート

【研究背景】

本来禁止であるはずの中学校・高等学校内にて部活動での不適切な指導（体罰含む），理不尽な活動規則を容認する風土が未だ維持されている[1]，その流れはトップアスリートにまで及んでいる[2]。これらを見過ごすことは，対象となる生徒や選手たちの人権侵害問題へ発展することから，看過できない，喫緊の課題であるといえよう。

【研究目的】

目的を二点に集約する。①大学生女子アスリートを対象とし，後ろ向き調査から，中高時代の部活動禁止規則の有無，規則を破った際の処罰の内容等から，その実態を把握すること。②①が，対象者の精神衛生面へ如何なる影響を齎したか調査し，運動系部活動におけるハラスメントの実態における一示唆を得て，知見集約に貢献すること。

【方法】

●対象者及び期間－運動・スポーツ系部活動経験のある女子スポーツ選手（A～F大学；計117名；19～26歳）であった。調査期間は，2019年11月～2021年12月であった。

●調査方法－自記式質問紙調査用紙を対象者へ配布することにより，回答を得た（個人的な情報が多分に含まれるため，オンライン上の調査は実施していない；自由記載欄も設けているが，強制的ではない旨を伝えた）。

●調査内容－対象者自身が中学校、高等学校時代に経験してきた運動系部活動における，ハラスメント該当するような部活動規則内容やその規則を破ってしまった場合の罰則内容について記載を求めた。また，恋愛禁止規則に対する考えや思い，恋愛禁止規則が存在している環境下でその規則を破った場合の処罰，セクシャルハラスメント等のハラスメント体験の有無や内容について回答を求めた。

●分析方法－単純集計，及び文言分析を行った。

【結果】

・対象者の所属する部活動のハラスメントに該当するような規則（N＝117名；回答率100%）について，最多となった規則（上位5つの）内容は，「言葉遣い、先輩に対する敬語に対する詳細な規則（不必要な言葉遣い等）」（88%，103名），「1年生は上級生%の命令に（必ず）従う（先輩に対して絶対服従等）」（87.1，102名），「部活動中の服装や髪形に関する詳細な規則（髪の長さや結び方などに関する詳細な決まり等」（87.1%，102名），「朝晩の部室の掃除（学年や当番が決まっている，毎日1年生が掃除等）」（81.1%，95名），「何かにつけて連帯責任で学年全体で責任をとれ，一人の罰は皆の責任といわれる」（81.1%，95名）であった。

・ハラスメントに該当するような部活動規則を遵守しなかった場合の罰則では，顧問から叱責，叩かれたりする等が9割を占めていた。続いて「強制的に退部・自主退部という形を促される（退部勧告）（49.2%，56名）」，「謹慎処分（期間は学校によるため一定ではない）（40.5%，46名）」，「試合出場禁止，練習試合出場禁止，レギュラー外し（36.4%，42名）」等が順にあげられていた。

・117名中9割近くがパワーハラスメントを体験し，「身体的・精神的圧力」に関する内容が最多であり，対象者の96%に上った。

・セクシャルハラメント体験を有したと回答した対象者は117名中11名おり，身体接触や性交渉の強要，マッサージの強要，無理やり抱き着かれる，等が記載されていた（11名が内容を全て記載しているわけではなかった）。

・恋愛禁止に関しては，「人権侵害である」といった声が約半数を占めていた（91名中45名；45.1%）。

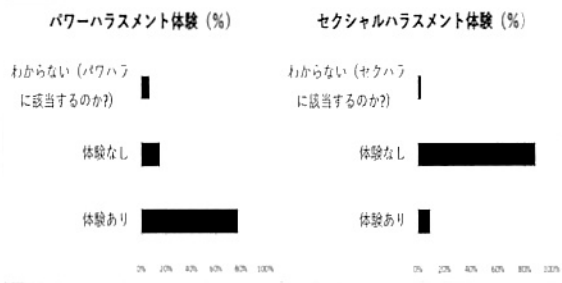


図1. ハラスメント体験（%）

【考察】

結果より，部活動のやや理不尽かつ無慈悲な規則は8割以上存在し，その遵守違反においてはハラスメント的な対応が浮き彫りとなった。また，セクシャルハラスメント経験者も1割程度存在していた。

高峰（2013）[3]は，スポーツ指導現場では往々にしてハラスメントが生じやすいと指摘し，その背景には「指導者自身のバックグランド問題＝体罰を受けて育った，等」「アンコンシャスバイアス等の無知＝偏見等」を挙げている。これより，ハラスメントに纏わる指導者の再教育が急務であると推察された。

そして，セクシャルハラスメントは，指導者という権限・立場を利用した，人権侵害の極み[4]である。ジェンダー規範を逸脱した性行動が与える負の影響は，生涯に渡り記憶に残る可能性が高い[5]。よって，対象者への速やかな支援体制の強化も必須であると示唆された。

さらに，指導者側からの一方的な部活動規則や禁止事項の施行は，対象者に対する不信感等のネガティブ要因を創出させることも明らかとなったことより，対話不在の集団様相が推察された。

【利益相反】利益相反（conflict of interest; COI）はありません。

【引用文献】

1) 松田太希.（2016）. 運動部活動における体罰の意味論. 体育学研究,（6）; 407-420.
2) 朝日新聞.（2021）. https://www.asahi.com/articles/ASP304D48P30UTQP009.html.（2023年5月30日閲覧）.
3) 高峰修.（2013）. ハラスメントの受容：なぜスポーツの場でハラスメントが起こるのか. 現代思想, 41（15）; 157-165.
4) 寅嶋静香.（2021）.「女性アスリートの三主徴」を組み込んだ性教育・人権教育の一提案; 北海道教育大学紀要（人文科学・社会科学編）. 71（2）; 161-167.
5) 石川由香里, 土田陽子, 中澤智恵.（2016）ジェンダー規範の性行動に及ぼす影響と性教育の課題. 活水論文集；健康生活学部編,（59）; 19-35.

（ごんの　めぐみ・とらしま　しずか・きだ　のりゆき）

運動系部活動におけるハラスメントの実態調査　第二報

～ケーススステディ（インタビュー）調査による文言分析から～

寅嶋静香[1)]、権野めぐみ[2)]、来田宣幸[2)]
（[1] 奈良教育大学・京都工芸繊維大学　[2] 京都工芸繊維大学）

キーワード：セクシャルハラスメント・インタビュー調査（半構造化面接）・心的外傷後ストレス障害

【研究背景及び目的】

第一報を受け、第二報では、この運動系部活動におけるハラスメントの実態調査対象者から、セクシャルハラスメントを体験させられてしまった対象者を無作為抽出した。そして許可の得られた対象者から、半構造化面接（インタビュー）調査を行うことにより、ハラスメントの実態をより明らかにすることを目的とした。さらに、この分野における寡少サイズの現状へ、知見集約の貢献およびハラスメントに対する啓発（提示）することを、第二の目的とした。

【研究方法】

●対象者及び期間－第一報にて運動・スポーツ系部活動経験のある大学女子スポーツアスリート117名のうち、セクシャルハラスメントの被害を受けた対象者がおよそ1割存在した。その中から無作為抽出を行い、半構造化面接（インタビュー調査）の依頼をし、発表や報告への許可を頂いた学生A氏（とする）1名であった。

●調査期間及び調査方法－期間は2021年11月であった。調査方法は、半構造化面接（インタビュー調査）を実施した。数種の質問設定を行い、それらに対し、解答して頂く形式を採用した。回答はできるだけ自由に語りをしてもらうため、途中中断や対象者発信メッセージに対する面接側のメッセージやコメント提示は行わないものとした。半構造化面接に際し、対応者は2名であり、1名は大学教員、1名は臨床心理士（公認心理士も保有）であった。

●調査内容－第一報の自記式質問紙調査票にて問いかけた質問内容を半構造化面接でも問いかけた（抜粋）。そして以下の内容を中心に問いかけた。回答は自由に話をして頂けるような部屋の設定を行い、できるだけ緊張感を排除する形で実施した。以下半構造化面接における質問の概要☞

・部活動規則や部活動の雰囲気に対する思いや印象
・部活動指導者に対する印象など
・部活動実施による身体と行動の振り返り
・セクシャルハラスメントを受けた際の心身の状況やそのときの指導者へ対する感情など

●分析方法―得られた半構造化面接時における対象者の語り内容を整理した分類[1)]及びセクシャルハラスメントやFAT（Female Athlete Triad）とみられる月経不順等の背景要因に焦点を当てた、意味内容の類似点分類[2)]を行った。得られたデータは逐語記録として、筆者及び分析専門家他1名が作成した。A氏の語りを「セクシャルハラスメントや部活動による疲労体験の状況やその背景要因の一つの意味内容を表す文章」毎に区切り、カテゴリー分類した。そのカテゴリーからさらにサブカテゴリーへと分類し、A氏の語りを質的帰納的に分析した[1)]。分析過程ではその信頼性及び妥当性確保のため、筆者ら以外の専門家2名と共に、女性の健康問題や人権問題にかかわる内容における「極端な乖離の有無」について、客観的立場から検討した上で整理した。

【結果】

●以下のカテゴリー分類表が作成された（表1．参照）。以下、箇条書きにて結果概要を記す。

・「A氏のハラスメント・疲労感体験とその背景要因」の語りに際し、その困難や疲労間などのストレスを感じる語りは、全体で41の切片として分類された。
・半構造化面接の中から4カテゴリーが抽出され、各々のカテゴリー内で4～5つのサブカテゴリーが確認された。
・A氏の語りから、現在でもセクハラに対する嫌悪感や悲哀感が強く、睡眠や感情の起伏に関与するなどの、PTSD症状（心的外傷後ストレス障害）が確認された。

表1．語りから得られたカテゴリーとサブカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー
部活動規則に対する印象	厳しさに対する恐怖や不満
	歪みあるルールへの違和感
	孤独に対する悲しみ
	退部部員に対する哀れみ
指導者への感情	スキルの高さに対する敬意
	機嫌の悪さに対する恐怖感
	再三の呼び出しによる疲弊感
	不適切な指導に対する不満と辛さ
部活動実施による心身の状況	月経不順と疲労骨折経験の甘受
	過食と嘔吐による摂食障害経験
	休息不足による疲労蓄積
	誤った指導に対する無力感と疲労困憊
指導者によるセクハラへの感情	セクハラに対する疲弊感
	理不尽な要求に対する耐忍び
	暴力に対する無力感
	性搾取的行為に対する嫌悪感
	セクハラへ応じている悲哀感

【考察】

一報二報共に、スポーツ指導者による圧力や、選手に対するハラスメントの要求、月経不順に至るようなトレーニングの要求は、多大な心理的ストレスを帯びてしまう[3)]。国外では既に1980年代にWillians らが報告をしており[4)]、アメリカスポーツ医学学会ではこのような行為に対しての、厳罰化が明文化されている。一方、日本では罰則は存在せず、被害者の声が上がるまでは、本研究のような実態や状況が明るみになることは、皆無に等しい。よって、指導者の行き過ぎた指導や、セクシャルハラスメント行為等へ向けた更なる啓発の重畳化は、今後より重要な視点となろう。また、指導者研修の義務化や罰則規定策定等を実装化すべきであろう。その為にも、スポーツ競技者の人権と健康を守るためのリスク要因を「可視化」し、女性スポーツ実施者の、早期支援判定モデル作成等が 喫緊の課題であると示唆された。

【利益相反（COI）】

本研究における利益相反はございません。

【引用文献】

1） 藤由美子，ほか．(2020) 訪問看護師が捉えた精神障害をもちながら子育てする母の成長．日本精神保健看護学会誌，29 (1)；51-55.
2） 荒木奈緒，ほか（2016）：出産病院で実施される産後1～3か月の母親を対象とした子育て支援活動の効果．母性衛生，57 (1)；183-190.
3） 煙山千尋，ほか（2013）．女性スポーツ選手のストレッサーとストレス反応．ストレス科学研究，(280)；26-34.
4） Willians, J. M, et al. (1986). Effects of levels of exercise on psychological mood states, physical fitness, and plasma beta-endorphin. Perceptual and Motor Skills. 63；1099-1105.

（とらしま しずか・ごんの めぐみ・きだ のりゆき）

乱数の聴き取とりによる銘記力・保持力・想起力を示した実証例

－高齢者５０歳代から７０歳代の男女７人による銘記力・保持力・想起力の調査－

○吉岡節夫
（BRLM 高速学習アカデミー学院長）

キーワード：高齢者、乱数の聴き取り、記憶力の保持

【目的】今回は、当学会 75 回、78 回大会で発表した結果を踏まえて、聖徳大学オープンセミナーで乱数の聴き取り実験をしました。先回までの乱数による聴き取り実験は、超短期記憶の成果を論じたものでした。それには一定の評価を得ました。データーが示す通り、一度、脳機能を活性化すれば長期間（１年間）、維持できることが証明されました。これらは 20 歳前後の男女が対象でしたが、これからは高齢者社会になるため、この年代の調査を実施しました。この年代に起こる認知症や記憶力の低下を抑制できるような結果を期待して実験をしました。この調査は、３週間あまりの短期間でしたが、被験者に恵まれて成果をだすことができました。今回の被験者は、50 歳代２人、60 歳代４人、79 歳１人の計７人（男性３人、女性４人）からデーターを得ることができました。平均年齢は 65.3 歳でした。コロナ禍では、高齢者の男女の寿命が僅差縮まりました。また、65 歳以上の人口は、29.1%となっていますが、女性が上回っています。それを示すかのように今回の被験者は 79 歳が最高齢の女性でした。調査では、高齢者の脳活性がどのような値を示すかを明らかにすることでした。そこで、乱数の訓練の後に 30 キーワード表を使い、銘記・保持・想起による暗記の推移値の記録をとることでした。実験期間は３週間でした。今回は、標準偏差値でその推移を検証しました。

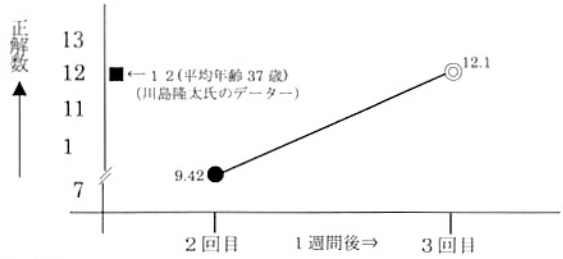
【方法】当学会 75 回、78 回で使用した乱数を使用した。つまり当社比による 3.0 倍速の脳活性は長期の保持ができたという実証につながったのです。速くリズムよく聴いて書く作業は脳活性を促すという実証でもあります。そこで今回の目的が、高齢者ということもあり速さを 2.5 倍速の８ケタの乱数の聴き取り・数字の○つけの実験をしました。80 コの数字を聴きながら○つけする作業です。８コが一組でそれを 10 組の音声を聴くことになります。ここまでは以前の論文で示してあります。８ケタ乱数の 3.0 倍速では、数字は 16 拍で１拍は約 0.09 秒です。これは拙著『聴く古事記』の録音の３倍速に相当します。このことから乱数を聴き慣れると手がスムーズに動いたり、数字の○つけしたりするのが楽になります。今回の実験では 2.5 倍速の演習の後、３語からなる 30 コのキーワードを暗記します。これを表１とします。下記の表１を２分間黙読したあと２分間で書きだす作業をします。１回目と２回目の 2.5 倍速の乱数実験の後に、空白になった表１に記憶したキーワードを書いていきます（順不同）。この実験は、「乱数の聴き取り・○つけ作業」による脳の活性度（記憶効果）を論じています。自己採点して成果を算出していきます。

おもり	くじら	かかし	かてい	まゆげ
なかま	はさみ	みかん	こども	えくぼ
めだか	でんき	ひとで	おしり	けむし
きつね	とけい	りんご	めだま	たぬき
いかり	こころ	くらげ	つくし	しじみ
やもり	あたま	うさぎ	さかな	こんぶ

表１：実験で使用した３語表（30 コの暗記表）

【結果】３回の乱数の聴き取り、○つけの課題には、2.5 倍速の音源を使用しています。１回目は乱数を聴き取るための練習。２回目は 2.5 倍速の乱数を聴いて・○つけ作業をした後に、30 コの暗記への実験を実施しました。表１を使用して上記で示した[方法]で行いました。３回目は２回目と同じ手法で実施しました。この結果は、表２です。まず、2.5 倍速の乱数の聴き取り・○つけの作業をします。１回目の７人の正解の平均は、54.7 点（100 点満点換算）でした。２回目は、57.5 点。３回目は、58.5 点でした。１回目は、暗記の作業はせず、2、３回目に暗記（銘記・保持・想起）を実施しました。すると、２回目は 9.42 コの正解（30 点満点）でした。３回目は 12.1 コ（30 点満点）の正解となりました。縦軸（正解数：満点 30 点）、横軸（回数）を示しています。記憶の伸び率は、1.28 倍でした。標準偏差値は、２回目は、11.2、３回目は、10.4 という値でした。

表２：高速学習アカデミーの実験/平均年齢 65.3 歳（男女７人）



【考察】標準偏差値が、11.2 から 10.4 へと１ポイントほど上がっています。データーのばらつきは、最高齢者の人の頑張りしだいで、ポントがもう少し上がっていたと思われます。そこで、[補足デーダー]として男女６人（79 歳を除く）では、１回目の正解数は、10.2 で標準偏差値は 10.52 でしたが、２回目の正解数は、13.3 で標準偏差値は 5.73 となりました（記憶の伸び率 1.3 倍）。７人の標準偏差値と６人の標準偏差値を見ると、50 歳代から 60 歳代では乱数の聴き取り・○つけ作業によって脳の活性化（銘記・保持・想起）を促したという結果がでました。８ケタの乱数の聴き取り・○つけ作業は３分間ほどで終わります。このことから日常の生活のかなで実践がし易いと思われます。79 歳の女性は１回目と２回目の 30 コの暗記は「5」という結果でした。今回の実験では脳活性に至りませんでしたが、感想として「半分以下を以上になれるように頑張ります」「上達できる様になれるか不安です」というコメントをいただきました。気持ちは前向きです。頑張ってできるようになりたいという気持ちが伝わってきました。そこで乱数の聴き取りの速度を落とした 1.5 倍速での実験結果が気になりますが、それは次のテーマとなります。今後は、ここで行った実験と同じ仕様でデーダーをだして 80 歳代からの脳活性に一筋の光を見出すようにすることです。これが研究者としての責務だと感じています。

【引用文献】30 コのキーワード表は川島隆太氏が使用しています。課題文を音読した後に記憶の効果として実験をしています。そのコーナーでは「音読と 30 コのキーワード実験」とし、その成果を高齢者の脳機能改善として発表しています（中央公論新社『脳を鍛える新聞の読み方』）。平均年齢４８歳では、始めたころ 10 コで、１か月後には 14 コの書き出しができ、脳機能改善を促し脳が若返ったことを証明したと論じています（川島隆太，2005）。
【参考文献】川島隆太著『脳を鍛える新聞の読み方』

（よしおか　せつお）

災害伝承施設における来館者体験の分析

――東日本大震災・原子力災害伝承館の2022年度までの来館者アンケートを用いて――

○静間健人[1]
([1]東日本大震災・原子力災害伝承館)

キーワード：災害伝承施設，来館者体験，テキストマイニング

【目的】

原子力災害を含む複合災害を経験した福島県では，その記録と教訓を継承するために，数多くの災害伝承施設が設置され，官民ともに伝承活動の動きが本格化している。

一方で，除本・林（2023）によると，原子力災害のような複雑な加害-被害関係をはらむ問題においては，教訓の解釈権を「官製施設」が手放そうとせず、コントロールしようとする傾向があるという。加えて，多様な解釈を許容し，多視点性に基づく教訓の検証と継承を可能とするために「民間施設」が重要であると述べている。

実際に官製施設が教訓の解釈をコントロールしようとしているかは別にして，官製施設においても多視点性に基づく教訓の検証と継承を可能とする環境を整えることは必要であると考えられる。しかしながら，官製施設を訪れた人が，何を教訓と感じているのかといったことは十分に検討されていない。

そこで本研究では，官製施設のなかでも中心（除本・林，2023）とされる「東日本大震災・原子力災害伝承館」を対象とし，この施設の来館者が，どのような体験をしたか，どのようなことを感じたかということをアンケート調査のデータを用いて検討する。

【方法】

分析対象者

東日本大震災・原子力災害伝承館に来館した人の内、アンケートに回答した者

対象期間

2020年9月20日から2023年3月31日まで

アンケート回答者数（自由記述回答者数）

全体：27,942人（8,051人），男性：17,026人（4,397人），女性：10,745人（3,600人），不明：171人（54人）

分析項目

年齢，性別，居住地，来館回数なども尋ねているが、本稿では展示満足度と自由記述を分析に用いた結果を報告する。

展示満足度：「展示内容について満足いただけましたか。満足度を5~0（1）の中からお選びいただき、数字を○でお囲みください」，自由記述：「お気づきのことがあればご自由にご記入ください。」

分析ソフト

KH Coder3（樋口, 2020）を用いた。

分析方針

静間（2022a）は同施設の「来館者ノート」の自由記述の内容を整理し，ポジティブなフィードバックの側面が多いこと，また静間（2022b）は同施設の「来館者アンケート（2020年度と2021年度）」の自由記述の内容について全サンプルを用いて分析したところ，同施設に対するネガティブなフィードバックの側面が現出しにくいことを報告している。

そこで，まず全体の傾向を把握する。その後，展示満足度の程度によって回答者を分類し，次いで回答者の自由記述の内容を整理する。

【結果】

出現した語同士の共起ネットワークからは，知る」と「震災」・「福島」，「見る」と「展示」・「時間（時間がない）」，「語り部」と「聞く」，「原発事故」と「東電」，「当時」と「思い出す」などの共起関係が確認された。【展示】、【震災の知識】，【語り部】，【スタッフ】，【応援】，【記憶】，【東日本大震災】，【自分事化】といったカテゴリが抽出された。

展示満足度を「不満」「普通」「満足」の3カテゴリに分類した。満足度別に自由記述の感想の共起ネットワークを出力したところ，展示に対する満足度が「不満」の人は、伝承館の展示内容にネガティブな感想（例えば、“恐ろしさが伝わらない”，“本当の声が伝わってこない”，“原子力発電所事故の原因がわからない”）がみられた。

一方、「満足」の人は伝承館での体験に対して、ポジティブな感想（例えば，“当時のことが分かった”，“災害について考えさせられた”）がみられた。

【考察と展望】

満足度別にみると，福島で起きたことについて，様々な解釈，多様な視点があるということが確認された。なお，発表当日は，性別による違いや，居住地による違いについても言及する。

現状，アンケートで現れる様々な解釈や多様な視点は，東日本大震災・原子力災害伝承館の関係者しか把握することができないのが課題である。福島で起きたことを継承していくためには，様々な解釈，多様な視点があるということを知る機会が必要であると考えられる。

同施設では，他の来館者の感想をいつでも，だれでも確認でき，他来館者の感想にコメントが可能であるといった，相互性を有した「来館者ノート」が設置されている（静間，2022a）。今後は，来館者ノートを活用し，様々な解釈や多様な視点があることをフィードバックした場合の，来館者の体験についての研究が望まれる。

【利益相反】

本研究は「令和4年度東日本大震災・原子力災害伝承館個人研究費」の補助を受けている。また，発表内容は報告者個人の見解に基づくものであり，報告者が所属する組織の公式見解ではない。

【引用文献】

樋口耕一 2020 社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の継承と発展を目指して（第2版） ナカニシヤ出版

静間健人 2022b 災害伝承施設来館者の想いの変化-自由記述の分析- 日本応用心理学会第88回大会

静間健人 2022b 来館者アンケートの分析から見る震災伝承施設体験 日本リスク学会第35回年次大会

除本理史・林美帆 2023 福島原発事故に関する伝承施設の現状と課題-民間施設の役割に着目して- ナカニシヤ出版，75-90.

（しずまたけと）

「血液型性格学」は信頼できるか（第32報）

― 大村政男による血液型と地域性（県民性）との関係を探る ―

○浮谷秀一（東京富士大学）　藤田主一（日本体育大学）

キーワード：古川竹二、宮城音弥、大村政男、血液型、地域性（県民性）

1. 血液型の発見と地域性

ウイーン大学病理学研究室の助手・医師のラントシュタイナー（Karl Landsteiner1、1868-1943）は、1900（明治33）年にABO式血液型を発見した。1911年、ドイツの医師デュンゲルン（Emil von Dungern、1867-1961）とポーランドの医師ヒルシュフェルト（Ludwik Hirszfeld、1884-1954）がABO式血液型の遺伝形式を発見したことにより、血液型に対する関心はますます膨れ上がった。人びとの大きな関心は、人種間の差異や地域性の特徴を知ることであった。

デュンゲルンは、ドイツ人の血液型だけでなく、ドイツに滞在している外国人の血液型を調べ、ヨーロッパの白人にA型が多く、高等な猿類にもA型が多いこと、東洋人や他の四足動物にB型が目立つことを見出した。A型の出現率はヨーロッパから中近東、インドから極東へ移動するにつれて少なくなり、反対にB型の出現率が増加する。ヨーロッパにいた日本人や中国人にB型が多かったという事実は、A型民族優秀論（白色人種優秀論）、B型民族劣等論を裏づける資料になった。当時のヨーロッパには、このような血液型研究と並行して黄色人種を蔑視差別し警戒する「黄禍論（（黄人禍））」という思想、つまり白色人種優位の思想があった。

東京女子高等師範学校（現在のお茶の水女子大学）教授の古川竹二（1891-1940）は、著書『血液型と気質』（1932、三省堂）のなかで、団体気質（団体活動性指数）という指標に言及した。団体気質は、「B%＋O%／A%＋AB%」で計算される。これは、古川が「A型とAB型が積極的（*Passive*）、B型とO型が積極的（*Active*）である」という自説を応用したものである。

表1　古川竹二による血液型と地域性の特徴

団体名	団体気質	人数	内訳（%）			
			A型	B型	O型	AB型
1. 日本人	1.09	20,297	38.2	21.2	31	9.6
2. アメリカ人	1.26	2,536	38.9	9.5	46.3	5.2
3. イギリス人	1.58	3,899	34.8	9.8	51.4	3.9
4. フランス人	1.16	500	43.8	10.6	43.1	2.5
5. イタリア人	1.16	1,932	42.1	11.6	42	4.3
6. ドイツ人	1.04	17,982	44.4	12.6	38.4	4.6
7. 欧米理想国人	1.26	24,917	40.5	10.6	44.8	4.1
8. ジプシー（チゴイネル）	2.72	385	21.1	38.9	34.2	5.8
9. 東京の人	1.12	1,097	37.7	21.2	31.6	9.5
10. 京都の人	0.95	509	41.8	20	28.7	9.5
11. 大阪の人	1.13	1,268	38.8	22.5	30.4	8.2
12. 名古屋の人	1.13	1,354	38.4	21	32	8.7
13. 長野の人	1.09	2,751	36	19.1	33.2	11.8
14. 熊本の人	0.58	130	47.7	14.6	22.3	15.4
15. 鹿児島の人	0.89	285	37.5	18.8	28.5	15.4

注）(1) 表の数字は、古川竹二著『血液型と気質』からのサンプルである。
(2) 古川は、アメリカ人、イギリス人、フランス人、ドイツ人を「欧米理想国人」としている。
(3) %の合計が100.0になっていない欄がある。

(1)表1の団体気質の数値から、東京（1.12）と大阪（1.13）、名古屋（1.13）の人はともに活動的であるが、京都の人は0.95で温和であることを示している。古川は「京都の人が温和なのは歴代の都が京都に在ったからだということもできるが、血液型の影響も大きい」といっている。そうであれば、鹿児島（0.89）の人が京都の人とほぼ同じ値であることをどのように説明したらよいであろうか。

(2)熊本の人の団体気質は0.58である。この理由について、古川は「熊本の人はきわめて感情的である。かつて熊本市に市電を走らせようとしたとき、そういう文明の利器を入れると人間が怠け者になってしまうという意見が多く出て、ついに市電の敷設が遅れてしまった。これは、A型者やAB型者が多かったためと考えることができる」と説明する。

2. 宮城音弥と県民性

東京工業大学名誉教授、日本大学教授の宮城音弥（1908-2005）は、県民性研究のために「特性調査票（気質・性格検査）」を作成した。表2は、特性調査票から得られたデータ

表2　宮城音弥著『日本人の性格－県民性と歴史的人物』からのまとめ

	特性（特性調査表によるデータからまとめたものである）
岩手県	現実的、おおらか、豪放、進歩的、明朗、悲観的
福島県	おおらか、明朗、規則正しい、堅実、楽天的、親切
群馬県	礼儀正しくない、素朴、だらしがない、頼りない、楽天的、勤勉でない
茨木県	温和、不誠実、とっつきにくい、向う見ず、飽きっぽい
千葉県	保守的、悲観的、礼儀正しくない、がめつい、
山梨県	陰気、積極的、不誠実、軽快、向う見ず、とっつきにくい、武骨
静岡県	積極的、おおらか、規則正しい、怠けもの
岐阜県	非合理的、保守的、礼儀知らず、素朴ではない、武骨、不誠実
長野県	勤勉、誠実、理屈っぽい、粘り強い、地味、話下手、豪放
新潟県	規則正しい、淡泊、消極的、親切、誠実、粘り強い、とっつきにくい
大阪府	反抗的、礼儀正しくない、積極的、がめつい、繊細でない
京都府	しつっこい、柔和、こせこせしている、情熱に乏しい、とっつきにくい
山口県	しつっこい、がめつい、礼儀正しい、派手、模倣的、不規則
高知県	理想家肌、おおらか、豪放、独創的
鹿児島県	情熱的、だらしがない、不規則、がめつい、向う見ず

をまとめたものである。宮城は、たとえば「A型の多い西部日本（愛媛、島根、福岡、山口、大分）の県民のうちには、躁鬱質が多いということは事実だといってよかろう」と明言する。そして「日本人の地域的性格について、今後、歴史的社会的検討を行なってゆくことは、不可欠であり、気質的差異に問題も、これらの研究を通じてさらに明確になされるであろう」と述べている。

3. 大村政男の血液型と県民性

日本大学名誉教授の大村政男（1925-2015）は、血液型性格学を批判的に研究し、日本大学教授の渡辺徹（1883-1957）の『新旧人国記』や祖父江孝男（1926-2012）年の書物を基に、血液型と地域性（県民性）との関係を掘り下げてきた。

4. 引用文献

1) 古川竹二：『血液型と気質』、三省堂、1932.
2) 宮城音弥：『日本人の性格－県民性と歴史的人物』、朝日新聞社、1969.
3) 大村政男・浮谷秀一・藤田主一：「血液型気質相関説」の史的評論―原来復の時代から古川竹二の時代まで―、応用心理学研究第33巻第1号、pp.1-12、2007.
4) 渡辺徹：『新旧人国記』、世界社、1948.

（うきや しゅういち、ふじた しゅいち）

日本語版ポジティブイラショナルビリーフ尺度作成の試み

○森本康太郎
（福井県立大学キャリアセンター）

キーワード：ポジティブイラショナルビリーフ，尺度，日本語版

【目的】

これまで，現実の情報を歪めた，自己，コントロール，未来に対する自分にとって都合のよい認知として概念化されたポジティブな幻想，あるいはポジティブな認知的幻想は，精神的健康や主観的幸福感に対して適応的機能を有することが指摘されてきた（Taylor & Brown,1988; 1994）。一方で，Taylor & Brown の理論に対しては方法論と理論的側面からの批判も生まれており，特にポジティブ幻想を直接的に測定できていない点があげられる（Collard, Cummins, & Fuller-Tyskiewicz, 2016）。そこで Collard（2009）は，自己，コントロール，未来に対する楽観主義についてのポジティブな認知的幻想（以下ポジティブイラショナルビリーフ）を直接評価するための尺度として，Positive Irrational Beliefs Scale（以下 PIBS）を開発している。

これまで，PIBS の 16 項目を合計した高次因子が情動的苦痛と負の関連を持つこと（Collard & Fuller-Tyskiewicz, 2021），主観的幸福感と弱い正の関連を持つこと（Collard, et al., 2016）が示された。一方で，ポジティブイラショナルビリーフが精神的健康や幸福感に一様に関連している訳ではないことも示されており，Collard & Fuller-Tyskiewicz（2021）は，ポジティブイラショナルビリーフが精神的健康に有害な機能を持つ可能性も含めて，今後の詳細な検討が必要であることを指摘している。そこで，わが国においてもポジティブイラショナルビリーフと精神的健康や幸福感がどのような関連を持つかを検討し，ポジティブイラショナルビリーフの性質を明らかにするために，本研究では PIBS の日本語版を作成し，その信頼性を検討することを目的とする。

【方法】

1. 調査協力者：日本国内の 18 歳から 70 歳までの 534 名（男性 242 名，女性 292 名，平均年齢 36.6 歳，*SD* = 14.2）。
2. 調査時期：2023 年 2 月中旬。
3. 調査材料：日本語版ポジティブイラショナルビリーフ尺度 Collard（2009）によって作成された PIBS を，原著者に翻訳の許可を得た後，翻訳した。まず，著者が PIBS 全項目の翻訳を行い，一方で専門翻訳会社ユレイタスによる翻訳を行った。次に，独立して行われた両者の翻訳を比較検討して翻訳内容を調整し，統合版を作成した。この統合された翻訳をもって，ユレイタスの別担当者である逆翻訳専門家による逆翻訳を実施した。逆翻訳後，さらに別のユレイタス担当者（ネイティブスピーカー）による原文と逆翻訳との比較検証を行い，意味の違いを生じさせる表現の相違がないことが判明した。
4. データ収集：インターネット調査会社に登録しているパネルより調査協力者を募り，同意を得た者よりウェブ調査を通じて回答を得た。

【結果と考察】

因子構造を確認するために，原尺度と同じ 4 因子構造モデルを仮定し，確認的因子分析を行った。適合度指標は，$\chi^2(129) = 553.13$, $p = .000$, CFI = 886, RMSEA = .079, SRMR = .066 であった。項目の因子負荷量をみると，No.9 が.28 と低い値であった。そのため項目 No.9 を除外し，再度因子分析を行ったところ，適合度指標は，$\chi^2(113) = 461.80$, $p = .000$, CFI = 903, RMSEA = .076, SRMR = .059 となった。因子負荷量の範囲は.45―.85 であった。原版に基づき，第 1 因子は「不完全さの拒否」，第 2 因子は「不合理な楽観」，第 3 因子は「自己高揚」，第 4 因子は「不合理なコントロール」と命名した。確認的因子分析の結果を Table 1 に示す。

次に，内的整合性を検討するために，Cronbach's α を算出したところ，不完全さの拒否は.87，不合理な楽観は.79，自己高揚は.64，不合理なコントロールは.67 を示した。これらの結果より，PIBS 日本語版は下位尺度の内的整合性が十分ではない部分があるものの，全体としては一定の信頼性を有すると考えられる。今後は，信頼性の更なる検証ならびに妥当性の検討が求められる。

【引用文献】

Collard, J. J. (2009). *The role of positive irrational beliefs in mental health & wellbeing.* Unpublished doctoral dissertation, Deakin University, Australia.

Collard, J. J., Cummins, R. A. & Fuller-Tyskiewicz, M. (2016). Measurement of positive irrational beliefs (positive cognitive illusions). *Journal of Happiness Studies*, *17*, 1069-1088.

Collard, J. J. & Fuller-Tyskiewicz, M. (2021). Positive irrational beliefs and mental health. *Journal of Rational-Emotive & Cognitive-Behavior Therapy*, *39*, 335–354.

Taylor, S. E. & Brown, J. D. (1988). Illusion and well-being: A social psychological perspective on mental health. *Psychological Bulletin*, *103*, 193-210.

Taylor, S. E. & Brown, J. D. (1994). Positive illusions and well-being revisited: Separating fact from fiction. *Psychological Bulletin*, *116*, 21-27.

Table 1　確認的因子分析の結果

	項目	因子負荷量	共通性	*M*	*SD*
第1因子：不完全さの拒否　$\alpha = .87$					
5	私はミスをしない。	.81	.65	1.50	0.65
6	私は状況を見誤ることはない。	.81	.65	1.78	0.69
4	私は完璧だ。	.78	.61	1.51	0.65
7	私は，自分が選んだことに失敗することはない。	.78	.61	1.77	0.69
8	私は決して間違ったことはしない。	.71	.51	1.77	0.76
18	私は，不快な出来事に対処する必要はないだろう。	.49	.24	1.80	0.64
第2因子：不合理な楽観　$\alpha = .79$					
17	私はこれからも常に幸運だろう。	.85	.73	2.15	0.79
15	私は，自分には良いことしか起こらないと思っている。	.73	.53	1.86	0.77
14	私の人生は，これからもっと良くなる。	.72	.52	2.57	0.83
16	私は，最高のものだけを期待している。	.50	.25	2.19	0.77
第3因子：自己高揚　$\alpha = .64$					
2	私はいつも物事をうまくやっている。	.74	.55	2.45	0.72
3	私の目標達成を妨げるものは何もない。	.60	.36	1.99	0.73
1	私は最善を尽くしている。	.53	.28	2.87	0.71
第4因子：不合理なコントロール　$\alpha = .67$					
10	私は，自分の人生におけるすべての出来事をコントロールしている。	.70	.49	1.73	0.70
12	私は，自分が生きる環境は自分でコントロールする。	.58	.33	2.66	0.69
13	私は，将来起こる偶然の出来事に，大きな影響を与えることができる。	.55	.30	1.90	0.70
11	私の人生で起こるすべてのことは，自分で責任をとる。	.45	.20	2.79	0.71

（もりもと　こうたろう）

Web 調査による心理尺度構成の留意点

－妥当性項目の検討－

片岡　大輔
（株式会社日本能率協会マネジメントセンター）

キーワード：Web 調査　尺度構成　妥当性項目

【目的】

近年、学術的な分野においても、インターネットを通じて協力者を募集し PC 等の画面に表示される質問項目等に回答させるという Web 調査の利用が、行われるようになってきている。Web 調査の学術的活用における利点としては、データの容易さ等があげられ、問題点として代表性の問題、回答環境／状況のばらつき等があげられている（日本学術会議, 2020)。心理尺度を構成したり、対象者の心理的な変数の実態を把握したりする際には、Web 調査ならではの回答の妥当性の問題が想定できる。たとえば対象者が PC 等の画面に表示される質問項目に回答する際に、「調査に際して応分の注意資源を割かない行動が出現する現象」について報告がある（三浦・小林 2018)。学術場面でもデータを収集する際に Web 調査を利用しないことは想定しづらい現状において、この現象は憂慮すべき問題であると言える。一方、伝統的なパーソナリティ検査においては、各種の妥当性尺度を設定し、回答に及ぼす態度を測定し、尺度得点の集計において修正を行うものがある（岩脇, 1961)。

今回は、企業の管理職向けにパーソナリティ尺度を構成した事例において、妥当でない回答の出現頻度、妥当でない回答をした対象者を分析から除外することによる効果を報告し、Web 調査を心理尺度構成等に利用する際の留意点の資とするものである。

【方法】

・対象者：企業の管理職　362 名
・調査方法：Web 調査会社に委託し、回答を収集した。
・質問項目：パーソナリティ尺度項目 75 項目、妥当性項目 4 項目、職務上の志向を尋ねる項目 78 項目、その他項目 12 項目、合計 169 項目であった。

Web 調査会社はあらかじめ登録している集団において調査の対象に合う属性（今回は民間企業の管理職）の人に対して、案内のメールを配信した。対象者はメール上の URL からアンケート画面のサイトを開き、PC・スマートフォン等の機器の画面に表示される質問項目にマウス等でクリックして回答した。

今回用いたパーソナリティ尺度項目は、ビッグファイブモデルに準じた修飾語句から構成したものであった（片岡 2019)。この尺度群は企業の管理職を対象にした研修に用いるために用意したものであった。

妥当性項目として、社会的望ましさの項目や該当が稀有であろう内容の項目を用意した。その他の項目は、企業における働き方についての志向・興味を聴取するものであった。すべての項目に対して対象者は、まったくあてはまらない～たいへんあてはまる 5 件法で回答した。なお妥当性の指標の 1 つとして、すべての質問項目（ここでは 169 問）に対しての 5 件法の回答を 1 ～ 5 点として個人内における回答の標準偏差を算出することとした。たとえば、標準偏差が 0 であった場合、すべての質問項目に対して同じ段階の選択肢で回答したということになる。

【結果】

363 人の回答者の属性は、平均年齢 48.3・SD7.4、男性 342 人（94.5%）・女性 20 人（5.5%）であった。

各妥当性項目への回答頻度を示したものが図表 1 である。

図表 1．妥当性項目への回答

			1.まったくあてはまらない	2.あてはまらない	3.どちらともいえない	4.あてはまる	5.たいへんあてはまる	平均値	標準偏差
1	ときには信号を無視すると思う	SD	5.5%	16.9%	27.6%	42.3%	7.7%	3.30	1.02
2	詐称的	RR	16.3%	35.4%	44.2%	3.6%	0.6%	2.37	0.82
3	きちんと給料が支払われる仕事がしたい	RR-	1.1%	3.0%	21.5%	39.0%	35.4%	4.04	0.89
4	睡眠時間がまったく取れないような仕事がしたい	RR	50.6%	16.3%	26.5%	6.6%	0.0%	1.89	1.01

(n=362)

「きちんと給料が支払われる仕事がしたい」に対して、"まったくあてはまらない"が 1.1%、"あてはまらない"が 3.0%、"どちらともいえない"が 21.5%であった。「睡眠時間がまったく取れないような仕事がしたい」については"あてはまる"が 6.6%、"どちらともいえない"が 26.5%であった。稀有な回答が、"どちらともいえない"も含めると 30%程度出現した。

個人内の全回答の標準偏差を算出したところ、最小値 0.21、最大値 2.00、中央値 0.77、Q 1 は 0.62、Q 3 は 0.94 であった。

収集した全 362 名のパーソナリティに関する修飾語句への回答を用いて、因子分析（主因子法）を行ったところ、相関行列が特異であることにより分析が不可能であった。そこで、妥当性項目に 2 項目以上該当した回答者（27 名）および個人内の全回答の標準偏差が著しく高いもしくは低い回答者（5 名）の合計 32 名を分析の対象から外して、330 名に対象者を絞り込んで因子分析（主因子法・エカマックス回転）を行ったところ、ビッグファイブモデルに準じた計 30 の修飾語句からなる 5 尺度を構成することができた（累積寄与率 55.3%、α係数.81～.91、因子間相関の絶対値.10～.47）（片岡 2019)。

【考察】

今回の結果からは、Web 調査においては質問項目の文章を読まずに、マウス等をクリックして回答欄を埋めていく人がある程度存在する可能性があることが示された。妥当性の質問項目に該当した回答者や、個人内の回答のばらつきが外れ値である回答者を除いた場合には、多変量解析が行えたということは、伝統的なパーソナリティ検査で用いられたような妥当性の項目を数問でも用意するなどしてデータの質を確保することが Web 調査を学術的に利用する際の留意点の 1 つであると考える。

【引用文献】

岩脇三良, (1961), MMPI の回答に及ぼす態度の影響と妥当性尺度, 教育心理学研究, 9(4), 200-208
片岡大輔, (2019), 管理職を対象にした主要 5 因子性格特性尺度の構成, 日本応用心理学会第 86 大会発表論文集, 18.
三浦麻子, 小林哲郎, (2018), オンライン調査における努力の最小限化が回答行動に及ぼす影響, 行動計量学, 45(1), 1-11.
日本学術会議社会学委員会 Web 調査の課題に関する検討分科会, (2020), Web 調査の有効な学術的活用を目指して 日本学術会議
https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t292-3.pdf

（かたおか　だいすけ）

ヒトならびに表情分析AIが評定する表情と魅力の関連

○山口茉優[1]　杉森絵里子[2]
([1]早稲田大学大学院人間科学研究科　[2]早稲田大学学術院)

キーワード：表情，魅力，印象

目的

顔の魅力は，我々の社会生活において重要な役割を担っている。これまでの顔の魅力研究の多くは，平均性や対称性といった顔の構造的特徴に焦点が当てられてきた（Little, 2021）。その中で，自分自身で比較的容易に変えられる表情の影響も示されている（e.g., Ebner et al., 2018）。

魅力と表情の関連を調査する研究には，異なる表情をとった人の静止画顔の魅力のみを実験参加者に評価させ，その魅力評価を表情間で比較する方法や，魅力と表情のポジティブ度を参加者に評価させ，その相関関係を調べる方法がある。しかし，これまでの実験で用いられてきた方法には妥当性に欠ける点があり，表情が魅力に及ぼす影響を検討する実証研究は不十分である。具体的な問題点として，人は常に顔を動かしており，動画と静止画では知覚される魅力と表情の関連に違いがあることが明らかになっているにもかかわらず（Rubenstein, 2005），実験刺激は写真などの静的刺激に依存されている。また，参加者に魅力と表情を評価させ，その相関関係を調べる方法では，魅力が無意識のうちに表情の評価に影響を与えている可能性があることも問題点として挙げられる。魅力の影響を受けない表情の客観的評価を得るためには，コンピューターを用いた表情分析が必要である。

そこで，本研究では，動画刺激に対して学生と表情分析AIが表情ポジティブ度を評定し，表情を評定する学生とは異なる学生が魅力を評定することで，ヒトおよびAIが評定する表情評定値と魅力の関連を調べる。

方法

実験参加者　刺激モデルとして，大学生・大学院生83名（男性43名，女性40名，平均年齢21.23歳（SD = 1.67））が参加した。評定者として，大学生・大学院生198名（男性76名，女性122名，平均年齢20.73歳（SD = 1.79））が参加した。

刺激　刺激モデルが60秒間自己紹介する様子を撮影した。撮影した動画を10秒間にクロップし，音声をミュートしたものを動画刺激として用いた。

手順　評定者は，魅力評定群（102名）と表現評定群（96名）の2群に分けられた。疲労の影響が考慮され，評定者は83個の刺激のうち20個の魅力または表情について評定した。そのため，各刺激は20~25名の評定者から魅力または表情の評価が与えられた。

評定者は，10秒間の動画刺激が呈示され，その動画の人物の魅力または表情について7段階（1：まったく魅力的ではない／非常にネガティブ，7：非常に魅力的／非常にポジティブ）で評定した。表情分析には株式会社シーエーシーの感情認識ソフトウェア「心sensor」を使用した。本研究では，心sensorによって分析されるValenceの値を用いた。心sensorはFACS理論（Ekman & Friesen, 1978）に基づいて開発された感情認識AIを使用しているソフトウェアである。また，Valence値は表情のポジティブ度を-100（ネガティブ）から+100（ポジティブ）で評定した値である。

結果

刺激の性別ごとに，魅力評定値と評定者による表情評定値（ヒト表情評定値），魅力評定値と心sensorによるValence値（AI表情評定値）について相関分析を行った。その結果，男性刺激および女性刺激について，魅力評定値とヒト表情評定値および魅力評定値とAI表情評定値の間には，中程度または高い正の相関関係があった（Table 1, 2）。つまり，魅力評定値はヒト表情評定値だけでなくAIによる表情評定値とも関連があった。

Table 1
男性刺激に対する表情と魅力の関連（相関係数）

	魅力評定	ヒト表情評定	AI表情評定
魅力評定	-	.57 *	.46 *
ヒト表情評定		-	.63 *
AI表情評定			-

* $p < .01$

Table 2
女性刺激に対する表情と魅力の関連（相関係数）

	魅力評定	ヒト表情評定	AI表情評定
魅力評定	-	.74 *	.40 *
ヒト表情評定			.73 *
AI表情評定			-

* $p < .01$

考察

結果から，男性・女性刺激ともに，ヒトとAIともにポジティブ表情だと評定した顔刺激に対しての魅力度が高いことが明らかとなった。つまり，魅力的な顔がポジティブな表情だと知覚されるのではなく，実際に表出する表情のポジティブ度が魅力に影響を与えていた。

ポジティブ表情の人は，より健康的であり，より有能であり，かつ，より優しくみえるという先行研究が存在する（Dong et al., 2023）。ポジティブ表情を表出する人は魅力的だと知覚されるという本研究の結果は，健康性や性格が魅力とも関連することを示唆しており，今後，魅力と表情の関連を進化学的側面から検討する必要があると考えられる。

利益相反

本研究に関連し，開示すべき利益相反はない。

引用文献

Dong, T., Sun, J., & He, W. (2023). Positive and spontaneous facial expressions convey kindness and competence personality traits: Visual reasoning in personality attribution to faces. *Personality and Individual Differences*, *200*, 111903.

Ebner, N. C., Luedicke, J., Voelkle, M. C., Riediger, M., Lin, T., & Lindenberger, U. (2018). An adudevelopmental approach to perceived facial attractiveness and distinctiveness. *Frontiers in Psychology*, *9*, 561.

Ekman, P., & Friesen, W. V. (1978). Facial action coding system. *Environmental Psychology & Nonverbal Behavior*.

Little, A. C. (2021). Facial attractiveness. *Encyclopedia of Evolutionary Psychological Science*, 2887-2891.

Rennels, J. L., & Kayl, A. J. (2015). Differences in expressivity based on attractiveness: Target or perceiver effects? *Journal of Experimental Social Psychology*, *60*, 163-172.

Rubenstein, A. J. (2005). Variation in perceived attractiveness: Differences between dynamic and static faces. *Psychological Science*, *16* (10), 759-762.

(やまぐち　まゆ・すぎもり　えりこ)

幼児の空間認知能力と身振りが音程知覚に及ぼす影響

○金山英莉花[1]　内山伊知郎[2]
([1]同志社大学大学院心理学研究科　[2]同志社大学心理学部)
キーワード：音程知覚　空間認知能力　幼児

【目的】

幼児教育において，歌唱などの音楽活動は重要である。しかし，幼稚園教諭や保育士等の保育者の中には，音楽に関わる表現活動において指導や援助で難しいと思ったことがある人が約80%おり，特に子どもの個人差や能力の違いに指導や援助の難しさを感じていることが報告されている（横井，2011）。個人差のある子どもに対して歌唱活動の支援をするためには，旋律を様々な子どもにわかりやすく示す方法を考える必要がある。

本研究では，子どもが旋律の音程を正確に知覚する要因について，空間認知能力と身振りに着目して検討した。旋律の上下動である輪郭（吉野，2000）は，空間的な情報である（Mikumo，1999）ことから，空間認知能力が高いと音程知覚が正確であると仮説を立てられる。また，空間位置の高低と音程の高低は対応づけられている(Rusconi et al., 2006)。そのため，輪郭を表した身振りをすることで，音の上がり下がりが強調され，音程知覚を促進すると考えられる。

【方法】

実験参加児　京都市内にある幼稚園の年長児35名（男児14名，女児21名，M = 6.03歳, SD = 0.26歳）を対象とした。

空間認知能力テスト　空間認知能力を測る課題としてWPPSI-Ⅲ知能検査の積木模様課題を用いた。40点満点で算出した。

音程知覚テスト　最初に，4音で構成されたピアノ音の旋律（先行刺激）に合わせて身振りをする人物モデルの動画を2回参加児に提示した。その際，参加児は先行刺激を聞きながら身振りを模倣した。次に後続刺激として，先行刺激と同じもしくは異なる旋律が提示され，参加児は先行刺激と後続刺激に関して異同判定を行った。6試行あり，1試行1点とし6点満点で算出した。

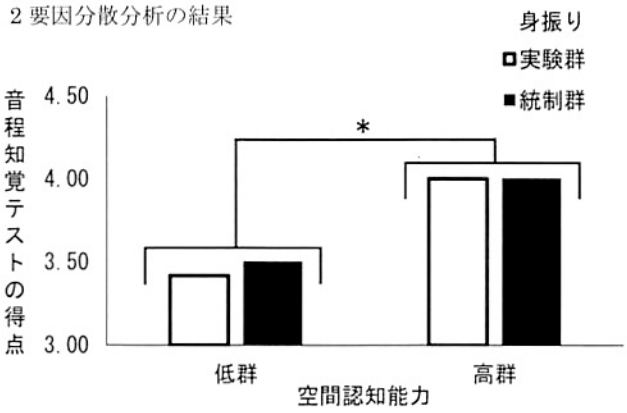
身振り　実験群には，音程が上がったら手が上，音程が下がったら手が下のように，旋律の輪郭を表した身振りを提示した。統制群は常に一定の位置で手を動かす身振りを提示した。

手続き　幼稚園の1室で1名ずつ行った。参加児とラポールを形成した後，空間認知能力テスト，音程知覚テストの順番で行った。

【結果】

空間認知能力テストの平均点（M = 30.86）を基準に空間認知能力高群と低群に分け，空間認知能力と身振りを独立変数，音程知覚テストの得点を従属変数とした2要因分散分析を行った（Figure 1）。その結果，空間認知能力の主効果が有意であった（$F(1, 31) = 4.42$, $p = .044$, $\eta_p^2 = .125$）。身振りの主効果と交互作用は有意ではなかった（$F(1, 31) = .03$, $p = .873$, $\eta_p^2 = .001$; $F(1, 31) = .03$, $p = .873$, $\eta_p^2 = .001$）。

Figure 1
2要因分散分析の結果



【考察】

分散分析の結果より，空間認知能力の高い幼児ほど音程知覚が正確であることが確認された。これは，大人を対象として空間認知能力と音程知覚の関連を検討した研究（Cupchik et al.，2001）と同様の結果であり，空間認知能力は視覚的，旋律の記憶は聴覚的と異なるモダリティの能力であるが，輪郭を知覚するという点で共通しているからであると考えられる。

本研究では身振りの効果および交互作用は確認されなかった。しかしConnell et al.(2013)の研究では，身振りが音程知覚に影響を及ぼすことを確認している。この研究では，身振りにおける手の空間的位置だけではなく，上下の動きも重要であると主張している。そのため今後の課題として，手の上下の動きをわかりやすくして再検討することがあげられる。

【利益相反】

本研究に関して，開示すべき利益相反関連事項はない。

【引用文献】

Connell, L., Cai, Z. G., & Holler, J. (2013). Do you see what I'm singing? Visuospatial movement biases pitch perception. *Brain and cognition*, *81* (1), 124-130.

Cupchik, G. C., Phillips, K., & Hill, D. S. (2001). Shared processes in spatial rotation and musical permutation. *Brain and Cognition*, *46* (3), 373-382.

Mikumo, M. (1999). Encoding strategies for pitch information. *Japanese Psychological Mono-graphs No.27.* Tokyo: Japanese Psychological Association.

Rusconi, E., Kwan, B., Giordano, B. L., Umilta, C., & Butterworth, B. (2006). Spatial representation of pitch height: the SMARC effect. *Cognition*, *99* (2), 113-129.

横井 志保（2011）．領域「表現」に関する調査研究：音楽的表現における保育者の意識と実態について　名古屋柳城短期大学研究紀要，33，125-130.

吉野 巌（2000）．旋律（旋律の音高的側面）　谷口 高士（編）　音は心の中で音楽になる――音楽心理学への招待――（pp.22-44）　北大路書房

（かなやま えりか・うちやま いちろう）

2歳児クラスの食事場面における園児への対応状況

－事故予防の観点からの分析－

○平沼博将[1]　高井由佳[2]（非会員）　服部敬子[3]
([1]大阪電気通信大学共通教育機構　[2]大阪産業大学デザイン工学部　[3]京都府立大学公共政策学部)
キーワード：事故予防　食事場面　行動分析

【目的】内閣府は2016年3月に「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」を公表し、重大事故が発生しやすい睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中の注意事項を示している（内閣府, 2016）。食事介助で注意すべきポイントとしては「子どもの意志に合ったタイミングで与える」「食べ物を飲み込んだことを確認する」「汁物などの水分を適切に与える」「食事の提供中に驚かせない」「食事中に眠くなっていないか注意する」「正しく座っているか注意する」等が記載されているが、保育施設で食事中の誤嚥等により乳幼児が死亡する事故が後を絶たない。

本研究では、保育所で重大事故が起こりやすい場面の一つである食事中の保育実態を明確化することを目的に、認可保育所の2歳児クラスにおいて食事中の事故に繋がる恐れのある園児の行動と保育士の対応状況を分析するとともに、園児への対応の優先順位等について保育士の意識調査を行った。

【方法】大阪府および京都府にある認可保育所（5か所）を対象に2歳児クラスの食事場面を2台のビデオカメラで撮影し、保育士と園児の行動分析を行った。調査時期は2021年8月中旬～12月下旬。調査対象とした各園の食事場面における保育士および園児の人数をTable 1に示す。

Table 1　各園の食事場面における保育士および園児の人数

	保育士の人数	園児の人数	備考
A園	3	14	
B園	5	20	保育士1名は保育実習生
C園	2	12	
D園	2	7	
E園	1	7	1クラスを2つのグループに分け、交代制で食事を実施
	1	4	

また、行動分析だけでは不明であった保育士による意識的な取り組みについて調査するために、Googleフォームを用いた質問紙調査を2022年11月に実施した。主な質問内容は、食事時間中の役割分担、加配が必要な園児の有無、普段心掛けて対応している園児の行動、園児の行動への対応の優先順位等であった。加えて、質問紙調査の結果に基づいて、2022年11月下旬～12月上旬に40分程度のインタビュー調査を実施し、食事時間を担当していた保育士に回答の理由や詳細について聞き取りを行った。

【結果】内閣府（2016）等を参考に「先生を呼ぶ」「ぐずっている」「眠くなった」「食事をこぼした」「体勢が崩れた」「立ち歩く」「横を向いた」という7つの園児の行動・状態を食事場面における「事故に関連する行動・状態」であると仮定し、その発生回数を園ごとに集計した（Table 2-1）。

全体としては「体勢が崩れた」「立ち歩く」「先生を呼ぶ」の発生回数が多かったが、発生する行動・状態の種類や回数は、園によってばらつきがあることが分かった。

Table 2-1　各園における「事故に関連する行動・状態」の発生回数

	A園	B園	C園	D園	E園	
先生を呼ぶ	7	10	6	7	9	2
ぐずっている	0	3	2	0	0	0
眠くなった	0	3	0	0	0	0
食事をこぼした	1	2	9	5	1	0
立ち歩く	4	15	10	9	1	1
体勢が崩れた	10	50	20	13	8	7
横を向いた	3	12	2	5	4	2

また「事故に関連する行動・状態」への保育士の対応状況について、「すぐに対応」「後で対応」「対応なし」に分けて集計した結果、園によって保育士による対応の有無・タイミングに違いがみられることが分かった（Table 2-2参照）。

Table 2-2　各園の「事故に関連する行動・状態」の発生回数と対応状況

	事故に関連する行動・状態の発生回数	すぐに対応		後で対応		対応なし	
		回数	割合(%)	回数	割合(%)	回数	割合(%)
A園	25	10	40.0	5	20.0	10	40.0
B園	95	19	20.0	19	20.0	57	60.0
C園	49	17	34.7	5	10.2	27	55.1
D園	39	15	38.5	8	20.5	16	41.0
E園	23	10	43.5	8	34.8	5	21.7
	12	3	25.0	1	8.3	8	66.7

次に、質問紙調査およびインタビュー調査から「事故に関連する行動・状態」への対応の優先順位について分析した。各園における園児への対応の優先順位をTable 3に示す。

Table 3　各園における食事場面での園児への対応の優先順位

優先順位	A園	B園	C園	D園	E園
1位	先生を呼ぶ	眠くなった	ぐずっている	ぐずっている	ぐずっている
2位	ぐずっている	ぐずっている	先生を呼ぶ	立ち歩く	食事をこぼした
3位	眠くなった	先生を呼ぶ	食事をこぼした	眠くなった	先生を呼ぶ
4位	食事をこぼした	食事をこぼした	立ち歩く	先生を呼ぶ	立ち歩く
5位	立ち歩く	立ち歩く	横を向いた	食事をこぼした	体勢が崩れた
6位	体勢が崩れた	体勢が崩れた	体勢が崩れた	体勢が崩れた	眠くなった
7位	横を向いた	横を向いた	眠くなった	横を向いた	横を向いた

園児が「ぐずっている」「先生を呼ぶ」「食事をこぼした」は全体的に優先順位が高く、こうした状況に保育士がいち早く対応しようとしていることが分かった。一方、「体勢が崩れた」「立ち歩く」「横を向いた」等の姿勢・行動の変化については園児の気持ちの表れとして捉えている保育士が多く、注意せずに様子を窺う等の対応をしていることが分かった。また、「眠くなった」園児への対応については園によって順位に差がみられ、上位に挙げた園では口に物が入っている状態で眠くなると誤嚥の危険性が高まることに着目していた。

【考察】本研究の結果、食事場面で事故につながる可能性がある2～3歳児の行動・状態の発生状況や保育士の対応状況には園による違いがあることが明らかとなった。そうした違いは、各園・各保育士が食事場面において何を重視して保育や食事指導をしているかといった保育観や事故予防に関する知識が関連すると推察され、研修等の意義が示唆された。事故防止の観点から、事故につながる園児の行動・状態の発生回数とクラス規模（園児数）、保育士の配置、部屋の広さ等の保育条件や保育環境との関連性について検討する必要がある。

【引用文献】

内閣府（2016）. 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン

【謝辞】本研究のデータ解析で多大な協力をいただいた大阪産業大学情報システム学科の岡本紗和さんに深く感謝する。

※本研究は日本学術振興会科学研究費補助金「保育中の事故防止・安全管理に関する教育及び支援システムの構築と評価」（課題番号 JP20K02715）の助成を受けて行われた。

※本研究に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

（ひらぬま ひろまさ・たかい ゆか・はっとり けいこ）

再犯防止に資する仮釈放に向けた対策について

―美祢社会復帰促進センターにおける「満期出所ゼロプロジェクト」の実施について―

○若林　鉄也　　齊藤　了　　春口　千津
（法務省美祢社会復帰促進センター）

キーワード：刑事施設、再犯防止、満期釈放、仮釈放、更生保護

1　研究の目的

令和４年度版再犯防止推進白書（以下「白書」という。）によれば、刑事施設で刑期を終えて出所する満期釈放者が、出所後２年以内に刑事施設に入所する率は、２０２０年出所受刑者において２２．６パーセントとなっており、刑期終了前に社会に戻る仮釈放者の１０．０パーセントと比較して２倍以上高く、再犯防止施策の中でも、満期釈放者対策は重要な課題の一つとなっている。

こうした中、美祢社会復帰促進センター（以下「当センター」という。）においては、「満期出所ゼロプロジェクト」（以下「ゼロプロジェクト」という。）を設置し、被収容者の仮釈放につなげるための施策を進めており、本研究においては、ゼロプロジェクトの取組を中心に、仮釈放に向けたより効果的な対策について考察した。

2　研究の方法

ゼロプロジェクトの目的等について整理するとともに、令和４年４月から同５年３月までにゼロプロジェクトにおいて、仮釈放が見込めない者として検討した女子３５名の被収容者（以下「満期予想者」という。）について、満期釈放となる背景について分析するとともに、仮釈放につなげるための有効な働き掛け等について考察した。

なお、当センターは男女を収容する施設であるが、男子については、仮釈放に係る諸問題が少なく、同期間においてゼロプロジェクトの対象となる者はいなかった。

3　研究結果

（1）仮釈放に向けた対策の重要性について

白書によれば、満期釈放者は、社会内で保護観察を受ける仮釈放者と比べて、本人の特性などの内的要因と出所後の生活環境などの外的要因の双方において、より多くの課題を抱えている上、仮釈放に伴う保護観察を受けられないため、再犯防止に必要となる国からの指導や支援を受ける機会が乏しい。そのため、満期釈放者は、刑事施設出所後、本人が抱える課題を解決できないまま社会から孤立し、再び犯罪に至るという悪循環に陥りやすいと考えられる。当センターの令和４年度仮釈放率は、約９８パーセントであり、満期釈放者は少数であるが、再犯防止のため、仮釈放につなげるための効果的な対策が重要となる。

（2）ゼロプロジェクトについて

ア　目的

（ア）　一人でも多くの者を社会内での指導・支援を受けられる仮釈放の流れに乗せる。

（イ）　やむを得ず満期釈放となった者に対して、きめ細やかな支援及び処遇を実施する。

イ　実施内容

①仮釈放の見込めない者の把握、②仮釈放促進のための個別指導、③満期釈放決定者に対する個別指導、④満期出所時の支援

（3）満期予想者の出所事由等

満期釈放３名、仮釈放１７名、移送３名、在所中１２名であった。

（4）満期予想者の満期釈放となった者の背景等

悔悟の情がない者２名、行状不良者１名であった。

（5）満期予想者の仮釈放となった者への働き掛け等

仮釈放制度及び更生保護施設等に関する理解の促進と指導を実施した者８名、更生保護官署との連絡調整を行った者５名、就労や福祉等の専門職に情報提供し、対象者に働き掛けを実施した者２名、家族等との関係修復と調整を実施した者１名、所内の関係職員と情報共有し、面接や改善指導等により、内省を深めさせた者１名であった。

4　考察

満期釈放者の悔悟の情がない者２名については、事件について否認をし、自分には非がない旨を頑なに述べるなど、指導が十分に浸透せず、行状不良者の１名については反則行為を頻発する者であった。

仮釈放者については、仮釈放制度や更生保護施設に関する理解が不十分なことから、帰住先や引受人について意思決定が遅くなるケースが多く見られた。当センターは、初入者を収容しており、仮釈放の手続の流れや、更生保護施設における生活イメージがしにくい場合が考えられ、今後も、丁寧な説明や指導が重要であると考える。

また、地方更生保護委員会や保護観察所との連携と協力を積極的に行い、帰住先や引受人に関する情報共有、環境調整のための保護観察官による面接依頼や、家族関係の修復に向けた働き掛けを実施することなどが、仮釈放につなげるための有効な措置であると考えられる。

5　今後の展望等

ゼロプロジェクトにおいて、早期に対象となる被収容者の課題等を明確にし、更生保護官署との密接な連携、個別の処遇プログラムの実施や心理技官によるカウンセリング等、多角的に支援・指導等を実施する体制としていきたい。

（わかばやし　てつや、さいとう　りょう　はるぐち　ちづ）

量刑相場に対する一般市民の態度に関する社会心理学的研究：性犯罪を例に

○戴　伸峰
（台湾国立中正大学犯罪抑制学科）

キーワード：性犯罪、量刑相場、公正世界信念

【目的】2010年における世論調査では、台湾の一般市民では、政府の運営に関して「司法制度に対する不信感」が最も深刻な問題と認識していることが明らかになった。その故、台湾では2016年の国民会議で、刑事司法制度に関する改革を決議した。その中で、「一般市民に親近感をもたらす刑事司法制度の改革」が最も重要な一環で、国民会議の決議によって、国民裁判官制度の導入を決定し、2023年、台湾は正式に国民裁判官制度が始まり、「国民裁判元年」という名付けて、新しいし刑事司法制度が始まった。

こうした国民裁判官制度の狙いは一般市民における刑事司法に関する信頼やポジティブな態度を取り戻すことを政府側が宣言した。そもそも、台湾の一般市民は刑事司法制度を身近な存在と認めず、「法律は家門に入れない」という伝統的な価値観を持つ人が多く、できるだけ法律に関わりたくない台湾人が多い。法律に対する態度にも批判的で、「法律は一般の人々を守らない」や「法律は権力者の遊び物だ」というネガティブな態度を持つ台湾人も多く見られる。

その故、本研究では、こうした国民裁判官制度の執行と伴い、台湾の一般市民における「刑事司法制度に対する態度」に注目し、事件提示法で、調査対象者に性犯罪に関する事件を提示し、当事件に関わる犯罪者の犯罪行為に関する責任帰属、公正世界信念、当事件に対する刑期の模擬裁判（量刑相場）、模擬裁判の量刑に影響を与える要因を尋ね、性犯罪事件とその刑事司法制度に関する一般市民の態度を明らかにすることが目的である。

【方法】前述のように、本研究では台湾の一般市民における性犯罪事件とその刑事司法制度に関する態度を明らかにすることであり、台湾の18歳以上の成人を研究対象に無作為法で600名を抽出し、郵送で調査票を配布し323名から回答が得られた（回収率53.83%）。

調査票は回答者のデモグラフィック特性（性別、年齢、法律専門知識の有無、自分自身が性犯罪の被害者になる可能性）をはじめ、犯罪行為の責任帰属、公正世界信念、模擬裁判の量刑に影響を与える要因に関する3つのスケールで、5件法で（1：当てはまらない～5：非常によく当てはまる）研究対象者に回答を求めた。

研究対象者は、まず性犯罪に関する事件を読ませ、当事件の犯罪者に対し、自分自身は国民裁判官であれば、職業裁判官が下った刑期（判例によるもの）を9件法で新たに判決を決めることである。判決に関する9件法では（1：無罪、2：罰金刑に当たる、3：減刑1/2、4：減刑1/3、5：刑期の維持、6：刑期を1/3延長、7：刑期を1/2延長、8：無期懲役、9：死刑）の9種類である。

【結果】探索的因子分析

性犯罪事件における模擬裁判の量刑に影響を与える要因について、我々は台湾の刑法第57条に基づいて、2カテゴリーを設け、それに関連する20項目を作成した。探索的因子分析の結果では2次元が抽出され、「犯行直接要因」と「犯行間接要因」と命名した。

公正世界信念について、我々は林忠テイ（2008）が作成した「犯罪行為における公正世界あ信念スケール」に基づいて、「犯罪応報観」、「厳罰支持」、「公平公正観」の3カテゴリーに関する10項目を作成した。

犯罪行為の責任帰属について、我々は「被害者の責任」、「罪と刑罰が不相当」、「無被害」の3カテゴリーに関する9項目を設け、探索的因子分析の結果によって、3因子が抽出され、全てのカテゴリーが再現した。

回帰分析の結果

本研究では性犯罪に対する厳罰量刑相場に影響を及ぼす要因の関係を明らかにするために、各因子の平均得点とし、回帰分析を行った。その結果は図1のように、直接効果について、年齢は厳罰量刑相場を抑制する効果があるが、法律専門知識の有無は厳罰量刑相場を促進することが見られた。「犯行間接要因」は厳罰量刑相場を抑制することであるが、「犯行直接要因」は厳罰量刑相場を促進することが見られた。量刑に及ぼす影響に関する要因について、「被害者の責任」要因が厳罰量刑相場を抑制する効果があるが、罪と刑罰の不相当は厳罰量刑相場を促進することが見られた。最後、法律専門知識の有無が公正世界信念を促進し、その中の厳罰支持が厳罰量刑相場を促進することが見られた。

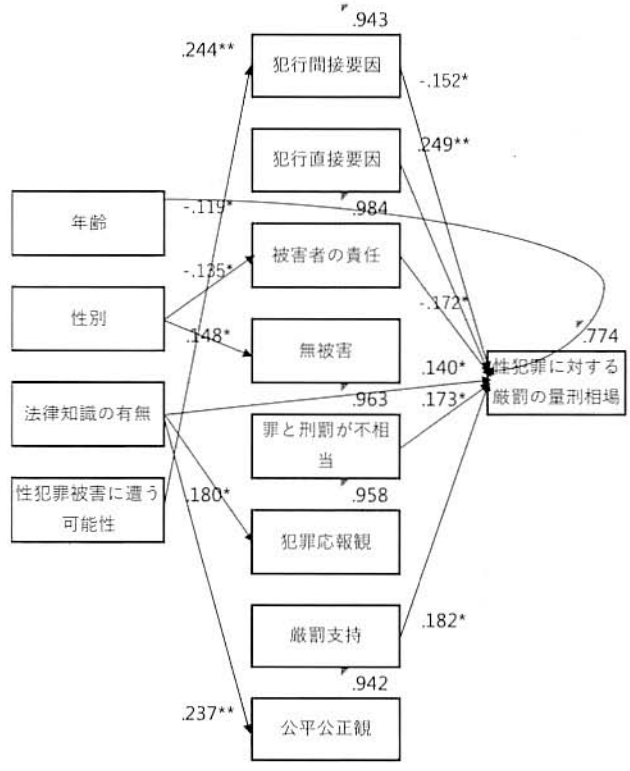


図1　各因子における回帰分析の結果

【考察】本研究では性犯罪事件に対し、一般市民の量刑相場を測定し、研究対象者の刑事司法に対する態度を明らかにすることが目的である。研究の結果は、台湾の一般市民では性犯罪に対する厳罰の量刑相場態度が強く、公正世界信念、犯行の責任帰属も影響を与える結果が見られた。

【利益相反】利益相反（conflict of interest; COI）なし

看護師，介護福祉士の就業継続に影響を及ぼす要因

～職業コミットメントからの検証～

○古矢香里
（医療法人社団三喜会　鶴巻温泉病院　看護部）

キーワード：看護師，介護福祉士　職業コミットメント　就業継続

【目的】

近年，医療技術の高度化や患者ニーズに変化などにより看護師，介護福祉士に求められる役割は複雑かつ多様化してきている。そのような状況の中，看護職の職業に対する帰属意識を表す職業コミットメントが重要な概念として注目されている。そこで，本研究では，多岐に渡る健康状態，生活状態にある患者，入所者への対応が必要とされる医療施設に勤務する看護師，介護福祉士の2職種に対し，日本語版職業コミットメント尺度を用いて同条件で検証，就業継続を促す要因，就業継続を可能とする要因について，明らかにすることを目的とした。

【方法】

A病院に勤務する常勤看護師178名，常勤介護福祉士85名，計263名を調査対象者とし，職業コミットメント，職務満足感，就業継続意思，デモグラフィック項目（性別，年齢，職種，資格取得後年数，資格取得課程など）について，無記名自記式質問紙を用いて調査した。データは欠損値のない180名を最終有効回答として分析対象とした（有効回答率76.3%）。分析には統計ソフト（BellCurve for Excel）を用い，尺度信頼性を確認した後，相関係数の算出，対応のない t 検定，一元配置分散分析（下位検定：Tukey-Kramer法）をおこなった。有意水準は5%未満を基準とした。また，回答者集団の特徴を見出すため，階層的クラスター分析（ユークリッドの距離・ウォード法）をおこなった。

本研究はA病院臨床研究倫理審査小委員会の承認を得て実施した（申請受付番号487，2022年6月23日承認）。

【結果】

1．職業コミットメント（情緒的，功利的，規範的）と職務満足感，就業継続意思との相関：職務満足感とは，情緒的，規範的の順で相関を認め，功利的とはほぼ相関なしであった。職業継続意思とは，情緒的、規範的，功利的の順で相関が認められ，職務満足感と就業継続意思の間にも相関を認めた。

2．職業コミットメントに対する職種，他施設での勤務経験の影響：職種の違い（看護師，介護福祉士），他施設での勤務経験の有無の平均値の間に有意差はみられなかった。

3．職業コミットメントと就業継続意思：情緒的職業コミットメントでは，主効果を認め，多重比較でも就業継続意思が高い者は情緒的職業コミットメントも高いということがわかった。また，功利的，規範的でも主効果が認められ，多重比較でも就業継続意思が高い場合，功利的，規範的は有意となる傾向がみられることがわかった。

4．職業コミットメントに対する経験年数，在籍年数，専門学歴の影響：経験年数では5項目（情緒的2項目，功利的2項目，規範的1項目），在籍年数では2項目（情緒的1項目，功利的1項目），専門学歴では5項目（情緒的2項目，功利的1項目，規範的2項目）に有意差が認められた。

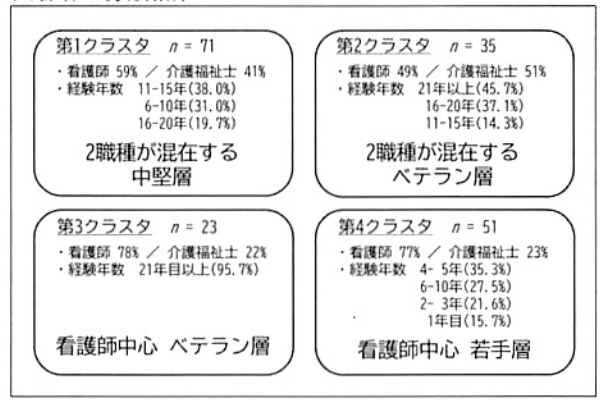
5．回答者の分類：階層的クラスター分析により，4つのクラスター（2職種が混在する中堅層，2職種が混在するベテラン層，看護師中心のベテラン層，看護師中心の若手層）に分類した（Figure 1）。

【考察】

職業コミットメントと就業継続意思，経験年数，現職場での在籍年数，資格取得課程の影響については先行研究と一致しており，職業コミットメントに影響を及ぼす要因であることが示唆された。しかし，職種，他施設での勤務経験の有無による影響については，本研究では有意差が認められなかった。これは調査データが限定的であることが影響していると考えられ，本研究結果のみで職種，他施設での勤務経験の有無による影響について，言及することはできない。今後，さらに多くのサンプルを用いて，検討を重ねる必要がある。

就業を継続していくには，自身の職業に対してコミットしていること，経験年数や在籍年数の長さがコミットメントの強さに影響を及ぼすことも明らかになった。本研究の回答者は，自分の独自性を生かして仕事に取り組んでいる中堅層を中心に，自身の職業にやりがいや愛着，誇りをもち，長期的に就業しているベテラン層も多い集団であった。しかし，集団の多くを占める中堅層は，結婚や出産などのライフイベントや専門職者としてのキャリアアップ，スキルアップのための辞職，転職などの選択に迫られ，就業継続意思が揺らぐ時期ともいわれている（酒井・矢野・羽田野・沢田，2004）。したがって，職業コミットメントが変動することなく，安定した状態で勤務できる環境を整えることが就業を継続させる要因であり，職員を十分に支援する体制を整えていくことが就業継続につながるということが示唆された。

Figure 1
回答者の分類結果



【利益相反】

本研究における利益相反（COI）は存在しない。

【引用文献】

酒井淳子・矢野紀子・羽田野花美・沢田忠幸（2004）．30歳代女性看護師の専門職性と心理的well-being－組織コミットメントおよび職業コミットメントのタイプによる検討－　愛媛県立医療技術大学紀要，*1*(1)，9-15.

（ふるや　かおり）

パスワードの使い回しを防ぐには？

防護動機理論に基づく検討

○中井宏　秋保亮太（非会員）
（大阪大学大学院人間科学研究科）

キーワード：インターネットセキュリティ、パスワード使い回し、防護動機理論

【目的】日常生活において、様々なウェブサイトでパスワードの登録を求められるが、サイトごとに異なるパスワードを作ることが推奨されている。パスワードを使い回していると、一つのサイトからパスワードが漏洩した際の被害が大きくなるためである。しかし覚えることの大変さや面倒さから忌避されやすく、IBM Corporation（2021 年 6 月プレスリリース）によれば、82%の回答者がパスワードを使い回していた。そこで本研究では、防護動機理論に基づき、パスワードの使い回しを予防する策の検討を目的とした。

【方法】2020 年 12 月に、SNS で協力者を募り、オンライン調査を実施した。概要説明ページの後、調査協力に同意した回答者には、パスワード使い回しの予防啓発資料を呈示した。資料は 3 種類あり、防護動機理論の脅威評価（脆弱性や深刻度）と恐怖に言及した資料 A、これに加えて反応効果性認知に言及した資料 B、更に反応コスト認知や自己効力感に影響を与えうる情報を示した資料 C であった。参加者はいずれかの資料をランダムに呈示された。

啓発資料の呈示後、あるサイトに ID 登録する場面を想定させ、登録に必要なパスワードを作成するよう求めた。場面想定させるサイトにも 3 種類があり、パスワードの作成以外にニックネームの入力だけを求める想定の統制条件、パスワードの他に氏名・性別・生年月日・家族構成・職業の入力を求める想定の情報開示度低条件、情報開示度低条件で求めた項目に加えて携帯電話番号・メールアドレス・住所・クレジットカード情報・顔写真を求める想定の情報開示度高条件があった。参加者によって 3 条件が呈示される順序は異なった。

パスワードは、半角英数字と半角記号のみを用いて 6 文字以上で作成するよう求め、安全のため普段使用しているパスワードは避けることを教示した。分析には、3 条件ごとのパスワードの文字数と強度を用いた。強度は、主観的な自信を問う 1 項目（「1：とても弱い」から「5：とても強い」）と、パスワードチェッカー（https://password.kaspersky.com/jp/）の評価を用いた。アルゴリズムは公表されていないが、当時、10 段階で評価される仕様だった。

この後、年齢と性別、普段どの程度パスワードを使い回しているかを問う 1 項目（「1: 全くしない」から「5: よくする」）と、防護動機理論に基づき、深刻度、脆弱性、恐怖、反応効果性、自己効力感、反応コスト、行動意図を 2 項目ずつ計 14 項目（「1：全くそう思わない」から「5：とてもそう思う」）に回答を求めた。最後に、3 条件それぞれで作成したパスワードの再入力を求め、間違えた回答者は分析から除外した。有効回答は 101 名（男性 73 名、女性 28 名）で、平均年齢は 23.45 歳（$SD = 7.04$, range 14–56）、啓発資料 A が 34 名、B が 31 名、C が 36 名であった。

【結果】作成されたパスワードについて、資料 3 種類と 3 条件を独立変数とする二要因混合計画の分散分析を行った（Table 1）。情報開示度高条件では、情報開示度低条件や統制条件よりも長く強いパスワードが作成された。また良いパスワードの作成方法にも言及した啓発資料 C を読んだ参加者は、パスワード使い回しのリスクのみ記された啓発資料 A を読んだ参加者に比べ、強固なパスワードを作成した。

防護動機理論の脅威評価や恐怖、対処評価の項目に、啓発資料による差異は見られなかったが、行動意図に対しては啓発資料による主効果が認められ（$F(2, 98) = 3.23$, $p < .05$）、資料 C を読んだ人（$M = 3.57$）は A（$M = 2.85$）や B（$M = 3.03$）の人よりも、今後パスワードの使い回しを避けようとすることが分かった。

なお行動意図に影響する要因を探索的に検討するため、啓発資料の区別をせず 101 名分のデータを用いて重回帰分析（ステップワイズ法）を行ったところ（Table 2）、自己効力感や恐怖を高く感じた人ほど使い回しを避けようとする意図が高いこと、普段からの使い回しがちな人ほど意図が低いことが示された。

【考察】パスワード使い回しを予防するための啓発資料 3 種を用い、その効果を検討した結果、「コアパスワード方式」として知られる覚えやすく使い回さないパスワード作成法を紹介した資料 C の有効性が示された。使い回しのリスクを強調するだけでなく、パスワード自動生成ツールの活用なども含め、自己効力感を高めるような介入が必要だろう。

【付記】本研究のデータは，著者らが指導した中井梨恵子氏による大阪大学人間科学部 2020 年度卒業論文の一部を再構成したものである。なお，本論文に関して，開示すべき利益相反関連事項はない。

（なかい ひろし・あきほ りょうた）

Table 1
啓発資料・情報開示条件ごとのパスワード文字数・強度・自信の平均値と分散分析結果

	資料A			資料B			資料C			資料	条件	交互作用
	統制	低	高	統制	低	高	統制	低	高	F	F	F
文字数	9.24	9.53	10.41	11.42	11.28	13.00	12.56	12.19	13.75	2.49 †	17.03 ***	0.53
強度	4.53	4.94	5.56	6.03	5.84	7.16	6.61	6.39	7.56	5.03 **	9.91 ***	0.42
自信	2.94	3.03	3.35	3.00	3.00	3.52	3.56	3.56	3.75	3.32 *	10.98 ***	0.79

†: $p < .1$, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

Table 2
使い回し防止の行動意図に対する重回帰分析結果

	B	β	t	p	95% CI		VIF
(定数)	1.81		3.01	.003	0.62	3.00	
自己効力感	0.47	0.46	5.59	.000	0.30	0.64	1.89
恐怖	0.34	0.30	4.67	.000	0.19	0.48	1.11
普段の使い回し頻度	-0.28	-0.27	-3.22	.002	-0.45	-0.11	2.01

$F(3, 97) = 60.02$, $p < .001$, adj. $R^2 = .64$

理想について考えること、義務について考えることが社会的相互作用の度合いに与える影響について

－仮想世界ゲーム電子版を用いた研究展開－

○柿本敏克　細野文雄（非会員）
（群馬大学情報学部）

キーワード：仮想世界ゲーム電子版，理想について考えること，義務について考えること

【目的】制御焦点研究では，促進焦点と予防焦点の実験操作として，それぞれ実験参加者に「理想について考えること」（以下，理想思考）と「義務について考えること」（以下，義務思考）を求める手続きがしばしば用いられる（Higgins, Idson, Freitas, Spiegel, & Molden, 2003; 外山・長峯・湯・三和・黒住・相川, 2017）。例えば，理想に関わる語句を評価させる，列挙させる，「理想として叶えたいこと」について記述させる等である。これらの操作により実験参加者の自己制御の焦点を特定の方向に向けさせることが期待されている。本研究では制御焦点の文脈で用いられてきたこれらの実験操作が，効果を生む新たな領域の探索を目的とする。制御焦点理論の予測と別に，これらの実験操作が，広く人々の間の社会的相互作用の量その他に影響を及ぼすかを探る。

探索場面として，仮想世界ゲーム（広瀬, 1997）と呼ばれるシミュレーションゲームを用いる。そこでは約40人のプレーヤーが４つの地域いずれかの住民として生き抜くことが求められる。半日かけて実施される大規模なゲームであり，プレーヤーの行動レパートリーの広さに特徴がある。本研究では，特にその電子版を用いる。参加者間の会話や取引を含むすべての活動が電子的に計測される特徴を活用する。

【方法】研究法の授業の一部として，70人の学生が仮想世界ゲーム電子版の２ゲームのいずれかに無作為に割り当てられた。一方のゲームでは理想思考の，他方のゲームでは義務思考の実験操作がゲーム開始直前に加えられた。理想思考の実験操作として，「中学・高校のころ」，「現在」，「大学卒業後」の３つの時期に分けて，人生において「こうありたいと思う理想」について合計６分間で自由記述をさせた。義務思考の操作には，代わりに「こうあらねばならないと思う義務」について同様に自由記述をさせた。１名の学生が機材トラブルのためゲームに参加できなかった。

実験場面として用いられた仮想世界ゲームは，地球規模の環境問題や南北問題をシミュレートする教育・研究ゲームとして開発されたものである。プレーヤーは地域内・地域間の競争や協働を経験しつつ，経済格差や貧困問題への対処，開発やそれに伴う環境問題への対応を迫られる。ゲーム開始時には「資産を増やすこと」等の個人目標への重み付け決定が求められる。ゲームには個人・団体・世界の各レベルのルールがあり，プレーヤーはこれらのルールに従いつつ個人目標を達成するよう求められる。生存のために農園で生産される食糧の入手が，資産獲得のために企業への就労や株券の購入が必要であるが，これらはすべて当事者間の交渉により行われる。プレーヤー間には他にも多様なやりとりがなされる。

このゲームに，接続されたコンピュータ上からプレーヤーが参加できるように開発されたのが仮想世界ゲーム電子版である（柿本・細野, 2010）。そこでは，プレーヤー間の会話（「チャット」を使う）や取引などの社会的相互作用（メッセージを送る・受け取る，モノを売る・買う，雇用する・される等）を含むゲーム上の活動が全て電子的に記録される。

【結果】ゲーム内での社会的相互作用の代表例として，プレーヤー間の会話のうち，各プレーヤーの発言回数・発言量をゲームの電子記録から抽出し，条件（理想思考・義務思考）ごとに整理した。別の指標として，ゲーム内の取引等のアクション数についても同様にした（Table 1）。

実験操作の効果は，発言回数（Mann-Whitney の U 検定，U =422.50, p =.038, r =.24）と発言量（同 U =456.00, p =.095, r =.20）で有意または有意傾向であった。両者ともに理想思考条件で義務思考条件よりも大きかった。また実験参加者によるゲーム内個人目標の決定作業は，理想思考・義務思考の実験操作後であったため，そこに実験操作の影響が見られるかを確認した（Table 2）。「権力を獲得する」の重み付け値は，理想思考条件で義務思考条件よりも大きい傾向にあった（F (1, 62) = 2.90, p = .094, η^2 = .047）。「資産を増やす」「人気を得る」には違いが見られなかった。

Table 1　理想思考・義務思考ごとのゲーム内発言回数，発言量，アクション数の平均値（標準偏差）

計測項目	理想思考	義務思考
発言回数（回/人）	97.83 (49.34)	76.97 (44.93)
発言量（字数/人）	1,957.83(1357.88)	1,520.59(1,032.05)
アクション数（/人）	56.40(28.15)	56.35(27.63)

Table 2　理想思考・義務思考ごとの個人目標の重み付け平均値（標準偏差）

個人目標内容	理想思考	義務思考
「資産を増やす」	4.22 (1.45)	4.74 (2.14)
「権力を獲得する」	2.72 (1.04)	2.23 (1.16)
「人気を得る」	3.06 (1.09)	3.03 (1.43)

（重み付け値の範囲は0～10。ただし３つの合計値が10と指示。）

【考察】理想思考が義務思考よりも，発言回数や発言量を増やす作用のあることが分かった。同様の効果が予想されるアクション数に差が見られなかった理由は不明である。個人目標「権力を獲得する」の重み付けに僅かに影響が見られたことから，これらは一部の個人目標の媒介により生じた可能性もある。シミュレーションゲームの中で見られたこれらの結果が，現実世界でも生じるかの検討が望まれる。

【利益相反】利益相反のある団体・組織はない。

【引用文献】

Higgins, E.T., Idson, L. C., Freitas, A. L., Spiegel, S., & Molden, D. C. (2003). Transfer of value from fit. *Journal of Personality and Social Psychology, 84*, 1140-1153.

広瀬幸雄編（1997）.シミュレーション世界の社会心理学: ゲームで解く葛藤と共存 ナカニシヤ出版

柿本敏克・細野文雄（2010）.状況の現実感尺度の再検討：２つの仮想世界ゲーム実験から 実験社会心理学研究, *49*, 149-159.

外山美樹・長峯聖人・湯 立・三和秀平・黒住 嶺・相川 充（2017）. 制御適合はパフォーマンスを高めるのか?—制御適合の種類別の検討 心理学研究, *88*, 274-280

（かきもと としかつ・ほその ふみお）

金融行動の個人差とリスクマネジメントが詐欺脆弱性に与える影響

○佐々木美加[1]
([1]明治大学商学部)

キーワード：金融詐欺，金融知識，金融心理尺度

【目的】

日本国内で年間300億円以上の特殊詐欺が生じており，これを未然に防ぐための心理学的研究が進められている。しかし金融詐欺に関する心理学的研究はあまり多く進んでいない。本研究では，金融詐欺の受けやすさ（詐欺脆弱性）の心理学的メカニズムを解明し，詐欺に対して脆弱になりやすい個人差を明らかにし，詐欺脆弱性が高い人に対する詐欺への予防対策を目指す。佐々木(2019)による金融詐欺に関する調査研究では，リスクマネジメントが高いと危機意識が強められ，絵画による否定的感情喚起が詐欺脆弱性を弱めて危機意識を高める効果を見出した。この絵画の感情喚起効果は，調査ではweb上で2分間視聴する条件であり，一般生活で銀行のATMなどでそうした状況が再現できるとは考えにくい。そこで，web調査上で見られた絵画による否定的感情が，一般生活状況でも生じるかどうかを検討するため，本研究では対面実験で追試を行う。さらにリスクマネジメントだけではなく，金融に対する認知や態度についての心理測定を行い，金融行動に関するパーソナリティと経済的リスクマネジメントが詐欺脆弱性に与える影響を実験的に検討する。

【方法】

実験は，2023年3月6日～3月10日に関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構（RISS）内の実験室で行われた。実験参加者は，RISSを通して募集された社会人20人であった（男性8人，女性12人，平均年齢55.0歳，SD=13.57)。実験参加者は，佐々木(2019)の実験で用いられた詐欺被害に遭う場面の絵画が置かれた机で，佐々木(2019)で測定された金融知識（北村・中嶋, 2016)，経済的リスクマネジメント（高坂，2018)，詐欺脆弱性（大工・阿形・釘原，2016)，金融心理尺度（佐々木・大久保，投稿中）および運用したい金融商品について回答を求められた。回答後，現在の感情（小川・門地・菊谷・鈴木，2000）のうち肯定的・否定的感情が測定された。

【結果】

実験の結果，詐欺被害絵画あり条件の方が詐欺被害絵画なし条件よりも，否定的感情が強いことが確認された（F(1, 11)=4.72, p<.05)。詐欺脆弱性に対する，金融行動の個人差，金融知識，経済的リスクマネジメント，金融心理尺度の下位尺度の得点，金融知識得点，経済リスクマネジメント得点，および否定的感情状態が与える影響を検討するため，詐欺脆弱性認知を目的変数，金融心理尺度のうち，損失不安，個人的能力欠如，金融情報考慮，信憑性依拠，コスト重視志向，および金融知識得点，経済リスクマネジメント得点，否定的感情を説明変数として重回帰分析を行った。その結果を表1に示す。表1に示すように，金融行動の個人差として，損失不安が高いほど詐欺脆弱性認知は高まり，金融情報を考慮するほど詐欺脆弱性認知は弱められることが示された。また，経済的リスクマネジメント得点が高いほど詐欺脆弱性認知は弱められることが示された。すなわち損失不安が高い場合は，詐欺脆弱性認知が高められ詐欺に被害にあいやすくなることがうかがえる。一方，金融情報を考慮し，経済リスクマネジメントを高めれば高めるほど，詐欺脆弱性は弱まり，詐欺の被害に遭いにくくなると考えられた。

Table. 1. 金融行動の個人差，経済指標得点，感情状態が詐欺脆弱性認知に与える影響

		詐欺脆弱性認知
金融心理尺度	損失不安	.93*
	個人的能力欠如	-.97
	金融情報考慮	-.73*
	信憑性依拠	-.20
	コスト重視志向	.47
経済指標得点	金融知識得点	-.05
	経済的リスクマネジメント得点	-.49*
感情	否定的感情	.45
R^2		.51
F		3.38*

【考察】

本研究の結果は，佐々木（2019）と同様に経済的リスクマネジメントが詐欺脆弱性を弱める効果が見られた。一方，調査の結果とは異なり絵画刺激による感情の効果が有意ではなかった。これは実験参加者が少ないこともありその点はさらなる追試が必要だろう。

【利益相反】本研究において利益相反はありません。

【引用文献】

大工泰裕・阿形亜子・釘原直樹. (2016). 被害者への共感的観察が脆弱性認知に及ぼす影響: 詐欺被害事例を用いた検討. 対人社会心理学研究, 16, 21-26.

北村智紀・中嶋邦夫. (2016). 終身年金バイアスと公的年金満足度・金融資産保有への態度. 日本経済研究, (73), 1-30.

高坂,康雅. (2018). 大学生における心理的自立と経済的自立・社会観との関連. 和光大学現代人間学部紀要, (11), 123-134.

小川時洋・門地里絵・菊谷麻美・鈴木直人. (2000). 一般感情尺度の作成. 心理学研究, 71(3), 241-246.

佐々木美加. (2019). 金融に関連する能力とパーソナリティが詐欺被害リスクと詐欺脆弱性に与える影響. ソシオネットワーク戦略機構ディスカッションペーパーシリーズ, 74, 1-9.

佐々木美加・大久保重孝(投稿中). 金融行動に関する審理尺度の開発.

（ささき みか）

研究発表（ポスター発表）

部活動指導者育成指標の作成に関する研究

○吉田浩之[1]　来田宣幸[2]
([1]群馬大学共同教育学部　[2]京都工芸繊維大学)
キーワード：教員育成指標，部活動ガイドライン，部活動指導員

【目的】

「部活動指導員制度」（文部科学省，2017a）が施行され，部活動指導員に対する教育委員会等による研修実施が求められているが，体系的・計画的な教育研修のあり方は手探りの段階にある。一方，教育公務員特例法一部改正（文部科学省，2016）により，都道府県及び政令指定都市には学校教員に求められる資質・能力の指標（教員育成指標）の策定とそれに基づく教員の研修が求められるようになった。そこで，本研究では，教員育成指標の概念や作成方法を参考に，「部活動を対象にした指導者育成指標」（以下，部活動指標）の作成に取り組み，そのプロセスで実効性のある作成方法について検討することで教育に関する現場での取組の特徴および留意点を応用心理学的に明らかにすることを目的とした。

なお，「教員育成指標」は「観点」と「観点ごとの指標内容」で構成され，文部科学省（2017b）が「指標の内容を定める際の観点」（以下，文科省観点例）を7項目例示している。また，「部活動ガイドライン」（スポーツ庁，2018）には，部活動指導者に求められる資質･能力に関連する内容が記されている。

【方法】

部活動の教育研修プログラムの策定について相談を受けたA県B市教育委員会（以下，B市教委）を対象に，第一著者と研究協力者2名（B市教委指導主事（以下，B主事）と教育学専門の大学教員）で，部活動指標の作成を進め，そのプロセスを振り返った。3名の会議は，2021年11月中旬に第1回を対面で実施し，その後は12月から2月下旬までにzoom会議を5回実施した。会議と会議の間には，メールや電話で確認や資料送付等のやりとりを行った。また，部活動指標の作成後に，B市教委関係者を対象に部活動指標に関するヒアリング調査を行った。

【結果及び考察】

表1は，部活動指標の具体化に取り組む段階での中心的な課題（①②）と検討結果である。また，表2は作成した部活動指標の観点と文科省観点例の対応表である。なお，B市部活動指標は全8観点37指標で作成した。

指標作成後に，B主事を通してヒアリング調査を行い，次の成果と課題が得られた。1点目は，教員育成指標と部活動ガイドラインという公示された概念や手続き等を組み合わせた作成方法のため，新規的ではあったが教育委員会として理解と承認が容易であった。2点目は，A県の教員育成指標と関連付けて作成されているため学校現場に説明しやすかった。3点目は，すでに教員育成指標に基づく教員研修を実施しているため，部活動指標に基づく研修は計画しやすかった。4点目は，各学校での部活動指標の活用方法の検討を進める必要があった。

以上より，本研究は，近年発出された2つの教育政策を組み合わせた新規的な取組であったが，それぞれが別個に教育現場ですでに実施されていることから，部活動指標には汎用性が期待できることがうかがわれた。一方，各学校の各教員や部活動指導員を対象にした具体的な活用方法について今後検討していく必要がある。

【利益相反】無

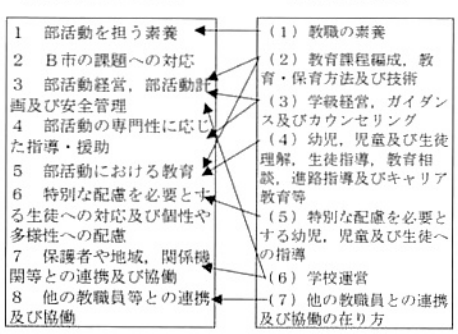
【引用文献】

文部科学省（2016）教育公務員特例法の一部を改正する法律（平成28年法律第87号）
文部科学省（2017a）学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）（28ス庁第704号）
文部科学省（2017b）公立の小学校等の校長及び教員としての資質向上に関する指標の策定に関する指針（平成29年文部科学省告示第55号）
スポーツ庁（2018）運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

表1　部活動指標の作成段階での中心的課題と検討結果

課題①　指標の観点をどのように具体化していくのか。
検討段階のやりとり内容例
・文科省観点例の文言をそのままは使えない。一方，「教養の素養」という観点のように，「部活動を担う素養」と文言の修正・追加により活用しやすい観点もある。 ・「A県の教員育成指標」の観点は，学習指導や生徒指導など，各観点の範囲が広く抽象的であり，そのままの活用は難しい。 ・アンケート結果等を反映させるとB市独自の指標内容が生まれる。必要に応じて新たな観点を立てていく。
課題②　指標内容をどのように具体化していくのか
検討段階のやりとり内容例
・部活動ガイドラインには，指導を担う資質・能力に関連する内容がさまざまな箇所に記載されているため，記載箇所・内容を丁寧に確認しながら該当する内容を抽出する。 ・「A県の教員育成指標」は部活動指標の上位規定に位置づけて，その指標内容や意味する内容を優先的に部活動用に活用する視点は妥当である。 ・さまざまなアプローチで抽出した資質・能力の内容を抽出すると内容の重なりが想定されるが，やがてそれらを統合するようにして，必要な内容が漏れないように留意する。
検討結果
・文科省観点例の7項目を部活動用に文言修正し，当初案として観点を7つ具体化する。 ・指標内容は「A県の教員育成指標」の適用可能な内容を部活動用に文言修正し，それらを上記の各観点に位置付けていく。次に「部活動ガイドライン」に記されている資質・能力の関連内容を抽出しまとめ，それらを上記の各観点に位置付けていく。さらに，実態や課題を把握するアンケート・ヒアリング調査から指標内容をまとめ，上記の各観点に位置付けていく。 ・指標内容がそろい，7つの各観点に位置付けようとしながら，必要に応じて新しい観点の追加や観点の統合等を行い，最終的に観点と観点ごとの指標内容をまとめていく。

表2　部活動指標の観点と文科省観点例の対応表



（よしだ　ひろゆき・きだ　のりゆき）

ロール・プレイングの可能性

教育現場をささえる取組み

○時田　学
（日本大学商学部）

キーワード：ロール・プレイング・生徒指導提要・コミュニケーション

【目的】

教育現場の教育的活動はコミュニケーションを通じて実行されているが，その教育的活動の１つの在り方を示すものとして，生徒指導に関する手引きが刊行されている。その出版物として，文部省が 1965 年に「生徒指導の手引き」（文部省，1965）を公刊し，教育現場での活用に供していた。この「生徒指導の手引き」（文部省，1965）はその後，1981 年に「生徒指導の手引」として改訂され，生徒指導の基本的な指導・資料として供されていた（文部科学省，1981）。さらに，2010 年に「児童生徒にかかわるすべての教職員や、教育委員会をはじめその他教育にかかわる多くの関係者などに読まれ、具体的な指導や研修に大いに活用されることで、生徒指導の一層の充実が進められること」（文部科学省，2010,）として「生徒指導提要」（文部科学省，2010）が示された。しかし，その後社会状況，法整備の状況変化を背景として「生徒指導提要」（改訂版）の改訂版が示された（文部科学省，2022）。この中では，特に「近年、いじめの重大事態や暴力行為の発生件数、不登校児童生徒数、児童生徒の自殺者数が増加傾向にあるなど」（2022，文部科学省）という事態に対する今日的な対応がなされていると指摘されている（高橋，2023）。

そこで，今回の改定の主たる目的の一つと考えられる「いじめ」の部分の記述を中心に検討したところ，第４章いじめ，の中の 4.3.2　いじめ未然防止教育　に「学校においては、道徳科や学級・ホームルーム活動などの時間に、実際の事例や動画などを教材に児童生徒同士で検討したり、いじめ場面のロールプレイを行ったりするなど、体験的な学びの機会を用意することが求められます」という文中記述が認められた。

「生徒指導提要」（改訂版）（文部科学省，2022）の趣旨から鑑みると，本書の教育の現場における影響力は大きいと推察される。そこで，上記の記述内容について検討するため，現時点での同書籍に対する研究動向について調査し，今後現場で質の高いコミュニケーションが継続的に行われ，効果的な教育的活動が展開される可能性を高めるための基礎的資料作成目的として，以下の検討を行った。

【方法】

「生徒指導提要」（改訂版）（文部科学省，2022）の現在における研究動向，特にロール・プレイング（同書ではロールプレイと表記），と学習指導要領（文部科学省，2017）で使用されている役割演技などの語句について，文献・資料上の出現状況，を確認した。確認対象としては，大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（NII）の提供している CiNii（NII 学術情報ナビゲータ）を用いて行った。検索時期は，2023 年５月時点，６月時点の複数回行った.

【結果】

はじめに「生徒指導提要」を検索語として検索を行ったところ，すべての著作物，226 件，研究データ０件，論文 196 件，本 27 件，博士論文０件，プロジェクト３件という結果が示された。次に，今回の「生徒指導提要」（改訂版）を検索語として検索を行ったところ，すべての著作物，25 件，研究データ０件，論文 23 件，本２件，博士論文０件，プロジェクト０件という結果が示された。また，「生徒指導提要」と「いじめ」を検索語として検索を行ったところ，すべての著作物，11 件，研究データ０件，論文 10 件，本１件，博士論文０件，プロジェクト０件という結果が示された。さらに，「生徒指導提要」（改訂版）と「いじめ」を検索語として検索を行ったところ，すべての著作物，１件，研究データ０件，論文１件，本０件，博士論文０件，プロジェクト０件という結果が示された。

一方，生徒指導提要と組み合わせて役割演技・ロールプレイ・ロール・プレイング（ロールプレイングを含む）を検索語として検索を行ったところ，いずれの場合も，すべての著作物，０件，研究データ０件，論文０件，本０件，博士論文０件，プロジェクト０件という結果が示された。また，生徒指導提要（改訂版）と組み合わせて，役割演技・ロールプレイ・ロール・プレイング（ロールプレイングを含む）を検索語として検索を行ったところ，いずれの場合も，すべての著作物，０件，研究データ０件，論文０件，本０件，博士論文０件，プロジェクト０件という結果が示された。

【考察】

「生徒指導提要」（改訂版）（文部科学省，2022）が刊行された時期を考慮すると，現時点の検索結果としてすべての著作物で 25 件であることは，「生徒指導提要」（文部科学省，2010）のすべての著作物が 226 件であり，その１割以上に相当することから，本発行物への関心の高さを示すものと考えられる。またその中には，学会の意見表明なども含まれており，関係者の現状についての認識の強さが明らかになったと考えられる。

一方で，検索語として，役割演技・ロールプレイ・ロールプレイング（ロール・プレイングを含む）を検索語に加える形で生徒指導提要（改訂版）との検索を行った結果については旧版の「生徒指導提要」を検索語として検索しても，現在有効な著作物は確認されなかった。ロール・プレイングを行う際には留意点が多くある（時田，2019）ことを踏まえると，情報が些少な状況にある現在，速やかにロール・プレイングや役割演技についての有効な活用法や学校での活用にあたって留意すべき点などを具体的かつ明確化し，それらの情報を集積・提供していくこと求められる。

【利益相反】本研究における利益相反（conflict of interest; COI）は認められない。

【引用文献】

文部省　1965　生徒指導の手びき
文部省　1981　生徒指導の手引（改訂版）
文部科学省　2010　生徒指導提要
文部科学省　2017　小学校学習指導要領
文部科学省　2022　生徒指導提要（改訂版）
高橋典久　2023　概要解説「生徒指導提要（改訂版）」の概要　生徒指導提要（改訂版）前文と解説　学事出版　Pp10-13
時田　学（2019）ロール・プレイングを教育現場の中で生かすために　日本応用心理学会第 86 回大会発表論文集　81

本研究を行うにあたり，日本大学商学部から研究助成を受けた。記して感謝する。

（ときた　がく）

高校入学時の時間的展望と精神的健康が登校回避感情に与える影響

―高校入学時オリエンテーションでの調査より―

○和田万紀[1]・小野村樹美[2]・須永範明[3]
[1]日本大学法学部　[2]都立神代高等学校　[3]日本大学文理学部

キーワード：時間的点展望・精神的健康・登校回避感情・ストレス反応

【目的】本研究は、高校入学時のオリエンテーションで新１年生に自尊感情と時間的展望、心身のストレス反応が登校回避感情に与える影響を調査して、高校生活への適応支援要因を検討することを目的とする。

【方法】都立Ａ高等学校１年生を対象に 2022 年４月入学オリエンテーション時に調査を行った。**倫理審査**　日本大学大学院社会情報研究家倫理委員会(承認番号HP21S008)及び高等学校の許諾を得た。保護者と本人の両者の承諾書を得られた場合のみを分析対象とした。**質問項目と評定**　各項目に自分の気持ちにあてはまる程度をあてはまらない(1)、あまりあてはまらない(2) どちらともいえない(3) ややあてはまる(4) あてはまる(5) の５段階評定した。**自尊感情**　東京都自尊感情尺度(2013)、ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版(桜井、2000)より 16 項目。**時間的展望**　白井(1994)より肯定的過去展望、否定的過去展望、現在展望、未来展望の各２項目。**ストレス反応**　三浦(2006)より身体ストレス反応(食欲無し、不眠、頭痛・腹痛・発熱)と感情ストレス反応(怒り２項目、嫌悪、不安各１項目、抑うつ感３項目)。**登校回避感情**　学校に行きたくない、学校がなくなればよい。**無力感**　朝起きてから何もやる気がしない、気が散って集中できない。**親の理解認知**　親(親に代わる人)は私をよく理解している。**勉強意欲**　勉強に積極的である。**承認欲求**　誰も自分のことを認めてくれない。認められていないと思う程承認欲求が高い。**対人スキル**　自分の思いを相手に言葉で言うことが難しい。**登校状況**　中学校でほぼ毎日登校した場合のみ分析対象とした。

【結果】高校新１年生 188 名を分析対象とする。図１に評定平均値と SD、相関係数、表１に共分散構造分析結果 (GFI=0.935・AIC=4491.756・BIC=4621.214・χ2(df=65) =78.542、p=.121・RMSEA=0.033・CFI=0.981) を示す。対人スキル、承認欲求、親の理解の認知は、肯定的及び否定的過去展望と相関関係を持ち自尊感情へとパスが認められ、自尊心の自己主張・自己決定は感情ストレス反応に、自己評価・自己受容は身体及び感情ストレス反応にパスが認められた。感情ストレス反応は、否定的過去展望、承認欲求、否定的過去展望から直接パスが認められた。現在展望は親の理解認知、自尊心、感情ストレス反応から直接パスが認められて、登校回避感情へとパスが形成された。一方未来展望は、自尊心の自己評価・自己受容と勉強意欲から直接パスが認められたのみであった。無力感は身体及び感情ストレス反応の両者から直接パスが認められた。

【考察】対人スキル、承認欲求、親の理解認知は相互に影響して自尊感情へと影響した。肯定的過去展望は自尊感情を介して現在展望へ、また否定的過去展望は感情ストレス反応を介して現在展望へ影響した。現在展望は。自尊心と親の理解認知、感情ストレス反応から影響を受け、登校回避感情へと影響する。対人スキルの向上が自尊感情の維持高揚を経て高校生活適応への支援要因と考えられる。また親の理解認知が直接現在展望やストレス反応へ影響するため親子間での認知のずれやストレス反応が登校回避感情や無力感へ影響するため不応兆候指標として有効である。

【利益相反】利益相反はありません。

【引用文献】

桜井茂男（2000）．ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討　筑波大学発達臨床心理学研究，12，165-171.
白井利明（1994）．時間的展望体験尺度の作成に関する研究　心理学研究，65，54-60.
東京都版自尊感情評価シート(平成 24 年３月発行)　東京都教職員研修センター紀要，11
三浦正江（2006）．中学校におけるストレスチェックリストの活用と効果の検討　教育心理学研究，54，124－134.

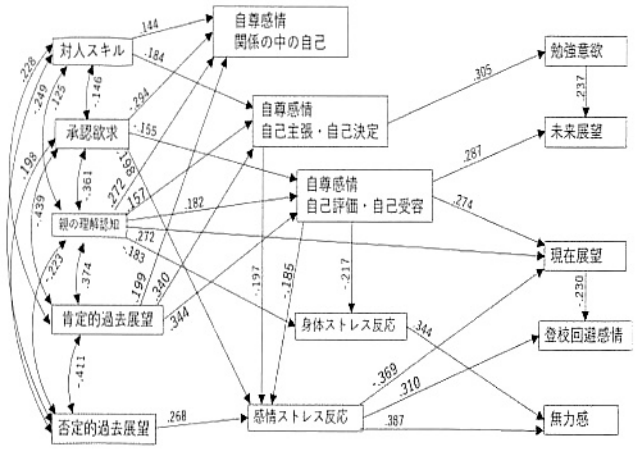


図１　共分散構造分析

表１　評定平均値、標準偏差、相関係数 (*p<.0001 **p<.001 *p<.01 %p<.05)**

	MEAN	(SD)										
自尊感情	3.82	(.61)										
肯定的過去展望	3.81	(.97)	.54***									
否定的過去展望	2.73	(1.02)	-.23*	-.41***								
現在展望	3.80	(.96)	.55***	.41***	-.32***							
未来展望	3.78	(1.10)	.35***	.23*	-.15%	.17%						
ストレス身体反応	2.15	(.99)	-.24**	-.25**	.17%	-.30***	-.02					
ストレス感情反応	2.67	(1.02)	-.48***	-.42***	.40***	-.55***	-.17%	.46***				
登校回避感情	2.56	(1.23)	-.27**	-.20*	.17%	-.40***	-.09	.26**	.44***			
無力感	2.70	(1.20)	-.35***	-.33***	.26**	-.38***	-.21*	.52***	.55***	.30***		
勉強意欲	3.09	(1.07)	.28***	.05	-.02	.16%	.28***	-.12	-.13	-.09	-.19*	
親の理解	4.17	(1.05)	.44***	.37***	-.22*	.45***	.12	-.24**	-.21*	-.08	-.25**	.23*
承認欲求	1.98	(1.04)	-.50***	-.44***	.20*	-.36***	-.22*	.20*	.40***	.22*	.19*	-.08	-.36***
対人スキル	2.79	(1.29)	.25**	.23*	-.25**	.21*	.04	-.16%	.27**	-.11	-.23*	-.01	.13	-.15%

（わだ　まき・おのむら　じゅみ・すなが　のりあき）

1）本研究は小野村樹美が日本大学大学院総合社会情報研究科へ提出した修士論文の再解析の一部である。都立神代高等学校の先生方、生徒と保護者の方のご協力に感謝申し上げます。

理科の実験場面における教示の内容が操作パフォーマンスに与える影響

○辻井　寿典[1]　来田　宣幸[2]
([1]大阪大学蛋白質研究所　[2]京都工芸繊維大学)
キーワード：注意、教示、操作パフォーマンス

【目的】

様々な場面で練習通り本番でも同じパフォーマンスを発揮したい、同じ操作では同じ結果が出る、同じ生成物が生成されることが求められるというような動作の再現性が求められることがある。動作について、同じパフォーマンスを出すことは難しい。動作のパフォーマンスについてはスポーツ等の動きを課題とした研究により、注意を向ける先によりパフォーマンスが影響を受け、動作の実行中に自己に意識を向けた場合はパフォーマンスが落ちることが示されている。理科の実験場面における実験操作でも同様に教示による注意を与え、注意が操作に与える影響があるのかを確認する必要がある。そこで、本研究では、繰り返し動作の再現性を高めることを求めた場合、動作のパフォーマンスを高めることが再現性を高めることに影響するのか、それとも別のなにかが影響しているのかを明らかにすることを目的とする。

【方法】

実験対象者：12 名を対象とした。使用道具：ビーカー、1.5mL チューブ、スポイト、水を用いた。内容：紙に提示された教示を読み、その教示に従って、ビーカーから 1.5mL チューブへスポイトを使用して、水 1mL を移した。水をチューブへ移す操作を 5 回繰り返し行うことを 1 試行とした。教示提示の条件：実験時、隣り合った被験者で別の教示が示されるように提示順を複数用意した。教示の内容：「○○操作してください。」の○○部分を「正確に」等を入れた操作を実行する際の意図が変化するような教示、「○○吸い込むことを意識して操作してください。」と「○○吐き出すことを意識して操作してください。」の操作を実行する際の自己に意識を向け、○○部分を空白または「正確に」等を入れた教示を示して操作を行った。データの取得方法：水を測り取る正確性、精度を評価するために、小数点第 2 位まで秤量できる電子天秤を使用し、水 1 mL を 1.00 g とし、移した水の量を秤量した。

【結果および考察】

1）設定値 1.00 g からの誤差で操作の正確性を確認

図 1 に操作の正確性を確認するため、設定値 1.00 g からの誤差の結果を示した。操作を実行する際の意図が変化するような教示条件間で操作の正確性を比較した。今回の条件の中で「慎重に」の誤差の平均値は 0.048 ± 0.033 g、「素早く」は 0.066 ± 0.058 g であり、この教示の条件間で誤差の差が最も大きくなった。「慎重に」、「素早く」の結果について対応のある t 検定を行った。その結果、「慎重に」で有意に正確性が高くなった（$t(59) = 2.18, p = .033$）。

次に、ピペット操作を実行する際の吸い込み動作、または吐き出し動作へ自己の操作の一部に意識を向けた教示条件間で操作の正確性が変化するのかを比較した。同じ意図の教示を示す教示条件の中で、「○○操作してください。」と自己の操作へ意識を向けた教示間で、操作の正確性の比較を行ったところ、有意な差はみられなかった。

今回の実験で、操作の意図が変化するような教示では、教示の意図により正確性に変化がみられた。しかし、注意を自己へ向けたことによる操作の正確性への影響はみられなかった。正確な操作を求める意図を示した「正確に操作してください。」の教示で正確な操作が発揮されなかった。動作については研究によりプレッシャーによるパフォーマンス低下が引き起こされることがあるといわれている。正確な操作を求めることがプレッシャーとなり、正確性が損なわれた可能性が考えられる。

2）個人の教示条件ごとの操作の再現性

図 2 に操作の再現性を確認するため、個人の教示条件ごとに求めた平均からの誤差の結果を示した。操作を実行する際の意図が変化するような教示条件間で操作の再現性を比較した。「慎重に」、「素早く」の結果について対応のある t 検定を行った。その結果、「慎重に」で有意に再現性 が高くなった（$t(59) = 2.37, p = .008$）。

次に、自己の操作の一部に意識を向けた教示条件間で操作の再現性を比較した。「正確に」では自己の操作「吐く」へ意識を向けた教示で再現性が高くなった。「素早く」でも自己の操作「吐く」へ意識を向けた教示で再現性が高くなった。「素早く」の「吸う」「吐く」で比較すると、操作中の「吐く」動作へ注意を向けた教示で再現性が高くなった。操作に対して意図を示した教示は無く、「吸う」「吐く」へ意識を向けた教示条件間では有意な差はみられなかった。

正確性と同様に「慎重に」と意図を示した教示で再現性が高くなった。注意を自己へ向けたことによる操作の再現性への影響は、意図の教示が「正確に」と「素早く」で自己の操作へ意識を向けた方が高くなる結果であった。動作の実行中に自己に意識を向けた場合はパフォーマンスが落ちるという先行研究とは違う結果となったが、これは操作に意図を加えた教示が影響をしているのか、パフォーマンスと再現性は注意による影響の受け方が違うのか、先行研究の動作と今回のピペット操作の動作を調整する仕組みが違うのか等、検討を行う必要がある。

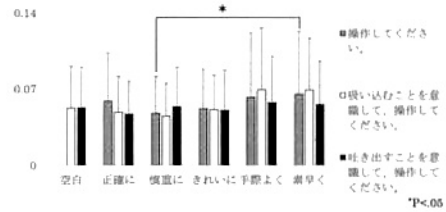


図 1「設定値 1.00g からの誤差（g）

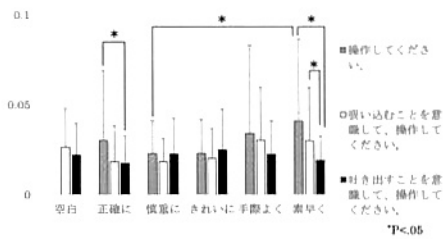


図 2 個人の教示条件ごとの操作の再現性（g）

【利益相反】利益相反（conflict of interest; COI）なし
（つじい　としのり・きだ　のりゆき）

集中の度合いが第二言語学習の効率に及ぼす影響

—Near-infrared Hemoencephalography を集中度の指標として—

山内春佳　　松田浩平
（帝塚山大学大学院心理科学研究科）　（東北文教大学人間科学部）

キーワード：nIR- HEG，集中度，第二言語学習

本研究では，第二言語の学習過程における集中度をnIR- HEGで測定し，学習効率との関係を検討した。

第二言語の学習効率には学習過程の集中度が大きく関与していると思われるが，集中度をどのように測定するのかは困難な課題である。佐藤・松田（2015）は，HEGで課題遂行中の集中度を測定できると報告しており，本研究でも学習中の集中度を測定する指標として用いることとした。以上より，「HEG（集中度）が高まると正答率が上がる」（仮説1）を検証する。

また本研究では，課題の難易度とHEGとの関連についても検討する。大石（2006）は，近接赤外線光トポグラフィ脳機能測定装置を用いて実験を行い，容易な問題では，意識的に注意を集中させなくても理解できるため，脳内の血流量の増加は少なくなる。一方，難易度が高い場合には意識を集中させて取り組むこととなり血流量の増加が多くなることを報告している。以上より，「課題の難易度が高いほどHEG（集中度）が高くなる」（仮説2)を検証する。

さらに，佐藤・松田（2015)において質問紙とPC上での評定条件によって前頭血流に差があることが示唆されていたため，課題形式（CBT・紙筆式）のHEG（集中度）の違いについても探索的に検討する。

方法

【実験参加者】大学生14名（大学2年生から4年生，男性6名，女性8名)【実験期間】2022年12月【刺激語】易しい課題として中学校2，3年生レベルの単語と文法，難しい課題として高校から大学生レベルの単語と文法を用いた。【聴覚刺激】Text-To-Speech-and Text-To-MP3 for US English / Joeyで録音したものを聴覚刺激とした。【装置】nIR-HEG，バイタルモニタープロコンポT7500M，心電図，前頭部脳波，ディスプレイ，E-prime，イヤホン　【手続き】実験配置は，難易度（易しい・難しい）と提示方法（CBT・紙筆式）を独立変数とし，参加者内要因とした。各セッションのHEGの個人内変動と課題の正答率を比較した。実験手順は，ラポール形成のためのインタビューを行い，続いて実験内容への合意を得てから生理機器を装着した。その後閉眼安静や練習試行を経て，難易度と提示方法による2×2の実験試行を行った。

結果

一般的に生理指標は個人の体系的特性や生理的特性による個人間差が大きく，個人間の変動を比較できないため，参加者ごとに個人内平均と標準偏差から実験中全区間のHEGの平均と標準偏差から各セッションのHEGのTスコア（mHEG）を算出し個人間差を比較した。

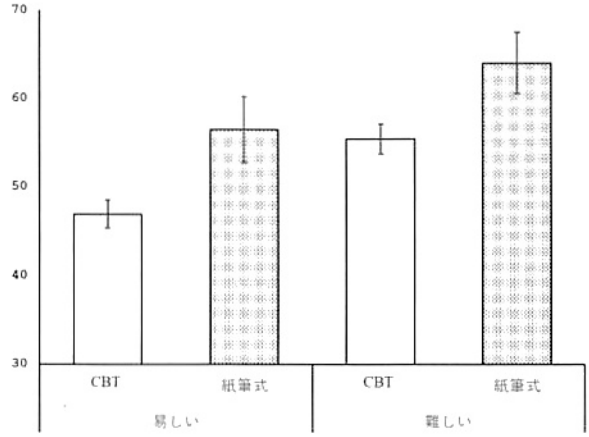
各参加者のセッション中のmHEGの値と正答率との相関を調べた。その結果，いずれも有意な相関関係は見られなかった。（易・CBT：r=.28, *ns*, 易・紙：r=-.02, *ns*, 難・CBT：r=.22, *ns*, 難・紙：r=-.11 *ns*)。

mHEGについて2要因分散分析を行った結果，難易度（$F(1, 52)$ =31.69, p<.001）と提示方法（$F(1, 52)$=40.41, p<.001）による有意な主効果を認め，有意な交互作用（$F(1, 52)$ = 0.11, *ns*）は認められなかった。難しい課題の方が，また，紙筆式の方がmHEGが高くなっていた(Table 1, Figure 1)。正答率についても同様の2要因分散分析を行ったところ，提示方法（$F(1, 52)$ = 14.60, p < .001）による有意な主効果のみ認められ，紙筆式の方が正答率が高かった(Table 1)。

Table 1 難易度と提示方法ごとの平均，標準偏差および正答率

難易度	提示方法	セッション		HEG	mHEG	正答率
易しい	CBT	1	平均	91.8	46.9	63.2%
			標準偏差	21.4	3.0	7.9%
	紙筆式	2	平均	99.9	56.4	77.1%
			標準偏差	21.5	7.1	17.3%
難しい	CBT	3	平均	100.6	55.4	53.8%
			標準偏差	24.3	3.2	9.7%
	紙筆式	4	平均	106.3	64.0	70.0%
			標準偏差	23.4	6.6	20.4%

Figure 1 難易度と提示様式によるmHEGのグラフ



注）髭線は平均値の95%信頼限界を示す。

考察

仮説1は，HEGと正答率との間に有意な相関関係がみられなかったため，支持されなかった。能力が高い人は，集中しなくても正答できる可能性が考えられ，関連がみられなかったのかもしれない。仮説2は，難易度の高い方がHEGの上昇が大きかったため，支持された。

引用文献

◇大石(2006)．脳科学からの第二言語習得論　昭和堂
◇佐藤・松田(2015)．パーソナリティ評定時における前頭血流の変化傾向　日心79回大会

（やまのうち　はるか・まつだ　こうへい）

一般大学学生の教師に関するイメージの調査について（2）

―　「教職に就きたい」「できれば教職に就きたくない」に着目して　―

○軽部幸浩[1]　藤田主一[2]
([1]日本大学商学部　[2]日本体育大学)

キーワード：大学生，教職，因子分析

【目的】

本研究は，個々の学生が「教師とはどのような職業か」，「教育実習とはどのような体験か」について，入学当初に抱いている意識構造を捉えることを目的とする。そこで得られた具体的な事実は，これから彼らを指導していく大学側にとっても価値あるものであり，今後のよりよい指導へ繋げることができると考えられる。

軽部（2021）では，山根・木多（2013）による，幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の校長等が新採用教員等若い教員に求める資質能力についてインタビュー結果から，全学校長等が重要であると考えている資質能力は，「総合的な人間力」のうちの「豊かな人間性や社会性」および「コミュニケーション力」であり，中学校長・高等学校長の発言には，「専門職としての高度な知識・技能」に分類される言葉が多かったと報告している。

本研究では，望まれる教師像を「職業としての誇りと専門性をもち，児童生徒や保護者から厚い信頼を寄せられ，また他者とのコミュニケーションをとることができる教師」と定義することとして，調査項目もそれに準じ作成した。そこで，本研究は，教職課程を履修しようと希望する学生のうち，教員採用試験を受験する学生が「教職に就きたい」「できれば教職に就きたくない」の2群に分けて教師像に対するイメージの違いについて検討を行った。

【方法】

（調査対象者）調査対象者は，日本体育大学の新入生476名のうち，回答の不備がなく「教職課程を履修しようと思っている者のうち教員採用試験を受験する」と回答した353名（男子224名，女子129名，平均18.4歳，*SD*=.47）であった。

（調査期間と調査方法）2020年5月と9月。調査方法は，Webを用いた質問フォームを利用して行った。

（分析方法）「教師について，あなたはどのように考えていますか」という教示を与えた。回答には「5．非常にそう思う」～「1．全くそう思わない」の5件法を用いた。分析は，「教師像」を構成する因子を抽出した。

【結果および考察】

Table 1　因子分析の結果（教職に就きたい）

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
Ⅰ　信用・信頼（α=.87）					
教師は生徒の様子をいろいろ知っている	0.81	-0.19	-0.07	0.14	0.07
教師は生徒の悩みを聞いている	0.76	-0.01	-0.03	0.07	0.12
教員免許状を持っていると社会から信用されるから	0.73	0.13	-0.06	0.18	0.16
教師は生徒から尊敬されている	0.66	0.23	-0.02	0.03	0.07
教師は保護者から信頼されている	0.66	0.29	-0.02	0.07	-0.23
教師は生徒が好きである	0.55	0.20	-0.06	0.14	0.05
教師は生徒中心に行動している	0.48	0.33	0.19	-0.20	0.08
教師は生徒のモデルになっている	0.47	0.34	0.19	-0.25	0.14
教師には明朗な性格の人が多い	0.46	0.12	-0.10	0.17	0.27
Ⅱ　経験（α=.62）					
教師にはボランティア活動の経験が必要である	-0.02	0.71	0.03	0.32	-0.16
教師には老人介護や障害者支援などの経験が必要である	0.09	0.61	0.09	0.07	-0.21
教師は経済的に恵まれている	0.19	0.59	-0.11	-0.03	-0.02
Ⅲ　厳しさ（α=.86）					
教師は忙しい職業である	0.04	0.01	0.91	0.03	-0.04
教師は大変な職業である	-0.13	0.05	0.86	0.05	0.08
教師は苦労が多い職業である	0.07	-0.07	0.81	0.09	0.08
Ⅳ　能力（α=.64）					
教師には幅広い知識が必要である	0.04	0.14	0.02	0.66	-0.04
教師は生徒の日常生活にもかかわっている	0.03	0.10	0.11	0.60	0.00
教師は重要な職業である	0.20	-0.07	0.36	0.46	0.01
教師には適性が必要である	0.27	0.18	0.06	0.44	0.24
Ⅴ　努力（α=.33）					
教師も人間だから，間違った行動をすることも仕方ない	0.04	0.15	0.10	0.07	0.74
教師は努力次第で誰でもなれる	0.16	-0.06	0.03	-0.15	0.57

因子間相関	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
Ⅰ	1.00				
Ⅱ	-0.33	1.00			
Ⅲ	-0.30	0.09	1.00		
Ⅳ	-0.19	-0.01	-0.13	1.00	
Ⅴ	-0.11	-0.05	0.00	-0.07	1.00

調査対象者の中から，「教職に就きたい」と思っている学生300名（男子192名，女子108名，平均18.3歳，*SD*=.48）と「できれば教職に就きたくない」と思っている学生53名（男子32名，女子21名，平均18.3歳，*SD*=.46）に分け，教師像に関する25項目について，SAS 3.8 Enterprise Editionを利用して，最尤法で因子指定なし（固有値1.0以上）でプロマックス回転による因子分析を行った（Table 1, Table 2）。さらに，抽出された因子からそれぞれの因子の尺度得点を算出した（Table 3）。

Table 2　因子分析の結果（できれば教職に就きたくない）

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
Ⅰ　安定・能力（α=.81）				
教師は安定している職業である	0.84	-0.21	0.01	-0.27
教師は経済的に恵まれている	0.67	0.00	-0.05	0.10
教師には明朗な性格の人が多い	0.63	0.03	0.12	0.17
教師は生徒が好きである	0.57	0.19	0.00	0.16
教師の仕事には自由がある	0.57	0.13	-0.05	0.05
教師には幅広い知識が必要である	0.46	0.19	0.31	-0.03
教師は高度な専門的知識を持っている	0.44	0.38	0.06	-0.25
教師は生徒のモデルになっている	0.42	0.28	-0.22	0.23
Ⅱ　信用・信頼（α=.80）				
教師は生徒の様子をいろいろ知っている	-0.12	0.75	0.13	-0.06
教師は生徒の悩みを聞いている	0.13	0.75	-0.06	-0.01
教員免許状を持っていると社会から信用されるから	-0.13	0.71	0.00	0.20
教師は生徒から尊敬されている	-0.02	0.60	-0.04	0.34
教師は生徒の日常生活にもかかわっている	0.12	0.50	-0.03	-0.24
教師は重要な職業である	0.23	0.48	0.21	-0.03
教師は生徒中心に行動している	0.23	0.40	0.01	0.27
Ⅲ　厳しさ（α=.80）				
教師は大変な職業である	0.01	-0.13	0.80	0.05
教師は苦労が多い職業である	-0.02	0.03	0.78	-0.03
教師は忙しい職業である	0.01	-0.01	0.76	-0.08
教師も人間だから，間違った行動をすることも仕方ない	-0.09	0.12	0.68	0.04
教師には適性が必要である	0.13	0.05	0.56	0.16
Ⅳ　経験（α=.78）				
教師にはボランティア活動の経験が必要である	0.16	-0.04	0.01	0.83
教師には子育ての経験が必要である	0.38	-0.26	0.03	0.77
教師には老人介護や障害者支援などの経験が必要である	-0.27	0.17	0.03	0.72

因子間相関	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
Ⅰ	1.00			
Ⅱ	0.39	1.00		
Ⅲ	0.25	0.14	1.00	
Ⅳ	0.28	0.33	0.04	1.00

Table 3　尺度得点

	教職に就きたい	教職にあまり就きたくない
因子Ⅰ	信用・信頼（3.6）	安定・能力（3.4）
因子Ⅱ	経験（3.2）	信用・信頼（3.5）
因子Ⅲ	厳しさ（4.6）	厳しさ（4.4）
因子Ⅳ	能力（4.3）	経験（2.8）
因子Ⅴ	努力（3.8）	

() 内が尺度得点

因子ごとの尺度得点において，「教職に就きたい者」と「できれば教職に就きたくない者」で共通する3つの因子について*t*検定を行ったところ，「信用・信頼」因子では有意な差が認められなかった。また，「厳しさ」と「経験」因子については，「教職に就きたい者」の尺度得点が，「できれば教職に就きたくない者」よりも有意に高かった。このことは，「教職に就きたい者」のほうが「できれば教職に就きたくない者」より積極的な教師像のイメージを持っていたことによるものと考えられる。

【利益相反】

本発表に関して，開示すべき利益相反関連事項はない。

【引用文献】

軽部幸浩・藤田主一（2021）一般大学学生の教師に関するイメージの調査について　日本応用心理学会第87回大会発表論文集, 37.

山根文男・木多功彦（2013）. 理想の教師像についての調査研究(2)　―　学校長等のインタビューから　―　岡山大学教師教育開発センター紀要, 3, 90-97.

（かるべ ゆきひろ・ふじた しゅいち）

建設作業者における安全行動の促進要因の分析

○高橋明子[1]　三品誠[2]（非会員）　菅知絵美[1]（非会員）
（[1]労働安全衛生総合研究所　[2]有限会社サイビジョン）

キーワード：建設作業者，安全行動，質問紙調査，リスク知覚，認識・自覚

【目的】建設作業者を対象とした質問紙調査を実施し，建設作業者の安全行動を促進する要因と安全行動の関係を表す認知行動モデルを作成することを目的とした．

【方法】調査対象者と手続き：ハウスメーカーに所属する，もしくは，請負関係のある建設作業者510名を対象に調査を行った．謝礼として調査対象者1名につき1000円分の金券を贈呈した．調査は第一著者の所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得た（R4-安4-01）．

調査項目：予備調査（高橋・三品，2023）と国外の先行研究を基に，安全行動の促進要因の項目として，建設作業者の内的要因，経験的要因，他者の影響・支援要因を選定した．建設作業者の内的要因は「安全・作業に関する知識・スキル」等7カテゴリー30項目，経験的要因は「ケガ・ヒヤリハット経験」の1カテゴリー5項目，他者の影響・支援の要因は「会社・親方・先輩・上司等からの安全に関する教示・指導」等3カテゴリー10項目であった．また，安全行動の項目として，Griffin＆Neal（2000）を参考に安全遵守（5項目）と安全参加（5項目）を設定した．回答について，頻度に関する項目は「1．まったくない」から「5．非常によくある」まで，それ以外の項目は「1．まったくあてはまらない」から「5.とてもあてはまる」までの5件法で求めた．最後に，バイオグラフィーの項目5項目を設定した．

【結果と考察】分析：回答に不備があったデータを除外し，有効回答は431名であった．尺度構成を検討するために，バイオグラフィー以外の調査項目について因子分析（最尤法，プロマックス回転）を行い，14因子を抽出した（Table 1）．モデルを検証するため，他者の影響・支援が，安全・作業の知識・スキル・状況認識・判断の向上に影響し，安全・作業の知識・スキル・状況認識・判断が特定の認識・自覚へ影響し，特定の認識・自覚が安全行動へ影響するモデルを初期モデルとし，共分散構造分析を行った結果，モデルの適合度の各指標は十分な値を示さなかった（χ^2=3454.84, df=1143, p<.001; CFI=.821, RMSEA=.069, SRMR=.1560）．そのため，初期モデルの変数間の関係を探索的に修正して共分散構造分析を行った結果，モデルの各適合度の指標は概ね十分な値を示した（χ^2=2425.09, df=1145, p<.001; CFI=.901, RMSEA=.051, SRMR=.0699）．

他者の影響・支援と安全知識・作業のスキル・状況認識・判断との関係：他者の影響・支援と安全知識・作業のスキル・状況認識・判断との関係について，まず「会社・親方・先輩・上司等からの安全に関する教示・指導」を受けると作業者の「作業のスキル・状況認識・判断」や「仕事と主体的に関わる態度」が低下し，会社・親方・先輩・上司等から作業に関する指導をしすぎないことが建設作業者の学ぶ態度を高める結果となった．また，「安全に関するコミュニケーション」をとることは，「作業のスキル・状況認識・判断」を高めたが，さらに「安全遵守」と「安全参加」をすることへ直接的に影響した．Shin et al.（2015）でも安全に関する「コミュニケーション」が直接的に「安全参加」へ影響するパスが見られ，類似の結果となった．

安全知識・作業のスキル・状況認識・判断と特定の認識・自覚との関係：「安全知識」を持つことで「ケガ・事故後の自己・他者への影響の認識」を持つという作業者のリスク知覚が高まり，安全知識とリスク知覚の高まりによって「作業のスキル・状況認識・判断」が向上し，作業のスキル・状況認識・判断がとリスク知覚の高まりによって，作業方法を自分で決める「仕事と主体的に関わる態度」も形成された．また，「ケガ・事故後の自己・他者への影響の認識」を持つというリスク知覚の高まりが，正しい作業方法と効率性・作業性・安全性・正確性との関連の認識を持つことや，指導的立場になることで後輩の作業者に対する責任を自覚するという特定の認識・自覚に影響しており，リスク知覚の高まりがこれらの特定の認識・自覚へ影響する主要な変数だと考えられた．

特定の認識・自覚と安全行動との関係：「事前の片付けと効率性・作業性・安全性・正確性との関連の認識」をすることが「良い体勢・位置と効率性・作業性・安全性・正確性との関連の認識」を促進し，「良い体勢・位置と効率性・作業性・安全性・正確性との関連の認識」することが「安全遵守」をすることを有意に高めた．また，「指導的立場への就任による責任の自覚」を持つことによって，「安全遵守」と「安全参加」の両方が有意に高まった．先行研究では，建設作業者の安全知識（Shin et al.,2015）や知識・スキル（Zhang et al., 2016）が直接的に安全行動へ影響するモデルが示されているが，本研究では，「安全知識」，「作業のスキル・状況認識・判断」と「安全行動」との間に特定の認識・自覚が存在することが確認され，新しい知見が得られた．

今後はこれらの結果を基に，建設作業者の安全行動を促進する安全教育や安全対策の方法を検討・提案する．

Table 1　因子分析結果より抽出した14因子

本報でのカテゴリー	抽出した14因子	項目数	α係数
他者の影響・支援	会社・親方・先輩・上司等からの安全に関する教示・指導	5	.825
	他の作業者の模倣	3	.907
	安全に関するコミュニケーション	3	.871
安全知識・作業のスキル・状況認識・判断	安全知識	2	.883
	作業のスキル・状況認識・判断	6	.829
	仕事と主体的に関わる態度	3	.799
特定の認識・自覚	ケガ・事故後の自己・他者への影響の認識	4	.781
	良い体勢・位置と効率性・作業性・安全性・正確性との関連の認識	4	.906
	事前の片付けと効率性・作業性・安全性・正確性との関連の認識	4	.888
	指導的立場への就任による責任の自覚	3	.811
	加齢による体力の衰えの自覚	2	.961
ケガ・ヒヤリハット経験	ケガ・ヒヤリハット経験の頻度	4	.822
安全行動	安全遵守	3	.821
	安全参加	4	.806

【利益相反】利益相反は該当しません．

【引用文献】

Griffin, M. A, Neal, A. (2000) Perceptions of Safety at Work: A framework for linking safety climate to safety performance, knowledge, and motivation, Journal of Occupational Health Psychology, Vol.5, No.3, pp.347-358.

Shin, D., Gwak, H., Lee, D. (2015) Modeling the predictors of safety behavior in construction workers, International Journal of Occupational Safety and Ergonomics, 21, 298-311

高橋明子，三品誠（2023）大工職の建設作業者におけるリスクテイキング行動と安全行動の促進要因に関する予備的検討，労働安全衛生研究，Vol.16，No.1，pp.71-82.

Zhang, L., Liu, Q., Wu, X., Skibniewski, M. J. (2016) Perceiving interactions on construction safety behaviors: workers' perspective, Journal of Management in Engineering, 32(5), https://doi.org/10.1061/(ASCE)ME.1943-5479.0000454

【謝辞】本研究は厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究事業21JA1002の助成を受けたものです．

（たかはし あきこ・みしな まこと・かん ちえみ）

バーンアウト尺度の比較

——何を燃え尽きと呼ぶのか?——

○井川 純一[1]
([1]東北学院大学)

キーワード：バーンアウト、尺度、対人援助職

【目的】

バーンアウトは、Maslach Burnout Inventory (Maslach & Jackson, 1981) マニュアルによって情緒的消耗感 (Emotional exhaustion)、脱人格化 (Depersonalization)、個人的達成感 (Personal accomplishment) の低下として測定されている。MBI はバーンアウト測定のためのグローバルスタンダードとして 90%ものシェアを誇り世界中で翻訳され使用されている。一方、MBI の作成の経緯の問題から、MBI 得点をすなわちバーンアウト傾向として測定することの妥当性については疑問が残る。こうした背景の中、使用頻度はまだ少ないものの、新たなバーンアウト尺度の開発も試みられている。本研究では国外のバーンアウト尺度を中心にそれら適合度や相関関係の比較をすることを目的とする。

【方法】

手続き 調査は 2023 年 2 月にクロス・マーケティング社のモニター会員（看護師（N=493), 介護福祉士（N=462)）の合計 955 名（男性 319 名，女性 631 名，その他・答えなし 5 名)，平均年齢 46.34 (SD= 10.09) 歳を対象に行った。参加者は個人特性に及び以下の 5 つのバーンアウト尺度に回答した。なお、呈示順序はランダマイズしている。

Matches Measure Muir et.al., (2022) が開発した Matches Measure は燃焼過程の 6 段階のマッチ画像を呈示し、自らの状態に当てはまるものを選択させる尺度である。

Burnout Assessment Tool (BAT) Schaufeli, et.al., (2020) の開発した BAT は、バーンアウトの中核症状を 4 下位尺度（疲弊感、精神的距離、認知コントロールの不調、情緒コントロールの不調）の 23 項目で測定するものである。本研究では Sakakibara et al., (2020) の日本語版を使用した。

Copenhagen Burnout Inventory (CBI) Kristensen et.al, (2005) が開発した CBI は、バーンアウトの症状を個人、仕事及びクライアントに関連した 3 つの観点から測定する尺度である (19 項目 5 件法)。日本語版の作成のためバックトランスレーションを行った。

Shirom-Melamed Burnout Measures (SMBM) SMBM は Shirom, & Melamed (2006) が感情的疲労，身体的疲労，認知的疲労からなる多次元的な構成要素に着目し作成したものであり、仕事に対するネガティブな感情を抱いた頻度について尋ねる 7 件法 14 項目の尺度である。日本語版の作成のためバックトランスレーションを行った。

Oldenburg Burnout Inventory (OBI) OBI は感情的側面だけでなく身体的・認識的側面にも着目したバーンアウト尺度として開発され (Demerouti & Bakker, 2008)、逆転項目を含む 16 項目 (4 件法) で構成されている。日本語版の翻訳は熊谷他 (2021) を参照した。

【結果】

それぞれの尺度の適合度について検討するために、それぞれの基本マニュアルに沿って確認的因子分析を行った。それぞれの尺度の適合度指標、信頼性係数、相関係数を Table に示す。

【考察】

適合度を確認したところ、BAT 及び CBI の適合度はまずまずであったが、CBI は比較的低い水準、OBI は非常に低い水準に留まった。なお、どの指標においても十分な信頼性が認められた。相関係数を確認したころ、それぞれの尺度が想定する項目同士（例えば疲労感や認知等）の相関係数は高く保たれていた。また、単一項目でバーンアウトを測定しようする Matches Measure は、他の尺度との相関係数は小から中程度であるもののすべての尺度と有意な相関係数が認められた。それぞれのバーンアウト尺度をどの場面で使用するかについては、研究者がそれぞれの特徴を含めて判断する必要があるが、類似した尺度が乱立している状況においては、尺度の得点をすなわちバーンアウトとして扱うのでなく、これらの尺度が何を測定しているのかについては自覚的である必要があるだろう。

【利益相反】本研究において、開示すべき利益相反(conflict of interest; COI) はない。

【引用文献】

Sakakibara K, Shimazu A, Toyama H and Schaufeli WB (2020). Validation of the Japanese Version of the Burnout Assessment Tool. Frontiers in Psychology 11:1819.

熊谷たまき・小竹久実子・藤村一美・三宮有里・上野恭子 (2021) the Oldenburg Burnout Inventory–German version 邦訳の信頼性と妥当性の検討 大阪市立大学看護学雑誌, **17**, 11-17,

Matches Measure: https://doi.org/10.1037/apl0001053
BAT: https://doi.org/10.3390/ijerph17249495
CBI: https://doi.org/10.1080/02678370500297720
OBI: https://doi.org/10.1037/a0019408
SMBM: https://doi.org/10.3390/ijerph17249495

（いがわ じゅんいち）

Table それぞれの尺度のα係数、適合度指標、相関係数

		α	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)
	Maches Measure		(1) 1.00												
	疲労感	.93	(2) .53**	1.00											
BAT	精神的距離	.86	(3) .44**	.63**	1.00										
BAT	認知コントロールの不調	.92	(4) .39**	.58**	.77**	1.00									
BAT	情緒コントロール不調	.90	(5) .36**	.51**	.72**	.76**	1.00								
	個人的バーンアウト	.90	(6) .59**	.78**	.53**	.48**	.45**	1.00							
CBI	仕事バーンアウト	.87	(7) .52**	.73**	.52**	.45**	.43**	.85**	1.00						
CBI	クライアントバーンアウト	.86	(8) .41**	.58**	.48**	.43**	.44**	.66**	.72**	1.00					
SMBM	身体的疲労	.93	(9) .60**	.83**	.59**	.54**	.49**	.78**	.75**	.58**	1.00				
SMBM	認知的疲労	.90	(10) .38**	.58**	.59**	.70**	.58**	.52**	.49**	.44**	.65**	1.00			
SMBM	感情的疲労	.93	(11) .35**	.53**	.59**	.64**	.57**	.46**	.46**	.44**	.60**	.78**	1.00		
OBI	離脱	.79	(12) .46**	.56**	.57**	.44**	.38**	.55**	.53**	.47**	.61**	.41**	.47**	1.00	
OBI	疲労感	.93	(13) .55**	.77**	.52**	.50**	.44**	.72**	.66**	.53**	.76**	.51**	.50**	.69**	1.00

**p <. 01

適合度	CFI	RMSEA	SRMR	GFI	AGFI
BAT	.92	.08	.06	.87	.84
CBI	.86	.11	.06	.78	.72
SMBM	.93	.11	.05	.88	.82
OBI	.72	.13	.11	.75	.67

消防職員のワーク・エンゲイジメントを高める資源構造に関する研究

―レジリエンスと人間関係に注目して―

○西堀まゆ[1]　堀洋元[1]
([1]大妻女子大学人間文化研究科　[2]大妻女子大学人間関係学部)

キーワード：ワーク・エンゲイジメント，レジリエンス，人間関係

【問題と目的】

災害救援者である消防職員は、業務の中で悲惨な現場を目の当たりにすることも多く、業務内容が強いストレッサーであるといえる（松井・畑中，2003）。強いストレスに晒される消防職員が仕事を継続する力を説明するものとして，本研究では，ワーク・エンゲイジメントに注目した。

ワーク・エンゲイジメントは、仕事に関連するポジティブで充実した心理状態であり、活力、熱意、没頭によって特徴づけられる，ワーク・エンゲイジメントの高い従業員は、職務満足感や組織へのコミットメントが高く、離転職の意思が低いことが示唆されている（島津，2010）。また、ワーク・エンゲイジメントの規定要因としては、仕事の資源（Job resources）と個人の資源（Personal resources）が挙げられ，島津(2017)は，仕事の資源と個人の資源について以下のように説明している。仕事の資源とは，仕事のコントロールや上司・同僚からの支援のように，労働者の動機付けや仕事のパフォーマンスを促進し，ストレス反応の低減につながる組織内の有形・無形の要因のことをいう。個人の資源は，内的資源あるいは心理的資源とも言われ，自己効力感，自尊心，楽観性，レジリエンスなどが該当する。これまでの研究から，仕事の資源と個人の資源は密接な関係を有しており，一方の資源の向上が他方の資源の向上につながることが明らかにされている。

そこで，本研究は，仕事の資源として，垂直交換関係(上司との関係性)，水平交換関係(同僚との関係性)，組織レジリエンスを，個人の資源として，被受容感，被拒絶感，キャリアレジリエンスを取り上げ，消防職員のワーク・エンゲイジメントへの影響と，資源の影響関係について検証することを目的とする。

【方法】

本調査は，令和４年度の大妻女子大学生命科学研究の倫理審査委員会の承認を得て実施された(承認番号：04-049)。

参加者は，消防職員 148 名（男性:144 名，女性 4 名）であった。調査に用いた尺度は，表現を一部修正した垂直交換関係尺度・水平交換関係尺度（金井，2000），日本語に訳した組織レジリエンス尺度（Kantur ら，2015），被受容感・被拒絶感尺度（杉山，2006），短縮版キャリアレジリエンス測定尺度（西堀・堀，2023），ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度（Schaufeli & Bakker，2003)の日本語版(Shimazu ら，2008)であった。

【結果】

分析は統計分析フリーソフト HAD(清水, 2016)を用いて行った。

まず，資源として仮定している，垂直交換関係，水平交換関係，組織レジリエンス，被受容感，被拒絶感，キャリアレジリエンスが，それぞれワーク・エンゲイジメントに影響を及ぼしているかを確認するために，単回帰分析を行った(表1)。全ての説明変数がワーク・エンゲイジメントへ有意に影響していることが示唆されたため，説明変数が資源として機能していると判断した。

表 1．単回帰分析の結果

		ワーク・エンゲイジメント	
		β	R^2
説明変数	垂直交換関係	.38**	.14**
	水平交換関係	.40**	.16**
	組織レジリエンス	.37**	.14**
	被受容感	.30**	.09**
	被拒絶感	-.24**	.06**
	キャリアレジリエンス	.45**	.20**

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

次に，資源同士の影響関係を明らかにするために，各資源を従属変数とした重回帰分析を行った。互いに有意な影響関係にあった資源については，相関係数を算出した。結果をまとめたものを図 1 に示す。

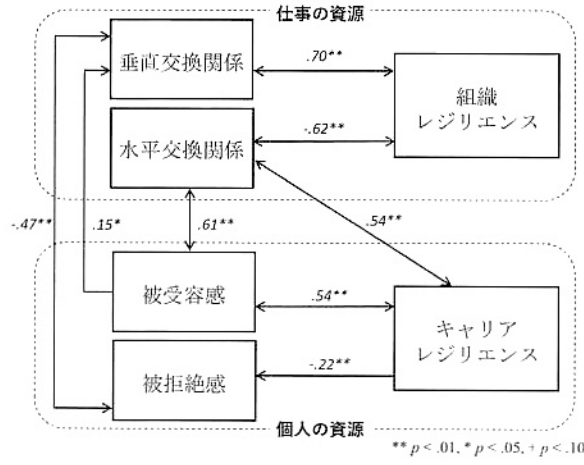


図 1．資源構造の影響関係

【考察】

本研究の結果から，消防職員のワーク・エンゲイジメントを高める資源の構造が見えてきたといえる。同僚との関係性やキャリアレジリエンスが他の資源に及ぼす影響が多く，上司との関係性は，ワーク・エンゲイジメントを低下させる被拒絶感と関係しており，組織内の人間関係には組織レジリエンスが関係することが示唆された。

【利益相反】

本研究における利益相反（conflict of interest; COI）はありません。

【主要引用文献】

島津明人（2010）．職業性ストレスとワーク・エンゲイジメント．ストレス科学研究，25，1-6

島津明人（2017）．健康でいきいきと働くために：ワーク・エンゲイジメントに注目した組織と個人の活性化．心身健康科学，13，1，20-22.

（にしぼり　まゆ・ほり　ひろもと）

組織社会化過程における研修転移と新規参入者のパフォーマンス

－縦断的データによる調整媒介モデルの検討－

竹内　倫和
（学習院大学経済学部）

キーワード：組織社会化、研修転移、従業員パフォーマンス

【研究目的】

新規学卒就職者（以下、新規学卒者）は、入社後の最初のキャリア発達課題として「組織社会化」に直面することになる。組織社会化とは、「新規参入者が組織の外部者から内部者への移行をしていく過程」（Bauer et al., 2007）と定義づけられる概念であり、入社後の新規学卒者は組織の規範や価値観を受容し、メンバーの一員として組織に適応することが求められているといえる。そのような中、既存の組織社会化研究では新規学卒者の組織適応を促進する要因の特定が行われ、組織適応プロセスの解明に一定の成果を果たしてきた（e.g., Takeuchi et al., 2021）。しかしながら、以下に示すような新たな視点に基づく組織社会化研究の必要性を指摘することができる。

第1に、既存の組織社会化研究では、結果指標として組織「適応」を示す構成概念を設定し、それら変数への影響が検討されてきた。しかし、近年「適応」ばかりでなく新規学卒者の「パフォーマンス」を結果指標に設定し、それら成果を高める要因を検討する必要性が指摘されてきている（Yuan et al., 2020; Zhou et al., 2022）。そこで、本研究ではWelbourne et al.（1998）の示唆を踏まえ、組織社会化の結果指標として「職務」、「組織」、「キャリア」の各役割パフォーマンスを位置づけ、検討を行うこととする。

第2に、新規学卒者の組織社会化結果を促進する組織要因として、導入研修の役割を明らかにする必要性である。既存研究では、組織要因として新規学卒者向けの広範な能力開発の取り組みを意味する組織社会化戦術の重要性が明らかにされてきた（e.g., Saks et al., 2007）。しかしながら、具体的な企業施策である導入研修（新入社員研修）の役割については必要性が指摘されながらも（Klein & Weaver, 2000）、経験的事実の蓄積が十分とはいえず、議論の余地が残されている。そこで、本研究では教育研修研究の知見（e.g., Ford et al., 2018）を援用し、教育研修の1つの重要指標と考えられている「研修転移」に着目し、検討を行う。研修転移にはいくつかの捉え方があるが、本研究では新規学卒者が新入社員研修の内容をその後の実際の業務にどの程度活用できると考えられるのかを示す研修転移意欲（e.g., Noe & Schmitt, 1984; Rawski & Conroy, 2020）を用いることとする。研修転移意欲は、既存研究において研修の有効性を示す結果指標として設定されており（Rawski & Conroy, 2020）、その後の新規学卒者の行動変容や職務成果に繋がる可能性を考えることができる。また、職務成果等に対する研修転移意欲の効果が実際に確認されたならば、新入社員研修の内容検討に有益な示唆を提供すると考えられる。

そこで、本研究では、研修転移がその後の新規学卒者の役割パフォーマンスにいかなる影響を及ぼすのかについて独自の調整媒介モデル（図1）を設定し検討を行う。この分析モデルは大きく2つの特徴を有する。第1に、研修転移から従業員パフォーマンスへの影響を検討するにあたり、職務焦点（i.e., 職務関与）と組織焦点（i.e., 組織との社会的交換関係）の2つの影響過程を仮定し検討するものである。第2に、上記の媒介関係において、肯定的及び否定的感情特性を第1ステージ調整変数（first-stage moderator）として設定し検討することにより、どのような新規学卒者に対して研修転移がより効果を有するのかについて明らかにするものである。

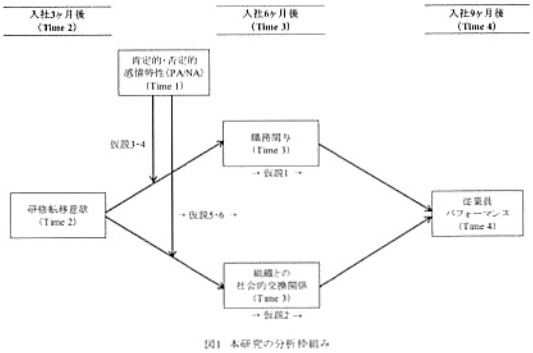


図1　本研究の分析枠組み

【方法】

（1）調査対象・方法

本研究は、民間上場企業に正規従業員として就職した大学卒及び大学院修了の新卒採用者を対象とする調査を実施した。分析枠組みで示される入社後から入社9ヶ月後へと至る時系列の影響過程に合わせ、入社直後から3ヶ月間隔の4回の縦断的調査が実施された。

1回目調査（Time 1、T1）は、入社直後の4月初旬に上記従業員721人を対象に調査が実施され、517部の有効回答を得ることができた。2回目調査（Time 2、T2）は、7月初旬にT1調査回答者517人を対象として実施され、離職者を除いた307部の有効回答を得た。3回目調査（Time 3、T3）は、10月初旬にT2調査回答者307人に対して実施され、離職サンプルを除いた215部の有効回答を得た。4回目調査（Time 4、T4）は、1月初旬にT3調査回答者215人を対象に実施され、離職者を除く111部の有効回答を得た。従って、本研究では4回全ての調査に回答した111部を最終的な分析対象とした。

（2）測定尺度

肯定的・否定的感情特性（T1）　Watson et al.（1988）を参考にした各10項目を用いた（PA: α＝.87, NA: α＝.92）。　研修転移（T2）　Shapiro et al.（2007）及びTello et al.（2006）による研修効果尺度の中で研修転移の項目を参考にした3項目を用いた（α＝.79）。　職務関与（T3）　Kanungo（1984）を参考にした3項目を用いた（α＝.79）。　組織との社会的交換関係（T3）　Shore et al.（2006）を参考にした7項目を用いた（α＝.91）。　パフォーマンス指標（T4）　Welbourne et al.（1998）を参考にし、「職務」、「組織」、「キャリア」パフォーマンスについて各4項目を用いた（職務: α＝.91, 組織: α＝.88, キャリア: α＝.87）。　統制変数（T1）　性別（ダミー）、学歴（ダミー）、会社規模、業種（製造業ダミー）を設定した。

【結果と考察】

分析枠組みに従い、調整媒介モデルの検討を行った。

第1に、職務関与と組織との社会的交換関係を媒介とする研修転移から新規学卒者のパフォーマンスへの影響に関して、研修転移意欲は職務関与を高めることを通じて、組織パフォーマンスを促進することが明らかになった。また、研修転移意欲は、組織との社会的交換関係を促進することを通じて、職務及びキャリアパフォーマンスを高めることが示された。

第2に、研修転移意欲と媒介変数との関係における感情特性の調整効果に関して、肯定的感情特性の有意な調整効果は確認されなかった。しかし、否定的感情特性は研修転移意欲と職務関与との関係及び研修転移意欲と組織との社会的交換関係との関係における負の有意な調整効果が確認された。具体的には、否定的感情特性が低い新規学卒者の場合に、研修転移意欲が職務関与及び組織との社会的交換関係をより高めることが示された。

第3に、調整媒介関係において、否定的感情特性の低い新規学卒者は、上記1で示された媒介関係における間接効果が全て有意であることが確認された。しかし、否定的感情特性の高い新規学卒者は、上記の媒介関係における間接効果が全て非有意であることが示され、否定的感情特性の調整媒介の役割が確認された。

【利益相反】

開示すべき利益相反は特にありません。（たけうち　ともかず）

職場での発言しやすさと発言を抑制する理由に関する基礎調査

○和田一成[1]　田中春奈[2]（非会員）　堀下智子[1]（非会員）　小倉有紗[1]　吉田裕[3]（非会員）
（[1]西日本旅客鉄道株式会社安全研究所　[2]西日本旅客鉄道株式会社イノベーション本部　[3]関西大学社会安全学部）
キーワード：心理的安全性　発言抑制　発言しにくい理由

【目的】職場が発言しやすい場であることは、チームのパフォーマンスや組織の安全性には欠かせない（Edmondson, 2012）。本研究では、職場の発言しやすさを高める研究の基礎調査として、就労者一万人に職場でどの程度ものの言いにくさを感じているのかなどを質問し、その後の調査で心理的安全性や言いにくい場合の理由などについて質問した。なお、調査は2回に渡って行っており、調査1、2ともに安全研究所実験等倫理委員会の承認を得て実施した。

【調査1】方法　①調査協力者　調査は、事前調査と本調査に分けて行った。事前調査では18～69歳の働いている男女1万人を対象とした（性別および年代別の構成比は平成27年国勢調査を反映）。本調査では、事前調査で思ったことが言えないことがあると回答した310名を対象とした。
②手続き　調査会社に委託し、web調査を行った。
③質問項目　事前調査では、職場での言いやすさの雰囲気（以下、言いやすさの雰囲気1とても話しやすい～4とても話しにくいの4件法）、言えなかいことがあるか（以下、言えない経験、1よくある～4全くないの4件法）などを質問した。本調査では、言えなかった内容や理由について自由記述で回答させた。
結果　言いやすさの雰囲気は「とても話しやすい」「話しやすい」を合わせると78.4%となり、8割近くが職場を話しやすいと感じていた。一方、言えない経験については「よくある」「ときどきある」を合わせると65.4%であり、言うべきことが言えない経験を一定の人がしていた。さらに、これらを得点化し、職位別の平均値について分散分析したところ（Figure 1）、有意であり（$F(3,9684) = 55.21$, $p < .001$）、上位職の方が職場を言いやすいと考える傾向が示された。

次に、言えなかったときの内容や理由を自由記述形式で質問した。ここでは、言えなかった内容についてのみ述べる。回答の分類結果をTable 1に示す。言えない場面としては「相手が間違っている・不適切」が顕著に多かった。

Figure 1　職位別の職場の話しやすさ評定値

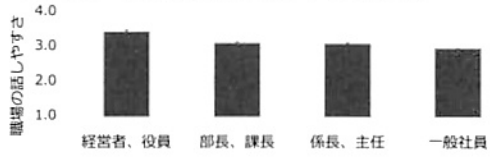


Table 1　言えなかった内容

言えなかった内容	事例数 (%)
相手が間違っている・不適切	85 (48.0)
改善案・意見	28 (15.8)
援助要請・相談・質問	21 (11.9)
相手の誤解	15 (8.5)
相手が理不尽	12 (6.8)
その他	16 (9.0)
計	177 (100.0)

【調査2】方法　①調査協力者　調査は、事前調査と本調査に分けて行った。事前調査では18～69歳の働いている男女1万人を対象とした（性別および年代別の構成比は平成27年国勢調査を反映）。本調査では、事前調査での心理的安全性得点が高低それぞれ310名計620名を対象とした。
②手続き　調査会社に委託し、web調査を行った。
③質問項目　職場の心理的安全性、言えなかった理由、あとで言えたかどうかなどを質問した。言えなかった理由については、調査1の自由記述の結果をもとに、いくつかのカテゴリーに分けて選択肢を作成した。また、場面の偏りがないように、あらかじめ12の場面を用意し、それぞれの場面を経験したことのある対象者に言えない理由を尋ねた。
結果　Figure 2に事前調査での心理的安全性を示す。平均値4.38、標準偏差0.89の正規分布となった。本調査での言えない理由の回答結果をTable2に示す。心理的安全性の高い場合も低い場合も、「いった結果の予想（変わらない）」という場合は発言しにくくなることが見て取れる。また、後で言えたかの質問について、直接・間接合わせて後で言えた（伝えた）比率は、心理的安全性の高い群では35.8%、低い群では19.9%であった。χ^2検定を行ったところ、有意となり（$\chi^2(1) = 11.92$, $p < .05$）、事後の言いやすさでも心理的安全性が影響することが示された。

Figure 2　心理的安全性得点（$N = 9325$）

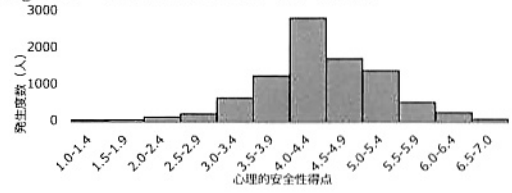


Table 2　言えなかった理由

番号	カテゴリ	選択肢数	標準化選択率（%） 心理的安全性低群	心理的安全性高群
1	相手の属性（個人）	19	0.94	2.06
2	相手の属性（集団）	16	0.64	0.15
3	相手との関係性	5	5.59	2.93
4	相手の特徴・性格	4	15.25	10.99
5	（職場の）風土	3	13.56	3.26
6	過去の経験	4	7.63	4.89
7	相手の様子・態度	3	13.56	12.21
8	集団	3	1.69	2.44
9	外部要因	2	5.08	17.10
10	言った結果の予想（変わらない）	5	16.27	17.10
11	言った結果の予想（自分にデメリット）	6	8.05	4.89
12	言った結果の予想（自分以外にデメリット）	4	2.54	4.89
13	自分の状況・認識	8	2.86	5.50
14	自分の感情	8	6.35	11.60

【考察】職場を言いやすい雰囲気と感じていても、6割以上の人が言えない経験をしていた。また、同じく6割以上が後になっても言いたいことが言えていなかった。ただし、心理的安全性が高いと、後になって言える傾向は高くなった。そのため、心理的安全性を高めることは、時系列も含めた全体的な発言のしやすさに影響すると考えられる。

一方、言えない理由としては、心理的安全性の高低にかかわらず、「言っても変わらない」が多かった。言った効果が得られないということが一つのネックのようである。心理的安全性以外にも、日ごろの会話でのフィードバックも大切であることが示された。

【利益相反】なし。

【引用文献】

Edmondson, A.C. (2012). *Teaming: How organizations learn, innovate, and compete in the knowledge economy*. John Wiley & Sons, Inc.

（わだ かずしげ・たなか かずな・ほりした ともこ・おぐら ありさ・よしだ ゆたか）

コロナ禍におけるワークライフバランスの変化

ワークライフバランスシートによる定量的な分析

○田畑智章[1]　江澤美花[1]
([1]東海大学経営学部　[2]東海大学情報通信学部)

キーワード：ワークライフバランス（WLB）・ワークライフバランスシート（WLBS）・新型コロナウイルス感染症

【目的】

新型コロナウイルスにより，これまでの生活スタイル（ワークライフバランスも含めて）は大きく変化した．こうした生活スタイルの変化に対しては多くの事例が報告されているが，定量的に示した研究はあまり多くはない．そこで本研究では，コロナ前の通常状態とコロナ禍における仕事や家事に費やした時間を調査し，その差を分析し，また，田畑のワークライフバランスシート（WLBS）[1]を用いることで，生活スタイルの変化を定量的に示すことを目的とする．

【方法】

全国の30～50代の労働者に対して，コロナ前とコロナ禍における平均的な労働日それぞれにおける1日の時間の使われ方（通勤に○分，睡眠に○分など）についてWebによる質問紙調査を行った．期間は2021年10月で，男性618名，女性618名の合計1236名の回答があった．このデータに対して，まず①各項目でのコロナ前とコロナ禍における数値の比較を行った．また②田畑のWLBSを用いて全体的なワークライフバランスの変化の確認を行った．

【①項目の比較】

仕事や家庭生活に対する満足度やゆとり感，疲労の度合いや，使われた時間に対して，コロナ前と比較した平均値の差の検定（Welchのt検定）を行った．その結果，仕事満足度，家庭生活満足度，疲労度合，炊事時間，掃除時間，勤務時間に差が見られた．

【ワークライフバランスシート（WLBS）】

田畑は企業の財務状況の把握の際に用いられる貸借対照表の考え方を用いて，それを時間に置き換えたワークライフバランスシート（WLBS）を提案している[1]．育児の時間が4時間あったとして，そのうち3時間を配偶者に見てもらっていた場合，配偶者から3時間を借りていると解釈できることから，時間負債の概念を取り入れ，それに時間資本，時間資産の観点から，個人のワークライフバランスを定量的に確認できるものとなっている．

【②WLBSによるWLBの変化の確認】

大阪府に住む配偶者と子ども2人を持つ30代の男性会社員の例を見てみると，「時間損失」（要求されている時間に対して，自己の持つ24時間および他者から援助を受けた時間の合計がどれだけ不足しているかを表す）を見ると，コロナ前は余裕があった生活がコロナ禍では余裕がなくなっていることがわかる．この原因として，子どもを学校に預けられる時間が減少していることと，親族からの援助（育児支援）が受けられなくなったことが読み取れる（Table1，Table2）．

【結論】

本研究では，コロナ前とコロナ禍における仕事や家事に費やした時間を調査し，生活スタイル（WLB）の変化を定量的に示し，その要因を明らかにすることができた．なお，利益相反はない．

【引用文献】

[1]田畑智章（2019）「ワーク・ライフ・バランス・シートとその活用－ワーク・ライフ・バランスの定量化および可視化－」組織学会大会論文集8(1)

（たばた　ともあき・えざわ　みか）

Table1 コロナ前のWLBS

コロナ前

時間資産の部		時間負債の部	
科目	時間(分)	科目	時間
Ⅰ.家事時間		Ⅰ.外部援助時間	
通常家事		学校	900.0
炊事	90.0	塾・その他託児施設サービ	120.0
		介護サービス	0.0
掃除	30.0	家事代行サービス	0.0
買い物	60.0		
特殊家事		外部援助時間合計	1020.0
育児	2880.0	Ⅱ.内部援助時間	
介護	0.0	配偶者による支援	470.0
家事時間合計	3060.0	親族による支援	70.0
Ⅱ.仕事時間		子供の独立	1200.0
通勤	60.0	要介護者の独立	0.0
勤務	480.0		
仕事時間合計	540.0	外部援助時間合計	1740.0
Ⅲ．生活必要時間		時間負債合計	2760.0
食事	60.0	時間資本の部	
整容	30.0		
入浴	20.0	Ⅰ.自己時間資本	1440.0
睡眠	360.0	Ⅱ 時間損失	-40.0
余暇	90.0		
生活必要時間合計	560.0	時間資本合計	1400.0
時間資産合計	4160.0	時間負債・時間資本合計	4160.0

Table2　コロナ禍のWLBS

コロナ禍

時間資産の部		時間負債の部	
科目	時間(分)	科目	時間
Ⅰ.家事時間		Ⅰ.外部援助時間	
通常家事		学校	600.0
炊事	90.0	塾・その他託児施設サービ	120.0
		介護サービス	0.0
掃除	60.0	家事代行サービス	0.0
買い物	60.0		
特殊家事		外部援助時間合計	720.0
育児	2880.0	Ⅱ.内部援助時間	
介護	0.0	配偶者による支援	460.0
家事時間合計	3090.0	親族による支援	0.0
Ⅱ.仕事時間		子供の独立	1200.0
通勤	60.0	要介護者の独立	0.0
勤務	420.0		
仕事時間合計	480.0	外部援助時間合計	1660.0
Ⅲ．生活必要時間		時間負債合計	2380.0
食事	60.0	時間資本の部	
整容	30.0		
入浴	30.0	Ⅰ.自己時間資本	1440.0
睡眠	360.0	Ⅱ 時間損失	290.0
余暇	60.0		
生活必要時間合計	540.0	時間資本合計	1730.0
時間資産合計	4110.0	時間負債・時間資本合計	4110.0

人気があるからおいしく感じる

直感的および熟慮的判断が人々の味の評価に及ぼす効果

○橋本博文[1]　前田楓[2]
（[1]大阪公立大学大学院文学研究科　[2]立教大学現代心理学部）

キーワード：直観、熟慮、期待

【目的】

私たちは、人気とおいしさの関係をどのように考えているのだろうか。一般的には、「おいしいから人気になる」と考えている人たちが多いはずである。しかし、こうした常識的な理解とは裏腹に「人気だからおいしく感じる」可能性も十分に考えられる。これは、人気があるという情報によって、おいしいはずだという「期待」が生まれ、そうした期待こそがおいしさをもたらすためである（e.g., Berdik, 2013）。人気の指標となるランキング情報等を人々が頼りにするとすれば、判断を効率化することができる一方、誤った判断に至る可能性も当然高まる。その意味においても、人々がどのように「期待」の影響を受けるのかを検討する心理学研究の蓄積は有用であろう。本研究の目的は、人々の商品に対する味や品質の評価が、人気の一つの指標としてのランキング情報の影響を受けるか否かを検討することにある。それに加え、味や品質を直感的に評価する場合と慎重な熟慮を経て評価する場合とでは、どちらの方がより期待の効果を弱め、ランキング情報に惑わされにくくなるのかについても、先行研究の知見（Wilson & Schooler, 1991）を踏まえつつ検討する。

本研究の仮説　本研究における仮説は以下のとおりである。

仮説 1-a　ランキングが上位であるとの情報が提示されると、人々は味や品質を高く評価するようになる。

仮説 1-b　ランキングが下位であるとの情報が提示されると、人々は味や品質を低く評価するようになる

仮説 2　直感で味や品質を評価する方が、慎重によく考えて評価する場合よりランキング情報に惑わされにくくなる。

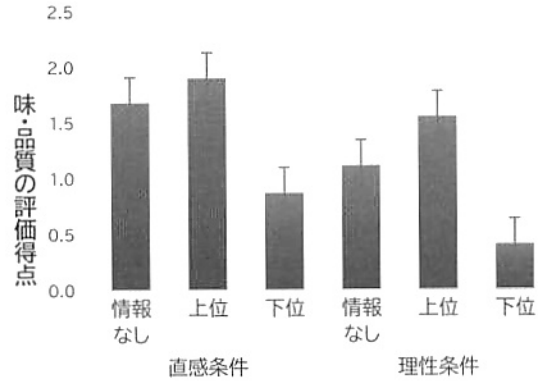
【方法】

実験参加者（n = 66）には、目隠しをした状態でお茶を計3回試飲してもらい、1回試飲するごとに、目の前にある10種類のお茶のうちどの商品であると思うか、また、試飲したお茶の味や品質はどうかを回答させる課題に取り組んでもらった。その際、1 試行目においてはランキング情報を与えず（お茶 A）、2 試行目では「**ランキングが上位で売れている商品**」であるという情報を与え（お茶 B）、3 試行目では「**ランキングが下位で売れていない商品**」であるという情報を与えた（お茶 C）。さらに、実験参加者をランダムに 2 条件（直感条件・理性条件）に割り振り、直感条件では、どのお茶を飲んだと思うかを判断させた後に、15 秒以内でお茶の味や品質を評価するよう求めた。一方、理性条件では、直感条件と同様にどのお茶を飲んだと思うかを判断させた後に、試飲したお茶についておいしい理由とおいしくない理由をよく考え、1 分間で可能な限り質問紙に書き記すよう求めた。最後に、両条件の参加者ともに実験に使用した 10 種類のお茶の飲食経験や、課題における判断の自信の程度、年齢や性別などの個人属性についても回答を求めた。なお、この課題において実験参加者が試飲したお茶は実際には 1 種類である。したがって、3 試行の中で味や品質の評定に差が生じるはずはなく、差が生じるとすれば、それはランキング情報がもたらす「期待」の効果であると考えられる。

【結果】

尺度構成　人々が主観的に感じる味の評価を測定するために、本研究では、品質、おいしさ、好み、後味の良さの 4 つの評価軸を用いることとした。お茶 A、B、C それぞれについての味・品質の評価得点（−3 から＋3）の信頼性係数を算出したところ、おおむね満足のいく水準にあった（お茶 A（α = .81）、お茶 B（α = .77）、お茶 C（α = .73））。

Figure 1.　ランキング情報・条件ごとの評価得点



仮説の検証　本研究の仮説を検討するため、味・品質の評価得点を従属変数、ランキング情報（情報なし・上位・下位）と条件（直感・理性）を独立変数とする二要因分散分析を行ったところ、ランキング情報（$F(2,128) = 25.85$, $p < .001$）と条件（$F(1,64) = 5.92$, $p < .05$）の主効果がそれぞれ有意となった。多重比較を行ったところ、直感条件においては、ランキング情報なしの場合の評価得点（$M = 1.68$, $SD = 0.98$）とランキング下位の場合の得点（$M = 0.87$, SD = 0.95）の間に有意差が示され（$t(64) = 3.55$, $p < .001$）、ランキング上位の場合（$M = 1.90$, $SD = 0.74$）とランキング下位の場合における評価得点の間にも有意差が見られた（t (64) = 4.34, $p < .001$）。一方、理性条件においては、ランキング情報なしの場合の評価得点（M=1.11, SD=1.23）とランキング上位の場合の得点（M=1.55, SD=1.03）の間に有意差が示された（t (64) = 2.32, $p < .05$）。また、ランキング上位の場合とランキング下位の場合における評価得点（$M = 0.41$, $SD = 1.27$）の間（$t(64) = 4.82$, $p < .001$）、ランキング情報なしの場合の得点とランキング下位の場合における得点の間（t (64) = 3.09, $p < .01$）にも有意差が示された。

【考察】

本研究の実験参加者は、条件にかかわらず、ランキングが上位だという情報が与えられると味や品質の評価を上げ、反対にランキングが下位だという情報を与えられるとそうした評価を下げていた。この結果は、ランキング情報による期待の効果を明確に示している。また興味深いことに、ランキング情報にかかわらず、直感条件の参加者は、理性条件の参加者よりも味や品質を高く評価していた。この結果は、「考えすぎるとおいしくなくなる」可能性を示唆するものである。これらの結果の頑健性を検討していくことが今後の課題である。

【引用文献】

Berdik, C. (2013). *Mind over mind: The surprising power of expectations.* Current.

Wilson, T. D., & Schooler, J. W. (1991). Thinking too much: introspection can reduce the quality of preferences and decisions. *Journal of Personality and Social Psychology*, 60, 181-192.

（はしもと ひろふみ・まえだ かえで）

お土産に対する魅力度に影響を及ぼす要因の検討

○中嶋遥平・佐々木涼夏・露木麻衣・山田紗永・山本真菜
（日本大学商学部）

キーワード：魅力度評価，お土産，購買意欲

【目的】

世界的に観光旅行者が増大しており，お土産消費市場規模は無視できない規模となっている（鈴木他，2022）。観光庁が行っている「訪日外国人消費動向調査」を費目別にみると，訪日外国人旅行消費額の図表において，新型コロナウイルス感染拡大以前の2019年には「買物代」が16,690億円（34.7%）であり，宿泊費（29.4%），飲食費（21.6%），交通費（10.4%）を上回る割合を占めていた。新型コロナウイルスが落ち着き，訪日外国人の個人旅行が解禁された現在，国内外で観光客が増大し，お土産消費の市場規模はさらに拡大することが予想される。

鈴木他（2022）では，お土産に求める基本要素に関わる項目を抽出し，それらを測定する尺度を開発し，尺度の構成概念的妥当性と信頼性を検証した。具体的には，お土産に求める基本要素として「真正性」，「ギフト性」，「ネタ・ユニークさ」，「経験・思い出」の4因子が抽出された。真正性は，「コンテストなどで賞を取った品だから」，「地元の原材料で作られているから」等の項目，ギフト性は「小分けになっているから」，「たくさん入っているから」等の項目から成り立っている。本研究では，お土産のパッケージで表現できる要因を用いて，それらの要因がお土産の魅力度や購買意欲に与える影響を検討することを目的とする。パッケージで表現できる要因として，先行研究を参考に，外部からの高評価を示すパッケージ，特産物を使用していることを示すパッケージ，大容量であることを示すパッケージの3つを取り上げ，これらが実際にお土産に対する魅力度や購買意欲に影響を与えるかどうかを実験的に検討する。また，探索的に3つの要因の中で好意度と購買意欲に与える効果に差が生じるかどうかを検討する。仮説として，外部評価パッケージ，特産物使用パッケージ，大容量パッケージの3つの要因がお土産に対する魅力度や購買意欲を高めると予測する。

【方法】

実験計画　本実験は，パッケージを要因とする1要因4水準（外部評価パッケージ条件，特産物使用パッケージ条件，容量パッケージ条件，統制条件）の参加者内計画である。従属変数は，お土産に対する魅力度と購買意欲とする。

参加者　実験参加者は、大学生100名程度を予定している。

パッケージ刺激　参加者に提示する4種類のパッケージ刺激（外部評価，特産物使用，容量，統制）を作成する（Figure 1）。具体的には，外部評価パッケージ条件では，最優秀賞，金賞，No.1などをお土産のパッケージとして呈示する。特産物使用パッケージ条件では，特産物使用，地元産などをお土産のパッケージとして呈示する。容量パッケージ条件では，大容量，20%増量，増量中などをパッケージとして呈示する。統制条件では，定番，おすすめ，人気商品などをパッケージとして呈示する。

手続き　実験はWeb上の質問票を使用して行う。実験の説明を記載し，参加者の同意を求める。回答方法の説明を行い，パッケージ画像を1枚ずつ呈示して，その下にお土産に対する評価を求める項目を呈示する。具体的には，魅力度（1：全く魅力的ではない～9：非常に魅力的である）と購買意欲（1：全く魅力的でない～9：非常に魅力的である）についてそれぞれ9件法で評定を求める。パッケージ画像は，1つの条件につき3種類を提示する。したがって，1名の参加者は全体で12個の画像を呈示され評価することとなる。参加者ごとに画像の呈示順序はランダムにする。次に，お土産に関する購入頻度の質問，性別，年齢の質問を設け，最後に事後説明を行う。

【結果の予測】

布井他（2013）の分析方法を参考にし，各パッケージ条件の得点から，統制パッケージ条件の得点を引いた値を「パッケージの効果得点」として算出する。この効果得点は，魅力度と購買意欲の両方について算出する。条件ごとの効果得点について，0点と有意な差があるかどうかを1標本の検定により検討する。その結果，魅力度と購買意欲共に，すべての条件において，パッケージの効果得点は0点に比べ有意に高いと予測する。

さらに，外部評価パッケージ，特産物使用パッケージ，容量パッケージの効果に差があるかどうかを探索的に検討するために，魅力度得点と購買意欲得点について参加者内の1要因分散分析を行う。

【利益相反】

本研究に関して，開示すべき利益相反はない。

【引用文献】

国土交通省観光庁（2020）．訪日外国人消費動向調査　2019年の訪日外国人旅行消費額（確定）Retrieved May 22, 2023, from https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/content/001335741.pdf.

鈴木涼太郎・花井友美・金振晩（2022）．観光客がおみやげに求める基本要素をめぐる項目の抽出と尺度開発の試み－大学生を対象とした調査による分析　総合観光研究，*20*, 35-44.

布井雅人・中嶋智史・吉川左紀子（2013）．限定ラベルが商品魅力・選択に及ぼす影響　認知心理学研究，*11*(1), 43-50.

Figure 1
外部評価パッケージ条件の刺激の例



（なかしま ようへい・ささき すずか・つゆき まい・やまだ さえ・やまもと まな）

昆虫食に対する印象に影響を与える要因の検討

○猪鼻ももこ・森千紗・佐藤洋亮・黒澤慶大・山本真菜
（日本大学商学部）
キーワード：昆虫食，感性判断，購買意欲

【目的】

世界規模の食糧危機，赤肉の多量消費の問題から昆虫食の普及が求められているが昆虫食の受容には心理的な障壁があることが示されている。先行研究では，昆虫食受容に影響を与える人の感覚・認知的要因として，官能特性，健康特性，環境特性，リスク認知があることが示されており，これらが，昆虫食受容に影響する感情の中でも特に嫌悪感を高めていることが示されている（元木他，2021）。昆虫食に対する嫌悪感を低減させるためには，認知的再評価を行うことが効果的である可能性がある。そこで本研究では，先行研究で示された感覚・認知的要因に関して，昆虫食に対する正しい情報を提示することで認知的再評価を促進させ，不快感情が低減されるかどうかを検討する。具体的には，官能特性・健康特性・環境特性・社会的リスク認知特性の4つを取り上げ，これらに関する正しい情報を提示することで，昆虫食に対する印象がポジティブに変化するかどうかを検討し，さらに探索的に4つの情報のなかで印象の変化に差があるかどうかを検討することを目的とする。

本研究の仮説は以下の3点である。官能特性，健康特性，環境特性および社会的リスク特性に関する正しい情報の提示は，昆虫食に対する好意度を高めるだろう（仮説1）。昆虫食に対する好意度が低い個人ほど，情報呈示が昆虫食に対する好意度に与える影響が大きいだろう（仮説2）。吉川・内村（2009）では，昆虫食を食べた経験がない個人においては，昆虫食に対する嫌悪感を規定する要因として味や形など主観的要因に加えて食習慣に起因する要因が関連していることが示されている。現在の日本では昆虫食がほとんど普及していないことを踏まえると，食習慣のような社会的な要因が多くの日本人の昆虫食への嫌悪感に影響を与えている可能性があると考えらえる。そこで，仮説3として，社会的リスク認知に関する情報は，官能特性，健康特性，環境特性に関する情報に比べ，昆虫食に対する好意度を高めるだろうと予測する。

【方法】

実験計画　測定時点（事前，事後）×昆虫食に関する情報（官能特性条件，健康特性条件，環境特性条件，社会的リスク認知特性条件）の混合計画である。測定時点は参加者内要因，昆虫食に関する情報は参加者間要因である。従属変数は、昆虫食に対する好意度である。

参加者　10代から20代の大学生80名程度，条件ごとにそれぞれ20名程度を予定している。

実験期間　2023年の9月から10月頃を予定している。

質問票の構成　実験は，参加者に質問票を配布して行う。質問票ではまず昆虫食画像（Figure1；無印良品）を説明と共に呈示する。ここで提示する画像は粉末状に加工したコオロギを使用したチョコレートバーであり，実際に販売されている商品の画像である。その後，昆虫食に関する好意度を測定するための5つの質問項目について9件法で回答を求めた後，簡単な計算問題への回答を求める。好意度を測定するための質問項目は，「食べたいと思いますか」，「買いたいと思いますか」，「知りたい調べたいと思いますか」，「興味がありますか」，「だれかに勧めたいと思いますか」の5つであり，参加者ごとに呈示順序をランダムにする。次に昆虫食に関する情報文1つを提示し，参加者が内容を把握したか確認するため，情報文に関する質問への回答を求める。官能特性条件では匂いや味のクセが料理に与える影響が少ないという情報を提示し，健康特性条件は昆虫食に含まれる栄養素や健康効果に関する情報を呈示し，環境特性条件では昆虫食が解決する環境問題に関する情報を呈示し，社会的リスク認知特性条件では世界的に昆虫食の導入が行われているという情報を呈示する。情報呈示後に，昆虫食に関する好意度を測定するための質問項目について，事前測定と同様に回答を求める。

【結果の予測】

仮説1の検証のため，対応のある t 検定を行いて，条件ごとに事前の好意度得点と事後の好意度得点に差があるかどうかを検討する。事前の好意度得点に比べ，事後の好意度得点の方が有意に高いと予測する。続いて仮説2の検証は，まず事前の好意度得点で参加者を高群と低群に分け，各群で対応のある t 検定を行い検討する。低群は事前の好意度得点に比べ事後好意度得点の方が有意に高く，高群は事前の好意度得点と事後好意度得点に有意な差はみられないと予測する。仮説3の検証のため，事後得点から事前得点を減じた値を受容得点とし，条件ごとにその受容得点に差があるかどうかを1要因の分散分析によって検討する。その結果，社会的リスク認知特性条件は他の条件に比べて受容得点が有意に高いと予測する。

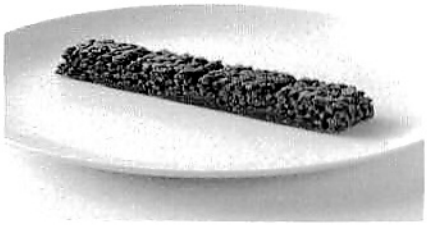
【利益相反】

本研究に関して，開示すべき利益相反はない。

【引用文献】

元木 康介・石川 伸一・朴 宰佑（2021）．昆虫食受容に関する心理学的研究の動向と展望　心理学研究，*92*(1),52-67.
無印良品．コオロギが世界を救う？Retrieved May 29, 2023, from https://www.muji.com/jp/ja/feature/food/460936
吉村 浩一・内村 昭一（2009）．昆虫食・昆虫料理をめぐる心理的要因の検討に向けて　法政大学文学部紀要，*59*, 23-34.

Figure 1
実験で用いる昆虫食の画像（無印良品より引用）



（いのはな ももこ・もり ちさ・さとう ようすけ・くろさわ けいだい・やまもと まな）

「推し活」における行動・心理的側面と空想傾向および主観的幸福感との関連

○菅野智子[1]　山村　豊[2]

([1]立正大学　[2]桜美林大学)

キーワード：推し活、空想傾向、主観的幸福感

【問題・目的】

推し活とは、一般に強く気に入った人や物を応援する、支えるといった活動全般を指す。推し活は2021年のユーキャン新語・流行語大賞にノミネートされ、ネガティブなイメージからポジティブなイメージへと変革が進みつつある。推し活を通じて、幸福感や自己肯定感が上昇したり、自身の行動や認知が変化したという声も多い。

(久保(川合)，2022)もよると推し活はプロジェクションとの関連が大きいとしている。久保(川合)は著書の中で、腐女子の妄想について例示し、それらは作品愛という投射から始まり、やがて異投射が生じ、それらが仲間内で共有されることで虚投射が生じるとしている。生み出される異投射は、説得力が高ければ高いほど多くの人に共有されることから、この過程で重要なのは個々の創造性や想像力あると推察される。

推し活に関連する調査や研究はまだ少ないうえ、推し活をしている人の中でも温度差があるように見受けられる。

本研究では大学生における推し活の行動的側面と心理的側面を調査し、推し活の活発さが空想傾向、主観的幸福感、ポジティブ志向といった心理特性とどう関連するかを検討した。

【方法】

調査対象者　関東圏内の大学生140名（男性82名、女性55名、その他3名)、平均年齢19.63歳±0.86であった。

実施時期・場所　2023年4月から5月にかけて関東圏内の大学の授業にて実施した。

質問項目　推し活については、(株)ネオマーケティングが2022年に行った「推し活に関する調査」と(株)エイチームフィナジーが同年に行った「推し活にかけるお金と節約に関する意識調査」を本調査向けに一部改編して用いた。空想傾向についてはGiambra(1993)が作成したマインドワンダリング(DDFS)の日本語版(梶村・野村,2016)を用いた。全12項目、5件法で測定を行った。梶原他(2016)と同様に空想傾向が最も低い場合を0点、最も高い場合を4点として得点化した。素質的楽観性についてはScheier(1994)が作成した「改訂版楽観性尺度（LOT-R)）の日本語版(坂本・田中,2002)を用いた。本調査では橋本・子安(2011)に倣い、楽観性に関する項目3項目と悲観性に関する3項目、計6項目を5段階で評定を求めた。主観的幸福感について、Diener他(1985)による「人生満足度尺度(SWLS)」の日本語版(Uchida他,2008)を用いた。原尺度5項目を5段階で評定を求めた。ポジティブ志向について、橋本・子安(2011)による「ポジティブ志向尺度」を用いた。全14項目、5段階で評定を求めた。

手続き　調査対象者に承諾を得た上で、Google Formで作成した質問紙に回答を求めた。

【結果】

推し活をしている人を対象とするため、「推し活に関する調査」で「推し活をしている」と答えた75名を抽出し欠損値のない73名を分析の対象とした。

人生満足度尺度5項目について、主因子法・プロマックス回転による因子分析を行い、さらに因子負荷量が低い項目を除いて、再度、同様に因子分析を行ったところ、第1因子「人生満足」(3項目)、第2因子「理想の人生」(2項目）の2因子が抽出された。

ポジティブ志向尺度の15項目について、主因子法・プロマックス回転による因子分析を行い、さらに因子負荷量が低い項目を除いて、再度、同様に因子分析を行ったところ、第1因子「上方志向」(7項目)、第2因子「平静維持」(3項目)、第3因子「ネガティブ否定」(3項目）の3因子が抽出された。楽観性尺度については1因子が中抽出された。

つぎに、推し活の行動的側面(実際に行っている行動)と心理的側面(どう感じているか)が実際の心的特性、つまり楽観性、主観的幸福感、ポジティブ志向との関連を検討するため、ピアソンの積率相関係数を求めた。その結果、「一日に推し活に費やす時間が長い」人（$r=0.45$（$p<.01$))、「一日に推しについて考える時間が長い」人（$r=0.48$（$p<.01$))、「一か月に推し活に使い金額が高い」人（$r=0.44$（$p<.01$))、ぬい活をしている人（$r=0.36$（$p<.01$)）ほど「人生が変わった」と感じていた。また「一日に推し活に費やす時間が長い」人（$r=0.24$（$p<.05$))、「一日に推しについて考える時間が長い」人（$r=0.37$（$p<.01$))、「一か月に推し活に使い金額が高い」人ほど（$r=0.38$（$p<.01$)）ぬい活をしていた。

推し活と各心理特性との関連を検討したところ、「一か月に推し活に使う金額」と空想得点（$r=0.38$,（$p<.01$)、ぬい活と理想の人生（$r=0.28$,（$p<.05$)）に弱い正の相関がみられた。一方で「一か月に推し活に使う金額」と理想の人生（$r=-0.25$,（$p<.05$))、ぬい活と理想の人生（$r=-0.25$,（$p<.05$))「オープンな推し活への抵抗」と理想の人生（$r=-0.25$,（$p<.05$)）に弱い負の相関がみられた。

【考察】

本研究の結果、推し活に費やす時間が長い、考えている時間が長い、推し活にお金をかける、ぬい活をするといった行動的側面が高いほど「人生変わった」の相関が高いことから、時間と費用をかけたヘビーな押し活は主観的に「人生を変える」ことが示された。

また推し活に出費を惜しまない人ほど空想傾向が高いことが示された。おそらくイベントやグッズに投資することで日々の空想やプロジェクションへの「燃料」を補い、それらの上書きや強化しているものと考えられる。

行動的側面が高い人ほどぬい活といったプロジェクションに関わる行動をしており、ぬい活をしている人ほど人生におけるネガティブさを否定する傾向がみられた。推しのグッズを携帯することで、推しとの一体感が生まれ、これから人生に苦難があっても自分は乗り越えていけるといった人生におけるネガティブさを否定する力になっていると考えられる。一方で、出費を惜しまない人ほど理想の人生の得点が低かった。人生が変わったと幸福感にあふれる反面、経済的負担も大きく、社会的に望ましい人生ではない(故にオープンにはできない)という葛藤も垣間見えた。推し活は昨今社会的な認知が進んだ未知の部分が多い活動である。今後は推し活を掘り下げ、推し活をしていない人との比較も検討が必要である。

(すがのともこ・やまむらゆたか)

乳児のネガティブ情動表出直後の父親・母親行動と幼児のアタッチメント安定性との関連

－離乳食場面における親子のやり取りの観察を通して－

○福田佳織[1]　森下葉子[2]　尾形和男[3]
([1]東洋学園大学人間科学部　[2]文京学院大学人間学部　[3]放送大学教養学部)

キーワード：アタッチメント安定性　ネガティブ情動　父親・母親行動

【目的】アタッチメント予測因として着目されてきた親のsensitivity(Ainsworth et al.,1978)の影響力は、想定より小さいことが指摘されている(De Wolff & van Ijzendoorn,1997)。その背景には、sensitivityの多義性(近藤ら, 2006)があると言われ、近年では、様々な派生概念とアタッチメントとの関連性も検証されている(篠原, 2015)。そこで本研究では、sensitivityなどの大きな概念ではなく、乳児期の親子のやり取りに見られる親の具体的行動をカテゴリー化し、それらが幼児期の子どものアタッチメント安定性にどのように関与するかを検討する。なお、親子のやり取り観察には、親の葛藤が生じやすい離乳食場面を用い、さらには、乳児のネガティブな情動が表出された直後の親の行動に着目する。

【方法】(1)調査対象者：離乳食開始期～生後8ヵ月の乳児とその父親・母親の揃った5家庭(父子・母子計10組)。(2)調査期間：2017年9月1日～2020年2月2日。(3)調査手続き：離乳期に調査の了承を得た家庭を第一または第二執筆者1名が訪問し、父子のみ、母子のみの状況下で離乳食場面を撮影した(アンケート調査、インタビュー調査も実施)。その後、対象児が2歳前後でAQS調査を行うため、第一および第二執筆者の2名で家庭訪問を行った。(4)分析：親子の行動については、離乳食場面の映像データの序盤・中盤・終盤の各1分(計3分間)を対象に親子交互に、下記の①～⑨について記載した(行動コーディングシステム(BECO2)を使用し、33/100秒でコマ送り、または、1/8倍速で繰り返し視聴して記述)。①親の身体的な動き、②親の発話内容、③親の発話のトーン、④親の視線、⑤親の表情、⑥乳児の身体的な動き、⑦乳児の発声、⑧乳児の表情、⑨乳児の視線のうち、③⑤⑦⑧については、ポジティブ、ニュートラル、ネガティブの別も記述した。行動記述数は324～346で平均338であった。乳児のネガティブ情動表出は、Sumner & Spietz (1994)を参考に抽出した。幼児期のAQSは、観察後、観察者がそれぞれ独立でソートし、乖離していた項目は話し合いにて調整してAQS得点(z変換)を算出した。(5)人権の保護及び法令等の遵守への対応：研究計画時に所属大学の倫理審査で承認を受けた。また、対象者には研究説明書および撤回書を配布、口頭説明をし、研究承諾書への署名をもらった。

【結果】行動記述のうち、乳児がネガティブな情動表出をした直後の親の行動に着目したところ、Table1に示した14の行動カテゴリーが抽出された。これらの各出現率(独立変数)と幼児期のAQS得点(従属変数)との重回帰分析(ステップワイズ法)を行ったところ、「視線のみ」の行動カテゴリーとAQS得点間は有意な負の標準偏回帰係数となった(β=-.731, p<.05)。つまり、乳児のネガティブ情動表出に対して親が視線のみ向ける行動を多く取るほど、幼児期のアタッチメント安定性が低くなるということである。その他のカテゴリーについては、有意な標準偏回帰係数は見られなかったが、乳児に向けて何らかのリアクションのあった「身体接触」～「返事・発話のみの応答」(自己完結やネガティブ反応を除く)までを合算した出現率とAQS得点間には有意な正の相関が示された(r=.772,p<.01)。つまり、乳児のネガティブ情動表出に対し、身体接触や何らかの声掛けをすることが、幼児期のアタッチメント安定性の高さと関連するといえる。

【考察】乳児からのネガティブ情動というシグナルに対する親の行動特徴には個人差があり、身体接触が多い親、共感的発話が多い親、説得や気分転換的発話が多い親など様々であった。その中で特に重要な行動というものは、今回示されなかったが、少なくとも身体接触や乳児へのポジティブないしはニュートラルな声掛けの多さは、その後のアタッチメントにプラスに働き、乳児のネガティブ情動に親が気づきながらも対応しないことはマイナスに働く可能性が示唆された。

Table1　乳児のネガティブ情動表出後の父母の行動表出率

	対象者	A父子	A母子	B父子	B母子	C父子	C母子	D父子	D母子	E父子	E母子
	AQS	.457	.438	.514	.250	.443	.833	.502	.271	.628	.664
1	身体接触	0.00	17.65	0.00	0.00	10.00	6.98	5.88	0.00	13.95	38.60
2	共感/代弁/模倣	8.33	8.82	47.06	0.00	0.00	16.28	0.00	0.00	4.65	14.04
3	アイコンタクト	2.78	0.00	0.00	5.56	6.67	4.65	7.84	7.14	2.33	0.00
4	要求対応/代替提示	8.33	11.76	0.00	5.56	3.33	9.30	17.65	7.14	0.00	0.00
5	褒め	2.78	5.88	0.00	0.00	0.00	0.00	5.88	0.00	0.00	0.00
6	質問	5.56	5.88	11.76	5.56	3.33	4.65	3.92	7.14	13.95	19.30
7	説得/誘導/気分転換	2.78	11.76	0.00	5.56	26.67	16.28	7.84	11.90	20.93	12.28
8	返事・発話のみの応答	5.56	0.00	5.88	0.00	0.00	6.98	0.00	2.38	4.65	1.75
9	一人言/自己完結反応	5.56	2.94	0.00	16.67	3.33	0.00	3.92	4.76	18.60	7.02
10	視線のみ	27.78	20.59	17.65	50.00	23.33	18.60	27.45	30.95	13.95	0.00
11	他者への話しかけ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.65	0.00
12	対応なし	25.00	14.71	5.88	11.11	23.33	16.28	17.65	28.57	2.33	7.02
13	ネガティブ反応	5.56	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.96	0.00	0.00	0.00
14	不明	0.00	0.00	11.76	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【謝辞】本研究の実施にあたり、科学研究費（基盤研究(C)(一般）課題番号17K04366, 研究代表者：福田佳織）を受けた。
【利益相反】利益相反（conflict of interest; COI）無し。

【引用文献】

Ainsworth, M. D. S., Blehar, M. S., Waters, E., & Wall, S. 1978 Patterns of attachment: A psychological study of the strange situation. Oxford: Lawrence Erlbaum.

De Wolff. M. S. & van Ijzendoorn, M. H. 1997 Sensitivity and Attachment: A Meta-Analysis on Parental Antecedents of Infant Attachment. Child Dvelopment, 68(4), 571-591.

近藤清美・井上望・中野茂・草薙恵美子 2006 ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄに関わる母親の敏感性概念の検討 北海道医療大学心理科学部研究紀要, 2, 13-24

篠原郁子 2015 Sensitivity の派生概念と子どもの社会的発達 -ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄ研究からの展望- 心理学評論, 58(4), 506 -529

Sumner, G., & Spietz, A. 1994. NCAST Caregiver/parent -child interaction feeding manual, NCAST Publication, University of Washington, School of Nursing.

（ふくだ かおり・もりした ようこ・おがた かずお）

思春期における精神的健康度と自己理解の関連性

－20答法と3つの願いのカテゴリー分析をもとに－

○本原琴美[1]　田中真介[2]
([1]竹富町立大原中学校　[2]京都大学国際高等教育院)

キーワード：思春期の発達、精神的健康度、健康度指数、自己理解、20答法、3つの願い

【目的】

思春期には、自分自身の価値を発見し尊重する「自己信頼性」が育ち、仲間集団の中での新たな「社会的交流性」の力の展開によって、自他に共通する普遍的な価値を発見し共有し尊重する力を獲得していく。

小・中学生の心身の自己理解の内容をもとに、思春期の自己信頼性の発達過程を明らかにし、自己信頼性と社会的交流性の関連にもとづいた新たな教育方法を提起する。

【方法】

（1）**対象**：小学3年から6年の児童（169名）、及び中学1年から3年の生徒（117名）、計286名（男子96名、女子190名）に協力を得てアンケート調査を行った。内訳（男：女）は小学3年49名（17：32）、4年35名（9：26）、5年47名（11：36）、6年38名（13：25）。中学1年34名（17：17）、2年60名（21：39）、3年23名（8：15）であった。

（2）**方法**

1）**健康アンケート**：自分自身の心身の健康の自己理解の内容をとらえるために、「健康アンケート」として「日本版一般健康調査12項目版（GHQ-12）」を実施した。各項目に4件法で「不健康～健康」の度合の回答を求めた。4つの選択肢に-2点から+2点の得点を与え、無回答の項目は0点とした。得点が高いほど精神的に健康となる。

2）**自己理解アンケート**：自己理解の構造（自分の時間的・発達的な変化、及び社会的な関係性）をとらえるために「自己理解アンケート」を実施し、次の8つの質問に自由記述で回答させた。①「20答法」（「わたしは～」テスト）、②「3つの願い」、③「小さい頃の自分」、④「自分の成長の実感」、⑤「印象深い記憶」、⑥「将来どんな人になりたいか」、⑦「好きな歌」とその理由、⑧アンケートの感想。

20答法への記述内容をネガティブ/ポジティブで分類し、さらに「自己信頼性」と「社会的交流性」カテゴリーに類型化して分析した。また、3つの願いでは、それぞれを「願う理由」についても答えてもらった。3つの願いの回答内容を、次のカテゴリーに分類し分析した。①自分のこと（外面性、内面性、その他）、②家族、③友人、④学校（学業を含む）、また⑤社会性（広く社会をとらえた願い）、⑥将来像、⑦その他（技能、コロナ、旅行、お金など）である。

【結果と考察】

（1）**精神的健康度**

1）**健康度指数による相互比較**：本研究では、健康度を示すGHQ得点を新たな方法で配点・採点し健康度を評価した（応用リッカート法）。また、各学年の平均得点を従来の採点法による平均得点と比較するために「健康度指数」という概念を導入し、健康度の水準の標準化を試みた。

応用リッカート法では、対象者の健康度を-24点から+24点のあいだの得点で評価し、得点幅の最大値（絶対値）は48点となる。例えば小学3年生（小3）の平均値は「+12.3点」だったので、マイナス側の-24点の絶対値（｜-24｜）の24+12.3＝36.3点が健康度の実質的な素点となる。健康度得点の最大値48点に対する素点（36.3点）の割合を「健康度指数」とした。小3の健康度指数は0.75（健康度得点の満点48点中の75%）と計算できる。

健康度の採点方法が異なっていても、各採点法での満点に対する「健康度得点の素点」を100%換算での「得点率」として表すことで、健康度を相互に比較検討することができた。

例えば、小3の健康度の従来の「リッカート法」での平均得点値は9.35点だった。健康度得点の最大幅は0～36点で、リッカート法では得点が高いほど不健康を示すので、健康度は、満点の36点から素点（9.35点）を差し引いた値（36－9.35=26.65）である。この「26.65点」は、リッカート法での健康度評価の得点幅「36点」の74%にあたり、健康度指数は0.74と算定できる（健康度の満点を100%として74%の得点率）。この「健康度指数」は、本研究の応用リッカート法で算出した健康度の水準とほぼ対応していた。

2）**精神的健康度の学年比較**：精神的健康度の得点は個人差が大きかったが、学年ごとの平均値を比較すると、小学3年生（小3）で健康度が高く、小5では低い傾向にあった。小6では回復したが、中学生は小学生よりも全体として低かった。また、中1に低下し、中2ではやや回復していたものの、中3では最も低い健康度を示した。

（2）**自己理解**

1）**20答法**：ポジティブな記述例として、「好き」「得意」「楽しい」「よくほめられる」「明るい」「友だちが多い」など。ネガティブな記述例としては、「～がきらい」「～が苦手」「身長が低い」「めんどくさがり屋」「勉強が苦手」「頭が悪い」「あきっぽい」などの回答がみられた。

小・中学生とも全体的にポジティブな記述が多かった。回答率の学年別の平均値では、小学生ではポジティブ回答率が高く、小5女子と中学生では低い傾向にあった。健康度が低い児童・生徒では、20答法でネガティブな自己理解の記述が多かった。自己理解と健康度との関連が示唆される。

2）**3つの願い**：学年進行とともに、自分の外面を客観的にとらえる力を育むとともに、自分の内面を深く理解した記述が増えていた。また、身近な家族や友人との関係性に関する願いを表現し、それを願う理由も深まっていった。自分のことを願っているように見える文面でも、願う理由として、友だちや家族を思っての願いの場合があった。思春期の内面の理解には「願う理由」まで聞くことが大切といえよう。

（3）**総合考察**

特に健康度が低かった小学5年と中学1～3年の女子のうち、小5の事例では、3つの願いで「化粧品を買いたい」「旅行に行ってばくがいしたい」と回答していた。自分に自信がなく、物を買うなど外的な報酬によって自己信頼性を支えようとしている。一方で、家庭や家族、友人関係をよくしたい、新しい世界へ行きたいといった願いも共通していた。

中1～2女子では、「また今のクラスメイトがいい」「先輩と仲良くなりたい」「しゃべるのがうまくなりたい」と、関係構築してきた人に自分の思いや意見を伝え、もっと自分をわかってほしいという願いを持っていた。自分の居場所を求め、自分に力や才能がほしいという願いも特徴的だった。中3女子の願いは多彩だったが、自分の進路がかなうこと、憧れの人との出会い、好きな人との結婚、家族の健康への願い、自分に自信を持てるようになりたいという思いが共通していた。思春期の心の健康を支えるためには、自己信頼性と社会的交流性を尊重した新たな発達援助が必要であろう。本研究で申告すべき利益相反はない。(もとはらことみ・たなかしんすけ)

孤立状態にある単身中高年者におけるコミュニケーションの志向性の違いによるSNS利用と孤独感との関連

○村山陽[1]・長谷部雅美[2]・
([1]東京都健康医療センター研究所・[2]聖学院大学)

キーワード：SNS、単身高齢者、孤独感

目　的

急速な高齢化の進展を背景にして単身中高年者の社会的孤立が深刻な社会問題として取りざたされている。単身中高年者の社会的孤立が心身の健康に及ぼす有害な影響は多くの研究で示されている。しかし，社会資源が乏しい単身中高年者は他者との関係が築きにくい上に心理的な障壁があることが予測される。こうした問題に際して，単身中高年者の孤立を防止するためのコミュニケーション手段としてSNSに関心が集まっており,SNSを含めたICTの活用がより孤立感の軽減に効果的であることが認められている(Cher et al, 2016; Nowland et al, 2017)。一方,オンライン上でのコミュニケーションの志向性(以下,オンラインコミュニケーション志向性)には個人差があり,中高年者やインターネット利用が少ない者ではオンラインコミュニケーション志向性が低いことが示されている(Thayer et al, 2006)。こうした知見に基づき,本研究では単身中高年者におけるオンラインコミュニケーション志向性による違いが,SNS利用と孤独感との関連に影響するのではないかと想定し,その検証を目的とした。具体的に,年代と孤立状況の組み合わせから4つの群(40-50代非孤立:n=688,40-50代孤立:n=246,60-70代非孤立:n=796,60-70代孤立:n=170)を構成し,孤立状態にある60-70代単身者のSNS利用と孤独感との関連に及ぼすオンラインコミュニケーションの志向性の影響が他群とどのように異なるのかを検討する。

方　法

【調査対象者】2023年3月に調査会社Aのモニターで40代から70代の単身者1900人(男性1240人，女性660人)にWeb調査を実施した。

【調査項目】①基本属性：性別，年齢，雇用形態,教育歴,婚姻歴，子どもの有無，②社会的孤立状態：a.別居の家族・親戚，b.職場・仕事関係の方,c.友人・近所の人,についてそれぞれ日頃から頼りにし親しくしている人数を4件法で尋ねた。本研究では,a～cの合計が0人の場合を孤立群,それ以外を非孤立群とした。③心理的健康：孤独感尺度短縮版3項目3件法(Igarashi, 2019)を用いた。④SNS(LINE，Twitter，Facebook，Instagram，mixi，TikTok)利用：a.1日あたりのSNS使用時間(以下,SNS時間)，b.SNS上でコメントやメッセージなど文字を使ったやりとりがある人の数(以下,SNS人数)を尋ねた，⑤対面･オンラインのコミュニケーション志向性:50-70代単身者46人を対象に実施した面接調査で示された[対面とオンライン上でのコミュニケーションについての考え」の記述から20項目を作成した(ex. オンライン上の人間関係よりも現実での人間関係を重視したい，現実よりもオンライン上の人間関係の方が気をつかわなくすむ)。

【倫理的配慮】発表者が所属している機関の倫理委員会の承認を得て実施した。

結　果

(1) 対面･オンラインのコミュニケーション志向性20項目について因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った結果,「オンラインコミュニケーション志向(以下,オンライン志向)」と「対面コミュニケーション志向(以下,対面志向)」の2因子が抽出された。4群ごとにα係数を算出したところ,対面志向でα=.90～95,オンライン志向でα=.88～.95となりいずれの群でも高い内的一貫性が示された。各得点の群間差を検討するために一要因分散分析とBonferroniの多重比較を行った結果，対面志向では,40-50代孤立群・60-70代孤立群より40-50代非孤立群・60-70代非孤立群の方が高いことが示された($F(3, 1896) = 26.558$, $p<.01$)。オンライン志向では,60-70代非孤立群より他の40-50代非孤立群・60-70代非孤立群・40-50代非孤立群の方が高いことが認められた($F(3, 1896) = 6.667$, $p<.01$)。

(2) SNSでのコミュニケーションから心理的健康への影響を検討するため,4群ごとにStep1で基本属性,Step2でSNS時間・SNS人数,Step3でSNSコミュニケーション志向性,Step4でSNS時間とSNSコミュニケーション志向性との交互作用項,SNS人数とコミュニケーション志向性との交互作用項を独立変数,孤独感を従属変数とした階層的重回帰分析を行った。その結果,3群(40-50代非孤立群,60-70代非孤立群,60-70代孤立群)においてSNS時間が孤独感に負の影響が見られた。また,60-70代孤立群($R^2=.30$)においてSNS時間が孤独感に対して正の影響が見られた。さらに，60-70代孤立群においてのみSNS人数と対面志向,SNS人数とオンライン志向との交互作用効果がそれぞれ確認された。単純傾斜の検定を行ったところ,対面志向が高い群ではSNS人数が少ないほど孤独を感じていたが,対面志向が低い群には影響はみられなかった($\beta=-.52$, $t(126)=2.61$, $p<.05$)。また,オンライン志向が低い群ではSNS人数が少ないほど孤独を感じていたが,オンライン志向が高い群には影響は見られなかった　($\beta=-.66$, $t(126)=2.15$, $p<.05$)。

考　察

本研究では,対面とオンラインの2つのコミュニケーション志向性が認められたが,その中でも孤立状態にある60-70代はいずれの志向性も低く,SNS使用時間が長いほど孤独感を感じることが認められた。また,SNS上でやり取りがある人数と孤独感との関連に,コミュニケーション志向性が影響することが示された。対面志向が高い人やオンライン志向が低い人では,SNS上でやり取りがある人数が少ないほど孤独感を感じていた。すなわち,他者と関わりたい意識を持ちながらそれが阻害されている状態の単身中高年者では,SNS上での多様な人とのコミュニケーション機会を設けることが孤独感の低下につながる可能性が示唆された。一方,対面志向が低い人やオンライン志向の高い人ではSNS上でやり取りがある人数は孤独感に影響はしなかった。こうした結果は,孤立状態であっても孤独の感じ方は多様であることを示唆しており,それゆえ孤立解消に向けてそれぞれの志向性に合った方法を検討することが求められる。

(むらやま　よう・はせべ　まさみ)

新型コロナ禍下の「別れ」

佐々木美智子

（龍桜高等学校看護学科専門課程）

キーワード：新型コロナ　別れ　意志ある生

【目的】新型コロナ感染第８波が去り、感染症法の位置づけも５類に引き下げられて、全数把握による集計も2023年５月７日分で終了した。感染者累計は3381万2143人、死者も７万4692人に達した。数字に表れない裾野も広い。筆者の体験した「別れ」を記し、検証したい。

【方法】筆者がこれまで発達相談で出会った方々の中で、2021年から2022年に新型コロナ関連で亡くなられた３人の事例を取り上げ、個人が特定されないように配慮した形で、コロナ禍下での「別れ」の状況に見られた問題点と、家族と周囲が立ち直ろうとする姿について考察する。対話の方法は、葉書と電話、葬儀場での対面会話である。表に、一覧を示す。

＜表＞コロナ禍下の「別れ」の事例

事例	年月	年代	性別	原因	対話者
A	21.1	50代	男性	摂食補助中の窒息	姉（葉書・電話）
B	22.8	50代	男性	施設内コロナ感染	両親（電話・葉書）
C	22.9	70代	女性	病院内コロナ感染	息子・参列者（対面）

【結果】

1．2021年新型コロナ第３波下の「別れ」

＜A さん＞知的障害とてんかん発作があり、学生たちによる地域の不就学児実態調査をきっかけにできた親の会に、父親と一緒に参加した。小学校の障害児学級から、新設の養護学校に転校し、卒業後は親の会の創設した共同作業所に父親と一緒に通った。母親は高齢者施設に入所し、父親もAさんを別の地域の障害者入所施設に預けた後に亡くなり、姉が後見役となった。

Aさんは、21年１月、新型コロナ第３波で２回目の緊急事態宣言が出された面会中止期間に、食が細り、新たな病の治療も受けていた。朝食を拒んだため、職員が摂食補助して席を立っていた合間に窒息した。所内の処置では回復せず、救急搬送された後に、姉は連絡を受けてかけつけた。痩せた姿に姉は驚いた。呼吸器を装着して入院が長引くと判断した姉が、着替えを取りに一旦帰宅する途中に、A さんは息を引き取られた。姉は今、母親を後見しつつ、亡父達の創設理念を引き継ぐ地域の障害者福祉サービス事業所で働いておられる。

2．2022年新型コロナ第６・第７波下の「別れ」

＜B さん＞ダウン症と診断され、小児科の発達相談外来に通った。両親は、校区の小学校に障害児学級開設を希望し、Bさんは就学した。小・中と障害児学級で学び、養護学校の高等部を卒業後、地域の共同作業所に通い、知的障害者施設に入所した。週末には帰宅して両親や妹一家と過ごした。妹は、ずっと「障害は関係なく、兄は兄」と言い続けてきたという。

Bさんは、新型コロナ禍で面会・外出ができなくなり、22年３月、オミクロン株が流行した新型コロナ第６波下に施設内で集団感染し、肺炎も併発して緊急入院した。コロナは陰性になっても誤嚥性肺炎で入院を続け、歩行困難になり、リハビリ病院から療養型病院に転院して10日後に、誤嚥性肺炎再発の治療中、心不全で急逝された。この間、転院の時以外は面会できなかった。両親は、施設には長年お世話になったと感謝し、自分たちが元気な中に先に旅立ってくれたことに、障害を持った子の親としての安堵の気持ちも述べられた。寒中見舞いには、体力の衰えを綴る近況報告と共に、時代の変化を見据えた今後の生き方も書いておられた。

＜C さん＞保健所主催の親子教室が母体となった、地域で最初の公立児童発達支援施設に、長年保育士として勤務した。数多くの園児と保護者達に慕われた。在園児と卒園児の親の会のつなぎ役でもあった。定年後も、卒園児達のいる民間の障害児関連事業所に勤務した。

最大感染者数を示した新型コロナ第７波下の22年９月、持病治療のため入院中に感染して容体が急変し、逝去された。火葬場に直送であった。翌日の通夜と告別式を兼ねた葬儀には、ラインやメールで伝え合った職場の同僚や保護者らが多数参列した。葬儀後は、故人を偲ぶ久しぶりの交流の場になり、対面の語らいを喜び合った。家族も、家庭での偉大な母親だけでなく、改めて仕事上の母親の偉業を知る機会になったと語られた。

【考察】

① ３例とも、障害のある当事者あるいは支援者として、障害児教育と療育の創成期から長い間、かけがえのない人生を紡いでこられた方々である。突然の「別れ」の衝撃は大きく、ご家族と周囲の方々の喪失感の大きさは推し量りがたい。

② Aさんは、新型コロナ第３波下の面会中止期間に、摂食補助中の窒息事故で亡くなられた。感染対策や職員体制に困難を抱えた介護現場の問題状況も反映していると考えられる。姉は、複雑な心情を抱えつつ、Aさんと父親を良く知るかつての仲間たちと支え合って生きておられる。

③ Bさんは、オミクロン株が流行した第６波下に、入所先の施設で新型コロナに集団感染して急性肺炎を起こした。コロナ自体の入院治療後も体力は戻らず、転院療養中に急性心不全で「別れ」を迎えられた。新型コロナの急速な拡大期には、介護や医療の現場は対応が難しかった状況が推察される。両親は、それでも入所先への感謝と自分たちが看取ることができた安堵感を語られる。Bさんと共に人生を歩んでこられたご家族の温かくも意志ある歩みは続く。

④ Cさんも、第７波下に、持病治療のため入院した先で院内感染した。退院間際の突然の「別れ」であった。コロナ型葬儀にもかかわらず、長年のつながりにより多くの方々が参列した。新型コロナ禍により出会う機会が失われてきたが、対面で再びつながり合う姿が見られた。

いずれも、苦難から立ち上がろうとする意志ある生である。

【利益相反】特にありません。

【参考文献】

・『それでも人生にイエスと言う』（V.E.フランクル著、山田邦男・松田美佳　訳、春秋社、1993年）
・『障害のある人びとと創る人間教育』（田中昌人著、大月書店、2003年）

（ささき　みちこ）

わが国における「HSP」概念の受容と広がり

―「HSP」関連書籍のタイトルの共起ネットワーク分析から―

○福井義一[1]　杉森美佑奈[2]（非会員）
([1]甲南大学　[2]（株）アソウ・アルファ）

キーワード：HSP，テキストマイニング，共起ネットワーク分析，書籍タイトル

【目的】

HSP（Highly Sensitive Person）とは，Aron & Aron（1997）によって提唱された「感覚処理感受性」が非常に高い人々を指す言葉として用いられ，全人口の約15～20%が該当するとされる。わが国においては，「繊細さん」という表現で瞬く間に受け入れられ，世間の耳目を引くこととなった。飯村（2023）も指摘するように，その嚆矢となったのは『「気がつきすぎて疲れる」が驚くほどなくなる「繊細さん」の本』（武田，2018）が各種のマスメディアによって特集されたことであろう。それ以降，一種の「HSP」ブームが巻き起こり，その流れは現在も加熱したまま持続している。こうしたブームにより，HSP の概念が広く認知されたことで恩恵を受ける人々も多くいたと思われる一方で，本来の HSP の概念が歪曲されて伝わった結果として不利益を被る人々がいた可能性も否定できない。

特にわが国では，「生きにくさ」や「生きづらさ」を説明するためのツールとして，アダルト・チルドレン（信田，2001）や毒親，発達障害のような様々な心理学的構成概念が，その意味合いがやや誇張・歪曲されて援用されてきた歴史がある（上田，2022）。「HSP」概念もこうした流れにおいて用いられる傾向がある。

こうした背景から，わが国における「HSP」概念の受容と広がりについて現状を把握する必要があると思われる。イイムラ（2020）は，その方法の一つとして，HSP を自称する Twitter アカウントのプロフィール文を対象に計量テキスト分析を実施し，カウンセラーとしても活動している HSP 当事者が，自身の既往歴についても言及しつつ，恩恵よりも生きづらさに焦点を当てた投稿を繰り返していることなどを指摘した（飯村，2023）。

本研究では，わが国における「HSP」概念の受容と広がりについて，別の観点から把握するために，過去に刊行された「HSP」関連書籍の刊行数の推移や，そのタイトルを計量テキスト分析により探索的に検討した。書籍タイトルには，扱っている題材に対する筆者自身の定義や主張，伝えたい対象などの情報が反映されていると予想されるため，わが国における「HSP」概念の受容と広がりを示す間接的資料となり得ると考えられたからである。

【方法】

手続き：2001 年 11 月～2022 年 12 月末までに刊行された HSP 関連書籍について，国立国会図書館サーチと Amazon で検索し，267 冊の書誌データを収集した。

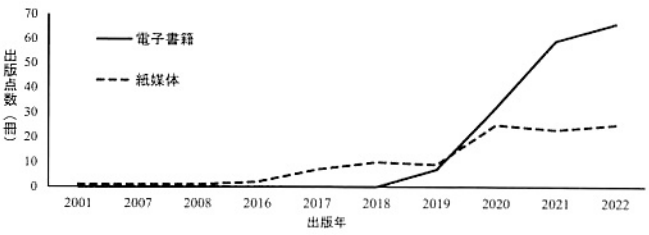


Figure 1 HSP 関連書籍の出版点数の推移

【結果】

まず，媒体別の出版点数の推移を Figure 1 に示した。これによると，2019 年を境に紙媒体書籍の出版点数が激増しているとともに，2020 年から電子書籍の発行点数が爆発的に増加していることが分かる。

次に，各書籍のタイトル（副題含む）を対象に，KH Coder（樋口，2004）により，最小出現数を 5，上位 60 語に指定し，共起ネットワーク分析を実施した。その結果，Ⅰ：「精神障害と HSP」，Ⅱ：「繊細さ・敏感さ」，Ⅲ：「人間関係の悩み・生きづらさ」，Ⅳ：「自己肯定感の高め方」，Ⅴ：「共感力」，Ⅵ：「処理の深さ」，Ⅶ：「生き方」，Ⅷ：「自己理解」の 8 つの共起ネットワークが抽出された。

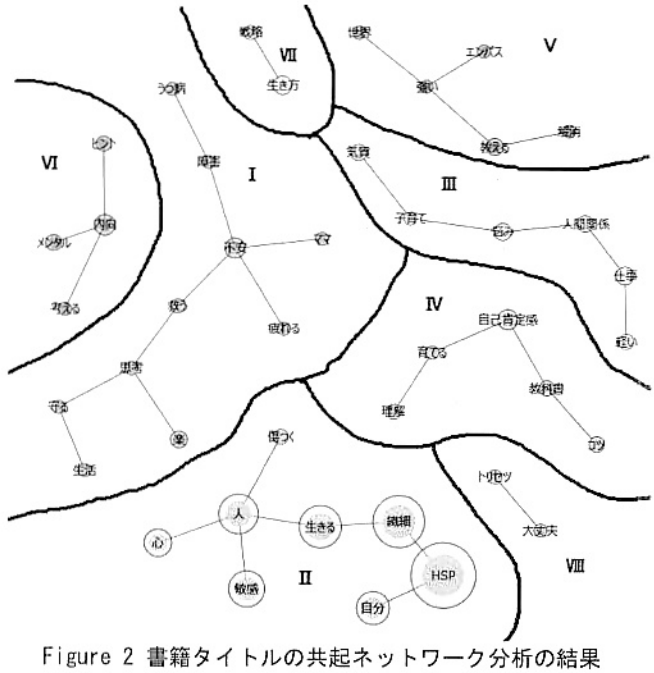


Figure 2 書籍タイトルの共起ネットワーク分析の結果

【考察】

本研究の目的は，わが国における「HSP」概念の受容と広がりについて，「HSP」関連書籍の刊行点数の推移やその書籍タイトルの計量テキスト分析から探索的に検討することであった。

書籍の刊行点数は，「HSP」がメディアで取り上げられた 2019 年頃を境に，急増していることが分かる。さらに，電子書籍の発行点数はコロナ禍で爆発的に増加していた。電子書籍は出版社を経由しない自費出版が可能であるため，コロナ禍でクライエントと直接会う仕事が激減した元当事者の自称カウンセラーが，手っ取り早く自己の仕事を宣伝する手段として，こぞって執筆された可能性があることが伺えた。

また，書籍タイトルの共起ネットワーク分析からは，「HSP」による「生きづらさ」を抱えた当事者に向けた一般向けの書籍が多いこと，「HSP」の特性とのつき合い方に焦点を当てたいわゆるハウツーものが多いことなどが分かった。

本研究から，飯村（2023）が危惧するように，わが国における「HSP」概念の受容と広がりにおいては，学術的な知見とは乖離がある情報が広がっており，その情報には一定の歪みや偏りがあることから，専門的な観点からは憂慮すべき状況であることが示唆された。今後は，HSP の研究者からの適切な情報発信が求められるだろう。

【利益相反】本発表について COI 関係にある企業等はない。

（ふくい よしかず・すぎもり みゆな）

無信号横断歩道における歩行者横断判断に関する行動意図モデルの検討

○小嶋理江[1]　青木宏文[1]（非会員）　西澤智恵子[2]（非会員）　伴和徳[2]（非会員）
（[1]名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所　[2]トヨタテクニカルディベロップメント株式会社）
キーワード：VR，横断判断，行動意図

【目的】車両や歩行者などの交通参加者によって，どのような交通錯綜が生じ，どのような事故が起こり得るのかを検証することは，交通事故のない安全で安心な交通環境を実現するためには必須であり，様々な研究が行われている。近年着目されるのは，シミュレーションによる検証である。より現実に近い交通環境の再現，多様な要因の組み合わせが可能となる。そのため，複雑で多様な検証を実施できる。実場面で再現することのリスクの回避はもちろんのこと，コストの低減にもつながる。このような研究例として，シミュレーションに登場する歩行者の行動モデル構築に向けて基礎的分析を行った西澤他（2022）がある。車両より先に積極的に横断しようとするクラスター，車両通過を見送り慎重に横断しようとするクラスター等，行動傾向の差異について，年代や運転経験年数などの属性情報との関係を含めて明らかにしている。しかしながら，年代や運転経験年数などの属性情報だけでは，実際のシミュレーション設計に組み込むには，歩行者の行動が偏る恐れがある。そこで本報告は，歩行者の横断判断に影響すると考えられる要因を明らかにし，さらに横断判断に関する行動意図モデルを検討することを目的とする。

【方法】**実験協力者**：バーチャルリアリティ（以下，VR）環境を用いることから，船酔いや画面酔い（3D 酔い）しにくいことを参加条件に提示し，協力者の募集を行った。協力者は，男性 22 名，女性 10 名であった（10 歳代～50 歳代）。

実験場所：名古屋大学 NIC（National Innovation Complex）内にある研究施設であった。

実験日時：2022 年 11 月 21 日～12 月 2 日のうちの 9 日間。

実験設備：実験に関する事前説明およびインフォームドコンセントを行い，書面による同意を得て実験を実施した。VR 装置（htc 社製 VIVE Pro Eye），判断計測装置（Valve Corporation 製 Valve Index），歩行装置（Cybershoes）を用いた。歩行装置の足裏部分にあるローラーを転がすことで，仮想空間上のアバター（実験協力者自身）が歩行し，歩行動作が計測される。仮想空間には，信号機のない横断歩道と，実験条件に合わせて走行する車両を準備した（Figure 1）。

手続き：仮想空間内において，信号機のない横断歩道付近から横断歩道に向かう状態で計測が開始した。「横断歩道を渡る」もしくは「待機する」と判断したタイミングで，判断計測装置のボタンを押すよう教示した。横断歩道を渡ることで 1 試行とし（約 1 分），計 108 試行を行った。

実験条件は，緊急性の有無，車両の走行パターンの組み合わせであった（それぞれ参加者内計画）。試行中，緊急性なし条件の場合には「横断歩道の向こう側に，待ち合わせをしている友人がおり，現在は待ち合わせ時間の 15 分前である」，緊急性あり条件の場合には「横断歩道の向こう側で上司，先生，客先と待ち合わせをしており，現在はその待ち合わせ時間である」という教示が行われた。

さらにフェイス項目と質問紙への回答を求めた。質問紙は，短縮版多次元衝動的行動尺度日本語版（SUPPS-P-J）など 6 種類と，オリジナルの質問紙の計 7 種類を用いた。

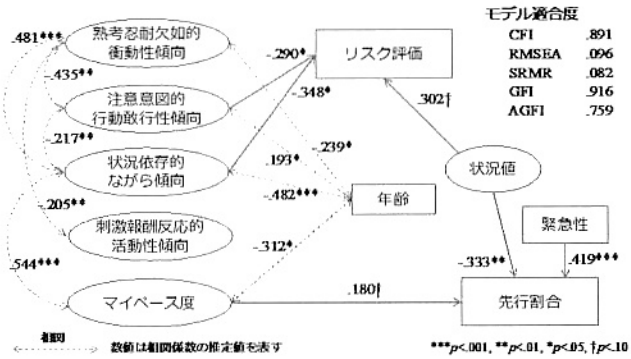
【結果と考察】車両の走行状態については，本報告では左側から 1 台通過の走行パターンのみの 18 試行分を分析対象とした。質問紙は，各尺度構成に従って下位尺度得点を算出し，分析に用いた。横断するか待つかの判断において，車両より先に横断すると判断した回数から「先行割合」を算出した。

SEM の結果を Figure 2 に示す。「状況値」は，横断すると判断した際の TTC（Time To Collision：衝突余裕時間，状況値への標準化係数=.487）と横断時の CMT（Cross Margin Time：横断余裕時間，状況値への標準化係数=.999）からなる。下位尺度は，パーソナリティ特性に関する 5 つの潜在変数で表された。先行割合に影響するパーソナリティ特性はマイペース度（有意傾向）のみであり，緊急性と状況値は有意なパスがみられた。今後詳細に検討しながらモデルを改善し，歩行者の横断判断を的確に捉えた行動意図モデルの提案を目指す。

Figure 1 仮想空間内のアバターと交通環境の様子



Figure 2 横断判断に関する行動意図モデル（パス数値は標準化係数）



利益相反（conflict of interest; COI）はなし。名古屋大学未来社会創造機構の倫理審査委員会にて承認を得た（承認番号:2022-29）。

【引用文献】

上出寛子ほか（2005）．日本語版 BIS/BAS 尺度の作成，対人社会心理学研究，5，49-58.

Kiire et al. (2020). Discrimination of Dark Triad traits using the UPPS-P model of impulsivity. *Personality and Individual Differences*, 167, 110256.

西澤智恵子ほか（2022）．無信号横断歩道における歩行者横断判断モデル構築のための基礎的分析―歩行者の属性と行動傾向に着目して―，日本交通心理学会第 87 回大会論文集，30-33.

尾崎由佳ほか（2016）．セルフコントロール尺度短縮版の邦訳および信頼性・妥当性の検討，心理学研究，87(2)，144-154.

小塩真司ほか（2012）．日本語版 Ten Item Personality Inventory(TIPI-J) 作成の試み，パーソナリティ研究，21(1)，40-52.

篠原一光ほか（2007）．日常生活における注意経験と主観的メンタルワークロードの個人差，人間工学，43(4)，201-211.

前田聰ほか（1983）．虚血性心疾患患者の行動性格（第 1 報）：A 型傾向判別表の適用について，心身医学（第 10 回日本心身医学会中部地方会演題抄録），23(3)，268（質問項目参照：https://www.jhf.or.jp/topics/2014/003578/）.

（こじま まさえ・あおき ひろふみ・にしざわ ちえこ・ばん かずのり）

幼少期の手つなぎ経験が保護者の危険認識や監視に及ぼす影響

－ 家庭における安全教育に関する一考察 －

○大谷　亮[1]
([1]（一財）日本自動車研究所自動走行研究部)

キーワード：保護者の監視，危険認識，家庭教育

【目的】駐車場などで発生した6歳以下の子どもと車との事故の人的要因の中には，保護者の不注意によるものがあり，子どもと手をつながないことに起因する事例もみられる((公財）交通事故総合分析センター，2016)。保護者などによる子どもの手つなぎは，保護者の監視（Parental Supervision：PS）として歩行中などを対象に広く検討されている。Zeedyk & Kelly（2003）は，危険場面での手つなぎは子どもを保護するといった意味だけではなく，当該場面の危険性を子どもに教える役割があると推測している。ただし，この点に関する実証的データは未だ存在しない。本研究では，幼少期の自身の親から手つなぎ経験が，自らの子どもと歩く際の保護者の危険認識や手つなぎに影響を及ぼすか否かをアンケート調査により検討し，手つなぎによる教育可能性の点から，家庭における教育について考察することを目的とした。

【方法】手つなぎによる教育可能性を調べるため，インターネットを用いたwebアンケート調査を実施した。調査協力者（協力者）は3歳以上10歳以下の最年少児（対象児）をもつ保護者1,000名（男女同数：平均年齢38.4歳，標準偏差4.1歳，24歳から45歳に分布）とした。調査では歩行中の交通場面をCGで示し，対象児と一緒に歩くことを想定して設問に回答するよう協力者に求めた。対象とした場面は，対向車やガードレールの有無，対象児との距離などが異なる3種類（危険大，危険中，危険小）とした。協力者は3種類の交通場面別に，①「この場面を対象児と歩く際に危険と思うか（保危険認識）」，②「この場面で対象児と手をつなぐか（保手つなぎ）」，③「小学校入学前（3歳から5歳まで）を思い出し，このような場面で自身の親からの手つなぎはあったか（保手つなぎ経験）」の設問に答えるよう教示された。協力者には，①と②の設問に対して，7件法のリッカートスケール（1.全くそう思わない-2.そう思わない-3.あまりそう思わない-4.どちらでもない-5.ややそう思う-6.そう思う-7.とてもそう思う）で回答するよう求めた。また，③については，「いつもつなぎにきた，時々つなぎにきた，全くつなぎにこなかった，覚えていない」の中から選択するように教示した。調査は（一財）日本自動車研究所が定める実験倫理委員会からの承認を得た上で，2023年1月に実施した。

【結果】保手つなぎ経験について「覚えていない」に回答した協力者を除外し，3種類の交通場面別に，保危険認識と保手つなぎを従属変数とする対応のない一元配置分散分析を行い，効果量を算出した。分析の結果，危険中と危険小の2種類の場面では，保手つなぎにおいて有意差がみられ，かつ効果量が中程度と判定された。下位検定の結果，両場面の保手つなぎは，いつも，時々，全くの順に得点が高かった。一方，保危険認識については，対象とした全ての場面において有意差がみられたが，効果量は小と判定された（Tab.1）。

【考察】Zeedyk & Kelly(2003)は，歩行中の子どもとの手つなぎが，交通場面に対する危険認識の教育に繋がる可能性を指摘している。本研究では，この点について検証するため，3歳から10歳の子どもをもつ保護者を対象にアンケート調査を実施し，幼少期の頃の自身の親からの手つなぎ経験が，自らの子どもと歩く際の保護者の危険認識や手つなぎに及ぼす影響を調査した。有意差がみられ効果量が中程度だったものを影響ありとして考えると，交通場面の危険性によらず，幼少期の頃の自身の親からの手つなぎ経験は，子どもと歩行中の保護者の危険認識に影響を及ぼさないことが示された。この点について，自らの子どもと歩く際の保護者の危険認識は，幼少期の親からの手つなぎ経験の他に，成人へと成長する過程における様々な経験や，一緒に歩行する子どもの年齢（大谷，2020）などの要因が関係していると考えられ，幼少期の手つなぎ経験は相対的に影響が小さかったと推察される。以上の結果から，家庭において子どもに危険な交通場面を保護者が教える際には，親からの手つなぎといった非言語的な行為ではなく，明示的な教育が重要と予想される。次に，幼少期の頃に自身の親からの手つなぎ経験があると，対向車が存在するといった顕在的危険がない場合に，自らの子どもと手をつなぎやすいといった結果が得られた。交通事故の危険性が相対的に高くない中で，自らの子どもと手をつなぐという行為は親子関係の現れと考えられ，幼少期の頃に自身の親から手つなぎを求められた経験が，自らの子どもとの関係性にも影響を及ぼし，手つなぎを遂行するといった行為の伝承に影響したと推察される。なお，本研究では，保護者になってからの危険認識を対象に検討を行っており，親からの手つなぎが，その時の子どもの危険認識に影響を及ぼすか否かについては把握できていない。今後，子どもを対象にした調査を行い，手つなぎによる教育可能性について検討することが家庭における安全教育のあり方を考える上で重要である。

【引用文献】

(公財）交通事故総合分析センター(2016)．特集 駐車場等における歩行者対四輪車の事故．イタルダインフォメーション，No.115.
大谷亮・栗山あずさ・田川傑・橋本博(2020)．子どもと同伴時の保護者の危険認識と影響要因-異なる交通場面を対象にした検討-．日本交通心理学会第85大会発表論文集，p23-26.
Zeedyk, M. S., & Kelly, L.(2003). Behavioural observations of adult-child pairs at pedestrian crossing. Accident Analysis and Prevention, 35, 771-776.

【謝辞】本研究は，一般社団法人日本損害保険協会2022年度自賠責運用益拠出事業の一部をまとめたものであり，ここに記して感謝申し上げます。

（おおたに あきら）

Tab.1 幼少期の手つなぎ経験の影響

	交通場面		
	危険大 (対向車：あり/ガードレール：なし/側方：駐車場/子どもとの距離：3m)	危険中 (対向車：なし/ガードレール：なし/側方：駐車場/子どもとの距離：1m以内)	危険小 (対向車：なし/ガードレール：あり/側方：壁/子どもとの距離：1m以内)
保危険認識	$F(2,673)=10.60$，$p<.01$，$\eta 2=0.03$(小) いつも＞時々，全く	$F(2,602)=13.91$，$p<.01$，$\eta 2=0.04$(小) いつも＞時々，全く	$F(2,621)=8.85$，$p<.01$，$\eta 2=0.03$(小) いつも＞時々＞全く
保手つなぎ	$F(2,673)=12.37$，$p<.01$，$\eta 2=0.04$(小) いつも＞時々，全く	$F(2,602)=20.71$，$p<.01$，$\eta 2=0.06$(中) いつも＞時々＞全く	$F(2,621)=24.47$，$p<.01$，$\eta 2=0.07$(中) いつも＞時々＞全く

児童・生徒の交通事故死傷における「進学効果」と交通違反行為の関連

○矢野伸裕
（科学警察研究所交通科学部）
キーワード：進学効果，学年，不安全行動

【目的】中学や高校への進学後，生徒・児童の交通事故死傷者数が一時的に飛躍的に増加する現象を本研究では「進学効果」と呼ぶ。矢野・森（2019）は，進学効果は通学時の歩行中死傷者数や通学時および私用時の自転車運転中死傷者数で認められ，その後，学年が上がるにつれて死傷者数は減少することを示した。そして，進学効果には，進学というイベントにより通学環境や社会的・生活的環境が急に変化し，これにより行動範囲の空間的・時間的な急拡大・変化が引き起こされ，このことが新規で不慣れな道路環境を通行する機会の急な増加をもたらすことが関連しているとの仮説を提起した（矢野・森, 2019）。

ところで，Wang et al.（2018）の観察調査によれば，児童・生徒の年齢が上がるほど不安全行動が増加することが指摘されている。しかし，不安全行動の増加と進学効果との間に関連があるかどうかはまだ調べられていない。そこで，本研究では不安全行動を交通違反行為とし，事故時の交通違反と学年との関係を分析した。なお，ここでは進学効果がより明瞭である自転車運転中事故に限定して分析を行った。また，本稿では，小学1年生から高校3年生までの学年を，小1，小2，･･･，中1，･･･高3，と表記する。

【方法】警察庁の交通事故統計データベースから，2013年4月～2018年3月の期間に発生し，自転車運転中の小1～高3の者が第1あるいは第2当事者として死傷した事故を抽出した。なお，学年や性別が不明の場合は除いた。そして，自転車運転中の小1～高3の者の事故死傷者数を学年別および性別に集計した。本研究では，事故死傷者数を学年別の児童・生徒数で調整するため，学校基本調査（文部科学省, 2017）の統計を用いた。2013年度～2017年度の各年度別に小学校，中学校，義務教育学校，高等学校（全日制），中等教育学校（全日制），特別支援学校（小学部，中学部，高等部本科），高等専門学校（本科1～3年生）の学年別および性別の児童・生徒数を抽出し，各学年を一般的な小1～高3の学年に対応させた上で，5年度分を合算して学年別および性別ののべ児童・生徒数を集計した。

【結果】分析対象となった全学年の交通事故死傷者総数は127,603人であった。Fig.1は，学年別および性別に，児童・生徒10万人当たりの自転車運転中事故死傷者数を示したものである。中学および高校への進学直後の1年生で死傷者数が飛躍的に増加する進学効果がみられ，その後は学年が上がるにつれて減少した。Fig.2は，学年別および性別に，自転車運転中事故死傷者数に占める事故時に何らかの交通違反があった者の割合を示したものである。なお，全学年の交通違反あり事故死傷者の総数は87,882であった。交通違反があった事故死傷者の割合は，小1～高3を通して学年が上がるほど減少し，Fig.1の進学効果と関連するような傾向は認められなかった。

【考察】
進学後の交通事故死傷者の一時的な急増は交通違反行為に代表される不安全行動とは特に関連がないと認められる結果であった。Fig.2に示されたように，事故死傷時に交通違反を行っていた児童・生徒の割合は学年が上がるほど低下したが，これは必ずしも学年が上がるほど交通規則遵守傾向が高まることを意味するものではない。Wang et al.（2018）の指摘と合わせて考えると，認知能力の発達により，学年が上がるほど，交通場面の危険性に合わせて自らの不安全行動のレベルを調整するようになる可能性が考えられる。

Fig.1 児童・生徒10万人当たりの自転車運転中事故死傷者数

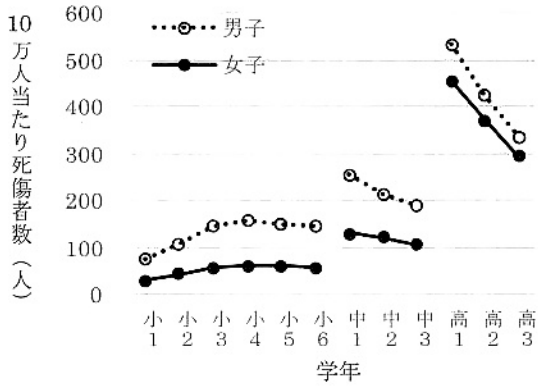
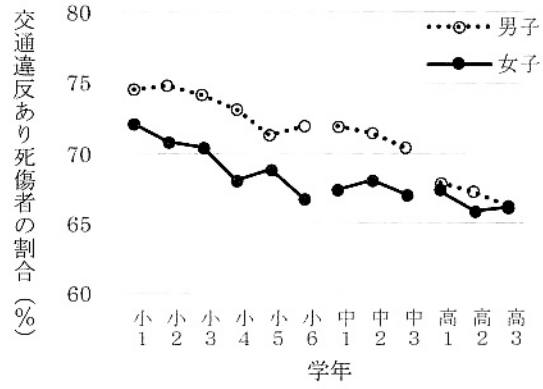


Fig.2 自転車運転中事故死傷者数に占める交通違反あり死傷者の割合（%）



【利益相反】本研究に関し開示すべきCOIはありません。

【引用文献】矢野伸裕・森健二（2019）. 児童・生徒の学年と歩行中および自転車運転中の交通事故死傷者数の関係−進学後の変化に注目して−, 交通心理学研究, 35(1), 10-25.
文部科学省（2017）. 学校基本調査. Retrieved from https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528,
Wang, H., Tan, D., Schwebel, D.C., Shi, L., & Miao, L (2018). Effect of age on children's pedestrian behaviour : Results from an observational study. Transportation Research Part F : *Traffic Psychology and Behaviour, 58*, 556-565.

（やの　のぶひろ）

高齢ドライバーの運転と健康への自己評価が先進運転支援システムの評価に及ぼす影響

○森泉慎吾[1]　蓮花一己[2]
([1]帝塚山大学心理学部　[2]帝塚山大学名誉教授)

キーワード：高齢ドライバー，先進運転支援システム，自己評価

【目的】前方衝突被害軽減ブレーキや車線逸脱防止装置などの運転支援システムを搭載した先進安全自動車（Advanced Safety Vehicle: ASV）は、特に高齢ドライバーの事故リスクの高さを低下させる役割があると考えられる。しかしながら、自身の運転ぶりを高く評価する、また心身機能の衰えを自覚していないドライバーは、ASV への評価が低い可能性がある。そこで本研究では、高齢ドライバーで問題となる「運転の自己評価」と「健康の自己評価」が運転支援システムへの評価を低下させるかを検証することを目的とした。

【方法】

研究参加者　A 県 B 市にある C 自動車学校にて法定高齢者講習に参加した高齢ドライバーのうち、研究参加に同意の得られた 300 名（男性 170 名、女性 130 名）に質問紙調査を行った。平均年齢は 75.15 歳（SD = 4.75）、週あたりの平均運転日数は 4.86 日（SD = 2.04）であった。

質問紙の構成

（1）運転への自己評価

運転の自己評価を測定するため、蓮花他（2020）の研究を参考に、4 項目（例．交差点を右左折する時、合図を正しくする）について 5 件法にて回答を求めた。評価にあたり、「研究参加者の自宅から C 自動車学校に来るまでの運転場面」を想起させた。得点化について、蓮花他（2020）にならい、4 項目の平均点を「運転の自己評価」得点とした。この得点が高いほど、自身の運転ぶりを高く評価したことを示す。

（2）健康への自己評価

健康関連 QOL 尺度 SF-8（Short-Form 8-Item Health. Survey）（福原・鈴鴨, 2019）を使用した。SF-8 は、「身体機能」や「体の痛み」等の計 8 項目の尺度である。それぞれ、その内容に合わせたラベルを用い 5 件法にて評価を求めた。得点化について、福原・鈴鴨（2019）にならい、国民標準値に基づいたスコアリングを用いて標準化した得点を「健康の自己評価」得点とした。この得点が高いほど、自身の健康状態を良好と評価したことを示す。

（3）先進運転支援システムへの評価

本研究では、「前方障害物衝突被害軽減ブレーキ（以下、AEBS）」にどれくらい頼りたいかについて 5 件法にて回答を求め、この得点を「AEBS 評価」得点とした。この得点が高いほど、AEBS を高く評価したことを示す。

その他、本研究では視覚の異常に関する自己評価等の項目も設定していたが、本稿では誌面の都合上、報告を割愛する。

手続き　法定高齢者講習開始前に研究実施の案内を行い、参加の同意の得られた者に質問紙を直接配付し、その場で回収した。回答時間は 10 分程度であった。本研究は、帝塚山大学研究倫理委員会の承認を得て実施された（承認番号：02-9）。

【結果】研究参加者 300 名のうち、回答の不備等のあった 43 名を除く 257 名を分析対象とした。運転・健康の自己評価と AEBS 評価との関連を検討するために、AEBS の評価を目的変数、運転の自己評価、健康の自己評価、およびそれらの交互作用項を説明変数とする強制投入法による重回帰分析を実施した。また、性別（0 が男性、1 が女性としてコード化）、年齢、週当たりの運転日数も説明変数に加えた（Table 1）。その結果、交互作用項が有意となったため（β = -.16, p = .009）、単純傾斜検定を行った。Figure 1 の通り、運転の自己評価が高い場合（+1 SD）、健康の自己評価が高まるほど、AEBS への評価が有意に低下する一方で（β = -.34, p < .001）、運転自己評価が低い場合（-1SD）、健康状態評価と AEBS 評価は関連しなかった（β = -.01, p = .89）。また、健康への評価が高い場合（+1SD）、運転の評価が高まるほど、AEBS 評価が有意に低下した（β = -.20, p = .032）

【考察】本研究の結果、運転の自己評価の高さが運転支援システムへの評価を低下させ、特にその傾向は自身の健康を良好に評価する高齢ドライバーほど顕著であることが示された。この点は、2022 年に新設された ASV 限定免許の普及を考える上で、それぞれの自己評価の矯正の必要性を示唆する。

【引用文献】

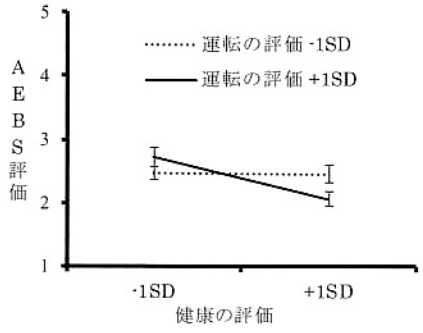
福原 俊一・鈴鴨 よしみ (2019). SF-8 日本語版マニュアル iHope International 株式会社

蓮花 一己・多田 昌裕・朴 啓彰・木村 年晶 (2020). 高齢ドライバーの一時停止交差点での運転パフォーマンス：教習所コースと一般道路での関連 *IATSS Review*, *45*, 143-153.

Table 1　AEBS 評価と関連する要因

説明変数	β	VIF
性別	-0.08	1.04
年齢	-0.06	1.05
週当たりの運転日数	-0.05	1.10
運転の評価	-0.04	1.10
健康の評価	-0.18 **	1.12
運転の評価×健康の評価	-0.16 **	1.06
F (6, 250) = 3.07, p = .006, Adj. R^2 = .05		

注1）** p < .01
注2）男性 = 0, 女性 = 1でコード化



※エラーバーは標準誤差

Figure 1　運転と健康の自己評価と AEBS 評価との関係

【付記】

本発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業等はありません。本研究の実施にあたり、調査協力を頂いた自動車学校関係者様に厚く御礼申し上げます。

（もりいずみ　しんご・れんげ　かずみ）

集団凝集性がチームでの意思決定に及ぼす影響

帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）を用いて

猪瀬詩乃[1]　小原彩輝[1]　春原愛美[1]　関絢菜[1]　藤原莉子[1]
水上静[1]　宮川眞衣[1]　持田綾乃[1]　横山千智[1]　西堀まゆ[2]　堀洋元[3]
（[1]大妻女子大学人間関係学部（非会員）　[2]大妻女子大学大学院人間文化研究科　[3]大妻女子大学人間関係学部）

キーワード：集団凝集性，防災教育，帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）

【目的】

東京都は首都直下地震等対処要領（改定版）の中で、発災後72時間に想定される応急対策活動のひとつに帰宅困難者対策をあげている（東京都，2023）。この改訂版では発災から概ね6時間で一時滞在施設を開放し、帰宅困難者の受け入れを開始するとし、帰宅困難者も含めた施設の運営を盛り込んでいる。千代田区では区内10大学と地域住民および帰宅困難者等の被災者への一時的な施設の提供を含む協定を締結しており（千代田区政策経営部災害対策・危機管理課，2020）、帰宅困難者となった学生も自身の大学で施設を運営することを想定し、備える必要がある。

帰宅困難者受け入れ施設を想定した図上演習ツールのひとつにKUG（帰宅困難者支援施設運営ゲーム）がある（廣井・黒目・新藤，2015）。堀（2023）では千代田区内3大学の学生を対象としてKUGを実施し、小集団で実施する図上演習ツールとしての有効性を確認している。よってKUGは防災教育のツールとして活用することが可能である。

大学などの教育現場ではグループワーク型授業が増加しており、千葉・武川・望月・山下（2010）では、グループワークの活性化要因を検討し、そのひとつにグループのまとまりをあげ、ポジティブな雰囲気、ネガティブ要因の低さ、目標意識、作業での個人の協働性が関係するとしている。

そこで本研究では、大学生を集団凝集性の異なる2チームに分け、図上演習ツール「帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）」を用いてチームでの意思決定の質的および量的な違いを探索的に検討する。

【方法】

参加者：心理学セミナーを受講する大学3年生9名。

機材・器具：KUGキット（廣井他，2015）、施設平面図、筆記用具、付箋を使用した。KUGは実施するための材料（施設平面図、帰宅困難者カード、帰宅困難者コマ、イベントカード）や実施手順が定められているが、実施施設に合わせてカスタマイズして活用することが推奨されているため、大学Cキャンパスの施設平面図を用いた。

測定・質問内容：KUGの成果を測定する指標として「受け入れ人数」「受け入れ拒否人数」を用いた。また、イベントカードに対するグループの決定内容を記録した。意思決定について尋ねる項目として「やりやすさ」「チーム内での意見のしやすさ」「チームの決断速度」「チーム内での意見の対立」について、評定法と自由記述で回答を求めた。実施後に参加者による内省報告を行った。

実施手続き：心理学セミナーを受講する前からの交友関係を参考に集団凝集性の異なる4名（H群）と5名（L群）に分けてKUGを実施した。KUGは廣井他（2015）による実施手順をもとに施設ごとの特徴に合わせて適宜内容を調整した。実施には事前説明、KUG実施、実施後の回答を含めて約1時間を要した。

【結果】

KUGの経験者数：H群が4名中2名、L群が5名中1名が過去にKUGを実施していた。

受け入れ人数と受け入れ拒否人数：H群の受け入れ人数、拒否人数は73名、50名、一方でL群の受け入れ人数は43名、16名だった。

チームによる意思決定の群別比較：表1はチームによる意思決定に関する項目（5段階評定）を集団凝集性の群別に集計したものである。自己評価による平均値を比較すると「やりやすさ」「チームの決断速度」「チーム内の意見の対立（の少なさ）」はH群の方が高かった。

表　集団凝集性の群別平均値

質問内容	H群	L群
やりやすさ	4.25	3.00
チーム内での意見のしやすさ	4.25	3.80
チームの決断速度	4.50	2.40
チーム内での意見の対立	4.50	3.40
KUGをまた体験したいか	4.75	4.60

【考察】

受け入れ人数と受け入れ拒否人数の比較から、H群は意思決定する際に量を、L群は質を重視しており、このことが決断の早さに影響していることがうかがえた。

集団凝集性の異なる集団を設定しKUGを実施したが、過去に経験した人数が影響している可能性があり、事前に統制しデータを蓄積した上で量的な分析、質的な分析をしていく必要がある。

【利益相反】本研究における利益相反（conflict of interest; COI）はありません。

【主要引用文献】

千葉泰介・武川直樹・望月敏男・山下清美（2010）.学生のグループワークを活性化する要因の調査　専修ネットワーク＆インフォメーション，16，1-8.

廣井悠・黒目剛・新藤淳（2015）帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発に関する研究，東日本大震災連続ワークショップ論文集，地域安全学会：1-4.

堀洋元（2023）．学生を対象とした帰宅困難者施設運営ゲーム（KUG）の開発　日本災害情報学会第26回大会予稿集，54-55.

（ほり　ひろもと・にしぼり　まゆ・いのせ　うたの・おばら　さき・すのはら　まなみ・せき　じゅんな・ふじわら　りこ・みずかみ　しず・みやかわ　まい・もちた　あやの・よこやま　ちさと）

スポーツ・運動に対する2種類の潜在的態度（2）

シングルカテゴリーIATを用いた再検討

○大橋　恵[1]　澤海崇文[2]（非会員）　藤後悦子[1]　井梅由美子[1]
([1]東京未来大学こども心理学部　[2]流通経済大学社会学部）

キーワード：IAT，態度，運動関連行動，運動実施

【目的】

中学校や高校において運動部に入る者は多いが，スポーツや運動を大人になって行っている日本人はあまり多くない。大人がスポーツや運動を続ける条件は環境要因を中心に色々と検討されているが，純粋に心理的な要因であるスポーツに対する態度も影響するのではないかと考えたOhashi et al.(2023）はスポーツ・運動に対する顕在的な態度（自己報告法による）と潜在的な態度（潜在連合テスト，通称IATによる）の測定を試みた。この時，同じ肯定的態度であっても，望ましいと考えることと楽しいと考えることは質的に異なるとし，2種類を測定した。その結果，本人の運動有能感や実際にスポーツや運動を行う頻度などは楽しさIATとのみ相関が見られた。

しかしながら，標準的なIAT（Greenwald et al., 1998）に必要な対概念として用いた「日常動作」（スマホや読書等インドア趣味の内容も含む）の方に強く反応した可能性も残る。そこで，本研究では，シングルカテゴリーIAT（SC-IAT; Karpinski & Steinman,2006）を用いスポーツ・運動に対する顕在的・潜在的な態度とスポーツ経験や運動・スポーツ関連行動との関係を再検討した。これは，関心のあるカテゴリーを肯定的な言葉と同じ位置に振り分ける肯定セッションと否定的な言葉と同じ位置に振り分ける否定セッションとの反応時間の差から，その関心のあるカテゴリーに対する潜在的態度を測定する方法だ。また，カテゴリーラベルが同じ（快と不快）では望ましさIATと楽しさIATが適切に測れるのか問題が残るため独立のカテゴリーラベルを用いた。

【方法】

2022年6～9月にオンラインで実施し，首都圏の大学生170名が参加した。正解率が75%未満の者2名を除外し，168名（男性127名，女性41名）を分析対象とした。

まずSC-IAT（望ましさまたは楽しさ）を行い，次に自己報告法を用いてスポーツ・運動の顕在的態度，運動経験（運動系部活動の経験の有無，技術レベル，動機づけ雰囲気，指導者ハラスメント体験等），運動実施状況等を尋ねた。

IAT得点は，Karpinski & Steinman (2006)同様，300ms未満と1500ms以上を除外し，不正解の場合400msを追加した上で，平均反応時間を用いた。なお用いた刺激語は事前に予備調査を行い，選定した（Table1）。

Table 1
SC-IATで用いたカテゴリーと刺激語

種類	肯定セッション		否定セッション	
	ラベル	刺激語	ラベル	刺激語
望ましさIAT	"良い"	役に立つ 素晴らしい 優れた 有益な 望ましい	"悪い"	ひどい 有害な 無能な 役立たずの だめな
楽しさIAT	"楽しい"	ゆかいな うきうきする 幸せな わくわくする おもしろい	"つらい"	悲しい きびしい たいへんな 恐ろしい 苦しい
共　通	"スポーツ・運動"	走る 体力 筋肉 ボール ダンス サイクリング ハイキング		

【結果】

SC-IAT得点の平均値は-0.08（SD=0.39)で，参加者全体としてスポーツ・運動に対しての態度は肯定的でも否定的でもなかった。コルモゴロフ・スミルノフ検定を行った結果，正規分布から外れていないことが示された（D=.05, ns)。一方，顕在的態度，動機づけ雰囲気等の多くの項目で当該検定は有意となった（p<.05)。

そこで，SC-IAT得点と他の変数との順位相関係数を算出した。まず，SC-IAT得点と顕在的態度の相関は小さかった（r<.25)。つぎに，スポーツ・運動経験との関連としては，中高時代のスポーツ活動を重要だったとした者ほど楽しさSC-IATが低い（r=-.23, p=.04)，望ましさIAT得点が高い者ほど運動を実際に行っている（r=.22, p=.04）という関連のみが有意であった。指導者のもつ動機づけ雰囲気や指導者ハラスメント体験等との相関はどちらについても認められなかった（r<.20, ns)。

一方，顕在的態度（楽しさ，望ましさの種類を測定していた）と運動経験，運動実施状況等との間には中程度あるいは弱い関連が見られた。5%水準で有意だったものを挙げると，スポーツ・運動に対する顕在的態度の高い者ほど，課題関与的指導を受けた程度が強く（r=.26, r=.25)，スポーツ活動を重要だったと考え（r=.34, r=.41)，運動有能感が高く（r=.47, r=.47)，プロスポーツとの接触が多く（r=.31, r=.28)，日常的な健康関連行動を行っていた（r=.30, r=.24)。また，運動実施頻度とも弱い正の相関が認められた（r=.27, r=.27)。

【考察】

対カテゴリーとして「日常動作」を用いた場合と比べ，潜在的態度と運動関連行動や運動実施状況との関連は弱かった。そのため，先行研究においてはスポーツ・運動観だけではなく，インドア趣味を含む日常動作観の影響が大きかったのだろう。潜在的な態度がどのように形成されるのかについてさらなる検討が必要である。なお中高時代の運動部活動を重要だったと考える者ほど楽しさSC-IATが低い結果については，活動に過度に取り組むことによりスポーツ・運動の厳しさを感じたと解釈できるのではないか。

【利益相反】
本研究に関して開示すべき利益相反事項はない。

【引用文献】

Greenwald, et al. (1998). Measuring individual differences in implicit cognition: The Implicit Association Test. *JPSP, 74,* 1464-1480.

Karpinski, A., & Steinman, R. B. (2006). The Single Category Implicit Association Test as a measure of implicit social cognition. *JPSP, 91,* 16-32.

Ohashi, M.M. et al. (2023). Factors determining implicit attitudes toward sports and exercise: Desirability and enjoyment. *Discover Psychology, 3*(1), 10.

（おおはしめぐみ・さわうみたかふみ・とうごえつこ・いうめゆみこ）

日体大版剣道イメージ尺度（NIKS）の作成（3）

― 剣道部員と一般学生 ―

○古澤伸晃[1]　新里知佳野[1]　八木沢誠[1]　軽部幸浩[2]　藤田主一[1]
([1]日本体育大学　[2]日本大学)

キーワード：剣道　イメージ　NIKS

【目的】

これまで我々は、剣道イメージについて研究を進め、その知見をもとに剣道イメージの構造を明らかにしてきた（古澤他，2021a，2021b）。さらに、研究を進める過程で、剣道を「習う者」と「指導する者」との立場からその心理的構造を測定するために、日体大版剣道イメージ尺度（NITTAIDAI Image of KENDO Scale；NIKS）を新しく作成した。本研究の目的は、調査対象者を剣道部員と一般学生に広げ、両者を比較し、NIKSの妥当性を確認することである。

【方法】

1.調査対象者　調査は、都内の剣道未経験者の大学生と関東の剣道有力7大学の剣道部員1年生から4年生を対象として2021年10～11月に実施した。調査対象者は、剣道未経験者は合計219名（平均年齢18.9歳）、男子67名（平均年齢19.2歳、SD=0.91）、女子152名（平均年齢18.8歳、SD=0.72）であった。剣道有力7大学の剣道部員は、合計418名（平均年齢19.9歳）、男子282名（平均年齢20.0歳、SD=1.23）、女子136名（平均年齢19.8歳、SD=1.24）であった。

2.調査内容　質問用紙（A4用紙1枚）は、フェイスシート（学年、年齢、性別、剣道経験、スポーツ歴）に続き、調査は72項目の質問について、回答方法を4件法（4非常にそう思う，3そう思う，2そう思わない，1まったくそう思わない）とし、実施した。

3.手続き　調査への協力依頼は、「以下の質問内容を読んで、あなたがどう感じたかを答えてください。そう思った回答のところに○印をつけてください。正しい答えや、間違った答えはありませんので、気軽に思ったところを回答してください。」のように教示し同意を得て進められた。

4.倫理的配慮　調査の実施等については、日本体育大学倫理審査委員会へ、「人を対象とする研究倫理審査申請・研究計画書（研究課題名:剣道イメージの構造に関する分析的研究）」ならびに「説明書」「同意書」を提出し、審査の結果、承認された（承認番号020-H172）。なお、本研究の利益相反はない。

【結果と考察】

NIKSを構成する因子　剣道部員の結果（古澤他，2022）は、因子Ⅰ「知識（Knowledge）」、因子Ⅱ「剣道の否定的見方（Negative）」、因子Ⅲ「剣道の本来の姿（Originally）」、因子Ⅳ「剣道の伝統と文化の継承（Education）」、因子Ⅴ「身体的な不快（Discomfort）」であった。

一方、一般学生の結果について、因子Ⅰは、「剣道は競技人口を増やすためにプロ化した方がよい」などの7項目から構成されているので「方向性(Orientation)」と解釈した（α=0.722）。因子Ⅱは、「剣道は返事ができるようになる」などの5項目から構成されているので「教育(Education)」と解釈した（α=0.759）。因子Ⅲは、「剣道は冬は寒く夏は暑いので子どもたちには向かない」などの5項目から構成されているので「否定的見方(Negative)」と解釈した（α=0.755）。因子Ⅳは、「剣道は冬に床が冷たく足が痛い」などの3項目から構成されているので「身体的不快(Discomfort)」と解釈した（α=0.715）。因子Ⅴは、「剣道は武道の中でも重大な事故は少ない」などの2項目から構成されているので「安全性(Keeping)」と解釈した（α=0.666）。

【参考文献】

古澤伸晃・新里知佳野・八木沢誠・軽部幸浩・藤田主一（2021a）武道必修化に伴う中学生の剣道イメージに関する研究．応用心理学研究，46(3)，234-246.

古澤伸晃・新里知佳野・八木沢誠・軽部幸浩・藤田主一（2021b）日体大版剣道イメージ尺度（NIKS）の作成（1）―研究目的と予備的調査について―．日本応用心理学会第87回大会発表論文集，80.

古澤伸晃・新里知佳野・八木沢誠・軽部幸浩・藤田主一（2022）日体大版剣道イメージ尺度（NIKS）の作成（2）―抽出因子を探る―．日本応用心理学会第88回大会発表論文集，印刷中

（ふるさわのぶあき・しんざとちかの・やぎさわまこと他）

Table 1　因子分析の結果

	質問内容	因子Ⅰ	因子Ⅱ	因子Ⅲ	因子Ⅳ	因子Ⅴ
1	剣道は競技人口を増やすためにプロ化した方がよい。	**0.69**	−0.06	0.06	−0.05	0.08
2	剣道はもっと世界に広めるべきである。	**0.61**	0.08	−0.15	0.02	−0.11
3	剣道は生涯スポーツである。	**0.59**	−0.17	−0.11	0.12	0.10
4	剣道は相手より声を出すと動きやすい。	**0.57**	−0.04	0.06	0.00	0.20
5	剣道は健康増進に効果的である。	**0.53**	0.04	0.01	0.05	0.03
6	剣道は大声を出すのでストレス発散になる。	**0.53**	−0.10	0.03	0.14	0.16
7	剣道は日本を代表する武道である。	**0.50**	0.06	−0.13	0.00	−0.19
8	剣道は返事ができるようになる。	−0.17	**0.85**	−0.05	0.12	0.09
9	剣道は挨拶ができるようになる。	−0.16	**0.85**	−0.08	0.11	0.09
10	剣道は人間形成を目指す武道である。	−0.03	**0.63**	0.10	−0.25	−0.15
11	剣道は正座が身に付くようになる。	0.09	**0.62**	−0.11	0.18	−0.03
12	剣道は暑中稽古と寒稽古で精神を鍛えることが大切である。	0.11	**0.53**	−0.17	0.16	0.17
13	剣道は冬は寒く夏は暑いので子どもたちには向かない。	0.04	−0.02	**0.71**	0.01	0.13
14	剣道は夏に稽古をするのはやめたほうがよい。	−0.02	−0.06	**0.69**	0.08	0.06
15	剣道は無駄に声を出す武道である。	−0.31	−0.01	**0.65**	0.16	−0.01
16	剣道は発声がうるさい武道である。	−0.24	−0.10	**0.63**	0.28	−0.19
17	剣道は勝敗にこだわりすぎている。	0.15	−0.05	**0.62**	−0.07	0.27
18	剣道は冬に床が冷たく足が痛い。	0.03	−0.01	0.05	**0.81**	−0.02
19	剣道は裸足なので足が冷たい。	−0.03	0.08	0.15	**0.74**	−0.04
20	剣道は稽古を重ねると足の皮が厚くなる。	0.11	0.18	0.01	**0.59**	−0.22
21	剣道は武道の中でも重大な事故は少ない。	0.10	0.11	0.03	−0.11	**0.60**
22	剣道は比較的危険が少ない競技である。	0.48	−0.09	0.03	−0.09	**0.57**

大学剣道女子選手の心理的特性と身体的特性

—特に反応時間について—

○新里知佳野[1]　古澤伸晃[1]　八木沢誠[1]　軽部幸浩[2]　藤田主一[1]
（[1]日本体育大学　[2]日本大学）
キーワード：大学剣道女子選手　心理特性　身体特性

【目的】

これまでに我々は、本学会において大学剣道に関する理論的側面、競技的側面等について具体的・実践的研究を積み重ねてきた（新里他、2020；新里他、2021等）。身体的側面について、例えば打突開始動作の違いによる選択反応時間・打突動作時間の研究が報告されている（椿他、2009）。そこで、本研究は、大学剣道女子選手の心理的特性と身体的特性について検討し、その結果に基づいて今後の剣道選手育成へ貢献することを目的として計画された。

【方法】

1. **対象者**：都内A大学剣道部女子学生のうち、第40回全日本女子学生剣道優勝大会（愛知県春日井市，2021年11月14日）出場の選手7名（平均年齢20.6歳，*SD*=1.4）。

2. **指標**：心理的特性を測定するためにDIPCA（心理的競技能力診断検査）を使用した。身体的特性を測定するために次の指標を用いた（Table 1）。

Table 1　測定指標

①	反応時間（光刺激，全身反応；踏み込み）	②	反応時間（光刺激，部分反応；キー押し）
③	反応時間（音刺激，全身反応；踏み込み）	④	反応時間（音刺激，部分反応；キー押し）
⑤	動体視力（ランドルト環の判別）	⑥	タッピング（心地良さ・利き手1分間早押し・非利き手1分間早押し）

3. **手続き**：DIPCAの調査は、2021/7/19、10/10、10/17、10/24、10/31、11/7、11/14に実施した。7/19は女子剣道部員全員（30名）に調査を行い、10/10からは選手7名のみを対象とし、毎週日曜日の同時間と同場所で一斉に行った。なお、11/14の実施は大会開催地からの移動中に調査を行った。

反応時間の測定は、全身反応測定器Ⅳ型（竹井機器工業；T.K.K.1264p）を使用して2022/3/13に実施した。音（1000Hz，60dB）と光（赤色）を要反応刺激とし、実験参加者にはできるだけ素早く反応するようにさせた。反応は全身反応（踏み込み）と部分反応（キー押し）であった。動体視力はコンピューターのモニター上に左から右にランドルト環を移動させ、切れ目を判断させた。タッピングは心地良い速度，利き手および非利き手で1分間にできるだけ早く押させた。

本研究は、A大学倫理審査委員会の承認（021-H071）を受け、全選手に研究計画を説明し参加の同意を得て実施した。なお、本研究に関して開示すべき利益相反関連事項はない。

【結果と考察】

Table 2は、選手7名の「光・音刺激」の部分・全身反応ならびにDIPCAの諸指標を2回で比較したものである。

7名の反応時間を標準得点に変換したのち、一元配置の分散分析を行ったところ、反応時間の4指標に有意差は認められなかった。また、光・音刺激の全身反応の相関はr=.60、部分反応の相関はr=.59であった。なお両相関には無相関検定の結果、有意差は認められなかった。

音刺激の全身反応とDIPCAの諸指標との間には負の相関が、音刺激の部分反応とDIPCAの諸指標との間には正の相関の傾向が認められた。今後はレギュラーとレギュラー候補の選手に関して比較検討を行いたい。

【参考文献】

新里知佳野・古澤伸晃・八木沢誠・軽部幸浩・藤田主一（2022）．大学剣道女子選手の試合前後における心理的変化．日本応用心理学会第88回大会発表論文集，印刷中．
椿武・下川美佳・前阪茂樹・前田明（2009）．大学トップレベル剣道選手の全身選択反応時間、移動時間、動作時間の特徴．武道学研究，40(2)，35-41．

（しんざとちかの・ふるさわのぶあき・やぎさわまこと他）

Table 2　選手7名の測定結果

	光（部分反応）	光（全身反応）	音（部分反応）	音（全身反応）		DIPCA				
	ms	ms	ms	ms		競技意欲	精神の安定・集中	自信	作戦能力	協調性
選手1	197.2	222.1	201.7	228.1	7月19日	71	45	26	27	19
					11月14日	72	48	29	28	20
選手2	193.8	243.6	195.9	219.9	7月19日	72	45	35	34	20
					11月14日	72	48	29	29	20
選手3	193.7	207.6	161.6	215.2	7月19日	69	44	31	32	20
					11月14日	62	48	27	27	16
選手4	193.3	241.1	169.4	257.7	7月19日	73	34	28	23	20
					11月14日	63	40	20	23	20
選手5	181.0	251.4	178.2	244.9	7月19日	70	29	24	27	20
					11月14日	68	39	27	30	20
選手6	195.1	246.7	181.1	236.5	7月19日	68	45	31	29	20
					11月14日	69	44	27	30	20
選手7	163.2	236.5	157.4	227.6	7月19日	69	30	30	29	20
					11月14日	58	44	17	20	15

口腔機能が知的作業量に及ぼす影響

－ミント味のガムおよび清涼菓子に着目して－

○中萌里[1]（非会員）　飯田翔大[2]（非会員）　諏訪一輝[2]（非会員）　深見将志[3]

([1]日本大学商学部経営学科　[2]日本大学商学部商業学科　[3]日本大学)

キーワード：咀嚼　清涼感　作業効率

【目的】

ガムは嗜好品としてのお菓子といった枠組みだけでなく，ストレス緩和作用を持つもの，課題遂行にポジティブな効果を持つものなど，心身にポジティブな影響を与えるものとして認知されつつある．ガムを咀嚼することは，集中力を高め，課題成績向上効果が期待されている（東條ら，2014）．また，ミントの香りがする条件の方が集中力課題に良い結果をもたらすことが明らかにされている（阪野，2008）．しかしながら，ミントの香りとガムの咀嚼が集中力課題に及ぼす影響については，ミントの香りによる影響，咀嚼による影響もしくは，双方の影響を検討した研究は見られず，それらの影響は明らかにされていない．そこで本研究ではミント味のガムを咀嚼する条件，ミント味の清涼菓子を口に含んだ条件，口に何も含まない条件のそれぞれで集中力課題の比較検討を行うこととした．

【方法】

参加者

大学生男女15名（19.53±0.50）対象に実験を行った．参加者には事前にミント味への抵抗とアレルギーの有無を確認した．

条件

ガム条件，清涼菓子条件，口に何も含まない条件の3条件に分けた．1人につき3条件すべての実験を行うためランダムに6グループにわけカウンターバランスを保った．

課題内容

別部ら（1994）の計算課題を参考にし，2桁の数字を横に16個，縦に13個，計208個並べた計算用紙を作成した．課題形式は内田クレペリン精神検査（日本・精神技術研究所）と類似したものであり，実験参加者に左右隣り合った数字の和を算出させるという課題を，3分間で出来る限り速く，正確に行ってもらった．1人につき3回の課題が設定されているため，3種類を用意した（東條ら，2014）．

ガムと清涼菓子

本実験で用いたガムは，ACUOクリアブルーミント（株式会社ロッテ）である．形状は粒タイプ，原材料は以下の通りであった．マルチトール（外国製造），エリスリトール，植物油脂，ルブス抽出物，還元パラチノース／甘味料（キシリトール，アスパルテーム・L-フェニルアラニン化合物，アセスルファムK），ガムベース，香料，増粘剤（アラビアガム），光沢剤，着色料（クチナシ，銅葉緑素），V.P，ペルオキシダーゼ，（一部にゼラチンを含む）．

清涼菓子にはミンティアワイルド&クール（アサヒグループ食品株式会社）を用いた．原材料は以下の通りであった．甘味料（ソルビトール，アスパルテーム・L-フェニルアラニン化合物），香料，微粒酸化ケイ素，ショ糖エステル，クチナシ色素，（一部にゼラチンを含む）．

手続き

実験参加者にランダムに番号を振り分け，実験時に使用する椅子に着席してもらい，実験の手順について説明した．課題の方法を説明し，実験を開始した．ガム条件，清涼菓子条件は事前に口に含んだ状態から開始した．また，課題の最中ガム条件には咀嚼してもらい，清涼菓子条件には咀嚼しないように指示した．口内からガムや清涼菓子の風味を無くすために実験ごとに30分間休憩を挟んだ．

倫理的配慮

実験参加者には，実験参加や辞退は自由であることについて文書と口頭で説明した．

分析

3条件の正答数の比較には，対応のある1要因分散分析を行った．なお，各種の統計処理にはIBM SPSS Statistics 24を使用し，有意水準は5%とした．

【結果】

計算課題における正答数の比較では，ガム条件，清涼菓子条件，口に何も含まない条件ともに有意差は認められなかった．

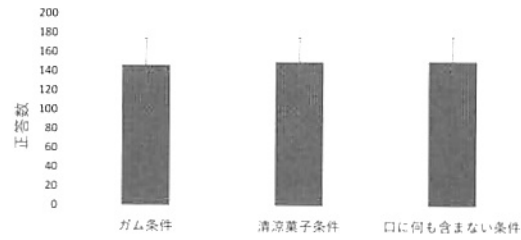


Figure1　計算課題における正答数の平均値

【考察】

知的作業を長時間行う場合には，何らかの理由によって学習効率や脳機能の働きが低下する可能性が憂慮される（伊藤ら，2011）．本研究は3分間で行ったため，脳機能の働きが低下せず差が出なかったと考える．

【利益相反】

本研究結果の開示に際して，開示すべき利益相反はない．

【引用文献】

東條友里恵・長野祐一郎・小林剛史（2014）．課題遂行に対するガム咀嚼タイミングが心理・生理反応および課題成績に与える影響　文京学院大学人間学部研究紀，*15*，273-283．

別部智司・森田武・五十嵐進・瀬戸院一・雨宮義弘（1994）．グミおよびガム咀嚼による皮膚電気活動の変化 ―通電法による皮膚電気抵抗の観察―　日本歯科心身医学会，*9*，185-191．

成澤元・青木美聡・高橋敏治（2014）．チューイングによる計算課題への集中力促進効果　日本心理学会第78回大会，541．

阪野貴弘（2008）．香りが運動パフォーマンスと精神集中に及ぼす影響　愛知教育大学保健体育講座研究紀要 *33*，95-99．

伊藤マモル・中澤史・朝比奈茂・落合久夫・鈴木良則・山本利春（2011）．ストレッチングが計算課題遂行数と気分尺度に及ぼす効果　法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 *29*，19-28．

（なか もえり・いいだ しょうた・すわ かずき・ふかみ まさし）

ライフスキルと競技特性不安の関係性について

○河本敏彰[1]（非会員）　野崎愛乃[2]（非会員）　相原美保[3]（非会員）　深見将志[4]
（[1]日本大学商学部商業学科　[2]日本大学商学部会計学科　[3]日本大学商学部経営学科　[4]日本大学商学部）
キーワード：前向きな思考・精神的動揺・自尊心

【目的】スポーツ活動は，ライフスキルの獲得に貢献できることが明らかにされている（境ら，2011）．また，ライフスキル獲得は後に優秀な競技成績を達成する可能性を示唆している（山本ら，2018）．上野ら（2015）によると，競技場面で良い競技成績をおさめるためには，高いパフォーマンスを維持できるかが重要になるとされている．村上ら（2002）は，高いパフォーマンスを示す選手は不安が少ないことを明らかにしており，藤田（1986）は，パフォーマンスには競技不安が関与していることを報告している．これまでの研究から，ライフスキルと競技成績の関係については明らかにされているが，ライフスキルと競技不安の関係は明らかにされていない．そこで本研究では，ライフスキルと競技不安の関係性に着目することとした．

橋本ら（2000）は，特性不安は状態不安を規定すると報告しているため，本研究で扱う競技不安は特性不安とした．

さらに，ポジティブ思考は競技不安を低減することが明らかにされている（津田，2013）．また，スポーツ現場において，ポジティブシンキングは物事に不安を抱くことに対して否定的に捉えている（高妻，2003）．このことから，ライフスキルの１つである前向きな思考の獲得により競技不安の低減が期待されるため，本研究では前向きな思考に焦点を当てた．従って，本研究では，ライフスキルの１つである前向きな思考と競技特性不安の関係性を明らかにすることを目的とした．

【方法】対象者は，今までにスポーツ活動経験がある大学生（授業でのスポーツは除く）110 名（男性 73 名，女性 37 名：平均年齢 19.1±1.11 歳）とした．

調査には，２つの尺度を使用した．

1.日常生活スキル尺度（大学生版）（島本ら，2006）

「親和性」，「リーダーシップ」，「計画性」，「感受性」，「情報要約力」，「自尊心」「前向きな思考」「対人マナー」の８因子 24 項目について，「ぜんぜん当てはまらない」から「非常に当てはまる」の４段階評価で回答を求めた．
なお，本研究では「前向きな思考」のみを用いた．

2.スポーツにおける競技特性不安尺度（橋本ら，1993）

「精神的動揺」，「勝敗の認知的不安」，「身体的不安」，「競技回避傾向」，「自信喪失」の５因子 25 項目について，「あなたは試合前になると一般的にどのような傾向がみられますか」という質問文で尋ね，「めったにない」から「いつもある」の４段階評価で回答を求めた．

分析は，統計ソフトウェア IBM SPSS Statistics24 を用い，相関分析を行った．有意水準は 5%とした．

【結果】前向きな思考と競技特性不安の関係を検討するため，ケンドールの順位相関係数を算出したところ，精神的動揺，身体的不安，競技回避傾向，自信喪失の４因子に有意な負の相関が認められ，勝敗の認知的不安には有意な相関関係が認められなかった（Figure1）．

Figure1　前向きな思考と競技特性不安の相関係数

	精神的動揺	勝敗の認知的不安	身体的不安	競技回避傾向	自信喪失
前向きな思考	-.356**	-.089	-.169*	-.338**	-.345**

$^{**}p<.01$ $^{*}p<.05$

【考察および結論】ポジティブ思考は競技不安を低減することが明らかにされている（津田，2013）．ここでのポジティブ思考はミスをしても気持ちを切り替える，失敗を気にしないといったことだが，これは失敗や困難に遭遇したときでも前向きに考えるスキルである前向きな思考と同様の性質だと考えられる．よって，４つの因子において前向きな思考と有意な負の相関が認められたものと推察される．

【利益相反】開示すべき利益相反関連事項はない．

【引用文献】

・境 英俊，池田 秀美，伊藤 豊彦（2011）．大学生剣道部員におけるライフスキルの獲得とバーンアウトとの関係について　教育科学，*45*，37-45.
・山本 浩二，垣田恵佑，島本好平，永木耕介（2018）．大学生柔道選手におけるライフスキル獲得が競技成績に及ぼす影響 武道学研究，*51*（2），75-87.
・上野 雄己，小塩 真司（2015）．スポーツ選手の競技パフォーマンスに関する基礎的研究 －競技パフォーマンスに対する自己評価測定尺度の作成の試み－ 桜美林大学心理学研究，*6*，95-103.
・村上 貴聡，徳永 幹雄，橋本 公雄（2002）．競技パフォーマンスに影響する心理的要因:心理的スキル及び心理的健康を中心とした　健康科学，*24*，76-84.
・藤田 明男（1986）．運動技能パフォーマンスに及ぼす心理的要因としてのあがりとスポーツ競技不安について 千葉敬愛短期大学紀要，*8*，25-30.
・橋本 公雄，徳永 幹雄（2000）．スポーツ競技におけるパフォーマンスを予測するための分析的枠組みの検討 健康科学，*22*，121-128.
・津田 恭充（2013）．競技不安の促進・低減要因－バスケットボールル選手を対象とした調査－ 愛知学泉大学・短期大学紀要，*48*，105-111.
・高妻 容一（2003）．今すぐ使えるメンタルトレーニング　コーチ用，株式会社ベースボール・マガジン社：東京
・島本 好平，石井 源信（2006）．大学生における日常生活スキル尺度の開発 教育心理学研究，*54*，211-221.
・橋本 公雄，徳永 幹雄，多々納 秀雄，金崎 良三（1993）．スポーツにおける競技特性不安尺度(TAIS)の信頼性と妥当性　健康科学 *15*，39-49.

（かわもと としあき・のざき あいの・あいはら みほ　ふかみ　まさし）

患者の看護満足度と「看護の質」評価の関係について

○稲野辺奈緒子[1]　古屋健[2]
([1]東京女子医科大学看護学部/立正大学大学院心理学研究科　[2]立正大学心理学部)
キーワード：満足度、看護の質、看護師評価、看護教育

【目的】米国(HCAPS)や日本(日本病院協会)の調査によれば、医療の質に対する患者の評価(満足度)の最大の規定因は、看護に対する満足度であったと報告されている。看護の質が医療の質を支えていることになる。しかし、看護師の看護実践に必要な要素を総合的かつ多次元的に捉えて評価する実用的な尺度は開発されていない。回答者が医療ケアの受け手である患者であることから、看護師への評価には社会的望ましさバイアスや天井効果が顕著に作用し、尺度構成が非常に難しいためである。

そこで天井効果の予防として、患者にとって理想とする看護を10点満点で評定する満足度と「看護の質」評価との対応性を検討した。看護の質に関する評価項目は、対患者行動の態度、知識、共感、看護師への好感度評価，及びケア技術(診療補助スキル・生活援助スキル)評価である。

【方法】調査対象者：意識清明な20歳以上の入院患者1120名に配布した。

調査内容：①基本属性(性別、年齢、入院回数と日数)、②看護師への総合的満足度：日勤の担当看護師に対する満足度への満足度について「看護師から受けたケアについて、考えられる最悪のケアを0点、理想的で最高のケアを10点」とし、10点満点で回答を求めた。③看護師行動評価： La Monica, et al.(1986)のLOPSSを参考に作成した態度3項目、知識3項目、共感4項目の全10項目（表1)について「1全くない～5いつでも」の5段階で回答を求めた。。④看護師評価： 3項目を「1全くない～5とてもそう思う」の5段階で回答を求めた(表1)。⑤看護ケア評価：堀内(1996)のQNCQ-Pを参考に診療補助ケア2種類、日常生活ケア6種類について、ケアを受けたかどうか，またケアを受けた場合は4項目3件法で回答を求めた(表1)。

手続き：2021年9月～2023年1月に担当看護師以外が調査票の配布を行い、回答日は患者のタイミングで決定した。回答後、調査票を封筒に入れ、医療従事者または院内にある投書箱に投函して貰った。

倫理的配慮：立正大学心理学研究科研究倫理委員会(承認番号：G2021004)の承認を得た。

【結果】回収は726名、有効回答611名(54.6%)である。①対象者の属性：男性311人51.1%、女性295人 48.4%、不明3人(0.5%)、欠損2人であった。年齢はAve62.8、Med67.0、入院回数Ave2.38、Med2.0、入院日数Ave13.0、Med6.0であった。②看護師への総合的満足度：10点満点の尺度で平均8.9(SD±1.33)であった。得点分布は46.6%が満点の10点、以下9点が116人(19%)、8点が129人(21%)、7点以下が81人(13%)となり、顕著な天井効果が見られた。そこで、10点をS、9点をA、8点をB、7点以下をCと判定し、「看護の質」尺度得点の群間の差(表2)を検討した。③看護師行動評価尺度・看護師評価：態度15点満点、知識15点満点、共感20点満点とその合計得点50点、および看護師評価得点15点満点すべてで天井効果が認められた。分散分析の結果、有意な群間差が認められ、多重比較の結果、すべての群間差が有意であった。④看護ケアに対する評価：診療補助ケア、日常生活ケアおよびすべてを含めた看護ケア全体については、受けたケアの評定合計(12点満点)の平均値を代表値とした。分散分析の結果、有意な群間差が認められ、多重比較の結果、S・A群と、B群、C群との間で有意な差が認められた(表2)。

【考察】発問や調査項目の表現を工夫し、天井効果を最小限にするよう試みたが、結果として天井効果が見られた。しかし、満足度の得点で4群に分類して「看護の質」を比較したところ、群間に有意な差が認められたことから、総合満足度には患者の視点からみた当日受けた看護の質が反映されていると考えられる。医療機関等において定期的に看護の質を点検する目的で使用することは可能であろう。

【利益相反】本研究における利益相反はありません。

【引用文献】

HCAHPS II investigators (2003). HCAHPS three-state pilot study analysis results. The Agency for Healthcare Research and Quality.

日本病院会(2020)QIプロジェクト(2011年～2019年)<https://www.hospital.pr.jp/qip/past.html>(2020年12月6日)

La MonicaL.,(1986)Development of a Patient Satisfaction Scale. *Research in Nursing & Health*, Vol.9,No.12, Pp43－50.

堀内成子 他(1996)看護ケアの質を評価する尺度開発に関する研究－信頼性・妥当性の検討－,日本看護科学学会誌,Vol.16,No.3, Pp. 30－39.

本研究は2021年度日本私立看護系大学協会若手研究者研究助成を受けて実施しました。

(いなのべ　なおこ・ふるや　たけし)

表1　各尺度の質問内容

看護師行動評価尺度

態度	1.要望に一生懸命対応してくれた		
	2.あたたく対応してくれた		
	3.丁寧に対応してくれた		
知識	4.治療や検査についてわかりやすく説明してくれた		
	5.健康に必要な注意点を説明してくれた		
	6.病状・病気について説明してくれた		
共感	7.ペースに合わせて話しを聞いてくれた		
	8.声をかける前に先に声をかけてくれた		
	9.状態の変化を読みとってくれた		
	10.わかろうとしてくれた		

看護師評価

1.担当看護師は好感が持てたか
2.また担当してもらいたいか
3.家族や友人に推薦できるか

看護ケアに対する評価項目と評価内容

診療補助ケア		
1.検査	2.治療	
日常生活ケア		
1.清潔	2.食事	3.排泄
4.活動	5.環境	6.休息

評価内容

1.援助は上手であった
2.手際がよかった、てきぱきしていた
3.痛かった、苦しかった
4.不快だった

表2　判定群別「看護の質」尺度得点の平均，SDと分散分析結果

尺度	判定	判定 S	A	B	C	総和	F
	N	284	116	129	79	608	3/604
態度	M	14.6	13.9	13.3	11.8	13.8	88.3
	SD	1.21	1.24	1.54	1.99	1.69	**
知識	M	13.9	13.0	12.2	10.4	12.9	54.0
	SD	2.07	2.17	2.34	2.79	2.53	**
共感	M	19.1	17.7	16.6	14.7	17.7	82.3
	SD	2.07	2.44	2.58	3.14	2.86	**
行動合計	M	47.6	44.6	42.0	37.0	44.5	90.8
	SD	4.74	5.13	5.87	7.11	6.51	**
評価	M	14.2	13.3	12.3	11.3	13.3	125.3
	SD	1.12	1.37	1.46	1.86	1.72	**
医療補助ケア	N	234	89	88	57	468	3/464
	M	11.15	10.83	10.20	9.19	10.67	32.05
	SD	1.314	1.301	1.669	1.747	1.579	**
生活援助ケア	N	212	78	85	56	431	3/427
	M	11.40	11.16	10.51	9.80	10.97	25.74
	SD	1.126	1.209	1.579	1.726	1.438	**
ケア全体	N	256	102	105	68	531	3/527
	M	11.27	11.02	10.40	9.49	10.82	40.47
	SD	1.125	1.137	1.511	1.530	1.403	**

4種の診療科における多職種連携の比較

○異儀田はづき[1]　古屋健[2]
（[1]立正大学大学院心理学研究科／東京女子医科大学看護学部　[2]立正大学心理学部）

キーワード：多職種連携，チームワーク，精神科

【目的】近年，医療保健福祉における多職種連携の重要性は増しており，異なる学問的背景を持つ専門職の集まりである多職種チームでは，互いの専門性を結集させ，患者の複雑な問題に対応することが求められている。我々は精神科医療における多職種連携について面接調査を行い，患者属性やチーム属性よりチーム内の凝集性が多職種連携の成果を高めることを明らかにした（異儀田・古屋，2023）。しかし，患者やチームの基本属性の影響が多職種連携のプロセス・成果に及ぼす影響を明らかにするには精神科だけの調査では不十分で，複数の診療科の間で比較検討する必要がある。そこで本研究では，4種の診療科で多職種連携に携わる看護師を対象に，患者・チーム属性と成果との関係に関する調査を実施した。
【方法】Web調査会社と研究者のネットワークを通して同意の得られた精神科，リハビリテーション，緩和ケア，内科，脳神経外科，整形外科の病棟に勤務する看護師を対象として，2022年10月に実施した。本研究で分析した調査項目は，①対象者の基本属性5項目，②病棟，患者，多職種チームの属性14項目，③多職種連携の成果6項目（5件法）である。本研究は立正大学心理学研究科研究倫理委員会の承認を受け実施した（承認番号：G2022006）。
【結果】1．対象者の概要
回答者547名から不適切な回答を除いた有効回答470名（有効回答率85.9%）を分析対象とした。対象者の診療科の内訳は，精神科168名，リハビリテーション（地域包括ケア病棟，回復期リハビリテーション病棟を含む）・緩和ケア病棟103名，内科105名，脳神経外科・整形外科94名だった。
2．診療科別の多職種連携の成果（表1）
診療科別の多職種連携の成果に相違があるか検討するため，多職種チームの連携の成果6項目の回答を成果得点とした。診療科4群で成果得点を比較した結果，診療科別の成果得点に有意差が認められた。成果得点は高い順に「リハビリ・緩和ケア」「脳神経外科・整形外科」「精神科」「内科」である。
3．診療科別の患者・チーム基本属性
次に，多職種連携の対象患者と多職種チームの基本属性について診療科による相違があるか検討した。
患者属性のうち診療科間に有意差が認められた項目は，患者の年代（$\chi^2(3)=132.41^{**}$），入院期間（$\chi^2(6)=118.15^{**}$）だった。多職種チームの属性のうち診療科間に有意差が認められたのは，メンバーの職種数（$\chi^2(3)=25.48^{**}$），男女構成（$\chi^2(6)=17.06^{**}$），看護体制（$\chi^2(9)=39.63^{**}$），カンファレンス開催頻度（$\chi^2(6)=118.15^{**}$），カンファレンスへの患者の参加（$\chi^2(6)=15.68^{*}$），メンバー交代の有無（$\chi^2(3)=9.806^{*}$）だった。
精神科では，患者の年代は50代以下が多く入院期間が長い，メンバーの職種は5職種以下が多く，メンバーの男性が多い，看護体制は機能別看護方式が多い，カンファレンスの開催は2週間に1回以上が多い，患者のカンファレンスへの参加はなしが多い，入院中のメンバー交代があった。リハビリ系・緩和ケアでは，入院期間は1ヵ月以上3ヶ月未満が多く，メンバーの職種は6職種以上，入院中のメンバー交代はなく，カンファレンスの開催は毎日が多かった。
4．患者・多職種チーム基本属性と多職種連携の成果（表1）
患者・多職種チームの基本属性のうち多職種連携の成果と関連がある項目を検討した。多職種連携の成果による差がみられた患者・チーム基本属性は，入院期間，看護体制，患者のカンファレンスへの参加の有無，チームメンバーの人数，チームに参加する職種数，最年少と最年長の年代差だった。
【考察】本研究では，4種の診療科を比較するため，多職種連携が日常的に行われているリハビリテーション系・緩和ケア病棟，慢性疾患を扱う精神科病棟と内科病棟，脳神経外科・整形外科の外科系病棟を設定し，比較した。多職種連携の成果は、リハビリ系・緩和ケアで高く，精神科，内科は成果得点が低かったため，精神科や内科のような疾患の経過が長い診療科では，数値や客観的評価による目標設定の困難さがあると考えられた。また，基本属性と成果得点の比較から，入院期間が1ヵ月以上3ヶ月以内，チームに参加する人数は中程度（5-6人）で，途中のメンバー交代はなく，職種数は多いといった条件が多職種連携を円滑に進める条件となることが示唆された。本研究はJSPS科研費JP22K10823の助成を受けた。
【利益相反】本研究で開示すべきCOIはない。
【引用文献】異儀田はづき・古屋健（2023）精神科医療機関における多職種連携の成果に影響を及ぼすプロセスの検討，立正大学心理学年報，14，31-40.

（いぎた　はづき・ふるや　たけし）

表1 多職種連携の成果得点の診療科別、患者・チーム属性の比較

	n	*m*	*SD*	*t*値/*F*値	多重比較
診療科					
精神科	168	20.6	4.14	2.927 *	内科＜リハビリ系・緩和ケア
リハビリ系・緩和ケア	103	21.7	4.09	(3, 466)	
内科	105	19.9	5.25		
脳神経外科・整形外科	94	21.3	4.81		
患者の入院期間					
1ヵ月未満	132	20.9	5.04	3.051 *	1ヵ月以上3ヶ月未満＞3ヶ月以
1ヵ月以上3ヶ月未満	138	21.5	4.69	(3, 466)	
3ヶ月以上	200	20.3	4.06		
看護体制					
機能別看護方式	88	20.1	4.86	2.640 *	ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟﾅｰｼﾝｸﾞｼｽﾃﾑ＞機能別看護方式
固定チームナーシング	174	20.9	4.53	(3, 466)	
ﾓｼﾞｭｰﾙ型ﾌﾟﾗｲﾏﾘｰﾅｰｼﾝｸﾞ	145	20.7	4.51		
ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟﾅｰｼﾝｸﾞｼｽﾃﾑ	63	22.1	4.10		
カンファレンスへの患者の参加					
参加していない	265	20.2	4.51	5.222 **	話し合いに参加する・参加せず結果を伝える＞参加していない
参加せず結果を伝える	114	21.5	4.22	(2, 467)	
話合いに参加する	91	21.7	4.89		
チーム人数					
4人以下	135	20.4	4.84	3.716 *	*7人以上＜5-6人
5-6人	192	21.5	4.40	(2, 467)	†4人以下＜5-6人
7人以上	143	20.3	4.41		
メンバーの職種数					
5職種以下	282	20.5	4.49	-1.834 *	
6職種以上	188	21.3	4.64	(468)	
メンバーの最年少と最年長の差					
20年未満	170	21.2	4.78	4.456 *	20年未満・20年以上30年未満＞30年以上
20年以上30年未満	207	21.1	4.29	(2, 467)	
30年以上	93	19.6	4.56		

* p<.05　**p<.01

ChatGPTを活用したコミュニケーション支援の検討

AIは熟練した上司よりも部下との信頼関係を築けるか

○井手健太1　紺野剛史1　近野恵1
（1富士通株式会社）

キーワード：ChatGPT，コミュニケーション支援，心理状態

【目的】 企業成長には，優秀な人材を採用し，長期的に活躍し続けてもらうことが必要である。しかし，厚生労働省の2022年のデータによると，新規採用者は4人に1人の割合で3年以内に離職するとの報告がある。そのことから，社員のエンゲージメント向上による離職防止の必要性が高まり上司と部下で行う定期的な1対1のミーティング（1on1）を導入する企業が増加している。

1on1とは，OJTや評価面談とは異なり，上司と部下の信頼関係を築くことが目的となる。1on1において，上司が部下の話を聴く「傾聴」が重要だといわれている。しかし，実際の1on1では，部下から上司の考えを求められるシーンも多々あり，部下の納得が得られる回答が出せない場合，モチベーション低下，会社への信頼を失うケースもある。

本発表では，ChatGPTを活用することで，1on1に不慣れな上司でも部下との円滑なコミュニケーションを築けるかについて実験を行い検証した。思い込みが含まれた回答が難しい部下からの質問に対して，熟練した上司からの回答とChatGPTの回答について，どちらが円滑なコミュニケーションにつながったか主観的，客観的な評価から検証を行った。

【方法】1on1を模擬した実験を実施した。ChatGPTで作成した回答と，熟練者による回答を，参加者に伏せて聞かせ，生理指標と心理尺度を記録した。

実験参加者 富士通株式会社で働く一般社員5名が参加した(男性5名，平均年齢31.4歳)。

実験機材 生体センサのProComp Infiniti(Thought Technology) を利用して呼吸数と心拍数をそれぞれ測定した。

実験方法 参加者が部下として，Table.1にある5問の質問を上司に実施するシーンを想定した。

Table 1.質問一覧

No.	質問
1	他のメンバーは仕事していないのに，自分ばかりに仕事がきて不満を感じますが改善できないでしょうか。
2	早く出世したいのですが，どのようにすればよいでしょうか？
3	会社の飲み会には参加しなければいけないですか？
4	出世に興味がないので，仕事を楽にしてください。
5	仕事が忙しいので，定例会に極力参加したくありません。

参加者はまずChatGPTもしくは熟練者どちらかを上司役として，5問の回答をそれぞれ聞く(セッション1)。その後セッション1で回答をしていない上司役から回答を聞く(セッション2)。なお参加者が各セッションでChatGPTか熟練者かどちらの上司から回答があるかはランダムに割り当て，いずれの上司役からの回答も150文字以内で作成し自動音声で再生した。なおChatGPTの回答は2023年5月20日に，ChatGPT 3.5を使用し作成した。

心理尺度 各セッションの各質問後にAffectGridを，各セッション終了時にPOMS2を回答させた。そしてすべての実験終了後，それぞれの上司役からの回答に対して5段階で満足度を回答させた。実験の流れをFigure 1. に示す。

分析方法 ChatGPTが上司役として回答をしているときと熟練者が上司役として回答をしているときの心理尺度，生理指標を比較する。対応ありの検定方法であるウィルコクソンの符号順位検定を使用し有意差を検定した。



Figure 1. ChatGPT，熟練者の順での実験フロ

【結果】**主観評価(心理尺度)** AffectGridの活性スコア，快適スコアの参加者平均について熟練者が上司役であるときの方が活性スコア，快適スコアともに有意に高値であった。

各セッション終了後に回答させたPOMS2について熟練者が上司役であるときに活力を示すVA,友好を示すFが有意に高値であり，ネガティブな感情を示すAH(怒り・敵意)，CB(混乱・当惑)，DD(抑うつ)，FI(疲労・無気力)，TMD(総合気分)については有意に低値であった。

また実験終了後の満足度アンケートの結果についても，熟練者が上司であるときの方が有意に高値であった。

客観評価(生理指標) 実験で収集した心拍数，呼吸数について安静時のデータで正規化し，比較した。その結果ChatGPTが上司役であるとき心拍数が有意に高値であった。

【考察】評価結果から，熟練者による回答の方が参加者を満足させ，参加者がより快適に感じることが示された。

熟練者による回答とChatGPTによる回答内容それぞれに対して参加者に事後ヒアリングしたところ，Table 2.のようなヒアリング回答を得た。熟練者が部下からの質問を受け止めて回答するため，部下は快適に回答を聞けると推測される。

このことから，ChatGPTを1on1の支援ツールとして利用するには回答を作成する際に，部下からの質問を入力するだけではなく，「内容を一度肯定してから回答する」のような条件を追記することで，熟練者を模倣した回答を得られ，1on1の支援ツールとして活用できる可能性がある。

Table 2. 事後ヒアリングの回答一部

熟練者	ChatGPT
● 寄り添っている感じ ● 参加したくない理由も引き出そうとしている	● 否定が入っていて印象が良くなかった ● 根本的な理由を深堀せずに，思い浮かぶ対策を並べている感じ

【利益相反】本研究は著者が所属する富士通株式会社の研究費で実施された。

【引用文献】

厚生労働省(2022)「新規学卒者の離職状況」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137940.html 最終アクセス 2023.06.02

OpenAI (2023) “ChatGPT” https://chat.openai.com/ 最終アクセス 2023.06.02

催眠でそんなことができると本気で思ってるんですか？ その 2

―いわゆる「催眠」モノのアダルト・ビデオ作品の説明文をテキストマイニングで斬る―

○中谷智美[1]　福井義一[2]
([1]甲南大学大学院人文科学研究科　[2]甲南大学文学部)

キーワード：催眠，テキストマイニング，アダルト・ビデオ

【目的】

催眠は，心身疾患の諸症状の緩和に有効な技法である（例，Alladin, 2012; Jensen & Patterson, 2014）にもかかわらず，わが国における活用状況は極めて低調である。その一因に，催眠についての誤解や偏見といった否定的な催眠イメージの蔓延が挙げられる（例，一柳, 2006; 成瀬, 1968）。これまで，催眠の使途などについての自由記述回答のテキストマイニングにより，催眠イメージの把握が進められてきた（福井他, 2022a-c; 中谷他, 2023a-g; Nakatani et al., 2023）。ところが，この調査は大学の講義内という公的場面で集団で実施されたため，得られる催眠イメージには社会的望ましさによる制約がかかったと考えられる。というのも，Amazon.co.jp で催眠を検索すると，催眠を猥褻目的に悪用した映像作品や書籍・漫画などが多数ヒットするにもかかわらず，上述した先行研究ではそうした使途への言及が皆無だったからである。

そこで，猥褻行為への悪用という催眠イメージの全体像を把握するため，アダルト・ビデオ（AV）作品のうち，「催眠」をタイトルまたは説明文に含む作品のタイトルを対象にテキストマイニングが実施された（中谷・福井, 2022）。これにより，「通常では困難な性的行為のために，相手を心身共に支配することを目的とした悪用」や，「カウンセラーによる強制猥褻」といった不適切な催眠イメージが AV 業界に蔓延していることが示唆された。しかしながら，作品タイトルの字数には制限があるため，抽出される猥褻な催眠イメージも限定される可能性がある。そのため，字数制限のない説明文を分析対象とすることで，より幅広く催眠イメージの猥褻な側面が検出可能になると期待される。以上から，本研究では，中谷・福井（2022）で収集した AV 作品のタイトルではなく，説明文を対象にテキストマイニングを実施した。

【方法】

AV 動画テキストの抽出：2022 年 8 月 3 日現在，国内最大級のアダルト・ポータル・サイトである FANZA に登録されている AV 作品のうち「催眠」をタイトルまたは説明文に含む 1706 作品の説明文を収集した。その際，「催眠」が禁止ワードに指定されているせいで，そのままでは検索できなかったため，「催」を検索語として用いた。

分析方法：得られた説明文について，計量テキスト分析ソフトウェアである KH Coder（樋口, 2004）を用いて，テキストマイニングを実施した。

【結果】

まず，「催●」など伏せ字になっている禁止ワードを元の語句に復元し，英単語やカタカナ，ひらがなで表現された同音同義語をいずれかに統一した。また，「バーチャルヒプノシスト」や「タイムストップ」など AV に特有な語を強制抽出語に，「セール」や「特集」など内容とは無関係な語や固有名詞（女優名や地名，会社名など）を削除語にそれぞれ設定した。

次に，50 回以上出現する 204 語を対象に，Jaccard 係数の上位 65 語について共起ネットワーク分析を実施した結果，12 のネットワークが検出された（Figure 1）。それぞれ，「1. 音を用いた後催眠暗示の実現」，「2. 強いオーガズム」，「3. 心身の支配」，「4. NTR（寝取られ）」，「5. 性格の良い女性への強制猥褻」，「6. 男性器を挿入する身体部位や女性の蔑称，屈辱的行為の強制」，「7. 悪徳カウンセラーによる強制猥褻」，「8. 時間停止や感情・身体操作」，「9. 教師による未成年への強制猥褻や女性教師との性交」，「10. 催眠を用いた避妊具なしの強制猥褻」，「11. バーチャルヒプノシスト研究作品群」，「12. 身体的自由の剥奪」と命名された。

【考察】

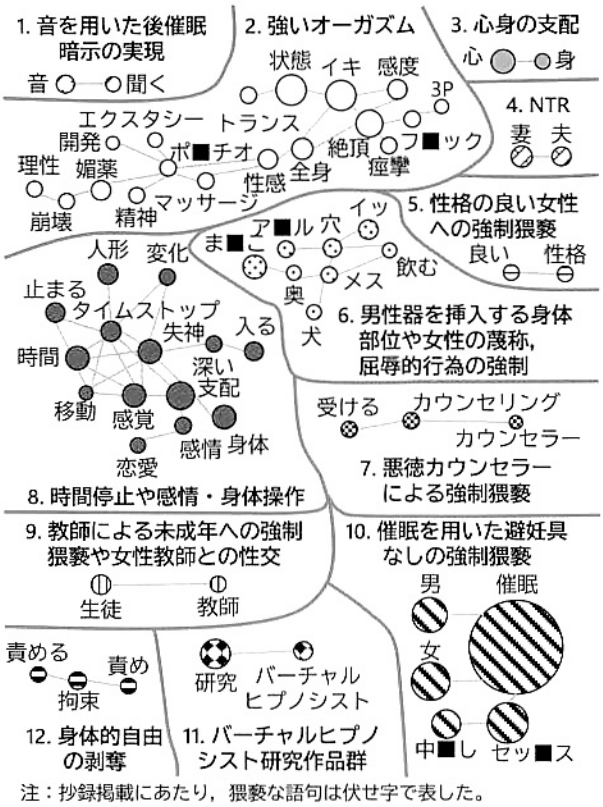
AV 作品の説明文を対象とした共起ネットワーク分析の結果，タイトル（中谷・福井, 2022）とほぼ同様のイメージが見出された。ただし，本研究で得られた共起ネットワークには，タイトルの分析で得られたものよりも過激な語句（例，凌辱や奴隷など）が少なかった。これは，説明文には字数制限がないため，タイトルのようにわずかな文字数で消費者にインパクトを与える必要がないためであると推測される。さらに本研究から，「音を用いた後催眠暗示の実現」や「時間停止」といった要素が見出された。このことから，AV 作品では，実際の催眠現象を悪用した様子が描写されているだけでなく，実際には実現不可能な現象まで可能であるかのように誇張されていることが明らかになった。

こうした猥褻な催眠イメージは，催眠への嫌悪感を喚起させ，催眠の臨床適用を妨げる要因になり得るため，正しい情報の普及による改善が望まれる。

【利益相反】

開示すべき利益相反関係にある企業などはない。

Figure 1
共起ネットワーク分析の結果



注：抄録掲載にあたり，猥褻な語句は伏せ字で表した。

（なかたに　ともみ・ふくい　よしかず）

その問題，心理の専門家に相談しますか？ その5

—Yahoo!知恵袋における「家族関係の悩み」カテゴリーの質問の分析—

○澤田　戒[1]　福井義一[2]
([1]甲南大学大学院人文科学研究科　[2]甲南大学文学部)

キーワード：援助要請，家族関係，テキストマイニング

【目的】

わが国では，日常生活における悩みやストレスの約30%は人間関係によるものであり，その半数を家族関係が占めていると言う（厚生労働省, 2019）。こうした家族関係の悩みの具体的内容は多岐にわたるため，当事者だけでは解決が難しく，心理専門職だけでなく，医療や福祉，法律，司法など他の専門職への相談が必須であるような内容も少なくない（例，虐待やDV，共依存，介護，精神疾患への対応など）。しかしながら，最も気になる悩みやストレスに家族関係を挙げた人々のうち，相談窓口を頼ったのはわずか4%にも満たない（厚生労働省, 2019）。このことから，家族関係の悩みを抱えた人々にとって，専門職の敷居が高い現状が伺える。

現代社会においては，インターネットを用いた情報検索やコミュニティQ&Aサイトへの投稿などで悩みや問題の解決を図ることが一般的になっている。実際，身近な他者に相談しづらい悩みを抱えた際に，インターネットを頼ろうとする者が多いことが示されている（紀・稲田, 2017）。

インターネット上の相談行動について，これまで代表的なコミュニティQ&AサイトであるYahoo!知恵袋において，心理専門職への相談が妥当または可能だと思われるカテゴリーに寄せられた質問のテキストマイニングが実施されてきた。「メンタルヘルス」カテゴリー（澤田・福井, 2022a）と「ストレス」カテゴリー（澤田・福井, 2023a）には，かなり深刻な心理的問題についても多くの相談が投稿されていること，「不登校」カテゴリー（澤田・福井, 2022b）からは，悩みを教師に相談できないため，インターネットに頼らざるを得ない状況にあること，「カウンセリング・治療」カテゴリー（福井・澤田, 2023）からは，心理専門職にかかる是非についての言及から，相談が躊躇される現状にあることなどが明らかにされてきた。

本研究では，人間関係の悩みの中でも特に一般的であり，心理専門職が支援する機会も多いと思われる「家族関係の悩み」カテゴリーに投稿された質問に，テキストマイニングを実施し，インターネット上での相談内容の把握を試みた。

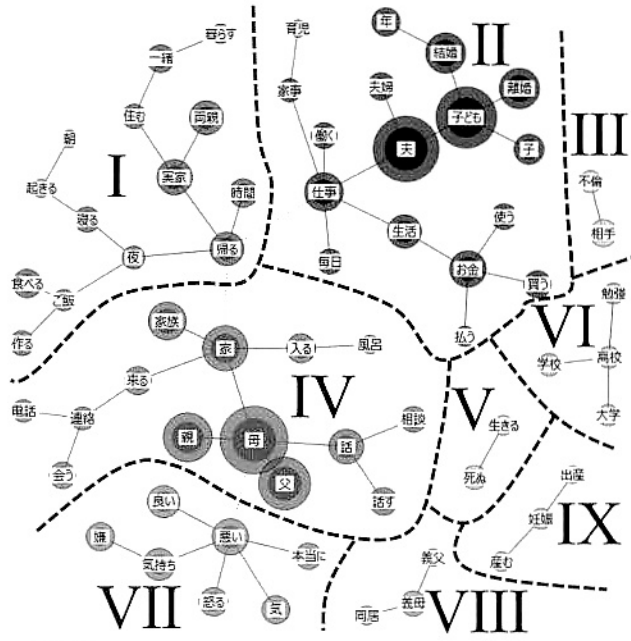
【方法】

国立情報学研究所のIDR（Informatics Research Data Repository）データセット提供サービスにより，ヤフー株式会社から提供を受けた「Yahoo!知恵袋データ（第3版）」（2022, 2023年度提供版）を使用し，「家族関係の悩み」カテゴリーの質問72641件を抽出して分析に使用した。

【結果】

KH Coder（樋口，2020）により，相談のテキスト・データを形態素に分解し，出現頻度2600以上の187語を抽出し，共起ネットワーク分析を行った。その結果，9つの共起ネットワーク（「I：家庭の生活環境」，「II：夫婦関係の軋轢と子どもの養育方法」，「III：家族の不倫」，「IV：親との軋轢」，「V：希死念慮や家族への殺人願望」，「VI：学校や進路に対する家族の意見の相違」，「VII：家族に対する怒りや不快感」，「VIII：義父母との軋轢」，「IX：望まぬ妊娠」とそれぞれ命名）が得られた。結果をFigure 1に示した。

Figure 1
共起ネットワーク分析の結果



【考察】

共起ネットワーク分析から，投稿された質問は，心理専門職への相談が有効であると思われる悩み（I，VI，VII）と心理専門職だけでなく他領域の専門職による支援も必要であると思われる悩み（II，III，IV，V，VIII，IX）に二分された。前者は，比較的軽度かつ一般的な悩みであると考えられるため，インターネット上の相談で事足りる場合もあるだろう。しかし，その悩みが長期化したり，深刻化したりした場合には，心理専門職への相談が必要になると考えられる。一方，後者には，希死念慮や不倫，望まぬ妊娠など，負荷が大きい悩みが多く含まれていた。このような悩みは，インターネット上で容易に解決可能であるとは考えにくいため，心理専門職を含め，様々な領域の専門職への相談が必須であろう。

いわゆる重い悩みについては，プライバシーの観点から身近な他者には相談しづらいせいで，匿名性が担保されるインターネット上での相談が選択されたものと推察される。しかし，得られた回答には，正確性に欠ける情報が多く含まれる（三浦他, 2006）ため，解決につながるどころか，さらに問題が悪化したり，複雑化したりする恐れがある。そのような事態を回避するには，深刻な悩みを心理専門職や他領域の専門職などに相談する必要性や方法について広く周知することが不可欠であると言える。特に，心理専門職は他職種間連携を是としているため，他の専門職への適切なリファーなどにも有利に働く可能性がある。心理専門職が，こうした相談の最初の窓口としての役割を果たすことが期待される。

【利益相反】

本研究に関して，開示すべき利益相反（COI）はない。

（さわだ かい・ふくい よしかず）

夫婦の家事分担の程度と日常のストレスおよび夫婦関係満足度について

○井梅由美子
（東京未来大学こども心理学部）

キーワード：夫婦関係　家事分担　ストレス

【目的】

夫婦関係の良好さは，成人期のメンタルヘルスを良好に保つ上で重要な要素の１つである。しかしながら，配偶者や夫婦関係に対する満足感は夫よりも妻の方が低いことがこれまでの調査で明らかにされている（例えば，柏木・平山，2003；伊藤・相良, 2012）。このような差はなぜ生じるのであろうか。男女共同参画白書（2022）によると，1990年代に共働き世帯が専業主婦世帯を逆転し，2021年の調査では，この差が２倍以上となった。女性の社会進出はここ20数年の間にずいぶん進んだが，一方で，家庭における家事時間の夫婦の不均衡は相変わらず存在する。2021年時点で，夫の家事時間は妻の家事時間の４分の１にとどまっているといった調査結果（総務省統計局, 2023）もあり，国際比較調査においても他の先進国と比べて不均衡が際立っている（男女共同参画局, 2020）。

そこで本研究では，就労形態，生活ストレス等夫婦の社会的状況および，日常の家事分担の程度と夫婦関係満足度について，その関連を検討することとする。

【方法】

調査時期　2023年２月にオンラインにて調査を実施した。

調査対象者　30～50代の配偶者のいる成人男女300名（男性150名，女性150名）。回答に不備のあったものを除外し272名（男性125名，女性147名）を分析対象とした。分析対象者の平均年齢は男性45.27歳（*SD*=8.21，30-59歳），女性44.98歳（*SD*=8.35，30-59歳）であった。

調査内容　①性別，年齢，家族構成，本人および配偶者の就労形態などのデモグラフィック要因，②夫婦の家事分担について，久保（2009）を参考に「食事の準備」や「部屋の掃除」等日常の家事９項目の分担について「ほぼ私」から「ほぼ配偶者」までの７段階で評定を求めた。③夫婦関係満足度について，配偶者への愛情の程度を測定した伊藤・相良（2012）の尺度を参考に10項目４件法で尋ねた。④日常のストレス（仕事，育児，実父母(義父母)・夫婦・近隣関係）について，５項目６件法で尋ねた。⑤抑うつの程度について，４項目６件法にて尋ねた。

倫理的配慮　参加は自由意思であること，匿名性が担保されていること，学術的な利用のみ行うことを説明した。

【結果と考察】

基礎統計量　家族構成について，夫婦のみ87名(32.0%)，夫婦と子ども１人が70名(25.7%)，夫婦と子ども２人が90名(33.1%)，夫婦と子ども３人が24名(8.8%)，夫婦と子ども４人以上が１名(0.4%)であった。本人および配偶者の就労形態について，男性では，正規雇用勤務86.0%，パートタイム勤務2.2%，自営業8.8%，専業主夫1.8%，その他1.1%であった。女性では，正規雇用勤務28.3%，パートタイム勤務29.4%，自営業1.8%，専業主婦36.0%，産休・育休中2.9%，その他1.5%であった。

夫婦の家事分担の程度　夫婦の家事分担の程度について「ほぼ妻(1)」～「ほぼ夫(7)」の度数分布，および平均値をTable1に示す。妻の就労形態によって家事分担の程度に差があるかを検討するため，妻の就労形態（正規雇用，パートタイム，専業主婦の３群を使用。他は人数が少ないため分析から除外した）を独立変数とした分散分析を実施した。その結果，「食事の準備」「洗濯」「掃除」「子の世話」「子の用事(PTA等)」「子の用事(習い事等)」で有意な差が見られた（$F(2, 252) = 4.13$～9.43；子関連 $F(2, 173) = 4.08$～5.59，全て1%or5%水準で有意）。多重比較の結果，概ね正規雇用勤務と専業主婦での差が認められ，専業主婦群が家事をより多く担っていることが分かった。しかしながら，全ての群で平均値は3.0未満で，妻の就労形態に関わらず，家事を妻が担っている程度が高いことが示された。

Table1
夫婦の家事分担の程度

	出現頻度(%)							*n*	*SD*
	ほぼ妻(1)			夫婦同じ(4)			ほぼ夫(7)		
食料品等買い物	46.0	25.7	7.7	12.1	2.9	1.8	3.7	2.2	1.6
食事の準備・調理	56.6	22.4	10.7	4.8	1.1	1.5	2.9	1.9	1.4
食事の後片付け	40.1	20.6	10.7	14.0	5.9	4.0	4.8	2.6	1.8
洗濯・衣類の整理	47.1	20.6	10.7	14.3	2.6	3.7	1.1	2.2	1.5
部屋の掃除等	37.5	22.8	16.5	12.1	4.4	5.1	1.5	2.4	1.6
家計の管理	41.5	12.9	7.4	16.2	5.5	6.3	10.3	2.9	2.1
子の日常の世話	31.9	27.6	19.5	17.3	2.2	1.6	0.0	2.4	1.2
子の用事(PTA活動等)	47.6	18.4	16.8	14.6	1.1	0.0	1.6	2.1	1.3
子の用事(習い事等)	39.5	20.0	15.1	21.1	1.6	1.6	1.1	2.4	1.4

夫婦関係満足度と家事分担，日常ストレス等の関連　夫婦関係満足度得点と，家事分担の程度，日常のストレス，抑うつについて，その関連を検討するため，男女別に相関分析を実施した（Table2）。その結果，男性では，仕事，実父母(義父母)，夫婦，近隣関係のストレス，および抑うつの高さが夫婦関係満足度を低める要因として関連しており，女性では，実父母(義父母)，夫婦，近隣関係のストレス，および抑うつの高さが夫婦関係満足度を低める要因として関連し，家事分担において夫の関与が高いことが夫婦関係満足度を高める要因として関連していた。

Table2
夫婦関係満足度とその他の変数の相関分析結果

	家事分担	ストレス					うつ
		仕事	育児	父母	夫婦	近隣	
夫婦関係満足度	-.117	-.179*	-.195	-.256**	-.681**	-.195*	-.279**
	.269*	-.075	-.162	-.186*	-.697**	-.228**	-.334**

* $p<.05$　** $p<.01$　　上段：男性　下段：女性

【利益相反】本研究に関わる利益相反(COI)はない。

【引用文献】伊藤裕子・相良順子(2012). 愛情尺度の作成と信頼性・妥当性の検討　心理学研究，*83*，211-216.
久保桂子(2009). フルタイム共働き夫婦の家事分担と性役割意識　千葉大学教育学部研究紀要，*57*，275-282.
柏木惠子・平山順子(2003). 結婚の現実と夫婦関係満足度の関係性　心理学研究，*74*，122-130.
男女共同参画局(2020/2022). 男女共同参画白書令和２年版/令和４年版　https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html
総務省統計局（2023）. https://www.stat.go.jp/info/today/pdf/190.pdf

（いうめ　ゆみこ）

F. ゴーブル著『第三勢力 － マズローの心理学』に関する留意点について

三島斉紀
（神奈川大学経済学部）
キーワード：マズロー、ゴーブル、自己実現者

【Ⅰ．はじめに】　現代企業の基となっている学説の１つとして、心理学者A.H.マズローが措定した自己実現論がある。そして、彼の理論を世に広めた論者としては、F.ゴーブルが挙げられよう。彼は、*The Third Force : The Psychology of Abraham Maslow*を公刊し、マズロー理論を概説した。このゴーブルによる解説書（以下、ゴーブル書）は和訳本（訳書名は『第三勢力 － マズローの心理学』）があることもあってか、日本全国の図書館でも広く所蔵されてきた。同著は、マズローが用いたキーワードに沿って当該理論をわかりやすく詳述している。そうしたこともあってか、マズロー原著に全く触れずして、つまりゴーブル書だけを用いてマズロー理論を説明している書物も時折目にする。しかし小生は、この解説書には種々注意点があることを下記し、同著のみでマズロー理論の全体像を把握することは困難であることを伝えたい。

【Ⅱ．マズロー著作では時系列的な“変遷”が見られる】　マズローは1954年に*Motivation and Personality*（いわゆる初版）、そして1970年には同著改訂版を出しており、この2冊にて、誰を自己実現者として念頭に置いていたのかを明示している。初版において、彼は被験者を ①「事例（*Cases*）」13名（例えばジェーン・アダムスやウィリアム・ジェームス等の名が挙がっている）、②「部分的な事例（*Partial Cases*）」として12名（ヘンリー・ソロー、ベートーベン、フロイト等の名が挙がっている）、③「潜在的もしくは可能性のある事例（*Potential or Possible Cases*）」として26名を挙げている。とりわけ、この③の箇所は分かりやすく書かれているので、この部分を抜き出してみる。 自己実現者として「潜在的もしくは可能性のある者　　自己実現の方向へと進歩しているように思われる若者20名に加え、G・W・カーバー、ユージーン・V・デブス、アルベルト・シュヴァイツアー、トマス・イーキンス、フリッツ・クライスラー、ゲーテ」、と。

即ち、1954年時点で自己実現者として数えられた被験者51名のうち、半数弱が若者であったことが窺える。また彼は当時、大学生を被験者とした自己実現に関する調査を行っていた…と彼方此方の記録に残していることから、この 20 名が主に大学生たちであったであろうことはすぐに想像がつく。

他方で、1970年改訂版に目を通すと齟齬が見られる。具体的には、①「事例」18名（既出のジェーン・アダムスやウィリアム・ジェームス等の名が再見される）、②「部分的な事例」として5名（具体的な固有名は一人も挙げられていない）、そして③「潜在的もしくは可能性のある事例」として37名が自己実現しつつある被験者として載せられている。前出同様、ここでも③の箇所が分かりやすく記載されているので、この所のみ書き抜いてみる。 自己実現者として「潜在的もしくは可能性のある者：他者によって示唆もしくは研究された者 G・W・カーバー、ユージーン・V・デブス、トマス・イーキンス、フリッツ・クライスラー、ゲーテ、パブロ・カザルス、マルチン・ブーバー、ダニロ・ドルチ、アーサー・E・モーガン、ジョン・キーツ、デビット・ヒルバート、アーサー・ウェリー、D・T・スズキ、オードレー・スティーブンソン、ショロム・アレイセン、ロバート・ブラウニング、ラルフ・ウォルド・エマーソン、フレデリック・ダグラス、ジョセフ・シュンペーター、ボブ・ベンチュリー、アイダ・ターベル、ハリエット・タブマン、ジョージ・ワシントン、カール・ミュンツィンガー、ジョセフ・ハイドン、カミユ・ピサロ、エドワード・ビブリング、ジョージ・ウィリアム・ラッセル（A・E）、ピエール・ルノワール、ヘンリー・ワッズワース・ロングフェロー、ピーター・クロポトキン、ジョン・アルトゲルド、トーマス・モア、エドワード・ベラミー、ベンジャミン・フランクリン、ジョン・ミューア、ウォルト・ホイットマン」。

比べてみると、初版に挙げられていた「自己実現の方向へと進歩しているように思われる若者 20 名」の文言が改訂版では取り除かれていることに気づく。ようは1954年当時の半数弱を占めた若者たちに関する被験者データが外され、また1970年著作の被験者60名のうち、54年に挙げられていなかった、新たに加えられた人たちがかなりの数に上っていることが分かる。その理由を、彼は改訂版の序文にて次のようにしている。「自己実現に関する第11章において、私は、その概念をまさに年配の方々だけに限定することにより、混乱の源の一つを取り除いた。私が用いた基準によれば、自己実現は若い人には生じない。少なくとも我々の文化では、若者はまだアイデンティティを確立していないし、自律にも達していない（中略）。若者は通常、自己の天命も、彼ら自身を捧げるという喜捨についても気付いてはいない。自分自身の価値体系も理解しておらず、（中略）それゆえ現実的になることについての経験も十分積んではいない」（p. xx.）、と。

【Ⅲ．“ごった煮”となっているゴーブル書】　ところがゴーブル書では、この箇所を「“事例、部分的な事例、潜在的もしくは可能性のある事例”の３つのカテゴリー」にマズローは分類した…という粗っぽい表現をし（*Third Force.*, p. 24.）、「事例」や「部分的な事例」の人数変化などを注意書きしていない。ましてやヘンリー・ソロー、ベートーベン、フロイトの固有名詞が見られなくなったことの但し書きもしていない（先の若者20名同様、ここは自己実現に関する被験者が変遷したことに気づきやすい、分かりやすい点なのだが）。

上記③の“改訂版の37名”については、勿論、ゴーブルも列挙しているのだが、この37名に加え、「自己実現の方向に発達していると思われる 20 人の若者」を研究対象としたともゴーブルは付記している。しかしながらその前後では、「「自己実現」した方々は年齢が60歳もしくはそれ以上」であったこと、また、自己実現は「年配者にのみ」見られる…との不筋、支離滅裂なことをゴーブルは補足してまでいる。

【Ⅳ．考察】　ようは、マズローが1970年改訂版にて“若者たちを含めない”としていたにも拘らず、そうした被験者たちまでもがゴーブル書では含められている。換言すれば、マズローの被験者たちに関する時系列的変遷を無視して、初版と改訂版のものを“一緒くた”にした書き方を彼はしているのである。この書だけでマズロー理論を紹介している解説者たちは、この点に介意せねばなるまい。（みしま・むねのり）

法思想・法意識の法社会学と心理学の位置づけに関する考察

○廣島　克佳
（マンション管理士）

キーワード：慣習　個人差心理学　規範研究

【目的】現代の世界は現代法，即ち対等な個人同士の合意と論理の積み重ねを原則として形成される成文法によって成り立っており，契約や国際法も同様である。現代法の原理に基づいて締結される契約・法規・条約は増大しつつあり，重要性も増している。他方2022.02，国家間の法の根幹である国連憲章に反して国連安全保障理事会常任理事国であるロシアはウクライナへの侵略戦争を開始した。日本国内においては，職場・学校・所謂地方等での慣習や所謂ローカルルールを巡る軋轢や各種法規違反の問題が絶えない。これらの問題の根幹に現代法の認識の相違がある事が考えられ，現代法の認識及びその認識を形成する要因に関する社会科学が重要と考えられる。本小論は，かかるsocial scienceの位置づけ・様態等の各領域での現状認識を諸知見から取りまとめ，これらに関わる心理学のあり方について考察を加える。

【方法】現代法を現実に人はどのように認識するかに関与すると思われる各種文献を法学及び心理学各領域にて探索し，かような研究及び知見を生成し得る基盤としての領域の明確化を目指しつつ，関連する諸知見が一貫するように考察を加える。

【結果】

法の把握様態等に関する法学及び心理学それぞれの細部領域及び概念乃至用語として，以下のものがあった。

①　法学領域

ア　「法思想」乃至「法意識」概念

青木(1972)は，法学及び成文法は民庶のもつ「そのままでは漠然としていて捕捉し難い」法思想を反映すべきものとしつつ「法学は，法思想が法学者の自覚と反省と研究とを通じて合理的に実現されたもの」としている。六本(1986)は，認識・当為表象・態度に関してそれぞれ「法知識」「法意見」「法態度」の概念が対応するものとし，これら３つをまとめて「法意識」と称している。近年の各研究では，これらの概念を一括して「法意識」とする表現が一般的であると言える。

イ　法社会学

この領域はEugen Ehrlichの「生きた法(lebendes Recht)」概念に始まるとされる。青木(1972)は法思想を法源（※法の泉源または存在様式）であるとし，よって「民庶の法思想を明らかにする経験科学たる法社会学」を必然かつ重要なものとしている。六本(1986)は法社会学を「個々の法規範ないし法機構のあり方及びその作動過程について，社会ないし社会的諸因子との関連で経験科学的に研究」する事で法システムへの理解を深めるものとしている。村上・濱野(2019)は成文法が必ずしも常に適用（発動）されるとは限らないこと，解釈に幅があることから，法社会学の重要性を指摘している。

②　心理学領域

ア　法と心理学及び犯罪心理学領域

法と心理学(law and psychology)領域に関し，石崎(2010)は日本の，荒川他(2017)はアメリカでの各研究を整理・分類しているが，法思想乃至法意識に相当する領域の研究は顕著ではないと言える。緒方(2015)は「犯罪心理学研究」誌の論題を分析して研究動向を一覧しているが，法意識乃至法思想を直接に扱った研究は顕著ではないと言える。

イ　個人差心理学からの関与

Goldberg(1990)はビッグファイブにおける勤勉誠実性の第２ファセットとして「秩序」を認める。即ち，勤勉誠実傾向者は遵法の傾向を有するとされる。政治的乃至法的態度として権威主義とリベラル主義の軸が認識できるが，Hanson他(2012)はリベラルアーツカレッジに２年間在学した学生は対照群に比べてリベラルになった事を示した。

ウ　規範(norm)に関する心理学研究

林(1971)は「規範」を，「われわれの評価作用が必ず従わなければならない基準」であるとしており，正当に成立している法は規範に属する。規範概念を適用した心理学研究は数多いが，専ら自己に自律性を課すもの等として概念が用いられており，成文法や慣習の概念と連関させての研究は多くはないと言える。

【考察】法学領域において，非法専門家による法に関する認識や感情等は「法意識」と，人々が法や規範をどう認識し行動しているかに関する領域は「法社会学」と称されている。心理学がこれら概念及び領域に関わる場合も，これらの用語を用いる必要があると考えられる。

心理学は伝統的に要因や原因水準の探求を行い続けてきており，測定項目間に見出された因子を行動や意識の原因と仮定して同定した後，当該因子へ影響する諸要素を探索する一連の方法が広く用いられている。安香(1990)は小学生の学校生活での規範意識について，規範認識・規範感情・賞罰認識/学業面上昇志向・行為面上昇志向・学業面義務志向・行為面義務志向の２次元各水準で質問を設定し，回答結果を因子分析して規範意識の９次元を抽出した後，関連要因との相関を見ている。現代法に関わる意識についても同様に，明文化・平等な合意・契約・民主主義・合理性・強制・援用可能性等の概念範疇から構成される質問・チェックのセットを用いて尺度を構成し，因子を同定し得るだろう。

【引用文献】

安香 宏(1990).児童における規範意識の構造 犯罪心理学研究, *28*(2), 1-18.
青木 清相 (1972).法と法思想三訂版 (p5) 駿河台出版社
荒川 歩・滑田 明暢・綿村 英一郎・若林 宏輔・笹倉 香奈・福島 由衣 (2017).Law and Human behaviorにみる近年の法と心理学研究の動向 法と心理, *17*(1), 70-76
Goldberg, L. (1990). An alternative "Description of Personality"; The Big-Five factor structure *Journal of personality and social psychology. 59*(6), 1216-1229
Hanson, J., Weeden, D., Pascarella, E. & Blaich, C. (2012). Do liberal arts colleges make students more liberal?. *Higher Education, 64*: 355-369
石崎 千景 (2010).日本における法と心理学研究の動向と展望 法と心理, *9*(1), 31-36
林 達夫編 (1971).改定新版哲学辞典 (p313) 平凡社
村山 眞維・濱野 亮 (2019).法社会学第３版 (pp. 2-4) 有斐閣
緒方 康介 (2015).テキスト・マイニングを用いた「犯罪心理学研究」の論題分析 犯罪心理学研究, *53*(1), 37-48
六本 佳平 (1986).法社会学 (p2) 有斐閣

（ひろしま　かつよし）

繰り返し提示された刺激の印象への飽きやすさ傾向の影響

○富田瑛智[1]　栗延孟[2]（非会員）
（[1]帝塚山大学心理学部　[2]浦和大学社会学部）

キーワード：単純接触効果，飽きやすさ傾向，過度な接触

【目的】繰り返し同じものが提示されるとその対象に対してポジティブな評価が高まる。この現象は単純接触効果と呼ばれる。しかし，繰り返しが過度になると飽きが生じポジティブな評価が低下するとされる（Montoya et. al., 2017）。

Bornstein et al.(1990)では，飽きやすさ傾向（BP: Boredom Proneness）尺度（Farmer & Sundberg, 1986）の値が高い場合に，過度な繰り返し提示場面で単純接触効果が生じないことを示している。一方で，富田・栗延（2021）では過度な繰り返し場面でポジティブ評価の低下は生じず，参加者が提示された刺激を見なくなることを示した。また，富田・栗延（2022）は刺激を見なくなった参加者と見ていた参加者のBP得点を比較したところ，刺激を見なくなった参加者の方がBP得点が高いことを示した。

しかし，富田・栗延（2022）の研究では，BP得点の高さと単純接触効果の強さの比較は行われていない。BP得点が高い参加者で，繰り返しが過度になると飽きが生じ単純接触効果が生じなくなるのであれば，刺激提示系列の後半は飽きが生じているため，前半に比べて単純接触効果が弱くなることが予測される。本研究では，過度な繰り返し提示場面を，刺激提示系列の前半と後半に分け，参加者のBP得点の高低で，提示系列で単純接触効果の強さが異なるのか検討した。

【方法】参加者　クラウドソーシングサービスに登録している成人120名であった。
実験刺激　富田ら（2013）で用いられた無意味輪郭図形64枚であった。
実験計画　刺激の繰り返し（0，1，12，48回）（参加者内），提示系列（前半，後半）（参加者内），BP得点（高，低）（参加者間）を独立変数とした。従属変数は提示された刺激への好ましさ評定値（7段階）であった。
手続き　参加者はオンライン実験プラットフォームから実験に参加した。実験は提示段階，評定段階，質問紙回答段階から構成された。提示段階は前半と後半に分けられ，それぞれ無意味輪郭図形24枚が提示された。24枚は8枚が1回提示され，8枚が12回，8枚が48回提示された（提示時間100 msまたは2000 ms，ISI 500 ms）。刺激提示系列の最初にはダミー刺激が提示され，刺激提示系列の最後にはアルファベットが提示された（提示刺激を最後まで見ていたか確認する目的で提示された）。提示段階での参加者の課題は，「見逃さないように見ること」であった。評定段階では，参加者は最初に提示段階で提示されたアルファベットを回答した。次に，提示段階で提示されなかった16枚を含めたすべての刺激が1枚ずつ提示され，参加者はすべての刺激に対して好ましさを判断した（7段階）。最後に実験全体に対する印象項目（実験は退屈だった，やめたいと思った，長すぎると思ったなど）とBP得点項目への回答をおこなった。実験は全体で30分程度であった。

【結果】まず，提示段階で最後まで刺激を見ていた参加者（アルファベットに正答できた参加者）80名を分析対象とした。次に，BP得点の高さの中央値で参加者を2群に分け，BP得点高群，BP得点低群とした。刺激の繰り返し（0，1，12，48回）×提示系列（前半，後半）×BP得点（高群，低群）の3要因混合計画の分散分析を実施した。その結果，繰り返しの効果の主効果($\eta_p^2 = .378, p < .001$)のみ得られた。繰り返しに伴い好ましさ評定値が上昇していた。しかし，BP得点の主効果およびBP得点が関連する交互作用は得られなかった。

次に参加者が実験に飽きを感じた程度とBP得点の高さの関係性を検討する目的で，実験全体への印象とBP得点の相関分析を行った。その結果，退屈だった($r = .226, p < .043$),途中でやめたいと思った($r = .457, p < .001$)，長すぎると思った($r = .312, p = .003$)とBP得点の間に有意な正の相関関係が得られた。

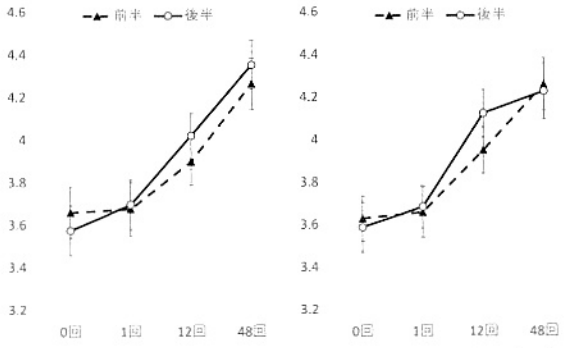
【考察】過度な繰り返し提示場面で生じる単純接触効果の消失と飽きやすさ傾向（BP得点）の関連を検討したが，BP得点が高い参加者で単純接触効果が減衰するなどの結果は確認されなかった。また，BP得点が高い場合に，刺激提示系列の後半に提示された刺激の好ましさ評定値が低下するなどの効果も見られなかった。一方で，BP得点の高さは実験全体への飽きやすさと正の相関を示していた。そのため，BP得点の高い参加者は実験を通して飽きや退屈感を感じていたと考えられる。富田・栗延（2022）で示された通り，BP得点の高さは提示された刺激の印象には影響を及ぼさず，実験全体に対して飽きを感じやすくさせていることが示された。また，飽きは刺激の印象には影響を与えない可能性が高いことも示された。

【利益相反】本研究において利益相反（conflict of interest; COI）はなかった。

【引用文献】

Bornstein, Kale, & Cornell. (1990). Journal of Personality and Social Psychology, vol. 58, no. 5, p. 791–800.
Farmer & Sundberg (1986). Journal of Personality Assessment . 50(1), 4-17.
Montoya, Horton, Vevea, Citkowicz, & Lauber (2017). Psychological Bulletin, 143(5), 459–498
富田・栗延（2021）日本心理学会第85回大会発表論文集.
富田・栗延（2022）日本認知心理学会第20回大会
富田・松下・森川（2013）認知心理学研究，10(2)，151-163

図　繰り返し提示による好ましさ評定値の変化（左BP得点低群，右BP得点高群）



（とみた　あきとし・くりのぶ　たけし）

消費行動が地域愛着に及ぼす影響

～祖師谷・砧地域を対象として～

森涼馬[1]　本木葵[1]　飯田希未香[1]　赤本美羽[1]　増子涼香[1]　塚原悠斗[1]　時田学[2]
([1]日本大学商学部時田ゼミナール・[2]日本大学商学部)

キーワード：地域愛着・消費行動・商店街

【目的】

商店街は、地域のネットワーク形成の機会を提供し、また地域への愛着や問題関心を喚起する機能を果たすことが指摘されている（今井，2021）。つまり、商店街は地域住民の交流機会の増加や彼らの情報共有を促す地域独自のコミュニケーションの場となっていると考えられる。本研究では、地域愛着に重きをおき、商店街について論じていきたい。居住する場所への人々の地域愛着は、該当地域に対する積極的・協力的な関与を促す可能性が指摘されている（鈴木，2008e. g. Brown, G, Brown, B, &Perkins, D, 2004）。さらに、人々と地域のつながりの一形態である該当地域への「地域愛着」は、人々の「地域」に対する態度や関与を牽引しうる心的要因であり、「地域」の在り方を考えていくうえで重要な役割を果たすものである（鈴木・藤井，2009）。地域の愛着を喚起する要因の一つに利用店舗への消費行動が挙げられる（鈴木・藤井，2008）。鈴木・藤井（2008）の研究から、居住地に隣接した徒歩圏内の距離にある商店街での消費行動は、高い地域愛着に結びつくと考えられる。本研究では祖師谷、砧地域の商店街を利用する可能性の高いN大学商学部の大学生に調査対象を限定し、鈴木・藤井（2008）の地域選好因子、地域愛着因子、持続願望因子に加え、大学生の商店街への消費行動を調査するために独自の質問項目を設け、祖師谷、砧地域に愛着を感じているか調査した。もしN大学商学部の大学生に前述した先行研究と類似した地域への愛着が存在するなら、そのことを起点に祖師谷、砧地域の商店街の活性化につながると考えられる。

【方法】

◆調査方法

本研究では、消費行動が地域愛着に与える影響に関して調査することを目的に、N大学商学部の大学生73名（男性34名、女性39名）に質問紙調査を実施した。そのうち有効回答数は67名（男性29名、女性38名）であった。平均年齢は20.0歳（SD=1.38）であった。

◆調査内容

質問項目は、「個人属性」「消費行動」「地域への愛着」の3つである。「個人属性」では、年齢、性別を尋ねた。「消費行動」では、N大学商学部の北側に位置する祖師谷大蔵駅周辺の商店街での買い物の頻度、飲食店の利用頻度を尋ねた。飲食店の利用に関してコンビニエンスストアでの食料品の購入は含まない旨を明記した。「地域への愛着」では、各設問は“1　まったく思わない”から“5　非常に思う”の5件法で設定されており、3要素13項目に対する同意の程度を問い、それらの測定値の平均という形で各尺度値を求めた（鈴木・藤井，2008）。地域愛着尺度を鈴木・藤井にて使用されている、地域愛着（選好）・地域愛着（感情）・地域愛着（持続願望）の3つの尺度を用いた。これらの尺度は、大谷・芳賀を参照し設定した項目を因子分析によって構成したものである（鈴木・藤井，2008）。まず、地域愛着（選好）は、当該地域の住みやすさや気持ちよさ、あるいは、「好き」な程度などの項目群から構成されるものであり、当該地域に対する個人的な「選好」（好き嫌い）の程度を意味する地域愛着の一要素である（鈴木・藤井，2008）。一方、地域愛着（感情）は、当該地域を大切に思い、愛着を感じ、住み続けたいと感じる、という要素を意味するものであり、上述の地域愛着（選好）のような表層的な好みというよりもむしろ情緒的な地域愛着の要素である（鈴木・藤井，2008）。最後に、地域愛着（持続願望）は、当該地域に変わってほしくないものがある、なくなってしまうと悲しいものがある、という2項目から構成されるもので、当該地域の永続を願う愛着要素である（鈴木・藤井，2008）。

【結果】

有効回答者数67名（男性29名、女性38名）であり、平均年齢は20.0歳（SD=1.38）の中で、祖師谷大蔵周辺の商店街で買い物をしたことがない学生が37名、祖師谷大蔵周辺の商店街で飲食店を月に2.3回～年に2.3回利用する学生が37名と過半数を占めた。5件法で設定された「地域への愛着」では、13項目中10項目が3.0を下回る結果となった。よって今回の調査では地域愛着を感じている人が少なかった。

【考察】

居住地に隣接した徒歩圏内の距離にある商店街での消費行動は、高い地域愛着に結びつくと考えられる（鈴木・藤井，2008）。一方、今回の調査では商店街で消費活動を活発に行っておらず、地域への愛着を持つ学生も少ないという現状が明らかになった。今井（2021）は地域のネットワーク形成と地域愛着の可能性を指摘しているが、今回対象とした、質問調査を依頼した大学生らは調査対象地域に居住する割合が低い可能性が考えられ、その点でも積極的な消費行動を行う機会が商店街で多いというわけではないため地域愛着も感じられなかったという可能性が考えられる。今後の課題として、社会全体がCOVID-19の影響を受ける中で、今回の結果を考慮し、商店街の在り方を再考することが求められる。また現在大学生とは異なった母集団で調査を行っており、その結果も併せて考察を行う。

【利益相反】

なお、本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

【引用文献】

今井隆太（2021）．商店街による利用住民への社会的・心理的効果の実証研究，日本都市社会学会年報39号 pp56-72.　https://doi.org/10.5637/jpasurban.2021.56

鈴木春奈・藤井聡（2008）．「消費行動」が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究，土木学会論文集D Vol.64No.2, pp190-200.
https://doi.org/10.2208/jscejd.64.190

鈴木春奈・藤井聡（2009）．地方都市における郊外型大型店出店が消費行動及び地域愛着に与える影響について～愛知県豊橋市と香川県高松市を事例として～土木計画学研究・論文集 Vol.26No.2, pp307-314.
https://doi.org/10.2208/journalip.26.307

（もり りょうま・もとき あおい・いいだ きみか・あかもと みう・ましこ すずか・つかはら ゆうと・ときた がく）

生徒会広報誌を用いた中学生へのいじめ防止教育の効果の検証

○大門耕平[1]　荻本竜也[2]（非会員）来田宣幸[3]
([1]東北学院大学　[2]近江兄弟社中学校　[3]京都工芸繊維大学
キーワード：いじめ防止教育　生徒会活動　中学校教育

【目的】文部科学省（2022）は、2021年度における小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は615,351件（前年度517,163件）であり、前年度に比べ98,188件（19.0%）増加していることを発表している。

このようないじめ事象を防止するために様々な取り組みが実施されている。Rigby（2001)は、いじめを防ぐためには、①いじめられている人をサポートすること、②いじめが起こった時には積極的にやめさせること、③いかなる場合もいじめを行わないこと、という3つのポイントを指摘し、学校環境における「いじめを許さない環境づくり」が重要であると述べている。

そこで、この研究では、「いじめを許さない環境づくり」を目指し、いじめ防止教育を実施し、Rigbyの指摘する3つのポイントに対する効果の検証を行うことを目的とした。いじめ防止教育の実施においては、教師主導で実施するのではなく、生徒会が主体でプログラムを実施することとし、ツールとして、生徒会役員が発行する生徒会広報誌「360°」を用いて在校生にいじめ防止についての情報を発信した。広報誌については、2022年度に10号発行し、すべての号において、いじめ防止のための内容を掲載した。そして、2022年春、そして、2023年春にいじめに関するアンケート調査を実施し、「いじめを許さない環境づくり」にどのような影響があるかを検証した。この研究により、生徒が主体となって実施するいじめ防止プログラムが有益な教育活動であることを示したい。

【方法】研究対象者：私立A中学生の在籍生徒を対象とした。参加人数は、2022年が1年生112名、2年生116名、3年生98名、計336名（男子210名、女子126名）であり、2023年が、1年生122名、2年生120名、3年生123名、計365名（男子225名、140名）であった。両方に参加した生徒は207名（男子70名、女子137名）であった。

いじめ防止プログラム：2022年度に生徒会広報誌（A4、12ページ）を10号（4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月）発行し、「いじめについて」というページを各号1ページ利用した。内容は、4月いじめについて、5月いじめの後遺症、6月いじめアンケート結果、7月いじめアンケート分析、9月SNSでのいじめ、10月各国のいじめ、11月「＃元いじめられっ子から今いじめられている君へ」紹介、12月いじめを考えるための本紹介、1月いじめによる心理の変化、2月いじめが扱われる映画紹介であった。

調査：いじめに関するアンケート（いじめを受ける者への支援、いじめへの加担をしない、理由があってもいじめに加担しない）を2022年春、2023年春に実施した。また、2022年度末に、生徒会広報誌についての意識調査を実施した。

分析：分析には、SPSS23.0を用いた。

【結果】結果1. 生徒会広報誌についての意識調査：

表1. 生徒会広報誌についての意識調査

生徒会広報誌「360°」を	よく見る	たまに見る	もらった時は見る	もらっても見ない
どのくらい見ていますか	87(25%)	99(29%)	137(40%)	19(6%)

生徒会広報誌についての意識調査の結果からは、94%の生徒が広報誌を見ていることが示された。

結果2.2022年度及び2023年度のいじめアンケートの結果

いじめについての意識調査の結果、広報誌でのいじめ防止プログラムを実施した2023年度のアンケートは、すべての項目において、2022年度と比較して高い値であることが示された。

表2.2022年度及び2023年度のいじめアンケートの結果

	2022年度	2023年度	t検定
	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	
いじめを受ける者への支援	3.57 ± 0.98	3.86 ± 0.91	**
いじめへの加担をしない	3.80 ± 0.65	3.95 ± 0.64	**
理由があってもいじめに加担しない	4.07 ± 1.08	4.53 ± 0.76	**

*p<.05, **p<.01

結果3.2022年度及び2023年度のいじめアンケート（学年比較）

表3.2022年度及び2023年度のいじめアンケート（年度比較）

	2022年度2年生	2023年度2年生	
	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	t検定
いじめを受ける者への支援	3.63 ± 0.85	3.70 ± 1.00	
いじめへの加担をしない	3.81 ± 0.64	3.94 ± 0.68	
理由があってもいじめに加担しない	4.07 ± 1.13	4.57 ± 0.68	**
	2022年度3年生	2023年度3年生	t検定
いじめを受ける者への支援	3.38 ± 0.98	3.67 ± 0.89	
いじめへの加担をしない	3.68 ± 0.69	3.77 ± 0.62	
理由があってもいじめに加担しない	4.11 ± 1.03	4.45 ± 0.80	

*p<.05, **p<.01

いじめプログラムを実施した2023年度の2年生、3年生と2022年度の2年生、3年生を比較した。その結果、2年生においては、「理由があってもいじめに加担しない」において、2023年度が2022年度と比較して有意に高い値であった。そのほかについては、有意な差はなかったが、すべての項目において、2023年度の値が2022年度の値よりも高い結果であった。

結果4.いじめプログラムの効果の検証（縦断調査）

表4.いじめプログラムの効果の検証（縦断調査）

	2022年度（実施前）	2023年度（実施後）	t検定
	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	
いじめを受ける者への支援	3.63 ± 0.98	3.71 ± 0.94	
いじめへの加担をしない	3.85 ± 0.63	3.87 ± 0.66	
理由があってもいじめに加担しない	4.07 ± 1.08	4.53 ± 0.76	**

*p<.05, **p<.01

いじめプログラムの受けた生徒のうち、2022年及び2023年のアンケートの両方に回答している生徒（207名）を対象として、t検定を実施した。その結果、「理由があってもいじめに加担しない」について、実施後の値が実施前の値と比較して有意に高い値であった。「いじめを受ける生徒への支援」及び「いじめへの加担をしない」においては、有意な差は見られなかったが、実施後の値の方が実施前より高い値であった。

【考察】生徒会広報誌を用いた中学生へのいじめ防止教育を1年間実施し、その効果の検証を行った。その結果、学校全体のいじめに対する意識の向上を確認することができた。また、事前事後の比較からもいじめに対する意識の向上が見られた。このことから「いじめを許さない環境づくり」において、生徒が主体的に発信すること、また、生徒の身近な存在である広報誌を用いるといういじめ防止プログラムが有益であることが示されたといえる。

【利益相反】利益相反（conflict of interest; COI）なし。

【引用文献】

文部科学省　2023 令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要

Rigby, K. 2001 Stop the bullying: A handbook for schools. Melbourne, Australia: ACER Press.

（おおかど こうへい・おぎもと たつや・きだ のりゆき）

私立工科系学生の修士課程進学動機に影響を与える要因

—心理学的特性・学生生活・結果期待からの影響—

○石田拓矢[1]　庄司正実[2]
([1]目白大学大学院心理学研究科　[2]目白大学心理学部)

キーワード：研究活動・技術習得・将来のキャリア

【目的】

私立工科系大学は一部の大学を除いて，学部学生の修士課程への進学促進が喫緊の課題となっている(石田・庄司, 2022)。石田・庄司（2022）は私立工科系学生の修士課程進学における「進学動機」を自由記述で調査し，「研究／技術習得」および「将来のキャリア」という動機が多いことを明らかにした。修士課程への進学促進のため，これらの「進学動機」にどのような要因が影響しているのかを明らかにすることが重要であると考えられる。

そこで本研究は，私立工科系大学大学院修士課程新入生を対象として，石田・庄司（2022）で明らかになった「進学動機」に影響を与える要因を明らかにすることを目的とする。

【方法】

調査協力者は2024年4月に私立工科系大学大学院修士課程に入学した学生142名（男性118名，女性24名，平均年齢22.3歳（*SD*=.56））であった。調査協力者の専攻分野は，工学の主要7分野（千葉大学，2017）に当てはめると，電気・電子11名，機械29名，建築24名，土木0名，化学・材料8名，情報・通信37名，バイオ0名，その他（複合領域）33名であった。

「進学動機」については石田・庄司（2022）に基づき，「取り組みたい研究テーマがあるので」，「技術力を身に付けるため」および「将来のキャリアのため」とした。「学生生活（影響要因）」および「結果期待」については石田・庄司（2022）を基に作成した。「心理学的特性」については知的好奇心尺度12項目（西川・雨宮；2015），批判的思考態度尺度（平山・楠見；2004）から批判的思考傾向に係る11項目とした。いずれも5件法で調査した。

【結果】

各変数の平均値と標準偏差については以下の通りであった。

Table 1　各変数の平均値および標準偏差

		M	*SD*
進学動機	取り組みたい研究テーマがあるので	3.78	1.01
	技術力を身に付けるため	4.39	.75
	将来のキャリアのため	4.49	.74
心理学的特性	拡散的好奇心	3.69	.70
	特殊的好奇心	3.72	.64
	客観性	3.81	.56
	多角的視点	3.93	.72
結果期待	知識・技術を身に付けている	4.08	1.00
	コミュニケーション能力を身に付けている	3.92	1.07
	後輩への指導力を発揮している	3.59	1.07
	学会等で発表している	3.51	1.34
	希望する進路に内定する	3.89	1.16
学生生活（影響要因）	大学で受講した専門講義科目	3.37	1.08
	大学で受講した演習・実験実習科目	3.31	1.12
	研究指導教員	3.87	1.08
	研究室での研究活動	4.04	1.04
	就職活動	3.35	1.24
	先輩	3.47	1.27
	友人	3.24	1.22

「進学動機」を従属変数とし，「心理学的特性」，「学生生活（影響要因）」および「結果期待」を独立変数として重回帰分析を行った。step1を「心理学的特性」，step2を「学生生活（影響要因）」，step3を「結果期待」としてステップワイズ法で分析した結果，以下の通りであった。

Table 2　心理学的特性，学生生活，結果期待による進学動機（取り組みたい研究テーマがあるので）の重回帰分析

モデル		β	*t*	
step1	特殊的好奇心	.160	1.80	†
step2	大学で受講した専門講義科目	.280	3.20	**
	研究室での研究活動	.234	2.73	**
step3	希望する進路に内定する	.182	2.15	*

*p<.05，**p<.01　　R^2=.235

Table 3　心理学的特性，学生生活，結果期待による進学動機（技術力を身に付けるため）の重回帰分析

モデル		β	*t*	
step1	客観性	.294	2.98	**
	多角的視点	.242	2.44	*
step3	知識・技術を身に付けている	.224	2.74	**

*p<.05，**p<.01　　R^2=.280

Table 4　心理学的特性，学生生活，結果期待による進学動機（将来のキャリアのため）の重回帰分析

モデル		β	*t*	
step1	拡散的好奇心	.271	2.72	**
	客観性	.249	2.52	*
step2	研究指導教員	.170	2.17	*
step3	希望する進路に内定する	.279	3.60	***

*p<.05，**p<.01，***p<.001　　R^2=.345

【考察】

「取り組みたい研究テーマがあるので」という「進学動機」には専門講義や研究活動といった「学生生活」の他に，「心理学的特性」の「特殊的好奇心」も影響を与えていたことから，大学で学んだことを更に突き詰めたいと思い，研究に取り組むために進学していたと考えられる。「技術力を身に付けるため」という「進学動機」には知識・技術習得といった「結果期待」の他に，「心理学的特性」の「客観性」および「多角的視点」も影響を与えていたことから，自分より高い技術力を持つ研究指導教員や先輩との議論を通して専門分野の技術力を身に付けるため進学していたと考えられる。「将来のキャリアのため」という「進学動機」には希望進路内定といった「結果期待」の他に，「心理学的特性」の「拡散的好奇心」・「客観性」も影響を与えていたことから，「拡散的好奇心」を刺激する最先端の技術を持つ企業等に就職できるように進学していたと考えられる。

【主な引用文献】

石田拓矢・庄司正美（2022）．工科系修士課程進学者の個人内要因 —高度専門技術者養成を目的とした私立大学におけるインタビュー調査— 応用心理学研究，48(1)，22-32.

（いしだ たくや・しょうじ まさみ）

教職課程における福祉教育のカリキュラム編成に関する基礎的研究（１）

－教職課程学生の社会福祉関連職種等調査を中心として－

○石橋　裕子[1)]　林　幸範[2)]
1)帝京科学大学　2)学研アカデミー保育士養成コース

キーワード：教職課程、カリキュラム、福祉

【研究の目的】

筆者らは、特別支援教育での虐待児童の学習支援及び教職課程における虐待のカリキュラム化などについて検討してきた。しかしながら、平成18(2006)年度に文部科学省が作成した「被虐待資料」の委員などほとんどの研究者は教職課程において、被虐待児童の発見から予防、さらに教育現場での対応についての「教育」がされていないことが明らかとなった。だが、保育者養成課程を併設している教職課程では福祉関連授業があり、虐待についての教育が実施されている。ところで、児童福祉は、平成24(2012)年の『児童福祉法』改正以来『子どもの権利条約』の精神のもと、被虐待児童に対する施策などが大きく変化し、令和6(2024)年からは、社会的養護の強化、「子育て世代包括センター」の「子ども家庭支援センター」への拡充と児童相談所との連携の強化、「子どもの意見表明権」の強化などが実施される予定である。児童福祉においては、児童虐待の急速な増加に対して、様々な施策が実施されている。そのため、保育士養成課程では、虐待を教授することが中心的なテーマの一つになっている。教育現場でも、虐待は子どもを取り巻く重要な問題の一つであることはいうまでもない。このようなことから筆者らは、教職課程の教科の中に虐待などを中心に児童福祉関連授業をできる限り実施してきたが、あくまでも補足的な授業でしかない。そこで、現在、教職課程のカリキュラムにも「福祉関連教科」を導入したカリキュラムの編成についての基礎的な研究を実施している。

本稿では、「福祉関連教科」カリキュラム基礎データの収集として、福祉関連事項・特別支援教育等の既知について実施した学生調査の結果などについて報告する。

【方法】

(1)授業時期…大学生：2023年。(2)授業対象…東京の二大学(105名(男性62名(59.0%)，女性43名(41.0%))：栄養学系13名，教員養成系92名）。(3)調査方法…授業の初回時にQRコードを読み込ませ授業内で実施、SNS(スマホ)で回答。(4)調査表の記入の説明(告知)…受講生に調査表の記入の説明を口頭で実施。①調査の記入の仕方・記入上の留意点。②調査の回答は任意、回答をしなくてもよい。回答をしたくない場合には、「回答したくない」にチェック(分析の際は「無回答」)。③調査項目などには正答がなく成績に関係しない。④結果は、授業方法の研究として学会や紀要などで公表するが、記入者が特定できないようにするなど。(5)回収…出席者全員。(6)分析項目…特別支援教育関係項目・福祉関連項目について、3段階評定。(7)凡例…囲込み数字 50.0%以上で、丸数字は全項目の順位。

【結果】（表１参照）

(1)特別支援教育関連項目(20項目)…①特別支援教育関連項目(13項目)：『名前も内容も知っている』5割以上の項目は「特別支援学級」「特別支援学校」順の2項目、『知らない』5割以上の項目は「特別支援教育コーディネーター」「インクルーシブ教育」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「二次障害」「校内委員会」「通級による指導（通級指導教室）」順の7項目。②特別支援教育対象項目(7項目)：『名前も内容も知っている』5割以上の項目は「ADHD（注意欠陥多動症）」「LGBTQ」順の2項目、『知らない』5割以上の項目は「外国にルーツのある子ども」1項目。(2)福祉関連項目(11事項)…①福祉関係専門職員(2項目)：『名前も内容も知っている』5割以上の項目はなく、『知らない』5割以上の項目は「民生委員・児童委員」1項目。②福祉関係専門職員(3項目)：『名前も内容も知っている』5割以上の項目はなく、『知らない』5割以上の項目は「障害者差別解消法」1項目。③福祉関係期間(6項目)：『名前も内容も知っている』5割以上の項目は「児童相談所」1項目、『知らない』5割以上の項目は「児童心理治療施設」「児童自立支援施設」「乳児院」順の3項目。

表１　特別支援教育関連項目・福祉関連項目の既知の割合(総数＝105名)

分類	項目	名前も内容も知っている	名前だけ知っている	知らない
特別支援教育関連(13)	特別支援教育	33.3%	①63.8%	2.9%
	インクルーシブ教育	4.8%	31.4%	⑤63.8%
	合理的配慮	15.2%	47.6%	37.1%
	特別支援学級	②63.8%	35.2%	1.0%
	通級による指導(通級指導教室)	17.1%	30.5%	⑪52.4%
	特別支援教室	35.2%	⑥55.2%	9.5%
	特別支援学校	③58.1%	40.0%	1.9%
	校内委員会	4.8%	41.9%	⑫53.3%
	特別支援教育コーディネーター	2.9%	29.5%	③67.6%
	特別支援教育支援員	14.3%	42.9%	42.9%
	二次障害	3.8%	38.1%	⑨58.1%
	個別の指導計画	7.6%	34.3%	⑨58.1%
	個別の教育支援計画	8.6%	28.6%	⑦62.9%
特別支援教育対象(7)	自閉スペクトラム症(自閉症スペクトラム)	25.7%	④59.0%	15.2%
	限局性学習症(学習障害)	29.5%	46.7%	23.8%
	ADHD(注意欠如多動症)	①67.6%	32.4%	0.0%
	外国にルーツのある子ども	12.4%	33.3%	⑪54.3%
	ヤングケアラー	35.2%	27.6%	37.1%
	LGBTQ	③58.1%	24.8%	17.1%
	ギフテッド	31.4%	31.4%	37.1%
福祉関係専門員(2)	スクールソーシャルワーカー	10.5%	⑤58.1%	31.4%
	民生委員・児童委員	2.9%	30.5%	④66.7%
福祉関係法律(3)	障害者差別解消法	3.8%	23.8%	②72.4%
	児童福祉法	7.6%	①63.8%	28.6%
	児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)	18.1%	③61.0%	21.0%
福祉関係機関(6)	児童相談所	⑤53.3%	41.9%	4.8%
	児童養護施設	47.6%	44.8%	7.6%
	乳児院	8.6%	31.4%	⑥60.0%
	児童自立支援施設	7.6%	28.6%	⑤63.8%
	児童心理治療施設	3.8%	21.9%	①74.3%
	放課後等デイサービス	23.8%	37.1%	39.0%

【考察】

以上から、特別支援教育関連では、「特別支援教育」などの名称的な項目は知っているが、「校内委員会」や「個別の指導計画」など実施体制や制度的な項目については知らないものが多かった。対象では、発達障害については知っているが、教職課程の再認定時に示された対象については、知らないものが多いが、最近話題となっている「LGBTQ」については、知っているものも多かった。福祉関連の項目となると、専門委員、法律、機関については知らないものが多かった。しかしながら、特に「児童福祉法」や「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」については内容がわからないまでも、知っているものが多かった。

これらのことから、調査対象の学生は、「特別支援教育」の授業開始時の調査であるため、特別支援教育の内容まではわからないということがいえよう。さらに、調査学生は、児童福祉に関しても、児童相談所を内容まで知っていることや、「児童福祉法」などを知っていることなどから、児童福祉についても関心があることが推察できる。ということは、学生の情報不足と併せて興味関心の高さからも福祉教育のカリキュラムの構築の重要性が示唆されたといえよう。

(ISHIBASHI Yuko, and HAYASHI Yukinori)

習い事や課外活動の指導者にとって「気になる保護者」とは

応援席ハラスメントにつながる保護者の態度

○藤後悦子[1]　井梅由美子[1]　大橋恵[1]
([1]東京未来大学こども心理学部)

キーワード：応援席ハラスメント　課外活動　　気になる保護者

【目的】日本人の応援は，オリンピックなどの国際大会では応援席の掃除なども含めその振る舞いが絶賛されている。しかし子どものスポーツや習い事の現場では，子どもに対する支配的な態度が散見されたり，応援席から罵声が飛び交っていたりする現状がある(Tuques et.al.,2018)。習い事や部活動の指導者にとっての大きなストレスは，保護者からのクレームであり，保護者の行動は応援席ハラスメントに発展する可能性を秘めている。バスケットボールを習っている子ども332人の調査結果では，保護者や応援席にしてほしくないこととして，ネガティブな発言や態度，支配的な態度，大人としての不適切な態度などが示された(藤後他, 2020)。本研究は，子どもの課外活動として運動系のみでなく文化系も含めた指導者に焦点を当て，試合やコンクール，演奏会などの際の保護者の気になる態度を指導者がどのようにとらえているかについて探索的に明らかにすることを目的とする。

【方法】参加者：小学生と中学生を対象とした課外活動の指導者700名(男性382名,M=49.71歳，SD=11.12，女性318名, M=44.40歳，SD=12.12)。主対象が小学校低学年156名，小学校高学年208名，中学生336名であった。

調査手続き：オンライン調査を用いた。質問項目は，「保護者の気になる様子」について自由記述で回答を求め，その内容をKHcoder(樋口，2020)にて分析した。その他の尺度も測定したが本報告と関連しないため省略する。

倫理的配慮：研究者への匿名性，自由意思であること，学術的な利用のみ行うことを説明し同意を求めた。

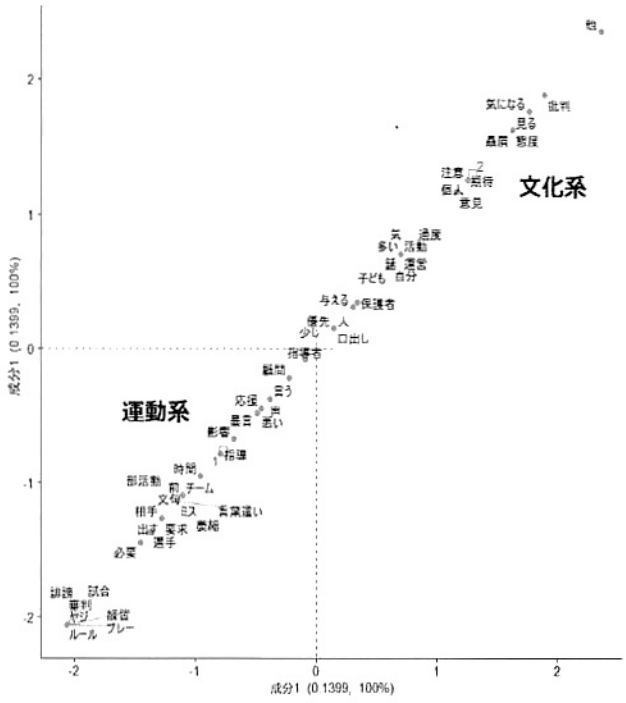
【結果】不適切な回答を確認するスクリーニングに該当した76名を除く624名を分析対象とした。課外活動の内訳は，運動系(313名）はサッカー，野球等，文化系(311名)は，ピアノ，吹奏楽等であった。保護者の気になる様子を自由記述で求め，気になることがない(1)とある(2)で分類した結果，37.5%があると回答した。運動系，文化系による気になる保護者の有無の出現率に対してχ^2分析を行った結果，有意な差が認められ($\chi^2(1)=8.45$，$p=.004$)，運動系が有意に多かった。指導学年により気になる保護者の出現率を学年別に確認したところ，気になる保護者がいるとの回答は小学校低学年31.9%,高学年46.0%，中学生34.7%であり，小学生高学年の保護者が有意に多かった($\chi^2(2)=8.73$，$p=.013$)。

次に気になる保護者の内容を確認するために，自由記述の内容をKHコーダーにて頻出語，共起ネットワークで全体の傾向を確認した。語句の前処理として，強制抽出（例：保護者，指導者，出場時間など）と同義語の処理を実施した（代表例：子ども(子供，子，生徒，児童，お子さん)上で頻出語を確認したところ，子ども，保護者，自分，指導，応援，チーム，言う，相手，影響，過度等が示された。

次に出現数10以上を対象に共起分析を行った結果，5つのグループに分類された。1つ目は「子ども，保護者，自分」などで「自己中心的な保護者」，2つ目は「指導，見る，言う」などで「指導のやりづらさ」，3つ目は「応援，指導者，気になる，過度」などで「過度な期待」，4つ目は「影響，チーム，相手，ヤジ」などで「子ども達や相手チームへの悪影響」，5つ目は「多い，人」などで「悪口や規則を破る人の多さ」とそれぞれ命名した。

より詳細な特徴を確認するために，運動系と文化系の種類別の対応分析を行った。運動系は，試合の際のヤジや誹謗が特徴として見られ，文句やミス，言葉遣いの悪さなどの特徴が目立った。一方文化系は，期待，最員，態度，気になる，意見など過干渉的な態度が目立った。原点付近には，口出し，指導者，保護者などの特徴が見られた。

Figure1
「保護者の気になる様子」についての対応分析



【考察】本研究では，習い事や課外活動の指導者から見た保護者の気になる様子について自由記述で求め分析した。その結果，約4割が気になる保護者がいると答えており，運動系では言語的な直接攻撃，文化系では最員や過干渉が目立った。指導者は指導のやりにくさを感じており，自分たちのチームや教室のみでなく試合相手などの関係者への悪影響も懸念していた。これらを受け，今後は指導者のみでなく，応援席を含めたハラスメント予防教育や啓発活動が求められる。

【利益相反】本研究に関わる利益相反(COI)はない。

【引用文献】

樋口耕一(2020). 社会調査のための計量テキスト分析 —内容分析の継承と発展を目指して— 第2版 ナカニシヤ出版

Teques et al (2018). Mediating effects of parents' coping strategies on the relationship between parents' emotional intelligence and sideline verbal behaviors in youth soccer. *Journal of Sport and Exercise Psychology, 40*(3), 153-162.

藤後他(2020).バスケットボールをプレーする子どもたちの指導者，保護者，チームの保護者集団(応援席)への期待モチベーション研究, *9*, 23-34.

(とうごえつこ・いうめゆみこ・おおはしめぐみ)

学校教員のバーンアウト症状と職場の同僚性認知との関係

―交差遅延効果モデルと同時効果モデルによる検討―

○磯和壮太朗[1]　今井田貴裕[2]
([1]名古屋芸術大学教育学部　[2]人間環境大学心理学部)

キーワード：バーンアウト，同僚性認知，学校教員

【目的】

学校教員のバーンアウト（燃え尽き）が社会問題となって久しい。わが国における学校教員のバーンアウト研究の焦点が，職務内容から職場の対人関係へと移行（草海, 2020）に伴い，燃え尽き予防のために同僚同士が互いを信頼し支え合う関係（同僚性）を構築・促進する必要性が指摘されてきた（e.g., 長谷・窪田, 2017; 谷口, 2018）。このことについて，調査協力者の同僚性認知（職場内の「同僚が」同僚性を発揮しているかについての認知）が良好である場合，バーンアウト症状が抑制される可能性が示されている（磯和・今井田, 2021a; 磯和・今井田, 2021b）。その一方で，これらの結果は職場における調査協力者の対人関係満足度に完全媒介されている可能性も示されている（磯和・今井田, 2022）ため，同僚性認知は職場のなかで「同僚が」同僚性を発揮しているかのみならず，「調査協力者自身が」同僚性を発揮しているかも含めて検討する必要がある。また，同僚性がバーンアウト症状に及ぼす影響を検討するには，横断的な検討ではなく，複数時点の縦断的な検討が必要である。

そこで本研究では，2時点の調査データに対して交差遅延効果モデルと同時効果モデルを適用し，職場の同僚性がバーンアウト症状に及ぼす影響を検討する。

【方法】

調査時期　初回調査（Time 1）は2020年6月中旬，2回目の調査（Time 2）は同年の9月上旬あった。

調査対象者　Web調査サービスに登録している小・中・高等学校に勤務している管理職ではない学校教員であり，2回の調査すべてに回答していた120名を分析対象とした。平均年齢は43.93歳（SD = 11.54）であった。なお，本調査は磯和・今井田（2023）とデータが重複するが，別の変数を用いた別の観点からの検討である。

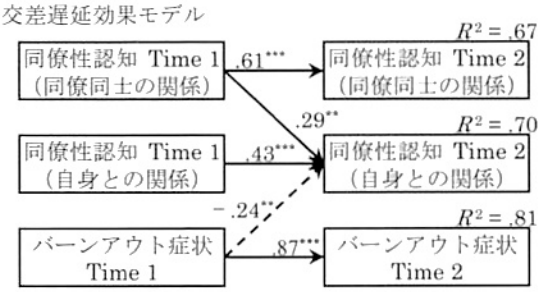
尺度構成　同僚性認知（「同僚同士の関係」）は，学校組織の風土尺度（橋本・前田, 2019）のうち，同僚性因子の得点を得た。同僚性認知（「自身との関係」）は，学校組織の風土尺度（橋本・前田, 2019）の「彼らは」を「私は」に改変して使用し，同僚性因子の得点を得た。バーンアウト症状は，日本版バーンアウト尺度（久保, 1998）を使用し総得点を得た。なお，欠損値は完全情報最尤推定法を用いて補填した。

倫理的配慮　本研究は作陽学園「人を対象とする研究」倫理委員会の承認を得た。

【結果】

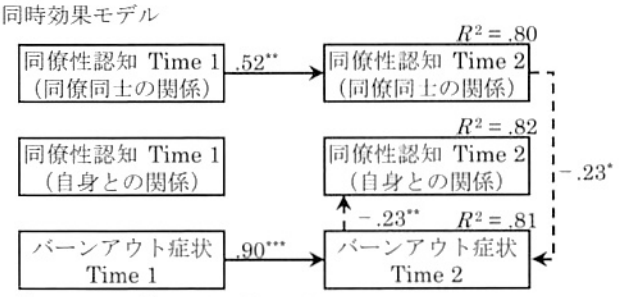
まず，年齢を統制変数，Time 1の「同僚同士の関係」と「自身との関係」，バーンアウト症状を独立変数とし，Time 2のそれぞれの変数すべてにパスを引いた交差遅延効果モデルによって分析を行った。その結果をFigure 1に示した。結果として，各自己回帰のパス（βs = .43 ― .89, ps < .001）と「同僚同士の関係」から「自身との関係」への交差遅延効果を示すパス（β = .30, p < .001），バーンアウト症状から「自身との関係」への交差遅延効果を示すパス（β = −.23, p = .033）が有意となった。その他のパスは有意とはならなかった。次に，交差遅延効果モデルと同じ変数を使用した同時効果モデルによって分析を行った。その結果をFigure 2に示した。結果として，全てのパスの中で有意となったのは，「同僚同士の関係」の自己回帰のパス（β = .52, p < .001）とバーンアウト症状の自己回帰のパス（β = .90, p < .001），「同僚同士の関係」からバーンアウト症状への同時効果を示すパス（β = .23, p = .038），からバーンアウト症状から「自身との関係」への同時効果を示すパス（β = .23, p = .001）が有意となった。その他のパスはすべて有意ではなかった。

Figure 1
交差遅延効果モデル



*** p < .001, ** p < .01

Figure 2
同時効果モデル



*** p < .001, ** p < .01, * p < .05

【考察】

交差遅延効果モデルによる検討の結果，同僚性認知はバーンアウト症状を抑制しないことが示された。その一方で，バーンアウト症状が自身から同僚への関わりの質を低下させることが示された。また，回答者自身を除く同僚同士の関係性が良好である場合，回答者自身から同僚への関わりの質も高まっていくことも示された。同時効果モデルの結果からは，同僚同士の関係性が良好であると認知していることはバーンアウト症状を直接的に抑制するが，バーンアウト症状は自身から同僚への関わりの質を低下させることも示された。

以上から，同僚性はバーンアウト症状を短期的に抑制するものの，バーンアウト症状が増悪されるような環境下では，学校教員個々人それぞれの同僚との関わりの質が悪化し，結果として同僚性が衰退していく可能性が考えられた。すなわち，バーンアウト症状が増悪しない環境づくりが重要である。

【利益相反】

本研究に関して利益相反関係にある企業等はない。

【引用文献】（使用尺度）

久保 真人（1998）. バーンアウトの心理学 サイエンス社 24-29.

橋本 博文・前田 楓（2019）. 学校組織の風土の可視化（1）―社会的環境要因としての学校組織の特性の査定を目指した尺度の作成― 日本学校心理学会第21回大会プログラム・発表抄録集, 93.

（いそわ そうたろう・いまいだ たかひろ）

現実逃避傾向尺度の開発

― 中学生・高校生を対象にして ―

○三島　浩路
（中部大学 現代教育学部）

キーワード：現実逃避，スマートフォン依存，中学・高校生

【目　的】

現実生活からの逃避がインターネット依存の誘因になることを Kardefelt-Winther(2014)は指摘している。Petrova et al.(2015)もインターネットやゲームに対する青少年の依存の理由として,現実生活からの逃避を挙げている。近年，中学生や高校生の大多数がスマートフォンをもち，インターネットへアクセスしていることから，現実生活からの逃避傾向の強さが，中学生や高校生のスマートフォン依存の強さに関連する可能性がある。しかし，日本の中学生や高校生の現実逃避傾向を測定する尺度は開発されていない。そこで，本研究では，日本の中学生や高校生の現実逃避傾向を測定する尺度の開発を試みる。

【方　法】

調査時期・対象：A 県内の公立中学校２校，公立高校３校の１～３年生 1,592 人を対象にした調査を 2021 年 12 月～2022 年 1 月にかけて実施し，欠損値のない 1,410 人（男性 771 人・女性 639 人，中学生 268 人・高校生 1,142 人）のデータを分析した。なお，本研究にかかわる調査は，著者が所属する機関の倫理審査委員会の承認を得た上で実施した。

調査内容：大学生５人・大学院生３人を対象に「中学生や高校生に対して，現実から目を背けたいと思わせたり，現実から逃れる行動を促したりするなど，現実からの逃避に関連する中学生や高校生の学校生活や家庭生活などに関連した出来事やマスメディアや SNS 等からの情報・メッセージ等」を想起させた後，PAC 分析(内藤,1997)の手続きを参考にした方法で整理・集約するなどして 13 項目からなる「現実逃避傾向尺度」素案を作成した。さらに，現実逃避傾向の強さと負の関連が予想される将来展望(三島,2021)の「肯定的・積極的将来像」因子を構成する８項目・「向社会的努力志向」因子を構成する５項目，および，学校適応感尺度(三島, 2020)の「総合的適応感覚」（２項目）と「友人適応」因子を構成する３項目・「学習適応」因子を構成する２項目，さらには抑鬱傾向を測定する QIDS-SR の７項目を調査に用いた。なお，回答はすべて５件法とした。

【結果と考察】

■因子分析の結果

「現実逃避傾向尺度」素案を構成する 13 項目の回答を因子分析するなどして，８項目(1 因子構造)の現実逃避傾向尺度を作成した(GFI=.98, AGFI=.96, CFI=.97, RMSEA=.058, SRMR=.032, α=.81, ω=.82)。将来展望・学校適応・抑鬱傾向に関する項目についても，それぞれ因子分析を行った結果，「肯定的・積極的将来像」因子を構成する８項目中２項目の因子負荷が小さかったことから，この２項目は分析から除外し，それぞれの尺度を構成する素点の平均値を尺度得点として以降の分析を行う。

■現実逃避傾向尺度得点の校種・性別によるちがい

現実逃避傾向尺度得点を従属変数，校種・性別をそれぞれ独立変数とする２要因分散分析を行ったところ，性別の主効果($F(1,1406)= 55.16, p<.001$)のみがみられた。この結果から，男子生徒に比べて女子生徒の方が，現実逃避傾向が強いことが示唆される。

■現実逃避傾向と将来展望・学校適応・抑鬱傾向の関連

現実逃避傾向尺度得点と「肯定的・積極的将来像」「向社会的努力志向」，「総合的適応感覚」「友人適応」「学習適応」，さらには抑鬱傾向に関する尺度得点との相関係数を算出した。その結果，抑鬱傾向尺度得点(r=.68)との間に比較的強い正の相関関係がみられ，学校生活全般に対する主観的な適応状況の指標である「総合的適応感覚」尺度得点(r=－.54)，将来展望を構成する因子の一つである「肯定的・積極的将来像」尺度得点(r=－.43)との間にそれぞれ比較的強い負の相関関係がみられた。さらに，将来展望を構成するもう一つの因子である「向社会的努力志向」尺度得点(r=－.31)，「友人適応」尺度得点(r=－.33)「学習適応」尺度得点(r=－.28)との間にもそれぞれ弱い負の相関関係($p<.001$)がみられた。

現実逃避傾向尺度得点を目的変数，将来展望・学校適応・抑鬱傾向に関するそれぞれの尺度得点を説明変数として，ステップワイズ法による重回帰分析を行った。その結果，抑鬱傾向(β=.50, $p<.001$)，「総合的適応感覚」(β=－.21 ,$p<.001$)，「肯定的・積極的将来像」(β=－.19, $p<.001$)，「友人適応」(β=－.06, $p<.01$)が有意な回帰を示した（これら４つの尺度得点による決定係数(R^2=.55, $p<.001$)）。

以上の結果から，抑鬱傾向が強い生徒ほど現実逃避傾向尺度得点が高く，学校生活に対する総合的な適応感覚や友人適応が良好な生徒や，自分自身の将来に対する肯定的で積極的なイメージが良好な生徒は現実逃避傾向尺度得点が低く，中学生や高校生の現実逃避傾向を測定する尺度として一定程度の妥当性が示された。今後は尺度の安定性などについても確認していきたい。

【現実逃避傾向尺度（8 項目）の内容】

v1　現実の生活から逃げ出したい。
v2　現実生活から切り離された「空想の世界」が好きだ。
v3　自分とは異なる人間になって生活したい。
v4　明日のことは考えたくない。
v5　自分の将来に不安を感じる。
v6　学校での人間関係が煩わしい。
v7　日常生活の中で，忘れてしまいたいことが多い。
v8　（逆転）現実から目をそらさない。

■本研究は，日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)課題番号 21K03036）によるものである。

（みしま　こうじ）

いじめ容認態度を測定する尺度の因子不変性の検討

○堀　孝司[1]　福井義一[2]
([1]甲南大学大学院人文科学研究科　[2]甲南大学文学部)

キーワード：いじめ，いじめ容認態度，因子不変性

【目的】

いじめは，最悪の場合には，被害者を自死に追いやる（例，朝日新聞, 1986; 文春オンライン, 2021）ほどの甚大な精神的ダメージを与えかねないため，早急に解決すべき問題である。

いじめを深刻化させたり，解決を遠ざけたりする一因に，いじめを容認する言説が社会的に共有されていること（八ッ塚, 2020）が挙げられる。いじめにおいて，子どもは親や教師など，周囲の大人から影響を受けて，被害者を非難するようになる例が報告されている（福井・小山, 2015）。そのため，いじめを容認する大人が周囲にいるせいで，子どもの側のいじめ容認態度を修正する介入の効果が薄まってしまう可能性がある。そのため，いじめの当事者である子どもだけではなく，むしろ周囲の大人のこうした態度を改善することが，いじめの解決に不可欠であると考えられる。

いじめ容認態度を測定するために，5 つの下位尺度（いじめ軽視，いじめ撲滅行動，いじめ必要論，いじめ不可避，いじめ絶対悪）からなるいじめ容認態度尺度（神藤・齊藤, 2001）が開発された。しかしながら，本尺度は，中学生向けに開発されたものであり，一般成人への適用可能性は未検討であった。また，本尺度には，内的整合性が低い下位尺度や態度にはそぐわない名前の下位尺度が含まれており，その信頼性や因子的妥当性に疑問が残った。そこで，堀他（2022）は，一般成人を対象に本尺度の信頼性と因子的妥当性を再検討し，抽出された 3 因子解（いじめ軽視，いじめ受容，いじめ被害者擁護）が，原版（神藤・齊藤, 2001）の 5 因子解よりも高い信頼性と因子的妥当性を有することから，一般成人にも適用可能であることを示した。

ただし，いじめの被害・加害経験がある者とない者の間では，いじめ容認態度の概念構造に違いがある可能性も否めない。また，いじめ容認態度の得点は，男子の方が高い（佐久間他, 2021）ことから，性別においても同じことが言える。

そこで，本研究では，堀他（2022）のデータを用いて，いじめ被害・加害経験の有無や性別で，いじめ容認態度尺度（神藤・齊藤, 2001）の因子不変性を検討することを目的とした。

【方法】

協力者：一般成人を対象とした 2 つの異なる調査から得られた計 598 名（女性 298 名）のデータを使用した。平均年齢は 40.91 歳（SD = 9.25）であった。データには，堀他（2020, 2022）や Hori et al.（2021）などと一部重複がある。

尺度構成：いじめ容認態度を，いじめ容認態度尺度（神藤・齊藤, 2001）で測定し，堀他（2022）に従い，上述した 3 つの下位尺度得点を得た。質問票には本研究では使用しない尺度も多く含まれていた。

手続き：クラウド・ソーシング・サービスを用いて，調査の趣旨や協力の任意性・匿名性などについて同意を得た後，Google フォームか Qualtrics を用いたオンライン調査と実験を実施した。なお，実験の結果は本研究では報告しない。

【結果】

まず，3 つの下位尺度得点を従属変数にした被害経験×加害経験×性別の 3 要因分散分析の結果，いじめ軽視については加害経験の主効果が，いじめ受容については加害経験と性別の主効果が，いじめ被害者擁護については性別の主効果と加害経験×性別の交互作用が，それぞれ有意または有意傾向であった。それぞれ，加害経験者や男性，加害経験のある男性において，いじめ容認態度の得点が高いことが分かった。

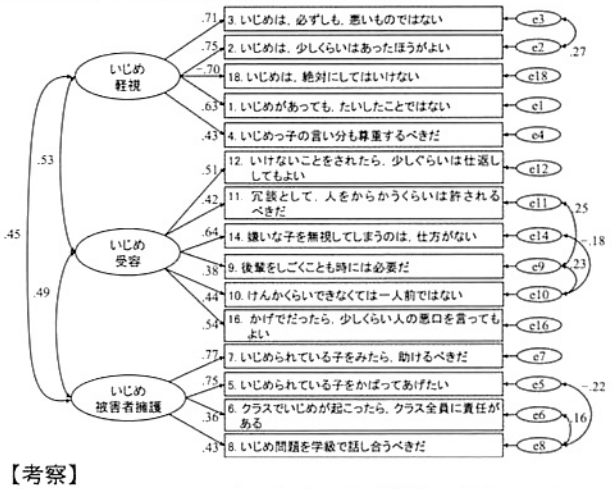
次に，堀他（2022）で得られた 3 因子解の因子不変性を検討するために，Vandenberg & Lance（2000）を参考に，被害・加害経験の有無別に多母集団同時分析を実施した結果，因子数や因子負荷量，切片，誤差分散の順に等値制約を課したいずれのモデルにおいても十分な適合度が得られた。

さらに，男女別に多母集団同時分析を実施した結果，因子数と因子負荷量に等値制約を課したモデルでは適合度は十分であったのに対して，切片に課したモデルでは不十分であった。これらの結果を Table 1 に，本研究で用いたいじめ容認態度尺度の 3 因子構造を Figure 1 に示した。

Table 1
被害・加害経験の有無別と男女別の多母集団同時分析の結果

	各モデル	χ^2	CFI	RMSEA	AIC
被害経験の有無	因子数	273.70	.946	.034	489.70
	因子負荷量	291.98	.943	.034	483.98
	切片	311.50	.941	.033	473.50
	誤差分散	335.38	.937	.033	467.38
加害経験の有無	因子数	316.25	.925	.040	532.25
	因子負荷量	339.70	.919	.040	531.70
	切片	360.54	.916	.039	522.54
	誤差分散	381.51	.913	.038	513.51
男女別	因子数	293.11	.934	.037	509.12
	因子負荷量	304.03	.934	.035	496.03
	切片	390.12	.898	.042	552.12

Figure 1
3 因子解のいじめ容認態度尺度の因子構造



【考察】

本研究から，いじめ容認態度尺度（神藤・齊藤, 2001）の 3 因子解は，一般成人において十分な因子不変性を有することが確認された。すなわち，いじめ被害・加害の経験者と未経験者間で，いじめ容認態度の概念構造が同一である可能性が示唆された。また，男女間でも，因子数と因子負荷量には差違が見られなかったことからも，本尺度は一般成人に対して十分な実用性を有すると言えよう。

【利益相反】

COI 関係にある企業等はない。

（ほり　たかし・ふくい　よしかず）

コロナワクチン接種が高カロリー食品への態度に及ぼす影響

大学生を対象とした調査

○井上裕珠[1]
([1]日本大学商学部)

キーワード：コロナワクチン・高カロリー食品への態度・配偶者獲得

【目的】

本研究の目的は、コロナウイルスのワクチン接種が高カロリー食品への態度に及ぼす影響を調整する要因を、女性における配偶者獲得戦略の観点から検討することであった。沼崎・井上(2017)および井上・沼崎(2017)では、進化心理学的観点に焦点を当て、厳しい環境におかれたときの心理メカニズムを基に、女性の高カロリー食品への選好/回避に影響を及ぼす調整変数(恋人の有無と BMI)について検討を試みた。その結果、恋人のいる女性参加者は、経済不況がプライムされると高カロリー食品を選好するようになり、BMI が低い人においては潜在速度において高カロリー食品を選好するようになることが示された。

本研究では、沼崎・井上(2017)および井上・沼崎(2017)を概念的に追試することを目的とした。コロナウイルス接種によって社会経済悪化の知覚に変化があるだろうと想定し、日本国民全体のコロナウイルスワクチン接種率が低かった時期(1 回目と 2 回目のワクチン接種前)と、接種率が高まった時期(1 回目と 2 回目のワクチン接種後)のそれぞれに調査を実施し、コロナウイルス接種が女性の高カロリー食品への態度に与える影響を検討した。本研究では、以下のような仮説を立て、事前登録を行ったうえで研究を実施した(https://doi.org/10.17605/OSF.IO/RA6NX)。

仮説①：日本国民全体のコロナウイルスワクチン接種率が低いとき(以下、接種前)よりも接種率が高いとき(以下、接種後)では、社会経済悪化の知覚が有意に低くなるだろう。

仮説②：幼少期 SES が低い女性参加者は、幼少期 SES が高い女性参加者と比較して、接種後のほうが接種前よりも、高カロリー食品への選好が高まるだろう。

仮説③：恋人がいる女性参加者は、接種前のほうが接種後よりも高カロリー食品への選好が高まるだろうが、恋人がいない参加者では、接種前のほうが接種後よりも、高カロリー食品への回避が生じるだろう。

仮説④：BMI が低い女性参加者は、接種前のほうが接種後よりも高カロリー食品への選好が高まるだろうが、BMI が高い女性参加者では、接種前のほうが接種後よりも、高カロリー食品への回避が生じるだろう。

【方法】

実験参加者　大学生 146 名(男性 66 名、女性 79 名、不明 1 名、平均年齢 19.76 歳)に対して、1 回目の調査を 2021 年 7 月中旬に実施し、2 回目の調査を 2022 年 1 月中旬に実施した。1 回目の調査におけるコロナウイルスワクチンの接種率は 11.64%(17 名: 1 回目接種 16 名、2 回目接種 1 名)であったが、2 回目の調査におけるワクチン接種率は 96.58%(全員 2 回目接種)であった。女性のみを分析対象とした。

実験計画　2 要因の混合計画(測定時期:被験者内要因; 恋人の有無および個人差変数(幼少期 SES・BMI):被験者間要因)

測定項目

高カロリー食品に対する態度：高カロリー食品への選好／回避傾向を測定するために顕在測度と潜在測度の 2 通りを用いて、ワクチン接種前後の両方で測定した。顕在測度では、低カロリー(例：サラダ、日本茶)および高カロリー(例：ステーキ、サイダー)の食べ物および飲み物のカラー写真を見せて、今現在どの程度食べたい/飲みたいかを 7 件法で回答させた。低カロリー食飲料の食べたい飲みたい程度から高カロリー食飲料の値を引いた値を標準化し、高カロリー回避の指標とした。潜在測度は、IAT にて測定した。値が大きいほどに高カロリー回避となるように D スコア(Greenwald, Nosek, & Banaji, 2003)を算出した。

恋人の有無：異性の恋人の有無を、ワクチン接種前後の両方で尋ねた。ワクチン接種前後の両方において恋人がいる人(11 名)および恋人がいない人(68 名)を分析対象とした。

BMI：身長と体重を、ワクチン接種前後に尋ねた。BMI を算出し、ワクチン接種前後の平均値を BMI の指標とした。前後の BMI の平均値は、M=19.61, SD=1.74(N=60)であった。

生活史戦略：幼少期 SES (Griskevicius, et al., 2011)をワクチン接種前時点においてのみ測定した。

経済悪化への知覚の程度：ワクチン接種前後の両方で経済悪化の知覚の程度を測定する 8 項目に回答してもらい、合算平均値を算出しそれぞれ経済悪化知覚の指標とした。

手続き　オンラインにおいて、1 回目の調査を 2021 年 7 月中旬に、2 回目の調査を 2022 年 1 月中旬に実施した。

【結果と考察】

事前登録に沿って 4 つの仮説それぞれについて検証した。

①接種前と接種後の社会経済悪化の知覚の程度を比較したところ、接種後(M=4.83, SD=1.15)のほうが接種前(M=4.53, SD=1.21)よりも社会経済悪化の知覚の程度が高くなっており(t(78)=3.52, p=.001, d=0.25)、仮説は支持されなかった。

②顕在測度においては、幼少期 SES、接種時期の主効果および交互作用効果のいずれも有意ではなかった(Fs(1, 77)<2.05, ps>.156, η^2s<.027)。潜在測度においても、幼少期 SES、接種時期の主効果および交互作用効果のいずれも有意ではなかった(Fs(1, 75)<2.19, ps>.143, η^2s<.028)。したがって、仮説は支持されなかった。

③顕在測度においては、恋人の有無、接種時期の主効果および交互作用効果のいずれも有意ではなかった(Fs(1, 77)<1.74, ps>.191, η^2s<.023)。潜在測度においても、恋人の有無、接種時期の主効果および交互作用効果のいずれも有意ではなかった(Fs(1, 75)<2.54, ps>.064, η^2s<.045)。したがって、仮説は支持されなかった。

④顕在測度においては、BMI の主効果のみ有意であり(F(1, 58)=4.49, p=.038, η^2=.072)、BMI が高い人のほうが低い人よりも、高カロリー食品を回避していた。接種時期の主効果および交互作用効果は有意ではなかった(Fs(1, 58)<1.34, ps>.252, η^2s<.023)。潜在測度においては、BMI と接種時期の交互作用効果のみ有意であり(F(1, 56)=6.46, p=.014, η^2=.103)、下位検定の結果、BMI が低い人においてのみ、接種前よりも接種後において高カロリー選好が強まっており(t(56)=2.76, p=.008, d=.659; Fig.1 参照)、仮説を支持する結果が得られた。他方で、BMI が高い人においては接種時期に差は見られなかった(t(56)=0.83, p=.408, d=.147)。

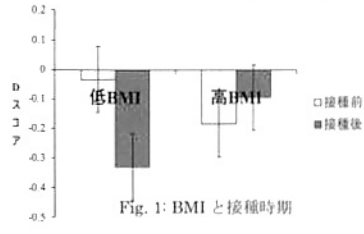


Fig. 1: BMI と接種時期

一部仮説が支持されたものの、事前登録に沿ったデータ分析においてはおおよそ仮説を支持する結果が得られなかった。学会当日には探索的な分析結果も合わせて報告する。

【主な引用文献】◆沼崎誠・井上裕珠（2017） 経済悪化情報が高カロリー食品への潜在的/顕在的な選好/回避に及ぼす効果(1) 日本社会心理学会第 58 回大会発表論文集 p.261◆ 井上裕珠・沼崎誠（2017） 経済悪化情報が高カロリー食品への潜在的/顕在的な選好/回避に及ぼす効果(2) 日本社会心理学会第 58 回大会発表論文集 p.262

(いのうえゆみ)

英国保育施設管理職のマネジメントの特徴
就業継続支援の観点から

○山本　睦
（常葉大学保育学部）

キーワード：保育者　就業継続支援　雇用慣行

【目的】日本の保育者不足は相変わらず解消されないが，Covid-19 への対応として，3 回の全国的ロックダウンを行った英国では，通常に戻った現状でも保育者不足と保育者の高い流動性が問題となっている。Holdgate（2021）によれば，就学前施設で働く職員の 71%は，2020 年 3 月から 8 月まで一時休職になった。また，一部の就学前施設では財政的圧力から，Covid-19 による各種規制が撤廃されてからも再開できない状況があった。こうしたことから，NDNA(National Day Nurseries Association)などの保育労働力に関する年次レポートも 2019 年以降途絶えてしまっている。

筆者は，英国での入国規制が撤廃された直後の 2022 年 6 月と 11 月に渡英し，外部の大人の施設内立ち入りの規制が残るなか，就学前施設の管理職と保育者を対象にインタビュー調査を実施した。筆者は 2016 から 2019 年に保育職の再就職に関して日英比較調査を行い，インタビュー調査の結果から，英国には「パートタイムだけど正規職員」という雇用形態がほとんどの保育者に採用されていることを報告している（山本,2020）。

本研究の目的は，英国の就学前施設での人材マネジメント上の特徴や日本の保育現場に見られない工夫を抽出することである。今回の分析では，2022 年 6 月に調査協力いただいた 4 施設 5 名の管理職のインタビューデータを対象とする。6 月のデータに限定したのは，日本の保育指針や教育要領に該当する Statutory framework for the early years foundation stage（乳幼児期基礎段階法定枠組；土井，2016）の改訂があり，2021 年 9 月から施行されることになっていたが，コロナ規制撤廃後の再開の混乱のなか，現実的には各施設の改訂を反映した保育実施体制は，2022 年の夏休みに準備され，2022 年 9 月からの新年度から開始された。筆者の 2 度の渡英には，改訂前の施設運営再開の混乱期と改訂実施後の時期が含まれており，新設や増設が相次ぐなど雇用の事情も変化しているので，今回は 6 月のデータを対象とした。

【方法】　就学前 5 施設を訪問し，管理職 5 名にインタビューを実施した。施設種，役職名，園の規模を表す在籍園児数，常勤保育者数，過去 3 年間の退職者数は，Table に掲載している。英国では在籍園児の姿を撮影することや長時間の接触は禁じられているため，全てスタッフ・ルームかマネージャー・ルームで倫理上の手続きを実施した後，1 対 1 の対面で実施した。

質問内容は，上記施設情報以外に，ペア・システム（分業によるワークシェアリング）や The Key と呼ばれる子どもの担当制の役割と協働について，また職員配置や役割分担を決定する際の方法や優先事項など，半構造化面接で回答を収集，IC レコーダに記録した。

分析は MAXQDA2022 を用いて，解答の内容に基づき分類し，コーディングを実施，本研究ではコードマトリックスにより回答数の多かった「保育者の管理」のなかの「保育者の雇用ルール，工夫」と「保育者の配置方法」に関する記述を分析対象とした。

【結果と考察】抽出したコード付きの回答を，教育省の規定や管理職の判断による「管理職主導」，利用者の家庭の事情や希望条件が優先される「被雇用者の条件への対応」，在籍園児数の変化や加配が必要な子どもの数などに基づく対応として「状況依存」，また 2014 年以降の就学前施設職員の資格の高次化に伴う支援として勤務時間調整が行われるケースについては「キャリアアップ支援」として分類した。その結果が Table.1 である。

Table.1「雇用ルール」と「配置」に関する回答の分類

回答者No.	1	3	4	5	2
施設種	Kindergarten (野外保育)	Nursery	Nursery school Montessori	Nursery	Nursery
役職名	The owner	Senior manager	the manager and the SENCo	the nursery manager/Co-manager	Lead Practioner
在籍園児数	15	125	57	120	120
常勤保育者数	7	95	12	24	24
退職者数	1	35	2	4	4
退職率	14.30%	36.80%	16.67%	16.67%	16.67%
「雇用ルール」					
管理職主導	3	3	6	0	0
被雇用者の条件への対応	3	2	2	1	0
キャリアアップ支援				1	
管理職主導率	50.00%	60.00%	75.00%	0%	
「配置」					
管理職主導	3	0	2	5	0
被雇用者の条件への対応	2	2	2	3	0
（園児の）状況依存	4	0	0	1	0
管理職主導率	33.33%	0%	50.00%	55.56%	

「雇用ルール」「配置」に関して回答が無かった 2 の回答者は，役職が “Lead Practioner”であったため，採用人事や配置に関係していなかった。3 と 5 の回答はどちらも大規模園であるが，退職者数が 35 名と 4 名と大きな違いが見られた。保育者 1 人が見る子どもの比率は 1.32 と 5.00 と違い，5 の施設の方が保育者の負担は大きい。回答の分類から，5 の施設は，「雇用ルール」においては被雇用者の条件が優先されていることが分かる。逆に 2 の施設では，「配置」において被雇用者の条件が優先されている。このことから，採用時の契約や募集内容がフレクシブルであることが，就業継続につながると考えられる。5 の施設では，「朝 7:30 から夕方 6：00 であればいつでも契約可能」との発言もあり，日本の募集は「週 4 日以上」や「早番時間帯」「遅番時間帯」と限定している状況と比較すると，就職の間口が広くなっている。就職後の「配置」は，資格のレベルによる法規制がされていることもあり，フレクシブルであることが必ずしも就業継続に結びつかない可能性がある。

【引用文献】

Department for Education(英国教育省)（2021）Statutory framework for the early years foundation stage；Setting the standards for learning, development and care for children from birth to five. Published: 31 March 2021, Effective: 1 September 2021.

土井貴子（2016）イギリスの幼児教育カリキュラムと質保証. *和洋要語*,44,19-25.

Holdgate, H.（2021）イギリスの幼児施設における Covid-19 のリスク・マネジメント. 山本睦　*保育・教育の評価とマネジメント*. ナカニシヤ出版. Pp92-103.

山本睦（2020）保育職の再就職に関する阻害要因とキャリア再形成支援に関する研究. *平成 28-31 年度科学研究費助成事業フィードバック報告書*.

（やまもと　ちか）

インクルーシブ職場環境評価の枠組み作成の試み

－インクルージョン・マネージメント成熟度の事例検討－

○渡辺めぐみ[1]　伊東昌子[2]　岡田麗子[3]（非会員）

（[1]常磐大学大学院人間科学研究科　[2]成城大学経済研究所[3] 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構）

キーワード：インクルージョン・マネージメント成熟度，知的障害のない発達障害者，職場環境評価

【背景・目的】障害者雇用は，法定雇用率の上昇のみの理由に留まらず，いわゆるSDGｓなどの多様性やインクルージョンなどの社会的要請などと相まって，今後も伸び続けることが予想される。一方，障害者職業総合センター(2017）によれば，知的障害のない発達障害者の就職後定着率は，就労後１年時点で71.5%に低下する。障害者が職場での定着・活躍するためには，雇用目的と事業所が与える業務・職種，および働く人の志向性，提供可能な人事諸制度の間に相互に整合性が必要なことが指摘され始めている(パーソルチャレンジ,2021)。

伊東・渡辺(2023)は，発達障害者が職場に定着には，事業所，従業員，支援機関の三者を取り巻く社会的環境の整備が重要であるとの仮説を立てた。そして事業所組織のインクルージョン環境整備の観点から，発達障害者の継続的就労に成功している５つの事業所の好事例分析をおこなった結果，経営層がコミットメントを示すインクルージョン・マネジメントによる個別配慮型が認められた。一方、大規模調査に基づく配慮の観点からは、対極的な合理的配慮主導の法令順守型が認められた。我々は対極的な配慮マネジメントモデルに基づき、それらを事業所組織が障害者を対象としたインクルージョン・マネジメントへの学びの成熟度水準として捉え、以下に示す５段階の仮説的成熟度水準を設定した。最も成熟したレベル４は，組織的に障害者への対応を始めとして、限定的働き方の従業員に対するインクルージョン・マネジメントが浸透して、成果を上げている段階である。レベル３では，経営側,人事本部側，職場側，外部機関の連携構築段階で，障害者雇用に対する明確で育成的な経営方針があり,その方針に即して人事本部,外部専門機関,職場の連携を模索し,経験を蓄積され，障害者のキャリアアップも認められる。レベル２では職場における属人的対応段階。障害者雇用の対応は職場に任されており，人事側からの支援的取り組みはない。外部専門機関との連携がない。配慮は対処療法的配慮にとどまる。レベル１では，雇用のための活動・知識探索段階，レベル０では，障害者雇用に無関心あるいは後ろ向きな段階である。

本研究では，事業所の障害者雇用を支援する機関職員に対するインタビューを通じて，レベル０から４の各成熟度段階でみられる困った事例や成功事例を収集･分析することを目的とする。事例データ分析を通じて，事業所，従業員，支援機関の三者が共有できる労働環境のインクルージョン成熟度の評価方法，環境整備のための外的な準拠枠の作成や，企業の研修教育などへの貢献をめざす。

尚，本研究は，常磐大学倫理委員会の承認を受けて実施し（承認番号 100120），利益相反に該当する事項はない。

【方法】インタビュー対象者：事前に，A県内６施設12名の地域の就労施設支援者に対して，知的障害のない発達障害者就労に関わる事業所への支援に関するアンケートを実施した。その結果，地域の障害者就労支援施設では，障害者本人への支援が中心であること，事業所への支援を通じて事業所の障害者雇用問題に関する知識の集積があるのは，地域の障害者職業支援センターの支援員であることが，明らかになった。そこでA県の地域障害者支援センター職員A氏に協力を得て，インタビュー調査を実施した。

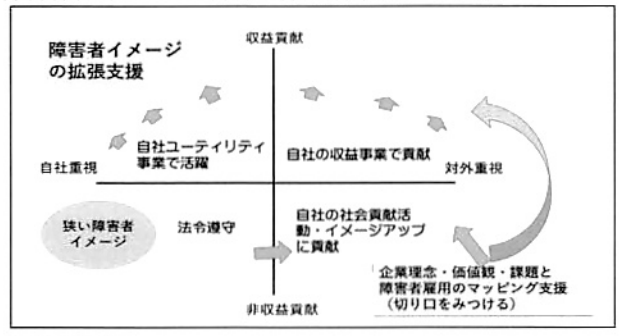
インタビュー時間と内容：インタビューは2023年３月と５月に90分ずつ実施した。インクルージョン成熟度の仮説的５段階をAに示し，各段階に生じる問題，ステップアップの障壁・対処についての事例をうかがった。

【結果】1)レベル２のトラブルを成熟度レベル３にアップして解決した事例;『小売業のある店舗で部門ごとに成果を競わせている。人件費は店舗持ちで，店舗の売り上げ成績は店長の評価，純利益にかかわる。ある店舗と部門に障害者が配属されると，そこだけ成績が落ちて，部門や店舗間で障害者の押し付け合いがおき，人間関係がギスギスする。対策として障害者雇用の人件費は人事部が持ち，部門ごとには，正規メンバー＋１という形で，他の部門と健常者人数を公平に配属した。障害者の受け入れ抵抗が減り，インクルージョン気運が向上した。』

2）レベル０から１を目指すための支援事例;『まず，①会社・人事担当の持っている障害者のイメージを探る。a 障害者に関する具体的知識が少ないのか，b 全面否定なのか，を見極める。aなら知識・情報を伝えて次のステップに進む。bの場合，次に②事業所の持っている価値観・関心・課題，改善したいこと（人手不足など）を把握して，障害者雇用に取り組む切り口を探す。③同じ業種，同じ人数規模で取り組んでいるところを示し，やれない，理由をなくしていく。④ユニバーサルな支援の観点を示す。障害者に働きやすい環境・制度の整備は多様な人材に働きやすい環境であることを示す。』

【考察】事例１）では，レベル２での現場トラブルは人事部門の支援的介入、すなわちレベル３の環境整備によって解決できることが示された。事例２）のレベル０を１に引き上げるためには，障害者雇用の目的を事業所全体の活動と整合性をとって管理部門を動かす施策の有効性が示唆された。成熟度レベルのアップのためには,経営陣が障害者雇用にコミットして現場の問題を解決する具体的な施策を実施する必要があることを示している。

Figure1
障害者雇用の４つの目的と管理部門を動かす支援



【引用文献】

伊東昌子・渡辺めぐみ（2023）.発達障害者の継続的就労とキャリア形成－個の組織社会化から組織のインクルージョン戦略へ，成城大学経済研究所研究報告，No.96，1-30.

パーソルチャレンジ編著(2021).経営視点×フレームワークで考えるこれからの障害者採用とマネジメント,good.book

（わたなべめぐみ・いとうまさこ・おかだれいこ）

肉を擬人化すると食べたくなくなるのか？

○青山朋実・安藤将太・尾山凜・佐藤聖也・井上裕珠
（日本大学商学部）

キーワード：擬人化・肉・罪悪感

【目的】

近年、欧米を中心として肉食を控える潮流がある。英国のヴィーガン人口は19年時点で60万人おり、4年間で4倍に増えているという(日本経済新聞, 2022)。また、完全な菜食主義ではないが肉食を減らすフレキシタリアンも増えてきており、英調査会社の21年の調査結果では、ドイツとフランスの消費者の5割が肉を食べる量を減らしているという(日本経済新聞, 2022)。このような肉食を控えるという潮流の背景には、畜産業が多くの温暖化ガスを排出することへの環境上の関心、より健康的な食事を目指すという健康的関心、動物食肉への倫理的な関心が存在するという(朝日新聞, 2019)。本研究では、これらの要素の中の「倫理」的関心に焦点を当て、動物食肉に対する罪悪感が肉料理への態度に及ぼす影響を検討する。具体的には、肉の擬人化をすることによって罪悪感が高まり、罪悪感を正当化するために健康的な肉料理を食べたくなることを検討したKim & Yoon (2021)を、日本人を対象に追試することを目的とする。Kim & Yoon (2021)によると、肉を擬人化し、それによって罪悪感が生じると、罪悪感を軽減するために、「肉食は必要である」という信念に基づく正当化を行い、美味しい肉料理よりも、健康上の利点のある肉料理を選択するようになるという。彼らは、有能さと温かさという対人判断における2つの軸(Fiske, Cuddy & Glick, 2007)に焦点を当てた擬人化の効果を検討しており、温かさに焦点を当てた擬人化を行うと、有能さに焦点を当てた擬人化を行うときと比較して、肉食の消費者は、動物を保護すべき対象であると感じやすくなるため、害を与えることに対して罪悪感を抱きやすくなるという。

Kim & Yoon (2021)を、日本人を対象として追試を実施する理由は2点存在する。1点は、日本人の持つ食材への感謝の気持ちである。日本人は、食事を始める前に「いただきます」と挨拶をするが、「『いただく』というのは、米や野菜、魚、肉などすべての食材には命があると考え、その命をいただくことで、自分が生かされていることに感謝する言葉(永山, 2021)」である。欧米では、食事に対しての挨拶よりも目の前で食事している相手とのコミュニケーションに重点を置くことが多いのに対し、日本では命を分け与えてくれた食材への意識が強いという(朝日新聞, 2022)。食事における食材への感謝の気持ちがより強いと考えられる日本人においては、食肉を擬人化したときには罪悪感よりも感謝の気持ちが生じやすい可能性がある。その可能性を検証するためにKim & Yoon (2021)を日本人対象に追試する。また、2点目として、日本におけるヴィーガンやフレキシタリアンなどの肉食回避者が欧米と比較して少ないことが挙げられる。Vegewelおよび運営会社フレンバシーによる20代以上の男女2,418人を対象とした調査では、ベジタリアンもしくはヴィーガンは全体の5.9%(昨年比+0.8ポイント)、週に1回以上動物性食品を減らすフレキシタリアンは全体の19.9%(昨年比＋3.1%)であったという(Vegewel, 2023)。このように毎年少しずつ割合が増えているものの、全体として肉食を回避する機運は高くない。この理由として、「もともと多様な食品からたんぱく質を摂取し、肉への依存度が欧米に比べて高くないこともあり、消費者自身の健康に資するかどうかと製品のおいしさが、日本での代替肉普及の鍵だという見方(朝日新聞, 2020)」があるという。このような肉食回避者の少ない日本においてKim & Yoon (2021)を追試することによって、生態学的妥当性を検証する。

【方法】

以下の方法にて心理学実験を実施予定であり、学会当日に結果および考察も含めて発表する。

実験参加者　大学生約300名を参加者とする予定である。

実験計画　3(擬人化条件:有能さ・温かさ・なし)×2(料理の表記条件：美味しい・健康的)の2要因参加者間計画。

従属変数　肉料理の説明を見て、肉料理を食べたいと思う程度と、料理に対して支払いたいと思う最大の金額の2つの項目について回答を求める。

手続き　Kim & Yoon (2021)の研究2の手続きに沿って心理学実験をオンラインで実施する。実験参加者は、ランダムに3(擬人化条件:有能さ・温かさ・なし)×2(料理の表記条件：美味しい・健康的)の6条件のいずれかに割り振られる。擬人化条件の操作において、参加者は豚について次のいずれかの情報を提示される。温かさ擬人化条件では、人間に近い社会性や親しみやすさがあるという情報、有能さ擬人化条件では、人間に近い学習有能さや探究心があるという情報、非擬人化条件では、鼻などの身体的特徴に関する情報を読んでもらう。その後、参加者はレストランを訪れてシェフのおすすめである鶏肉のグリルが提供される様子を想像する。このとき、鶏肉のグリルを健康的または美味しいと表現することで、料理の表記条件を操作する。その後、罪悪感および感謝に関する項目に回答を求め、最後に参加者は、鶏肉のグリルを食べたいと思う程度を7件法で、支払最大額を0円から2000円の範囲で回答する。後日授業内にてディブリーフィングを実施する。

【結果と考察】学会の当日に発表を行う。

【引用文献】

◆朝日新聞 (2019).「(経済気象台) 疑似肉は食文化を変えるか」　2019年11月28日朝刊　◆朝日新聞(2020).「(be report)増える代替肉　大豆たんぱくからハムやカツ」2020年10月24日朝刊. ◆朝日新聞 GLOBE (2022).「「肉食」の見直し進むドイツ　背景に環境問題や動物愛護「命をいただく」日本との違い」(https://globe.asahi.com/article/1474740 2023年6月2日アクセス). ◆Fiske, S. T., Cuddy, A. J., & Glick, P. (2007). Universal dimensions of social cognition: Warmth and competence. *Trends in Cognitive Sciences,* 11(2), 77-83. ◆Kim, D. J., & Yoon, S. (2021). Guilt of the meat-eating consumer: When animal anthropomorphism leads to healthy meat dish choices. *Journal of Consumer Psychology*, *31*(4), 665-683. ◆永山久夫 (2019).「「いただきます」に該当する外国語はない：食材に感謝するのは日本特有の概念」. プレジデントオンライン(https://president.jp/articles/-/28686?page=1　2022年6月4日アクセス). ◆日本経済新聞 (2022).「ビーガン食、欧州で競争　肉を控える潮流　大手参入　ネスレ、植物由来の卵を開発／ユニリーバ、代替肉を成長事業に」2022年5月7日朝刊. ◆Vegewel(2023).「【23年1月】日本のベジタリアン・ヴィーガン・フレキシタリアン人口調査」(https://vegewel.com/ja/style/statistics3 2023年6月4日アクセス).

(あおやまともみ・あんどうしょうた・おやまりん・さとうせいや・いのうえゆみ)

みんなで食べると太りにくい？

食べ物のシェアが太りやすさの判断に及ぼす影響

○石井文也・下薗仁也・寺倉麻結奈・山岡咲喜・井上裕珠
（日本大学商学部）

キーワード：カロリー・太るという認識・共有

【目的】

コロナ禍に減少したものの一つが、他者と食事を共にすることであろう。単身者において特に一人で食事をする「孤食」が増えたことにより、食事バランスの偏りによる低栄養や抑うつが社会問題となっていた(日本経済新聞, 2022)。コロナウイルスによるさまざまな規制が解除されたことにより、再び他者と食事を共にする「共食」が増えてきたが、「共食」は私たちの食行動にどのような影響を及ぼすのだろうか。「共食」とは、友人や親せきなど他の人と一緒に食事をすることを指す(農林水産省, 2019)。共食をすることによって主観的な健康度合いが高まったり、健康的な食生活が増えたり、規則正しい食生活につながったり、生活リズムが整ったりと、私たちの心身の健康にポジティブな効果をもたらすことが知られている(農林水産省, 2019)。

本研究では、この「共食」の中でも、ピザや鍋料理のように友人や家族で同じ料理を分け合うフードシェアリングに注目する。家族や友人等でシェアすることを前提とした商品は多く発売されている。たとえば2019年12月には、人が集まる機会の増える年末年始に向けてセブンイレブンの人気スイーツがシェアサイズにて販売されたり(日経速報ニュースアーカイブ, 2019)、2022年3月には、ケンタッキーが家族や友人とのイベントに向けて「シェアBOX」を販売したりしている(日本KFCホールディング株式会社, 2022)。より最近では、サーティーワンから2023年5月に、3人分から12人分までの大容量のシェアサイズアイスが発売されている。このように、家族や友人とシェアするために販売されている商品は数多く存在するが、食べ物を他者と共有することによってどのような食行動が導かれるのだろうか。この疑問に答えるために、本研究では、他者と食べ物をシェアすることによって太りにくいと感じるために多く食べてしまう可能性を示したTaylor & Noseworthy(2021)を、日本人を対象とした追試することとした。

Taylor & Noseworthy(2021)では3つの研究によって、食品の共有がカロリー推定と太りやすさの判断にどのような影響を与えるかを検討した。その結果、研究1では、食べ物を他者と共有することによって、太りにくく感じられることが示された。研究2では、食べ物のカロリー情報を参加者に明示したが、健康な食品と不健康な食品のどちらにおいても研究1の結果が再現された。また、この効果は所有感の知覚によって媒介されることが示されており、他者と食べ物を共有することで、自分のものであるという所有感が低下し、それによって太りにくいと判断されやすくなることが示唆された。つづく研究3では、食べ物の共有によって太りにくいと判断されると、余分なカロリー摂取をしやすくなることが示された。本研究では、Taylor & Noseworthy(2021)を、日本人を対象として追試することによって、Taylor & Noseworthy(2021)の生態学的妥当性を検証する。

【方法】

以下の方法にて心理学実験を実施予定であり、学会当日に結果および考察も含めて発表する。

実験参加者　大学生約300名を参加者とする予定である。

実験計画　1要因3水準(条件：共有・非共有・統制)の参加者間計画で心理学実験を実施する。

従属変数　フライドポテト10個についてどの程度太りやすいと感じるのかを9件法(1:全く太らないと思う-9: 非常に太ると思う)で回答を求める。

手続き　Taylor & Noseworthy(2021)の研究1の手続きに沿って心理学実験をオンラインで実施する。参加者は、3つの条件(共有 vs. 非共有 vs. 統制)のいずれかにランダムに割り当てられる。共有条件と非共有条件の参加者には、画像を見ながら、友人とランチをすることを想像してもらう。画像はテーブルを上から見た写真で構成され、共有条件ではテーブルの中央にフライドポテトが置かれ、向かい合った2つの席が描かれる(Fig.1)。他方で、非共有条件の参加者には、同じ量のフライドポテトが入った2つの皿が座席の前に置かれている画像を提示する(Fig.2)。統制条件の参加者には、座席中央にフライドポテトが置かれ、自分の席のみが用意された画像を提示しながら(Fig.3)、一人でランチをするところを想像するように伝える。その後、参加者全員にフライドポテトを10個食べるという場面を想像してもらう。その後、フライドポテトの推定カロリー値や、知覚される所有感、従属変数に回答を求め、実験を終了する。後日授業内にてディブリーフィングを実施する。



Fig.1
共有条件で提示する画像
(Taylor & Noseworthy(2021)より引用)



Fig.2
非共有条件で提示する画像
(Taylor & Noseworthy(2021)より引用)



Fig.3
統制条件で提示する画像
(Taylor & Noseworthy(2021)より引用)

【結果と考察】学会の当日に発表を行う。

【引用文献】

◆日経速報ニュースアーカイブ(2019).「セブン‐イレブン、「期間限定！スペシャルバスクチーズケーキ」などスペシャルシェアスイーツ 4品を年末年始限定で発売」2019年12月26日日経速報ニュースアーカイブ. ◆日経速報ニュースアーカイブ(2023).「サーティワン、「フレッシュパック」3サイズを通年販売し「ハピネスボックス」を数量限定販売」2023年5月8日日経速報ニュースアーカイブ. ◆日本経済新聞(2022).「ReConnect つながり再び(5)遠隔ランチでさらば「孤食」――弾む会話、低栄養防ぐ(終)」 2022年1月16日日本経済新聞朝刊. ◆日本KFCホールディング株式会社(2022). ニュースリリース(https://japan.kfc.co.jp/news_release/3785 2023年6月5日アクセス) 2022年2月28日. ◆農林水産省(2019).「「食育」ってどんないいことがあるの？～エビデンス（根拠）に基づいて分かったこと～統合版」(https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/evidence/togo/html/index.html 2022年6月4日アクセス). ◆Taylor, N., & Noseworthy, T. J. (2021). Your fries are less fattening than mine: How food sharing biases fattening judgments without biasing caloric estimates. *Journal of Consumer Psychology, 31*(4), 773-783.

(いしいふみや・しもぞのじんや・てらくらまゆな・やまおかさき・いのうえゆみ)

人権問題意識が差別への態度に及ぼす影響の検討

岡本ひなこ
（立正大学大学院　心理学研究科）
キーワード：人権意識，差別意識，人権学習

【目的】　2006年の国連人権理事会の創設に伴い，2007年にUPR (Universal Periodic Review) 制度が具体化され，2008年から国連加盟国の人権状況の審査が約4年半のサイクルで実施されている。外務省（2023）によると，日本は2008年以降4回の審査を受けており，中には人権についての啓発や教育の努力継続の勧告も含まれている。文部科学省(2008) は，人権教育における人権に関する知的理解と人権感覚の成長を通して，人権を守ろうとする意識の向上を目指している。本研究では，人権問題意識，差別への態度，人権学習経験がそれぞれに与える影響について検討する。

【方法】　本調査はオンラインを利用した質問紙調査により実施した。本研究は，日本応用心理学会倫理綱領を満たす形で実施された。

調査手続きと実施時期　本調査は，クラウドワークスのユーザー185名（男性94名，女性90名,その他1名，平均年齢42.3歳）および立正大学の学生38名（男性15名，女性22名，その他1名，平均年齢19.8歳）を対象に，Microsoft Formsを通じて調査票を配布した。調査実施期間は2022年10月である。

調査項目　回答者の年齢と性別のほか，個別の人権侵害事例について問題と感じる程度を尋ねる人権問題意識13項目（「問題あり」4点～「問題なし」1点），外国人・同性愛者・女性への差別事例の対応について同意する程度を尋ねる差別への態度21項目（「そう思う」4点～「そう思わない」1点）を設定した。また，人権学習経験については6項目を示し，当てはまるものすべてに○をつけるよう求めた。これら調査項目は，人権問題に関する都民意識調査（大阪府, 2012）と人権に関する都民の意識調査（東京都，2021）をもとに作成した。

【結果】

尺度の構成　人権問題意識13項目の回答について，因子分析（主因子法，プロマック回転，N= 223）を行った。固有値の変化から3因子を抽出し，第1因子は因子負荷量の高い項目の内容から"排除問題意識"と命名した（寄与率 = 26.24）。因子負荷量の高かった6項目の得点の平均を尺度得点とした（α = 0.73）。第2因子は信頼性が十分でなかったため使用しなかった。第3因子は項目数が2項目と少なかったため使用しなかった。

差別に対する態度21項目の回答について，因子分析（主因子法，プロマックス回転，N= 117）を行った。固有値の変化から2因子を抽出し，第1因子は因子負荷量の高い項目の内容から"被差別者支援"と命名した（寄与率 =23.68）。因子負荷量の高かった12項目の得点の平均を尺度得点とした（α =0.89）。第2因子は，因子負荷量の高い項目の内容から"被差別者責任"と命名し（寄与率 =9.50），9項目の得点の平均を尺度得点とした（α =0.76）。

人権問題意識，差別への態度の関連　「排除問題意識」，「被差別者支援」「被差別者責任」の相関係数を算出した。その結果，排除問題意識は被差別者支援，および被差別者責任と有意な相関を示した。被差別者支援と被差別者責任の間には有意な負の相関がみられた(表1)。

表1 人権問題意識と差別への態度の関連（N）

	排除問題意識	被差別者支援	被差別者責任
排除問題意識		(223)	(117)
被差別者支援	.372**		(117)
被差別者責任	-.343**	-.274**	

** $p < .01$

人権学習経験との関連　「人権学習経験」について○をつけた数を得点とし，「排除問題意識」「被差別者支援」「被差別者責任」との相関係数を算出した。その結果，人権学習経験と排除問題意識に有意な相関はみられなかった。また，被差別者支援，および被差別者責任との間にも有意な相関はみられなかった(表2)。

表2 人権問題意識と差別への態度の人権学習経験との関連

	人権学習経験	(N)
排除問題意識	.103	(223)
被差別者支援	.113	(223)
被差別者責任	-.153	(117)

** $p < .01$

【考察】　排除問題意識が高いと，被差別者支援が高く被差別者責任が低くなっていた。これは，特定の人に対する差別を問題とする意識は被差別者への支援を必要とする意識と結びつくこと，また差別の原因を被差別者に帰属しない傾向に結びつくことを示している。また，人権学習経験の得点と排除問題意識，被差別者支援，被差別者責任との間に関連がみられなかったことから，人権問題意識や差別否定意識の向上につながる学習が十分に行われていない可能性があると考える。ただし，人権学習経験の効果が十分に測定できていない可能性もあることから，今後は人権教育経験項目において不足していた，細かな回数や人権教育の内容や取り組みの姿勢を問う項目を追加する必要があると考える。

なお，本論文に関して，開示すべき利益相反事項はない。

【引用文献】

外務省（2023）. UPR（普遍的・定期的レビュー）の概要
文部科学省（2008）. 第1章 学校教育における人権教育の改善・充実の基本的考え方：文部科学省
大阪府（2012）. 人権問題に関する府民意識調査報告書
東京都（2021）. 人権に関する都民の意識調査報告書

（おかもと　ひなこ）

味覚が人物評価に及ぼす影響

谷口　淳一
（帝塚山大学心理学部）
キーワード：味覚、印象評価、チョコレート

【目的】

本研究では、味覚が人物評価に与える影響を検討した。

水川他(2021)は甘い、もしくは辛いスポーツドリンクを飲んだ後に架空の事件の罰評価を測定する実験を行っている。罰評価については飲料の味による違いはみられなかったものの、「被害者は事件を回避することができた」という指標において、辛いスポーツドリンクを飲んだ方が被害者に対して厳しい評価が下されることを示している。また、Eskline et al. (2011)は苦い飲料を摂取した場合に、甘い飲料や水を摂取した場合に比べて嫌悪感を抱き、結果として道徳的判断が厳しくなることを明らかにしている。さらに、Meier et al. (2012)は甘いチョコレートを食べた場合に、甘くないウェハースを食べた場合や何も食べなかった場合と比べて依頼された実験に参加する時間が長くなり、より協力的になっていた。

本研究では味覚として「甘い」と「苦い」を取り上げ、人物評価に影響を与えるのかを比較検討する。本研究の仮説は以下の通りである。仮説1：甘いチョコレートを摂取した人の方が苦いチョコレートを摂取した人よりも写真の人物への印象はポジティブになるであろう。仮説2：チョコレートの味が甘い、もしくは好ましいと感じるほど、写真の人物への印象はポジティブになるであろう。

【方法】

実験参加者　大学生158名(男性 43名、女性 107名、平均年齢=19.3歳、*SD*=1.06)が実験に参加した。　実験の手続き　1)チョコレートの味覚評価：甘い、あるいは苦いチョコレートのいずれかを食べ、味覚評価をしてもらった。「甘い」「苦い」「おいしい」「まずい」「好き」「嫌い」の6項目で尋ね、「1. まったくそう思わない」から「7. 非常にそう思う」の7件法で回答を求めた。2)写真の人物の印象評価：男性と女性の顔写真をそれぞれ提示し（提示順はランダムにした）、印象評価をしてもらった。21項目の形容詞対に対してどちらによりあてはまるか5件法(-2, -1, 0, 1, 2)で回答を求めた。

【結果】

印象評価の21項目について、因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行ったところ、男性の写真では「個人的親しみやすさ(α=.82)」「社会的望ましさ(α=.87)」、「活動性(α=.88)」の3因子が得られた。女性の写真でも同様に、「個人的親しみやすさ(α=.85)」、「社会的望ましさ(α=.84)」、「活動性(α=.84)」の3因子が得られた。

写真の人物への印象評価について、因子ごとの苦味条件と甘味条件の平均値と標準偏差を求めた(Table)。対応のないt検定を行った結果、男性の写真では個人的親しみやすさ、社会的望ましさ、活動性において有意および有意傾向差がみられ、苦味条件よりも甘味条件の方が写真の人物へポジティブな印象を抱いていた。その一方で、女性の写真においてはいずれも有意差はみられなかった。

次に味覚評価6項目について因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行ったところ、「好ましさ(α=.96)」と「甘さ(α=.95)」の2因子が得られた。味覚評価と印象評価の各因子との相関分析を行ったところ、「甘さ」と男性の写真への印象評価との間に有意あるいは有意傾向の正の相関関係がみられた。チョコレートを甘いと感じているほど、写真の男性に対してポジティブな印象を抱いていることが示された。一方、チョコレートの「好ましさ」評価と写真の人物への印象評価との間には有意な相関はみられなかった。また、味覚評価と女性の写真への印象評価との間にも有意な相関はみられなかった。

【考察】

実験の結果、甘いチョコレートを摂取した人は、苦いチョコレートを摂取した人よりも、写真の男性に対する印象評価が好ましくなるという結果が得られた。ただし、写真の女性に対する印象評価は摂取したチョコレートの味によって変わらなかった。よって仮説1は男性への印象評価についてのみ支持された。写真の男性に対してよりも女性に対しての方が全体的にポジティブな評価を行っており、チョコレートの摂取に関わらず女性に対する評価が甘くなる傾向が影響した可能性がある。

また、チョコレートを甘いと感じているほど写真の男性への評価がポジティブになっていたことから、仮説2も部分的に支持された。味の「好ましさ」ではなく、「甘さ」が印象評価と関連していたことは興味深い結果である。ただし、相関係数は比較的に小さな値であったことから、本研究の結果が再現されるかについてはさらなる検討が必要である。

※本研究は、橋本美優さんが筆者の指導のもとに行った卒業論文（2022年度）で用いたデータを再分析したものである。ここに記して感謝する。

（たにぐち　じゅんいち）

Table　各条件の写真の人物への印象評価の平均値(*SD*)と*t*検定結果、相関分析結果

							好ましさ		甘さ	
	苦味条件	甘味条件	*t*値	*df*	*p*	*d*	*r*	*p*	*r*	*p*
男性個人的親しみやすさ	0.47(0.69)	0.72(0.65)	2.28	140.7	.024	0.37	.06	.431	.17	.033
男性社会的望ましさ	0.21(0.76)	0.42(0.67)	1.80	144.5	.075	0.29	.13	.106	.15	.072
男性活動性	0.25(0.78)	0.57(0.81)	2.44	132.9	.016	0.40	.10	.203	.15	.067
女性個人的親しみやすさ	1.13(0.62)	1.05(0.59)	0.83	139.8	.410	0.13	-.02	.784	-.06	.473
女性社会的望ましさ	0.80(0.59)	0.84(0.64)	0.36	129.6	.716	0.06	.02	.822	.03	.683
女性活動性	0.52(0.59)	0.53(0.77)	0.08	113.6	.938	0.01	-.08	.324	-.06	.478

大学生のCOVID-19予防行動と陰謀論信念および批判的思考

○久保田健市

（名古屋市立大学）

キーワード：COVID-19，陰謀論信念，批判的思考，道徳基盤

【目的】

新型コロナウィルス（COVID-19）の感染が継続する中で，感染予防のための行動が推奨されている．先行研究より，保健行動には陰謀論の負の影響が懸念される(Allington, Duffy, Wessely, Dhavan, & Rubin, 2020)．また，清浄(Sanctity)基盤を中心とした道徳的価値観の関連も示唆される(福川・小田・宇佐美・川人, 2014)．また，誤情報を信じないためには，批判的思考が重要である(平山・楠見, 2004)．本研究では，これらの関連性を検討した．

【方法】

研究協力者　大学生106人(男性43人，女性61人，その他2人．年齢 M=19.73, SD=2.43)．**調査時期**　2021年12月．**質問項目**　(a) COVID-19予防行動：14項目を作成．2021年7月時点の生活様式に基づいて回答させた．(b) COVID-19陰謀論信念：Allington et al.(2020)を参考に6項目を作成．(c)行政への信頼：COVID-19対策に対する信頼度を測定する6項目を新たに作成．(d)批判的思考：平山・楠見(2004)の批判的思考態度尺度を使用．(e)道徳的価値観：Graham, Haidt, & Nosek(2009)の道徳基盤質問紙（20項目版）を使用．すべての尺度は5段階評定された．**手続き**　調査は集団形式で実施された．

【結果】

尺度構成　因子分析（主因子法，プロマックス回転）の結果，以下の因子を抽出した(Table 1)．(a)COVID-19予防行動：「予防行動」（α=.81）「非推奨行動」（α=.62）．(b)COVID-19陰謀論信念：「陰謀論信念」（α=.76）．(c)行政への信頼：「行政への信頼」（α=.83）「行政への不信」（α=.89）．(d)批判的思考態度：「不偏不党への自覚」（α=.88）「論理的思考の自覚」（α=.74）「客観性・証拠」（α=.76）．(e)道徳的価値観：「権威・清浄」（α=.62）「公平」（α=.49）．**予防行動の予測**　目的変数に非推奨行動を，説明変数に陰謀論信念，行政への信頼，批判的思考態度，道徳的価値観に関する尺度得点を投入し，重回帰分析を行った．その結果，行政への信頼（β=-.22, p=.033），行政への不信（β=-.22, p=.025），不偏不党への自覚（β=-.25, p=.032），公平（β=-.36, p=.001）において，有意な負の関連が見られた．

Table 1 男女別尺度得点の平均・SD

		男性(n=43)		女性(n=61)	
	α	M	SD	M	SD
COVID-19予防行動					
予防行動	.81	3.94	0.93	4.14	0.50
非推奨行動	.62	2.15	1.21	1.85	0.79
COVID-19陰謀論信念	.76	2.81	1.05	2.27	0.89
行政への信頼					
行政への信頼	.83	2.93	0.86	3.13	0.82
行政への不信	.89	2.65	0.99	2.32	1.06
批判的思考態度					
不偏不党への自覚	.88	3.52	0.97	3.88	0.58
論理的思考の自覚	.74	2.88	0.89	2.65	0.68
客観性・証拠	.76	3.36	1.12	3.56	0.73
道徳的価値観					
公平	.47	3.63	1.16	3.60	0.93
権威・清浄	.68	3.26	1.24	3.33	1.06

【考察】

行政への信頼だけでなく，不信もまた，鼻を隠さないようにマスクをかけるなどの非推奨行動を抑制する効果を示した．批判的思考態度における不偏不党への自覚と合わせて考えると，世間に出回る情報を盲信せず自分自身で判断するような態度を持った人が，予防行動をきちんととっている傾向がうかがえた．公平の道徳基盤は，不偏不党の自覚と正の相関があり(r=.19, p=.0497)，自律的に判断する傾向と関連すると考えられる．COVID-19に関する陰謀論信念は，予防行動と関連が見られなかった．

【利益相反】

本論文に関して，開示すべき利益相反関連事項はない．

【引用文献】

Allington, D., Duffy, B., Wessely, S., Dhavan, N., & Rubin, J. (2021). Health-protective behavior, social media usage and conspiracy belief during the COVID-19 public health emergency. *Psychological Medicine*. **51**(10), 1763-1769.

福川康之・小田亮・宇佐美尋子・川人潤子（2014）．感染脆弱意識（PVD）尺度日本語版の作成 心理学研究，**85**(2)，188-195.

Graham, J., Haidt, J., & Nosek, B. A. (2009). Liberals and conservatives rely on different sets of moral foundations. *Journal of Personality & Social Psychology*, **96**(5), 1029-1046.

平山るみ・楠見孝（2004）．批判的思考が結論導出プロセスに及ぼす影響―証拠評価と結論生成課題を用いての検討―教育心理学研究，**52**(2)，186-195.

（くぼた　けんいち）

容姿(顔)の自己評価と他者評価の一致性

顔写真の計測分析による検討

○九島紀子[1]
([1]ビューティ＆ウェルネス専門職大学)

キーワード：顔　自己評価　顔写真

【目的】

これまで容姿（顔などの見た目)に関する調査は他者評価が多かったが，本人による容姿の自己評価ができるようになれば，データ収集の範囲がおおきく拡がる(小林,2017b)。しかし，容姿に関する自己評価と他者評価の一致性を検討する調査はあまり多くない。また，それらの結果から，容姿に関する自己評価と他者評価には概ね一致性が認められている(小林,2017b)が，自己評価，他者評価共に主観的評価であることは否めない。そこで，本研究では顔写真の計測分析を行うことにより，客観性を高める。本研究では第１に顔写真の提供者本人の自己評価を求め，第２に提供された顔写真の計測分析を行い，第３に顔写真提供者とは異なる集団による顔写真への評価を求めることにより，自己評価と他者評価の一致性を検討する。

【方法】

1．調査 A

対象者(自己評価者)

A 大学の心理学系選択授業を受講した男子大学生 10 名女子大学生 37 名の計 47 名（M=19.72，SD=.68）を対象に，質問紙調査への回答と写真の提供を求めた。

質問項目

顔に関する自己評価についての質問項目は小林(2017b)を参考に作成した。「仮に顔(ルックス)でグループに分かれ，「上」が５，「中間」が３，「下」が１としたらあなたはどれに入ると思いますか。」について１～５の５件法で回答を求めた。

顔写真の撮影

質問紙調査への回答後，１人ずつ顔写真の撮影を行った(調査者が iPhone にて撮影)。撮影に際し，顔に角度が付かないよう，また無表情での撮影を依頼した。

2．顔写真の計測

九島・齊藤(2015b)の顔の計測方法に基づき計測し，ポイントを付与した。ポイントの配分は以下の通りであった。顔の縦横比が，男子学生は 1.35～1.45：1 で１ポイント，女子学生は 1.3～1.4：1 で１ポイント，顔の縦の割合が，上部＝中央部＝下部で３ポイント，上部＞中央部＞下部で２ポイント，上部＝中央部＞下部・上部＞中央部＝下部で１ポイント，顔の横のバランスが，目の横幅＝目と目の間で１ポイントとした。

3．調査 B

対象者(他者評価者)

B 大学のメイク実習を受講した女子大学生 101 名（M=18.21，SD=.45）を対象に，質問紙調査への回答を求めた。

質問項目

調査 A で得た写真をスクリーン上に提示し，それぞれの顔写真について評価を求めた。質問項目は以下の通りであった。「仮に顔(ルックス)でグループに分かれ，「上」が５，「中間」が３，「下」が１としたら提示された写真はどれに入ると思いますか。」について１～５の５件法で回答を求めた。

【結果】

容姿(顔)に関する自己評価と顔写真の計測分析，他者評価の一致性を検討するため，１要因の分散分析を行った。その結果，自己評価(M=2.53,SD=.86)と顔写真の計測分析(M=2.64,SD=1.07)，他者評価(M=2.83,SD=.70)に有意差はなかった(F(2,138)=1.40,$n.s.$)。

自己評価者(写真提供者)の男女差を検討するため，t 検定を行った。その結果，自己評価では男女の差は無かったが(t(45)=.55,$n.s.$)，顔写真の計測分析では男子学生よりも女子学生の方が有意に高いポイントを付与され（t(45)=4.00,p<.001.)，他者評価においても男子学生よりも女子学生の方が有意に高い得点を付与されていた(t(45)=4.35,p<.001.)。

Table 1　自己評価者の男女別 t 検定の結果

	男性(n=10)		女性(n=37)		N=47
	M	SD	M	SD	t値
自己評価	2.40	.70	2.57	.90	.55
計測分析	1.60	.52	2.92	1.01	4.00***
他者評価	2.11	.40	3.03	.63	4.35***

***P<.001

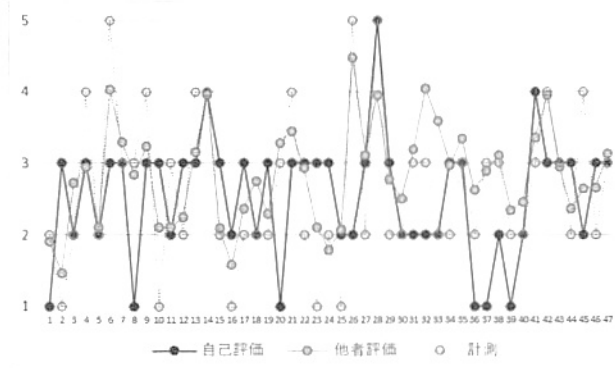


Figure 1　被評価者毎ごとの自己・他者評価の平均と計測分析

【考察】本研究では，容姿(顔)の自己評価と他者評価の一致性を検討するため，第１に顔写真の提供者本人の自己評価を求め，第２に提供された顔写真の計測分析を行い，第３に顔写真提供者とは異なる集団による顔写真への評価を求めた。その結果，自己評価と他者評価，顔写真の計測分析の間に差は認められず，自己評価と他者評価の一致性が示唆された。ただし，男女差の検討を行ったところ顔写真の計測分析と他者評価において，男子学生よりも女子学生の方が高く評価された。これは，女子学生は実際の容姿(顔)よりも過小評価の傾向にあり，男子学生は過大評価の傾向にあることが推察された。以上から，容姿(顔)に関する研究の際に，自己評価による調査が可能と示唆された一方で，男女の違いを改めて丁寧に見ていく必要が求められた。

【利益相反】利益相反無し

【引用文献】

九島・齊藤（2015b）. 応用心理学研究 41,1,39-55.

小林盾(2017b).容姿の自己評価は他者からの評価と一致するのか：自計式調査による測定の可能性，成蹊大学文学部紀要,52,122-133.

（くしまのりこ）

エスカレーターでの歩行・両側停止における多元的無知と行動

今井大智[1]　中井宏[2]　秋保亮太[2]（非会員）
（[1]大阪大学人間科学部　[2]大阪大学大学院人間科学研究科）

キーワード：エスカレーター，多元的無知，歩行

【目的】

エスカレーターでの歩行には，自身の転倒や他者との接触に繋がる危険だけでなく，片側空けにより輸送効率が低下するという問題が指摘されている（e.g., Harrison et al., 2016; 大竹・岸本, 2017）。過去の調査では，歩行に反対する人の割合は高いにもかかわらず多くの人が歩行していること（日本エレベーター協会, 2022），他者の圧力により歩行する人がいること（埼玉県，2021）が示された。このことから，エスカレーター利用では多元的無知が生じている可能性がある。多元的無知とは，「集団の多くの成員が、自分自身は集団規範を受け入れていないにもかかわらず、他の成員のほとんどがその規範を受けいれていると信じている状況」（神, 2009, p. 300）である。本研究では，歩行・片側空けにおける多元的無知の生起，多元的無知が歩行・片側空けという行動に与える影響について検討した。また，停止利用を定めた埼玉県の条例の効果についても検討した。

【方法】

調査対象者と方法　クラウドソーシングを利用した web 調査を実施した。右空けが一般的な東京都，神奈川県，千葉県，埼玉県のいずれかに住む方 678 名（男性 371 名，女性 307 名，平均年齢 41.47 歳，SD = 15.18）を対象とした。

測定変数　年齢，性別，居住する都道府県に加え，以下の変数を測定した。⑴から⑷については，宮島・山口（2018）の尺度を本研究に合うように改変・削除して使用した。

⑴歩行自己得点：歩行に関する自己態度（4 項目）
⑵歩行他者得点：歩行に関する他者態度推測（4 項目）
⑶両側自己得点：両側停止に関する自己態度（4 項目）
⑷両側他者得点：両側停止に関する他者態度推測（4 項目）
⑸行動頻度：Table 1 の各状況に対応した上り・下りの絵 10 枚を提示し，それぞれにおける右側停止・右側歩行・左側停止・左側歩行（状況 1 のみ）の頻度を尋ねた（32 項目）。
⑹その他の変数：条例の認知（1 項目），啓発の認知（1 項目），危険性の評価（1 項目）を尋ねた。

Table 1 行動頻度を尋ねる際に提示した状況

状況名	状況の内容
状況 1	人がいない
状況 2	左側に止まる人が数人いて、右側に人がいない
状況 3	左側に止まる人が数人、右側に歩く人が数人いる
状況 4	左側に止まる人の行列ができていて、右側に人がいない
状況 5	左側に止まる人の行列、右側に歩く人の行列ができている

【結果】

行動頻度尺度の構造の確認　行動頻度尺度の因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行い，3 因子（右側歩行，左側停止，右側停止）30 項目を採用した。

多元的無知の生起　歩行について，態度主体と条例の有無を独立変数とする 2 要因混合計画の分散分析を行った。その結果，条例なしでは歩行自己得点より歩行他者得点が有意に高く，条例ありでは態度主体の効果は有意でなかった。

両側停止について，態度主体と条例の有無を独立変数とする 2 要因混合計画の分散分析を行った。その結果，条例の有無にかかわらず，歩行他者得点より歩行自己得点が有意に高かった。

多元的無知が行動に与える影響　まず，各参加者の歩行他者得点から全参加者の歩行自己得点の平均値を減じた歩行誤認得点，全参加者の両側自己得点の平均値から各参加者の両側他者得点を減じた両側誤認得点を算出した。

その上で，強制投入法による階層的重回帰分析を行った（Table 2）。その結果，右側歩行には歩行誤認得点が正の影響を与えていること，右側停止には両側誤認得点が負の影響を与えていること，条例の有無は一貫して各従属変数に有意な影響を与えていないことが示された。

Table 2 右側歩行・左側停止・右側停止への各変数の影響

	右側歩行		左側停止		右側停止	
	step 1	step 2	step 1	step 2	step 1	step 2
性別	-.01	-.01	.06	.06	-.09 *	-.08 *
年齢	-.02	-.01	.09 *	.09 *	-.11 *	-.10 *
条例の有無	-.02	.00	-.03	-.02	.00	-.01
条例の認知	.03	.02	-.02	-.01	.01	.01
啓蒙の認知	-.05	-.05	-.08 *	-.07	.12 *	.10 *
危険性の評価	-.16 *	-.15 *	.20 *	.19 *	-.03	-.01
歩行自己得点	.57 *	.50 *	-.11 *	-.06	-.12 *	-.18 *
両側自己得点	-.02	-.10 *	.05	.22 *	.38 *	.20 *
歩行誤認得点		.13 *		-.04		.08
両側誤認得点		-.10 *		.24 *		-.25 *
R^2 (adjusted)	.48	.49	.12	.14	.18	.21
F	79.46 *	66.31 *	12.40 *	12.35 *	19.38 *	18.56 *
ΔR^2		.01		.02		.03
F forΔR^2		7.51 *		10.72 *		12.62 *

Note. *p < .05

【考察】

分散分析の結果から，歩行の多元的無知は，条例のない都県で生じており，人々は他者の態度を肯定的に誤認していると考えられる。一方，条例のある県では多元的無知が生じていないと考えられる。両側停止の多元的無知は，条例の有無にかかわらず生じており，人々は他者の態度を否定的に誤認していると考えられる。重回帰分析の結果から，歩行の誤認は歩行を助長し、両側停止の誤認は両側停止を阻害すると考えられる。以上の結果は，歩行を抑制し両側停止を促進するための施策として，歩行・両側停止の多元的無知を低減するような施策が有効である可能性を示唆している。

また，停止利用を定めた条例は，歩行の多元的無知を解消するものの，両側停止の多元的無知を解消したり，行動を変化させたりするほどの効果はないと考えられる。今後の研究では，行動にまで影響を与える施策の検討が望まれる。

※本研究に利益相反（conflict of interest; COI）はない。

【主要引用文献】

一般社団法人日本エレベーター協会（2022）．エレベーターの日「安全利用キャンペーン」調査の集計結果について（2021 年度）　一般社団法人日本エレベーター協会　Retrieved February 3, 2023 from https://www.n-elekyo.or.jp/docs/20220328_2021Elequestionnaire.pdf

埼玉県（2021）．令和３年度埼玉県政世論調査報告書　彩の国埼玉県　Retrieved February 3, 2023 from https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/208204/r3_yoronpdfall_fix.pdf

（いまい だいち・なかい ひろし・あきほ りょうた）

非行少年の立ち直り可能性認知に関する尺度作成の試み

富永日向子
（立正大学大学院心理学研究科）
キーワード：少年非行　立ち直り　尺度作成

【目的】　非行少年の立ち直りを妨げる要因の一つとして，彼らをとりまく社会の否定的態度が指摘されている(菅原，2014)。少年非行に対する人々の態度を測定する尺度として，非行の原因帰属尺度(戴ら，2004)や，厳罰志向性尺度(向井ら，2021)などがある。しかし，非行少年の立ち直りに関する認知の構造を検討し，態度を測定する尺度はこれまであまり作成されてこなかった。

そこで本研究は，非行少年の立ち直り可能性に対する認知を測定する尺度，非行少年が立ち直るために何が必要だと考えているかを測定する尺度を作成し，信頼性・妥当性を検討する。

【方法】　本調査は，オンラインを利用した質問紙調査により実施された。本研究は応用心理学会倫理綱領を満たす形で実施された。

調査時期と分析対象　調査は2022年10月に実施した。大学1～4年生計92名(男性27名女性64名その他1名)を対象に実施した。平均年齢は20.1歳(18歳～25歳)であった。

立ち直り可能性認知尺度　非行を行った少年の立ち直りに対する認知を尋ねる項目を8項目独自に作成し，「5.そう思う」から「1.そう思わない」まで5件法で回答を求めた。

立ち直り要因認知尺度　非行を行った少年が立ち直るために必要だと思うことについて尋ねた項目に対し，「5.そう思う」から「1.そう思わない」まで5件法で回答を求めた。質問項目は，「人格」「家族」「学校」「地域」「社会」の5領域に，「刑罰」と「矯正」の2領域を加え，各領域3項目ずつ，計21項目を独自に作成した。

【結果】

立ち直り可能性認知尺度　非行少年の立ち直り可能性について尋ねた8項目について，因子分析で一次元性を確認したのち，主成分分析を行った(寄与率65.8%)(Table 1)。8項目(α=0.92)の回答の単純加算をもって立ち直り可能性尺度得点とした。この得点が高いほど，非行少年が立ち直る可能性を高く感じていることを示す。

Table1　立ち直り可能性尺度の主成分分析結果（$N = 92$）

項目	負荷量	*M*	*SD*
少年自身が反省し、成長することができる	0.851	4.315	0.851
犯罪を犯さないようにできる	0.850	4.076	0.880
立ち直ることができる	0.844	4.163	0.929
周囲の人と良い人間関係を築くことができる	0.839	3.978	1.079
社会の一員として働くことができる	0.832	4.304	0.767
自立して生活を送ることができる	0.828	4.152	1.016
問題行動を起こさないようにできる	0.753	4.054	1.062
娯楽を楽しむことができる	0.678	4.391	0.811

立ち直り要因認知尺度　非行少年が立ち直る要因を尋ねた21項目について，固有値の変化から4因子を抽出し，プロマックス回転を行った。全ての因子に負荷量が低かった項目を除く形で因子分析を繰り返した結果，Table2の形となった。各因子に負荷量の高い項目の内容から，得られた因子はそれぞれ「刑罰・社会因子」「少年本人因子」「家族因子」「地域・学校因子」と名付けられた。各因子のみに負荷量が0.40以上の項目を尺度項目とし，回答を単純加算する形で尺度得点とした。

相関分析　立ち直り可能性認知尺度と，立ち直り要因認知に関する4つの尺度との間に有意な相関はみられなかった。立ち直り要因認知の4尺度間ではすべて有意な正の相関がみられた。刑罰・社会尺度と少年本人尺度間（$r = 0.26$, 95%CI[0.05, 0.43]），刑罰・社会尺度と家族尺度間（$r = 0.35$, 95%CI[0.16, 0.52]），刑罰・社会尺度と地域・学校尺度間（$r = 0.28$, 95%CI[0.08, 0.46]）。少年本人尺度と家族尺度間（$r = 0.37$, 95%CI[0.18, 0.53]），少年本人尺度と地域・学校尺度間（$r = 0.34$, 95%CI[0.14, 0.51]。家族尺度と地域・学校尺度間（$r = 0.42$, 95%CI[0.24, 0.58]）。

Table2　立ち直り要因尺度の因子分析結果　（主因子法・プロマックス回転）（$N = 92$）

項目	刑罰・社会	少年本人	家族	地域・学校	*M*	*SD*
刑罰を受けること	**0.858**	0.060	-0.062	-0.189	3.239	1.226
少年院に入所すること	**0.736**	0.203	-0.098	0.100	3.250	1.164
つらい思いをすること	**0.721**	-0.265	0.172	-0.040	2.783	1.221
犯罪に厳しい社会になること	**0.600**	0.151	0.141	0.018	3.576	1.151
社会と隔離されること	**0.540**	-0.299	0.148	0.130	1.946	1.009
犯罪のしにくい環境になること	**0.436**	0.056	0.343	0.088	4.228	1.070
非行の専門家の指導を受けること	0.528	0.425	-0.229	0.131	4.065	1.046
自らの行いを反省すること	-0.196	**0.793**	0.111	-0.025	4.674	0.665
変わろうと努力をすること	-0.089	**0.790**	0.295	-0.054	4.750	0.604
社会復帰のための教育を受けること	0.145	**0.628**	0.012	0.104	4.576	0.667
思いやりのある社会になること	0.041	**0.570**	-0.068	0.208	4.293	0.908
少年本人の資質	0.365	**0.497**	0.045	-0.108	4.054	1.052
親子関係が良好であること	0.167	0.029	**0.854**	-0.139	4.196	1.082
家庭に居場所があること	-0.106	0.286	**0.807**	-0.014	4.370	0.848
親が面倒をみること	0.131	-0.067	**0.662**	0.285	3.446	1.252
地域に居場所があること	-0.112	0.130	-0.188	**0.830**	3.880	1.203
地域の大人が面倒をみること	0.107	-0.089	0.122	**0.825**	3.163	1.369
学校に居場所があること	-0.141	0.000	0.397	**0.580**	4.283	0.976
教師が指導すること	0.128	0.119	0.031	**0.508**	3.304	1.146
寄与率(%)	27.333	13.514	9.433	8.137		
α係数	0.736	0.786	0.719	0.784		

【考察】　非行少年の立ち直り要因認知に関する尺度は，刑罰や社会など少年の環境をつくるもの，努力や行動などの少年本人に関するもの，少年の家族に関するもの，少年が通う学校や地域など比較的身近な環境に関するもの，の4つの側面から構成されていた。これらにはそれぞれ正の相関があることが示された。

また，人々が非行少年の立ち直り可能性を感じている程度と，非行少年が立ち直るために何が必要だと考えているのかとは，関連がないことが示唆された。ただし今回作成した尺度では複数の因子に負荷量の高い項目があり，今後項目の再検討をして尺度精査を行う必要がある。また本調査は大学生のみを対象としているため，今後幅広い世帯を対象として，態度構造や関連性を検討することがすすめられる。

本論文において開示すべき利益相反関連事項はない。

【引用文献】

菅原好秀（2014）．刑務所出所者等の社会復帰支援に向けて　東北福祉大学研究紀要，38，1-16.

戴 伸峰・石毛 博（2004）．青少年犯罪の原因認知とこれに対する態度：一般市民と専門家の認知の比較　犯罪心理学研究，41，20-21.

向井 智哉・藤野 京子（2021）．少年犯罪に対する厳罰志向性と犯罪不安および被害リスク知覚の関連　実験社会心理学研究，60，100-112.

（とみなが　ひなこ）

我々は和菓子に四季を感じるか？

-幼児，成人，高齢者を対象とした発達的検討-

○伴碧[1]（会員）
（[1]大阪大学大学院基礎工学研究科）

キーワード：幼児，感性の発達，和菓子

【目的】和菓子は，我が国の伝統文化であり，四季など，日本人を取り巻く環境の中で発展してきた伝統文化である（村上，2015）。和菓子は五感の芸術といわれるが，それぞれの季節を演出した和菓子を作るうえで，菓子の色や形といった目から入る美味しさ（視覚）に訴えることが大切である。特に，「美味しさは目で味わう」という言葉があるように，色合いを無視することはできないという（堀，2008）。実際，練り切りなどの和菓子は，季節によって様々な色合いで作られている。しかし，和菓子を知る機会が減少している中（村上，2015），我々は，和菓子を見て実際に四季を感じることが出来るのであろうか。

これまでの研究から，我々日本人は，四季に対して特定の色をイメージすることが報告されている。例えば，20代の学生を対象に，色と季節感との関係を検討した中村他（2006）は，春，夏，秋の3季節に対し，順に，ピンク系，青系，茶系，という色相をイメージする傾向があること，また，冬に対しては，低彩度色をイメージしたことを報告している。また，四季（春夏秋冬）とイメージ的に結びつきが強い色を調査した朝岡他（2021）は，「春」と回答されたのは桃色，「夏」は水色，「秋」は茶色，「冬」は白がそれぞれ最も回答が多かった（80%以上）ことを報告している。この結果は，我々が四季それぞれに対して特定の色を感じること，さらに，その感性は10年以上変わらないこと示すものである。

上記のように，我々が四季と特定の色とを結びつけているのであれば，和菓子を見て，実際に四季を感じることが出来るはずである。そこで本研究では，オンライン上で和菓子の写真を提示し，写真から四季（春夏秋冬）を判断できるか調査を実施した。なお，四季に対する印象と特定の色との結びつきが，発達に伴い学習されるものか，あるいは幼い頃から備わっているものかについても検討を行うため，研究対象の年齢群を幼児および成人とした。加えて，和菓子を見て，その四季を判断する際に，和菓子の色合いと形のどちらを手掛かりにしているかについても，条件を設け検討を行った。

【方法】本研究は，クラウドソーシングサービスを利用して実施された。幼児期（3歳－6歳）の子どもを持つ保護者，および18歳－29歳の成人を対象に募集を行った。オンライン上で研究参加への同意を得られた場合のみ，課題に参加していただいた。なお，研究対象者が幼児の場合には，その保護者に同意を得た。

研究対象者：幼児100名（男児53名，女児47名，平均年齢=4.71歳，SD=0.98歳），成人100名（男性57名，女性43名，平均年齢=26.24歳，SD=2.81歳）。

課題：四季（春夏秋冬）に応じた4種類の和菓子の写真を参加者に提示した。提示された和菓子の写真が，四季のうち，いずれの季節を表現しているか1つを参加者に選択させた。なお，研究対象者が幼児の場合には，幼児の回答を保護者が入力した。

条件：課題には下記の3つの条件を設けた。**統制条件**では，四季に応じた色合いと形の和菓子（e.g.，冬；白い雪だるま）がカラーで提示された。**色条件**では，同じ形の和菓子だが，四季によって色合いが異なる写真（e.g.，春；ピンク）がカラーで提示された。**形条件**では，四季によってモチーフが異なる写真（e.g.，春；桜）が白黒で提示された。

Figure 1. 色条件の正答率

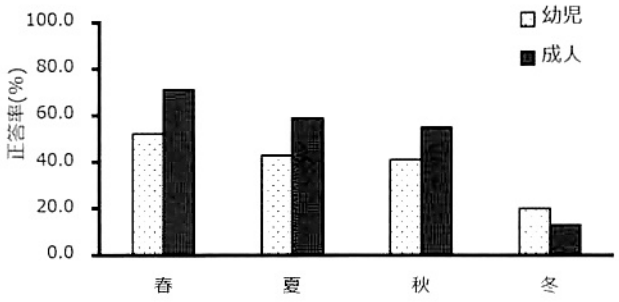
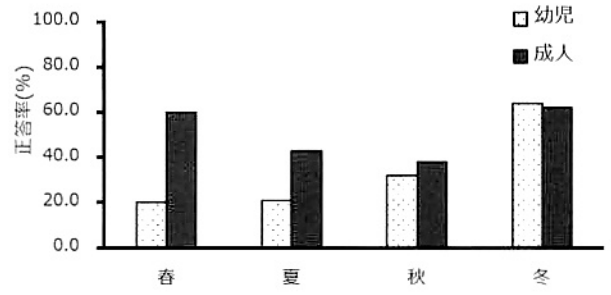


Figure 2. 形条件の正答率



【結果・考察】研究対象者に対して，四季に応じた和菓子の色合いと形の両方を提示した統制条件については，幼児群，成人群ともに正答率は70%から100%と高かった。この結果は，幼児であっても和菓子の見た目から，それが示す季節の判断が可能であることを示唆するものである。次に，和菓子の色合いと形のどちらを手掛かりに四季を判断しているかについて検討を行った2つの条件について，Figure1，2に結果を示す。分析は，それぞれの季節においてカイ二乗検定を実施した。なお，有意水準はBonferroni補正を行った。その結果，色条件では，春，夏の季節において，成人群の正答率が幼児群の正答率よりも有意に高い傾向があることが示された（$ps < .10$）。また，形条件においても，春，夏の季節において，成人群の正答率が幼児群の正答率よりも有意に高いことが示された（$ps < .01$）。この結果は，一部の季節において，知識（e.g.，季節に応じた花）が影響している可能性を示すものである。他方で，秋，冬といった季節においては，年齢群間の差がみられなかった。今後は，課題に正答した幼児がどのような特徴を持つか検討を深めるとともに，高齢者を対象にした調査を実施することで，和菓子に対する感性の発達的検討を行う予定である。

【利益相反】なお，本論文に関して，開示すべき利益相反関連事項はない。

（ばん　みどり）

幼児期初期における鏡像反応の発達的特徴について

発達に課題のある幼児の鏡像反応と発達検査課題との関係性について

○高木玉江[1]
([1]大阪成蹊大学教育学部)

キーワード：鏡像認知、自己認知、マークテスト

【目的】 幼児期に通常生活年齢が、1歳半ごろから2歳になると、鏡をみながら自分の身体で遊ぶ時期があると言われ、しかも鏡に映った自分を長い時間ながめる時期があり、鏡に映った像が自分と認知していくことが明確化していく。本研究は、幼児期初期において発達に課題のある幼児において、鏡像認知がどのように行われ、進んでいく過程が見られるのか、鏡像反応にも発達年齢との関係があり、発達年齢とともに、鏡像反応の経過も見られるのかということを検証するため、鏡像の反応と発達検査下位項目との関連性について焦点をあて、明らかにしていく。

【方法】実験者は活動場面に参加し、参加児とラポールを形成するようにした。対象児は、発達支援施設に通う幼児33名を対象に個別に実験をおこなった。生活年齢は、25か月から76か月、平均値47.9、標準偏差14.5だった。

(1) 実験内容

職員と協力し、できるだけ対象児の遊びや保育活動を妨げないように配慮した。保護者にも、研究目的を説明し、ビデオ撮影と新版K式発達検査2001年度（以下新版K式発達検査）の課題を使用することを説明し、同意を得た上でおこなった。

(2) 実験材料、実験記録機器

実験の機器は、HS―JVCビデオカメラGZ－E265を使用して記録した。実験場面は部屋の一室を利用し、幼児用の机に対象児と検査者が対峙するように座り行った。室内には、児童の保護者も同席してもらい同意を得た上でビデオ録画を行った。

実験材料のシールは、ML-161円型(中)赤 直径16mm マイタックラベル ニチバン株式会社を使用した。実験材料の鏡は、新版K式発達検査2001年版の課題の鏡（37cm×28cmプラスチック製）を使用した。

(3) 分析手続きと方法について

分析として手続きは、鏡像反応について発達年齢の算出を行うため、新版K式発達検査2001年度（以下新版K式発達検査）の課題の下位項目を使用した。

新版K式発達検査2001は、姿勢・運動領域の項目、認知・適応領域の項目と言語・社会領域項目の3領域中の12か月から30か月の下位項目を実施し、発達年齢（DA）を算出した。認知・適応（C-A）領域と言語・社会（L-S）領域の各領域ごとの発達年齢（DA）も算出した。

分析方法は、鏡像反応と新版K式発達検査2001年度（以下新版K式発達検査）の下位項目との関係をX^2検定を行い有意確率を抽出した。Fisher直接法を使用し、有意確率は両側水準を採用し、やや優位傾向にあるものとして有意水準1％未満の下位検査課題を表示した。また、より関係のある発達検査下位項目として有意水準0.5%未満とし、鏡像反応と発達検査下位項目との関係がかなり関係性の強いものとして、0.1%未満とした。

【結果】

発達に課題のある幼児33名のうち、鏡像認知の指標であるシールを取る行為である鏡像自己認知反応が出来た幼児は、19名（57.6%）だった。鏡像を見て額についているシールを取り、鏡像自己認知できた幼児で、行動指標と新版K式発達検査2001との下位検査項目との関係があるのかということを詳しく分析した。

発達検査の下位項目の年齢領域が、15か月から18か月の範囲にある下位項目では、はめ板回転は18名（n=33）通過し、有意差がみられた（p=.062）、はめ板全回転も、16名（n=33）の通過であり（p=.009**）有意な差が見られた。

18か月から21か月の年齢領域にある下位項目では、積木の塔5の通過者は、18名(n=33)であり、有意確率は、P=.062'であり、やや優位な傾向がみられた。形の弁別Ⅰ1/5（p=.057）、入れ子3（p=.080）の下位項目ともに有意な差が見られた。

21か月から24か月の年齢領域にある下位項目の積木の塔6は、18名（n=33）の通過者であり、有意な差（p=.026*）がみられた。形の弁別Ⅰ3/5（p=.009**）にも有意な差がみられた。

24か月から27か月の範囲にある項目である、積木の塔8の通過者は、有意な差（p=.066）、横線模倣　有意な差（p=.098*）、形の弁別Ⅰ3/5の項目に有意な差（p=.009**）が見られた。

言語・社会領域の下位検査項目では、15か月から18か月の範囲にある項目、語彙は、p=.080'であり、やや有意な傾向が見られた。また、21か月から24か月の範囲にある項目である絵の名称Ⅰ3/6有意な差（p=.047）が見られたが、24か月から27か月の範囲にある項目、絵の名称Ⅰ6/6(p=.209)有意な差はみられなかった。しかし、27か月から30か月である絵の名称Ⅱ3/6は、有意な差（p.=.047）が見られた。

姿勢・運動領域の12か月から30か月に位置する下位検査項目と有意な差はみられるものはなかった。

【考察】

発達に課題のある幼児でも通常児と同じく発達年齢が、18か月から24か月頃になると、鏡像に映る自分を見て、気づき、額についているシールをとることができるということが分かった。そして、発達検査の認知・適応の年齢領域が15か月から。22か月ごろの下位項目と関係で有意差がみられた。

また、言語・社会領域では、15か月から18か月の領域に位置する語彙の下位項目と有意差がみられた。発達課題のある幼児も視覚的自己認知は22か月頃可能になり、視覚的自己認知と話ことばの獲得が連関していること、そして、自己と他者の関係についても連関しているということが示唆された。

【利益相反】利益相反（conflict of interest; COI）はありません。

【引用文献】

別府哲,(2000),自閉症幼児における鏡像認知
田中昌人．(1987)．人間発達の理論．青木書店．
百合本仁子.(1981).1歳児における鏡像の自己認知の発達.教育心理学研究,29,261-
Zazzo, R.（加藤義信訳）(1999)．鏡の心理学 ―自己像の発達―．ミネルヴァ書房．

（たかぎ　たまえ）

子育てにおける保護者のポジティブな経験の重要性

―発達支援を利用する保護者へのアンケート調査をもとに―

○横井川美佳[1,2]　田中真介[3]
（[1]京都大学大学院人間・環境学研究科、[2]日本学術振興会　[3]京都大学国際高等教育院）

キーワード：発達支援、保護者、ポジティブな経験、幼児期

【目的】子どもとの関わりの中で、保護者がポジティブな経験を重ねることは、子育てのモチベーションとなるとともに、子どもの発達を支える貴重な力となる。本研究では、発達に支援が必要な子どもの保護者が経験したポジティブなエピソードを収集し、育児での肯定的な感情との関連性を検討した。

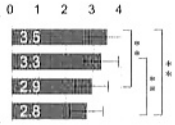
【方法】A市内の児童発達支援事業所を利用する幼児の保護者を対象にアンケート調査を行った。子育ての中で「楽しさ」「やりがい」「自分の成長」「うまくいっている」を感じる頻度を4件法で回答してもらい、フリードマン検定を実施した。また、「子育ての中でのポジティブな経験のエピソード」を3つ自由記述で回答を求めた。記述内容を意味的類似性に従って分類し、カテゴリー化した上で対応分析を行った。本研究は所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果と考察】70名にアンケートを依頼し、32名から回答を得た（回収率45.7%）。回答者の属性は、父が3名、母が29名、年代は30代が17名、40代が13名、50代が1名、無回答が1名であった。回答者の子どもの年齢は5歳児が19名、4歳児が4名、3歳児が7名、2歳児が2名であった。

〔育児での肯定的な感情〕「楽しさ」「やりがい」「自分の成長」「うまくいっている」を感じることがあるかについて、①ない、②あまりない、③ややある、④よくあるの4件法で回答を求めた（表1）。フリードマン検定の結果、各質問での頻度を比較すると、「楽しさ」は「自分の成長」より、「楽しさ」「やりがい」は「(子育てが) うまくいっている」はより有意に高かった（$p<0.01$）。どの項目でも子育てに対してポジティブに感じることが「ない」と回答する保護者はおらず、子育ての中で「楽しさ」「やりがい」を感じるポジティブな瞬間に出会う経験がなされているが、それに対して「うまくいっている」という手応えは感じにくいことが示唆される。

表1. 育児での肯定的な感情（棒グラフ：平均値）

（人）	①	②	③	④
楽しい	0	1	14	17
やりがい	0	4	15	13
自分も成長している	0	8	18	6
うまくいっている	0	11	18	3



〔ポジティブな経験のカテゴリー〕自由記述の内容は、26のカテゴリーにまとめられた。【子どもの行動面】能力的な変化・獲得、気持ちの切り替え、適切行動の達成、ネガティブ状況の改善、苦手な物事の克服、自発的な行動の生起。【子どものコミュニケーション面】他者の名前の把握／良好なやりとり・やりとりの向上／子どもの思い・願いの発信／家庭外での様子の報告。【子どもの対人面】園行事への参加／お友達との良好な関わり、【家族関係】家族との良好な関係性。【子どもの気持ち・興味】子どもの好感情／植物・生物の大切さ。【親子の共有性】興味・関心の共有／子どもと保護者の好感情の共有。【保護者の気持ち】保護者の好感情／重要な他者としての実感。【保護者の成功体験】保護者からの働きかけの成功／肯定的・共感的な関わりの成功。【保護者の変化・成長】子どもへの信頼／子どもの気持ちの理解／子どもを契機とする世界の拡がり／子育てへの心がけ。【連携】保育士・支援者との協力体制。

「園行事への参加」や「園での様子の報告」が見られる一方で、事業所での様子に関する記述は見られず、園での集団への適応が重要視されていた。横井川ら(2022)の支援者のポジティブな経験の調査結果と比較すると、「家族との良好な関係性」は保護者のみで見られるエピソードである。発達支援では、利用する子どもと保護者への支援が中心となりがちだが、併行通園先での子どもの様子や、きょうだいとの関係性や家庭環境などを丁寧に把握して共感することが、よりよい支援につながると考えられる。「遊びの拡がり」「発達的理解の実感」に該当する記述は保護者では見られなかった。これらのような保護者に捉えにくい変化は、「なぜそれが大切なのか」という発達過程における意味合いを保護者に伝え子どもの発達理解を深める支援が重要となろう。また、「私にしかできない」のような「重要な他者としての実感」に該当する記述は1件のみであった。親子だからこその関わりがあることを意識し、保護者の自己信頼性を高める支援が重要である。

〔「うまくいっている」感じと特徴的なカテゴリー〕「うまくいっている」と感じる頻度に着目し、「うまくいっている」と感じることが「②あまりない」群（ネガ群）、「③ややある・④よくある」群（ポジ群）に分け、エピソードのカテゴリーとの関連性について対応分析を行った（図1）。ネガ群では「能力的な変化・獲得」「適切行動の達成」のような行動面での変化や、保護者と子どもの「好感情／興味関心の共有」が特徴的であった。一方、ポジ群では子どもの好感情や子どもの思い・願いの発信が特徴的であった。ネガ群では目に見える変化や保護者と子どもが「一緒に」経験していることがエピソードの想起に必要であるが、ポジ群では子どもの内面に目を向け、子どもを主体として尊重したエピソードが重視され、よく想起されている。また、見通しやスモールステップでの「保護者からの働きかけ」はネガ群、「肯定的・共感的な関わりの成功」はポジ群の特徴であった。保護者支援において、子育てが「うまくいっている」とポジティブに感じるためには、行動面の変化以上に、子どもの思いを受け止め主体として尊重する意識をもって関われるように支援することが、重要だと考えられる。

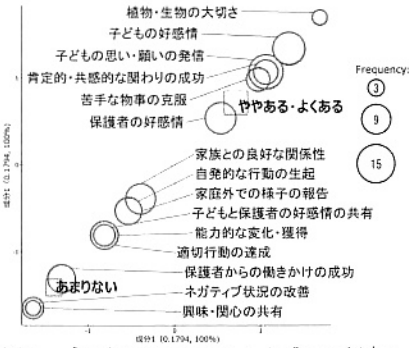


図1　「うまくいっている」と感じる頻度と特徴的なカテゴリーの対応分析（差が顕著な上位15カテゴリー）

〔保育・療育への示唆〕保護者が子育てをどのように感じているかを受け止めながら支援する必要性が示唆される。また、ポジティブに子育てをしていく上で、自分の言葉でポジティブに振り返ること自体に、保護者自身の自己信頼性を高める大きな意味があることが示唆される。

【引用文献】横井川美佳・田中真介（2022）発達に支援が必要な子どもたちとのポジティブな経験の重要性―保育施設・療育施設へのアンケート調査をもとに―.日本応用心理学会第88回大会発表論文集

【付記】本研究は日本応用心理学会若手会員研究奨励賞による研究助成を受けて実施した。開示すべき利益相反はない。

（よこいがわみか・たなかしんすけ）

特殊詐欺防止研究 1

特殊詐欺被害者の騙された状態を判定する特殊詐欺推定

○近野恵[1]　井手健太[1]　紺野剛史[1]　桐生正幸[2]
([1]富士通株式会社　[2]東洋大学社会学部)
キーワード：特殊詐欺，生理反応，心理状態

【背景・課題】　警察庁によると特殊詐欺被害の多くは 65 歳以上の高齢者であり，その被害額は 2022 年で 361 億円に上ることから，早急な対策が必要となっている。現在の特殊詐欺 AI は加害者側の通話データを音声解析することで不審なキーワードを検知して特殊詐欺を推定する（遠藤・谷田，2020）。しかし，詐欺の手口は巧妙に変化するため限定的な手口しか検知できず，またプライバシーへの懸念から特殊詐欺推定技術の改良が望まれていた。

【アプローチ】富士通，東洋大学，尼崎市の 3 者で共同研究契約を締結，特殊詐欺推定 AI の開発と実証実験を行った。従来の加害者側の検知ではなく，様々な手口で共通する被害者側の「騙されそうな状態」の検知に着目し，汎用的な特殊詐欺推定 AI の開発と，プライバシーに配慮した非接触センサーを用いることで安心して自宅に設置できる装置の実現に取り組んだ。

【方法】実験参加者：兵庫県尼崎市在住の 67～84 歳の男女 28 名が実験に参加した。「騙されそうな状態」を実験することから，初めの面談では，「日常会話に関する実験」と虚偽の内容を伝え，基本データ（年齢など），心理特性（疑いやすさ）の情報を確認した。ヘッドフォンを装着後，担当 A から日常会話の録音音声が流れた後，担当 B から特殊詐欺を模擬し，“身分証明書を提示することで，あなただけに特別に追加報酬がある”と，騙す内容の録音音声を流した。録音音声を聞いている間の生理反応と心理状態を測定した。実験後の面談で，参加者からの身分証明書提示の有無により「騙された」かを判定した。実験後は，参加者に真の内容を告知した。なお，本実験は，東洋大学社会学部の倫理委員会の審査による承認（P220065）を得たうえで実施された。

装置：生理反応の測定のため，実験参加者の前にミリ波などの非接触センサーを設置した。センサーで取得したデータから，バイタル推定技術を用いて脈拍や呼吸を推定した。また，ヘッドフォンは Evolve30II（Jabra）を使用した。実験参加者と実験者の間にはパーティションを設置し，実験参加者の視界にはなるべく実験者が目に入らないように配慮した。安全面を考慮し，カメラで実験中の実験参加者の様子を観察した。

【結果】特殊詐欺推定 AI の開発　実験で得られた 28 名のデータを用いて，目的変数を，騙されたかの有無，説明変数を，基本データ（年齢など），心理特性（疑いやすさ），心理状態（緊張・混乱），生理反応（脈拍・呼吸）にして AI モデルの学習を行った。その結果，非接触センサーで得られた生理反応を用いて「騙されそうな状態」を 75%の精度で推定可能なモデルを実現した。推定イメージを Figure 1 に示す。

スマートフォンへ通知機能　特殊詐欺推定 AI で閾値以上のリスクが推定された場合，事前に登録した家族などに対して通知ができる。Figure 2 ①では，参加者の心理状態や詐欺リスクのサマリーを可視化できる。②では詳細画面が確認できる。③では発信画面が表示できる。

【結論】ミリ波などの非接触センサーを活用することで尼崎市の参加者の「騙されそうな状態」を 75%の精度で判定することに成功した。また，本 AI を活用して特殊詐欺リスクが高い場合に家族のスマートフォンへ通知し，詐欺被害を防止する機能も開発した（Figure 3）。

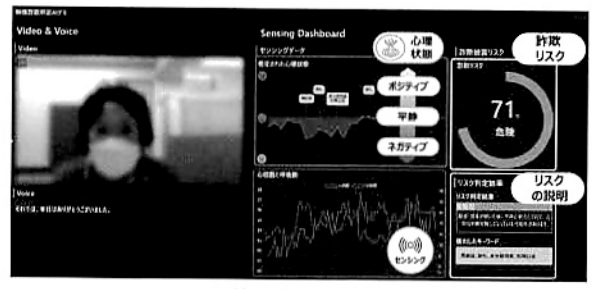


Figure 1 特殊詐欺推定 AI の適用



Figure 2 スマートフォンへ通知機能

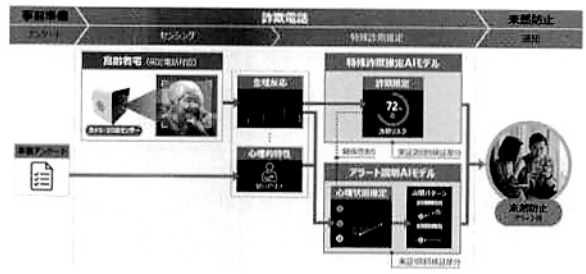


Figure 3 特殊詐欺推定 AI の全体図

【考察】本技術の実用化に向け尼崎市の高齢者宅でのモニター実験などを実施し，本 AI モデルの機能や性能の更なる向上を図る。また，開発した特殊詐欺推定 AI を防犯見守り向け都市 OS として日本全国に展開することで，最新の特殊詐欺パターンの収集，モデル更新・配布を通して，超高齢社会においても高齢者が安心安全な生活を送れる環境づくりへ貢献していく。本技術は海外の特殊詐欺の推定にも応用可能であり，海外で多発しているスマートフォンを用いた若者を標的とする特殊詐欺事例に対しても有効である。本技術を更に成長させ，グローバル社会の安心安全を実現していく。

【利益相反】本研究は著者が所属する富士通株式会社の研究費で実施された。

【引用文献】

遠藤 渉太・谷田 康司 (2020)。特殊詐欺通話の検出のための感情分析を用いた音声解析に関する検討　信学技報 NS2020-78, 120 (257), 14-19。

（ちかの めぐみ・いで けんた・こんの たけし・きりう まさゆき）

特殊詐欺防止研究 2

ディセプション型心理実験と特殊詐欺被害者が騙されるメカニズムの検討

○紺野剛史[1]　井手健太[1]　近野恵[1]　桐生正幸[2]
([1]富士通株式会社　[2]東洋大学)

キーワード：特殊詐欺，　生理反応，　心理状態

【目的】高齢者を標的とした特殊詐欺の被害は深刻である。警察庁によると，2022 年における全国の特殊詐欺の認知件数は，17,520 件であった。

これに対して著者らは生理反応や心理状態といった被害者の状態に基づく防止技術を研究してきた(紺野ら,2022)。実験参加者に特殊詐欺の犯行音声を聞かせ，生理反応や心理状態を記録し分析してきた。

こうした先行研究を発展させて騙されているときに発現する生理反応，心理状態の特徴を明らかにできれば，そうした特徴から被害の可能性を検出する技術の実現が可能となり被害の未然防止につながる。本研究では疑似的に特殊詐欺の被害状況を再現したディセプション型実験を実施し高齢者が騙されるメカニズムの分析を試みた。

【方法】ディセプション型実験により高齢者が騙されている状態を再現させて，生理反応と心理状態を分析する。

仮説　特殊詐欺の被害場面では犯人から「還付金の申請期限が今日までだ」などと言われ，心的負荷がかかり，動揺が喚起され，それにより合理的な判断が出来なくなった被害者が犯人を信用し，銀行振り込みなどの指示された行動を取る。

こうした犯行の流れを考えると，被害者が騙されるメカニズムについて次の仮説を提示できる。被害場面で被害者は，まず心的負荷の高まりから，動揺などの感情が喚起され合理的な判断が難しくなる。その後犯人を信用するので，終盤には心的負荷が低下し犯人の指示する行動を取ってしまう。

実験参加者　兵庫県尼崎市在住の高齢者 28 名(男性 14 名，女性 14 名，平均年齢 74.4 歳)が参加した。なお参加者には実験の目的，方法を事前開示せずに参加を募った。

実験装置　ウェアラブル心拍センサ WHS1(ユニオンツール)を利用し心拍数を測定した。呼吸センサ ProComp Infiniti(Thought Technology) を利用し呼吸数を測定した。

実験方法

まず，日常会話の音声を聞かせた(1 回目刺激音声)。その後，実験終了の連絡として追加報酬 2000 円とその引き換えに個人情報(身分証明書と口座情報)の提供を持ち掛ける音声を聞かせた(2 回目刺激音声)。2 回目刺激音声は，追加報酬の提案を受けている区間(詐欺区間)と事務連絡の区間(終盤区間)に分割できる。詐欺区間で事前に聞いていない追加報酬を持ち出され，緊張・混乱などの心的負荷が発生，終盤では平静に戻ることを想定している。なお各回の刺激音声終了後，　気分状態を評価する POMS2 の「緊張・混乱」心理尺度に対し口頭で回答させた。

実験終了後，追加報酬 2000 円を求め，追加の個人情報を提供した場合には，その参加者が騙されたものと判定した。その後参加者に対してデブリーフィングを実施した。

なお本実験は，東洋大学社会学部の倫理委員会の審査による承認を得たうえで実施された。

分析方法　仮説を実証するために，騙されたかどうかのダミー変数を目的変数とし，心理状態と生理反応を説明変数とするロジスティック回帰分析を実施した。

心理状態として 2 回目刺激音声終了後に記録した POMS2 緊張・混乱の回答結果を用いた。また心理特性として，騙されるかどうかと参加者個人の疑いやすさも関係していると考えられるため，参加者ごとに事前計測した猜疑心尺度を用いた。

生理反応として 2 回目刺激提示中で記録した心拍数と呼吸数を用いた。詐欺区間と終盤区間の平均心拍数，平均呼吸数を説明変数として使用した。なお生理指標は個人差の影響があるため 1 回目刺激提示中の値で参加者ごとに標準化した。

Model1 では緊張状態と心拍数，Model2 では混乱状態と心拍数，Model3 では緊張状態と呼吸数，Model4 では混乱状態と呼吸数をそれぞれ説明変数として用いた。

【結果】　Model1~4 の回帰係数の推定結果を Figure 1.に示す。騙された参加者は終了時 POMS2 緊張が有意に低値であった。POMS2 混乱と猜疑心尺度については有意な関連性はなかった。生理反応について，騙された人は詐欺区間に心拍数が有意に高値であった。一方で終盤区間では心拍数が有意に低値であった。呼吸数について有意な関連性はなかった。

Figure 1. 回帰係数の推定結果

	Model1	Model2	Model3	Model4
終了時POMS2緊張	-0.3353+		-0.2475+	
終了時POMS2混乱		-0.2162		-0.2502
詐欺区間の平均心拍数	1.6786+	0.9396		
終盤区間の平均心拍数	-0.9027+	-0.7993		
詐欺区間の平均呼吸数			0.0279	0.0179
終盤区間の平均呼吸数			0.323	0.1974
猜疑心尺度	0.014	0.0159	-0.0057	0.0072

+ $p < 0.1$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$.

【考察】騙されるメカニズムについて，仮説を支持する結果を得た。騙された人は，詐欺区間では平均心拍数が高くなっているが，これは心的負荷が高まり動揺が喚起されているものと解釈できる。一方で終盤区間では平均心拍数が低くなっていたこと，終了時 POMS2 緊張から，相対的に落ち着いている状態であることがわかった。騙された参加者は詐欺区間では緊張が高く動揺しているが，終盤区間でその内容を信用し，落ち着いていたものと解釈でき，仮説で提示した騙されるメカニズムと一致する。

また被害予防の観点で次のことが言える。猜疑心が高いと自己評価する参加者とそうでない参加者との間に騙されやすさに関して有意差がなく，猜疑心が高い人も詐欺の被害について注意を払う必要があることを分析結果は示唆している。

本研究の知見とバイタルセンシング技術を組み合わせることで，自宅で過ごす高齢者の詐欺被害を未然防止できる可能性がある。将来の実現例として，非接触に生理反応を測定できるミリ波レーダを高齢者宅に設置し，騙されている状態を検出し未然防止する技術などが考えられる。こうした技術の実現のために，今後は高精度に騙されている状態を検出できるよう，より高度な機械学習モデルを研究していきたい。

【利益相反】本研究は著者が所属する富士通株式会社の研究費で実施された。

【引用文献】

紺野剛史・吉岡隆宏・近野恵・宮原捺希・井手健太・桐生正幸（2022）．特殊詐欺未然防止の検討 1　日本応用心理学会第 88 回大会

（こんの　たけし・いで　けんた・ちかの　めぐみ・きりう　まさゆき）

若年運転者の運転意識が急ぎ運転行動に及ぼす影響

○今井靖雄[1]　蓮花一己[2]
([1]無所属　[2]帝塚山大学　名誉教授)

キーワード：若年運転者，急ぎ運転，リスクテイキング

【目的】警察庁によると，2023年度の原付以上運転者の安全運転義務違反における年齢層別の10万人当たりの交通事故件数は，16～19歳が最多で1039.2件，続いて20-24歳が597.2件，次に85歳以上が498.4件となっており，若年運転者の安全運転義務違反による事故件数は，他の年齢層と比較して多い。

若年運転者がリスキーな運転をしやすいことが指摘されているが，蓮花(2000)によると，リスク促進要因としてパーソナリティや運転態度が影響すると述べている。事故多発者のスクリーニング方法として，複数の運転適性検査を検証した松井・池田(2016)においても，運転態度や性格面による運転への影響が示されている。

一方，松井・池田(2016)は，免許取得後3年未満の人において，時間に余裕がない行動を行っている群の存在を示している。急ぎ運転によって，事故リスクが高まることを示した研究はあるものの，急ぎ運転による行動の変化に対して，運転態度や性格面の影響について調べたものは少ない。

中村・島崎・石田(2013)によると，交通行動の自己評価は過大評価されやすいことが指摘されていることから，急ぎ運転という特殊な状況において，特に自分の運転の危険性を把握できていない可能性がある。

本研究の目的は，若年運転者のリスキーな運転意識が，急ぎ運転の行動に及ぼす影響を検討することである。

【方法】

実験は2015年12月16日に京都府A教習所で実施した．実験参加者は，運転免許を保有した大学生および大学院生11名(男性7名，女性4名)および男性社会人1名(19歳)の計12名(平均年齢=22.00歳，SD=3.86)であった．

質問紙

フェイスシートでは，年齢・性別・運転頻度・免許歴をたずねた。運転に対する態度に関しては，石橋・大桑・土居・赤松(2008)が作成したDriving Style Questionnaire(DSQ)の全16項目のうち，飯田・小柳・多田(2010)にしたがって，運転特性を把握することができるとされる8項目を使用した(4件法)。実験参加者の日常場面におけるリスクテイキング傾向を調べるため，リスクテイキング尺度(森泉・臼井，2011)15項目を使用した(5件法)。最後に，実施した自身の急ぎ運転の危険度を0から100で点数を付けた。

実験装置

実験車両としてアクセラAT車(マツダ)を用いた。運転行動を確認するため，車両の前方，運転者，ブレーキと指示器の使用時に点灯する計器をドライブレコーダーによって，録画した。4つの映像は，4分割器DVR-101S(塚本無線)によって，1つの動画として記録された．

指導員評価

指導員が運転行動を評価するための運転評価チェックシート(“1，できていない”から“5，非常によくできている”の5件法)を作成した．運転評価チェックシートの項目は，交差点左折時の“合図”“進路変更”“巻き込み確認”，交差点右折時の“合図”“進路変更”“通行位置”“対向車確認”，見通しの効かない交差点通行時の“速度”“安全確認”，カーブ走行時の“速度”“走行位置”，一時停止場所の“停止位置”“安全確認”，狭路通行時の“速度”“走行位置”，発進・停車の“安全確認”“方法”“総合評価”の18項目であった．

走行コース

山城田辺自動車教習所内にて，一時停止，S字コース，見通しの悪い交差点を含む走行コースを設定した．

手続き

実験参加者は事前に調査概要の説明をうけ，同意したうえで実験に参加した．実験参加者は，フェイスシートへ回答を行った後，教習所内のコースにて実車走行実験を行った．実車走行実験の際，指導員は助手席に同乗し，運転評価チェックシートを用いて，実験参加者の運転を評価した．実験参加者は練習走行として，外周を一周した．以後の内周を含めた2周が本番走行であり，一周は“普段通りの運転を心掛けた運転”，もう一周は“できるだけ早いペースで急いだ”急ぎ運転を想定した運転をするよう教示した．急ぎ運転状況を作るため，丸山・加藤・桜井(1987)にならい、教示による場面想定法を用いた．通常運転と急ぎ運転の順番は，実験参加者間でカウンターバランスをとった．

行動指標

運転行動指標として，観測地点通過時の確認回数，確認時間および動作先行に関する指標をカウントした．具体的に，確認回数は左右の首ふり確認と眼球運動のみの確認をカウントした．確認時間は，各観測ポイントにおいて最初の確認行動の始まりから終わりまでとし，確認と操作が同時にあった場合，進行方向に向き終わるまでをカウントした．動作先行の判断は，確認行動が終わるよりも，車の動き出しが早かった場合を動作先行とした．

解析方法

運転行動は，設置したドライブレコーダーの動画から情報を収集した．収集された情報は，コース上の14か所のポイント(一時停止箇所・右左折箇所)通過時の確認回数・確認時間・走行時間・動作先行を解析した．

【結果】

通常運転時と急ぎ運転時の行動の関連を見るため，指導員の総合評価，ラップタイム(内周・外周・全周)，確認回数，動作先行に相関分析を行った。その結果，多くの相関が得られた(例，全周ラップタイムではr=.90 , p<.01)。

通常運転時と急ぎ運転時の行動と質問紙の関連を見るため，相関分析を行った。その結果，リスクテイキング尺度においては，確信的敢行性と通常運転時の指導員の総合評価においてのみ負の相関が得られ，いけないことだとわかっていても実行するほど，指導員評価が低かった(r = -61, p <.05)。DSQにおいては，有意傾向も含めると，複数の運転行動と相関が得られた(例，車へのこだわり因子と全周ラップタイムではr=-68 , p<.05)。

【考察】

通常運転時と急ぎ運転時の行動に相関が得られたことから，初心運転者において、通常時の運転行動は，急ぎ運転時の運転行動になりやすいことが示された。

質問紙と運転行動との関連に関しては，DSQの影響が示され，若年運転者においては，運転に対する態度が運転行動に影響しやすいと示唆できる。本研究で使用したリスクテイキング尺度は，日常場面に特化したものであり，運転場面におけるリスクテイキング傾向とは異なる要素がある可能性が考えられた。

【利益相反】本研究に利益相反は無い。

競争心が大学生アスリートの心理的スキルに及ぼす影響

○青木滉一郎[1]　種ケ嶋尚志[2]
([1]日本大学スポーツ科学部研究所　[2]日本大学スポーツ科学部)
キーワード：競争心，心理的スキル，競技力向上

【目的】

競争心は，競争への志向性および行動の意図に基づく多面的な分類がなされている（太田，2010）。先行研究（種ケ嶋，2022）では，別の目的のために競争を利用する「手段型競争心」と「競技意欲」，「自信」，「作戦能力」，「協調性」が正の相関を示すことが明らかにされた。競技力向上を見据えて，これらの心理的スキルの獲得を促す際には，適切な競争心を養うための指導も重要になると考えられる。しかし，個々人の競技レベルなどの特性に応じて，競争心が心理的スキルの獲得に及ぼす影響は，未だ明らかにされていない。

本研究では，大学生アスリートの競争心が心理的スキルの獲得に及ぼす影響を明らかにすることを目的とし，質問紙調査の結果から，競技レベルに応じた競争心の心理的スキルへの影響について分析した。分析結果をもとに，競技力向上につながる競争心の育成指導のあり方について検討した。

【方法】

1．調査対象者

首都圏の大学に通うスポーツ専攻学生（1～4年生）198名の内，有効な回答であった153名（男性104名，女性49名）のデータを分析に使用した（有効回答率77.3%）。

2．調査期間：2023年4月～5月

3．調査内容：対象者には事前に説明を行い，同意が得られた者にのみ以下の調査への回答を求めた。

(1) フェイスシート

(2) 多面的競争心尺度：太田（2010）が作成した5因子（手段型競争心，負けず嫌い，社会的承認，過競争心，競争回避）21項目から構成されている質問紙を用いた。

(3) 心理的競技能力診断検査（DIPCA.3）：徳永ら（1991）が作成した心理的競技能力の5因子（競技意欲，精神の安定・集中，自信，作戦能力，協調性）52項目から構成されている質問紙を用いた。

フェイスシートでは，対象者が高校生時に出場した最もレベルの高い競技大会について調査を行い，国際大会または全国大会と回答した95名を「競技レベル高群」，関東，九州などの地域大会，県大会，地区大会のいずれかを選択した58名を「競技レベル低群」に分類した。

調査結果をもとにDIPCA.3の総合得点を算出し，競技レベル高群・低群の間でt検定による比較を行った。また，DIPCA.3と多面的競争心尺度の各因子の得点の間で相関分析を行った。さらに，競技レベル高群・低群における多面的競争心尺度の得点を独立変数，DIPCA.3の得点を従属変数とする重回帰分析（ステップワイズ法）を実施した。

【結果】

相関分析の結果，「手段型競争心」はDIPCA.3のすべての因子と有意な正の相関を示し，「負けず嫌い」は「競技意欲」，「自信」，「作戦能力」と有意な正の相関を示した。「社会的承認」は「精神の安定・集中」以外の4因子と有意な正の相関を示し，「過競争心」は「競技意欲」，「自信」，「作戦能力」と有意な正の相関，「精神の安定・集中」と有意な負の相関を示した。「競争回避」は「競技意欲」，「精神の安定・集中」と有意な負の相関を示した。

競争心がアスリートの心理的スキルに及ぼす影響を明らかにするため，重回帰分析を行った結果，「精神の安定・集中」については，競技レベル高群では「負けず嫌い」，「競争回避」が負の影響を及ぼし（Figure 1），競技レベル低群では「手段型競争心」が正の影響，「過競争心」，「競争回避」が負の影響を及ぼすことが示された（Figure 2）。

【考察】

分析の結果，競技レベルの高群と低群では，競争心が心理的スキルに対して異なる影響を及ぼすことが示された。低群では「精神の安定・集中」に「手段型競争心」が正の影響，「過競争心」が負の影響を示すのに対し，高群では「精神の安定・集中」に「負けず嫌い」が負の影響を示していると推察される。また，「競争回避」は，高群・低群ともに「精神の安定・集中」に対して負の影響を及ぼしていた。

「競争回避」は「私は競争的な状況に不快感を感じる」などの項目からなり，競争を避けようとする意識を表す。このような意識が競技場面での集中を妨げている可能性がある。また，「過競争心」は「人より勝るためには手段を選ばない」という意識・態度であり，そのことが原因となって情緒を不安定化させることが予見されるため，自らのプレーに意識を向けさせるなど，マインドフルネスの視点を取り入れた支援が考えられる。これに加えて，低群のアスリートには，ライバルがいることでお互いを高め合うといった「手段型競争心」を醸成する言語的指導を行うなど，本研究の競争心に関する知見を競技場面へ活用することが期待できる。

【利益相反】

本研究における利益相反は存在しない。

【引用文献】

太田伸幸. (2010). 多面的競争心尺度作成の試み. 現代教育学部紀要, 2, 57-65.

種ケ嶋尚志. (2022). 競争心と心理的スキルとの関連に関する研究. 日本応用心理学会 第88回大会.

徳永幹雄, 金崎良三, 多々納秀雄, 橋本公雄, 高柳茂美. (1991). スポーツ選手に対する心理的競技能力診断検査の開発. デサントスポーツ科学, 12, 178-190.

（あおき こういちろう・たねがしま ひさし）

Figure 1 重回帰分析の結果（競技レベル高群）

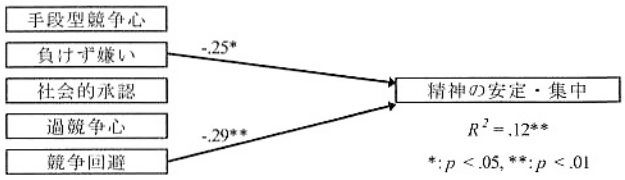
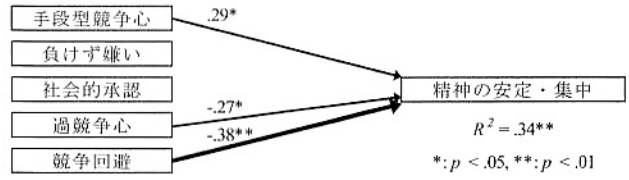


Figure 2 重回帰分析の結果（競技レベル低群）



弓道に対するイメージ

濱　保久
（北星学園大学　文学部　心理・応用コミュニケーション学科）
キーワード：弓道、アーチェリー、和

【研究の目的】

弓道の起源は言うまでもなく戦の武器である。しかし、鉄砲の台頭により飛び道具としての優位性は急速に失われ、江戸時代には武術としての位置づけも形式的ものになった。明治時代に入ってから武士だけでなく庶民も矢場で娯楽としての楽しむようになっていったが、裏で売春などが横行したこともあって武術とは対極のいかがわしいイメージが伴うこともあった。しかし、武士の鍛錬を目的とした弓術は 1929 年に弓道と名前を変えて、現在は世界約 23 か国で 14 万人もの人に愛好されるようになった。しかも、コロナ禍において我が国において弓道人口は増加の兆しすら見せている。そこで、現在の若者が弓道にどのようなイメージを持っているのかを明らかにしたいと考える。

【質問紙調査とグループインタビュー】

1．質問紙調査

1）調査対象者

北星学園大学産業心理学受講者 54 名

2）質問項目

弓道、剣道、サッカー、アーチェリーに対するイメージを、「かっこいい」、「真面目な」、「激しい」「知性のある」の 4 項目それぞれについて 7 件法（1：全くあてはまらない～7：とてもよくあてはまる）で回答を求めた。

3）結果・考察

「かっこいい」について：

弓道・剣道・サッカー・アーチェリーの各スポーツ種目に対して、「かっこいい」というイメージがあてはまる程度を評定させた回答値に基づいて、繰り返しのある 1 要因の分散分析を行った（弓道（M = 6.185, SD = .112）、剣道（M = 5.685, SD = .177）、サッカー（M = 5.333, SD = .191）、アーチェリー（M = 5.278, SD = .193））。その結果、スポーツ種目の主効果が有意であった（F = 10.27, df = 3, P < .001）。そこで、さらに多重比較（ボンフェローニ（Bonferroni）法）を行ったところ、弓道と剣道の間に 5%で有意な差が認められた。また、弓道とサッカー、弓道とアーチェリーの間に 1%で有意な差が認められた。つまり、弓道が最も「かっこいい」イメージを抱かれているということである。

当初、人気スポーツであるサッカーが最も「かっこいい」と思われていると予想していたので、この結果は正直意外であった。カタール・ワールドカップで盛り上がり、日本代表のことも含めて複数のメディアでカタール・ワールドカップのことについて取り上げていたので、この点については不思議に感じた。また、武道という意味においては同種の剣道と、的を射るという意味においては同種のアーチェリーと比べても弓道の方が「かっこいい」と思われている本結果は、弓道が醸し出している独特の雰囲気に原因があるように思われる。詳しくは聞き取り調査のところで改めて考察したい。

「真面目な」について：

「かっこいい」項目と同様に分析を行った（弓道（M = 6.491, SD = .113）、剣道（M = 6.396, SD = .112）、サッカー（M = 3.811, SD = .189）、アーチェリー（M = 5.132, SD = .164））。その結果、スポーツ種目の主効果が有意であったので（F = 104.84, df = 3, P < .001）、さらに多重比較（ボンフェローニ（Bonferroni）法）を行ったところ、弓道とサッカー、弓道とアーチェリー、剣道とサッカー、剣道とアーチェリー、サッカーとアーチェリーの間に 1%で有意な差が認められた。つまり、弓道と剣道が強く「真面目な」イメージを抱かれているということであり、サッカーは対照的に「真面目な」イメージを抱かれていないということである。

サッカーに対するネガティブイメージについては後でまとめて考察するが、弓道とアーチェリーでは大きな差はないと予想していたのでこの結果は意外ではあったが、弓道と剣道がどちらも強い「真面目な」イメージで捉えられていることとあわせて考えると、どうやら日本的なものに対して若者が反応しているようである。

「激しい」のイメージについて：

「かっこいい」項目と同様に分析を行った（弓道（M = 2.698, SD = .201）、剣道（M = 6.075, SD = .117）、サッカー（M = 6.396, SD = .106）、アーチェリー（M = 3.113, SD = .215））。その結果、スポーツ種目の主効果が有意であったので（F = 172.70, df = 3, P < .001）、さらに多重比較（ボンフェローニ（Bonferroni）法）を行ったところ、弓道と剣道、弓道とサッカー、剣道とアーチェリー、サッカーとアーチェリーの間に 1%で有意な差が認められた。つまり、剣道とサッカーが最も「激しい」イメージを抱かれているということであり、弓道とアーチェリーが同程度に「激しい」イメージを抱かれていないということである。

この結果は予想通りのものであった。弓道あるいはアーチェリーの経験者であれば狙いを定めている時間に相当の筋力を要することは知っているが、それでも傍目からみればやはり静的なスポーツで、なんといっても身体接触の有無が決定的な差をつけたものと思われる。

「知性のある」イメージについて：

「かっこいい」項目と同様に分析を行った（弓道（M = 6.111, SD = .142）、剣道（M = 5.852, SD = .133）、サッカー（M = 4.630, SD = .215）、アーチェリー（M = 5.278, SD = .162））。その結果、スポーツ種目の主効果が有意であったので（F = 23.10, df = 3, P < .001）、さらに多重比較（ボンフェローニ（Bonferroni）法）を行ったところ、剣道とアーチェリーの間に 5%で有意な差が認められた。また、弓道とサッカー、弓道とアーチェリー、剣道とサッカーの間に 1%で有意な差が認められた。つまり、弓道と剣道が強く「知性のある」イメージを伴っている一方で、対照的にサッカーは残念な結果におわったということである。

2．グループインタビュー

質問紙調査の結果について学生 5 名で自由に話し合わせたところ、サッカーに対するネガティブイメージは、サッカー競技そのものに対してというより、高校時代に出合ったサッカー部の部員に対するイメージが強く作用しているのではないかということであった。また、弓道についても同様のことが言え、弓道をしている人はチャラチャラしていないというステレオタイプな思い込みがあるようだ。剣道についても硬派なイメージは付帯しているが、弓道の方がかっこいいと思われている点に、単なる若者の和風回帰を超えた弓道の所作が醸し出す凛とした風格の効果が働いているように思う。

本研究の遂行に当たり岩崎隼人氏の多大なる貢献を得た。ここに記して謝意を表す。　　（はま　やすひさ）

悲観主義者による困難対応と well-being の関係

○アニーシャ ニシャート
（創価大学教育学部）

キーワード：悲観主義，困難対応，well-being

【目的】本研究の目的は，半構造化面接を通して，悲観主義者による困難対応の在り方および悲観主義者と well-being の関係を明らかにすることにある。
第１に，質的分析を通して，悲観主義者が困難に遭遇した際に困難をどのようにとらえて対応しているかを考察し，悲観主義者の対応の仕方の背後にある well-being 要因や悲観主義要因を明らかにする。第２に，悲観主義者による well-being 獲得の有無を明らかにし，well-being を獲得できていない場合，その原因は何なのかについて生成された要因から考察する。

【方法】1.　調査時期：2019 年 7 月～8 月
2. インタビューの手続き：東京の A 私立大学の通信教育生 3 名および一般成人 1 名(男性 1 名，女性 3 名の計 4 名，年齢は 43～73 歳)。データは修正グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いて分析された。

【結果】M-GTA を用いてデータ分析をおこなった結果，well-being および悲観主義が 2 つのグループとして生成された。well-being(幸福感)関連では、「自己否定」「希薄な人間関係」「人生の意義の浅い熟慮」「受け身の生き方」および「乏しいレジリエンス」の５つのカテゴリーが生成された。「自己否定」カテゴリーからは「自己肯定感がない」「充実感・達成感がない」の 2 概念が，「希薄な人間関係」カテゴリーからは「他者による無理解」「他者による否定的評価」の 2 概念が，「人生の意義の浅い熟慮」カテゴリーからは「人生の意義についての意識の低さ」「観念的な利他の思い」の 2 概念が，「受け身の生き方」カテゴリーからは「観念的な幸福の価値」「困難の否定的とらえ方」の 2 概念が，そして「レジリエンス」カテゴリーからは，「困難から回復できない」の概念が生成され，いずれの概念もネガティブな内容であった。また,これらの各概念は相互に否定的に関連していることが判明した。
次に，悲観主義については，「未来への不安」「乏しいしなやかさ」「弱気・逃避的」の３カテゴリーが生成された。「未来への不安」カテゴリーからは「明るい見通しや希望を持てない」の概念が，「乏しいしなやかさ」カテゴリーからは「柔軟に気持ちを切り替えられない」の概念が，「弱気・逃避的」カテゴリーからは「困難に正面から向き合えない」の概念が生成され，いずれもネガティブな内容であった。
また，悲観主義および well-being の各概念は相互にネガティブに作用していることが判明した。例えば，調査協力者が「困難に正面から向き合えない」ことが，「明るい見通しや希望を持てない」ことや「困難の否定的とらえ方」などに影響している。

【考察】本研究の結果として，調査協力者の語りはいずれも弱々しく，躍動感など人間に内在する「人間の強さ」が感じられなかった。調査協力者にとって，困難は自身を苦しめる要因でしかなく，成長の因と捉えることができていない。また，悲観主義者による well-being 獲得の有無を明らかにしようと考察したが，結果として，悲観主義者は自身の困難への対応で精一杯であり，困難を克服できておらず，well-being も獲得できていない状態であると思われる。その理由は，悲観主義者の心理状況，思考，行動の在り方全般が深く関わっており，悲観主義者はネガティブ要因の相互作用によって負の循環に陥っている可能性が高いと思われる。Hecht (2013) は悲観性の基盤である右脳の機能を図示し，例えば，“私はそれを効果的にすることができない”という思いは，「不安」や「不満」につながり，「不安」は物事を悪く予測する「悲観」や「早すぎる諦め」につながり，「早すぎる諦め」は「失敗」につながり，「失敗」は“私は自分の運命に対して何ら影響力を有していない”との思いや「悲観」につながるなど，ネガティブな要因が相関関係にあることを示している。
本研究の結果においても，悲観主義者がネガティブなレンズで世界を見ていること，困難との取り組みにおいて反応停止，逃避，回避方略といった相対的に受け身の姿勢であることのほか，悲観，不安，不満，諦めなどの負の循環に陥っていることが示されている。
本研究ではまた，分析を通して悲観主義者が悲観的傾向から脱するためのヒントを提示しようと試みた。結果として，あらゆる側面がネガティブな状態にあり，自ら立ち上がることは容易ではないと思われる悲観主義者に対しては，外からの働きかけが重要なカギになると考えられ，本人の希望の有無にかかわらず柔軟かつ積極的に関わるといった家族や周囲の配慮が望まれる。その際，悲観主義者は概ね人間関係が希薄という状況があるものの，自力で立ち上がれない故に外からの働きかけが不可欠と思われる。また，各要因の中でも「自己否定」「弱気・逃避的」「乏しいレジリエンス」が悲観主義者の課題かと思われる。これらは幼少時代からの体験を通じて獲得される部分も多いと考えられるので，教育・家庭環境において子供の言動を「肯定的に評価する」「具体的な言葉でほめる」といった工夫や，粘り強く課題に取り組めるような工夫を考慮していくことが適当と思われる。
パーソナリティにおけるストレス関連の変化について縦断的に研究した Shields, Toussaint, Slavich (2016)は，パーソナリティ特性の要素は変わることができるとの最近の研究報告について考察するために，悲観レベルの高い調査協力者について調査し，その結果，縦断研究の最適なモデルは潜在曲線モデルであり，原因ないし変化が生じる時間的順序は不明であるが，ストレスおよび悲観性の両方とも数週間で変化するという変動性を示したと報告している。この結果は悲観的な人もストレスを軽減することにより時間的経過とともに変われる可能性を示唆しているようである。したがって，本研究との関連で言えば，変わるための内外からの動機づけ，すなわち，変わろうという意志を自ら持つこと，自ら行動を起こすこと，他者からの働きかけを受けること，などの有効性を示唆するものではないかと思われる。
【今後の課題】本研究では，低い楽観主義得点者は 4 名にとどまり，調査協力者数として十分とは言えないので，将来においてより多数の調査協力者を対象とする研究が望まれる。

【利益相反】本研究に利益相反はない。

（あにーしゃ・にしゃーと）

「諦めたら試合終了」とは限らない

楽観性と自分への優しさによる建設的な諦め方

○本多麻子
（東京成徳大学応用心理学部）

キーワード：適応的諦観，挫折経験，楽観性，セルフ・コンパッション

【目的】

目標が達成できず，不本意な結果となることは多かれ少なかれ共通の経験であるだろう。挫折経験は「学業，人間関係，部活動などが中途でくじけてだめになること，やり遂げる意欲や気力をなくすこと」と定義できる（姜・清沢, 2017）。挫折はストレスフルで不本意な経験であるものの，その意味づけによりポジティブな変容が導かれ，成長することができる（姜・清沢, 2017）。ストレス・コーピング方略において諦めることはネガティブで非適応的であるとされてきたが，建設的な諦めのプロセスがある。諦めのプロセスは未練型，割り切り方，再選択型に分類され，割り切り型と再選択型は建設的な諦めのプロセスである（菅沼, 2015）。適応的諦観とは「自己や状況のネガティブな側面をそのまま受け入れつつも，そこにこだわらない前向きな態度」と定義される。適応的諦観は楽観的な諦観をもって思い悩まないという認知的態度であり，精神的健康の向上のためのレジリエンス要因としてとらえられる（菅沼他, 2018）。また，セルフ・コンパッションとは「傷ついた他者をいたわるように，自分に対して慈しみの気持ちを向けること」である（Neff, 2003; 有光他, 2016）。セルフ・コンパッションには自分への優しさ，共通の人間性，マインドフルネスという肯定的側面と，自己批判，孤独感，過剰同一化という否定的側面がある。挫折経験に対する適応的諦観とセルフ・コンパッションを扱った先行研究は数少ない。本研究では挫折経験に対する適応的諦観とセルフ・コンパッション，楽観性および悲観性の関連を検討する。

【方法】

対象者　大学生 282 名（平均 19.8±1.4 歳）であった。研究実施に際し，大学内の研究倫理審査委員会の承認を得た。

調査時期　2021 年 9 月から 11 月であった。

調査票　適応的諦観尺度（菅沼他, 2018），セルフ・コンパッション尺度日本語版の短縮版（有光他, 2016），楽観・悲観性尺度（外山, 2013）を用いた。フェイスシートでは年齢，性別を記入させた。不本意な出来事の内容について，学業，人間関係，継続してきたこと，その他から選択させた。目標に対する難易度，重要度，努力度についてそれぞれ 5 段階（0, 25, 50, 75, 100 %）で回答させた。

調査手続き　大学の授業において集団式で実施した。あるいは個別に調査票を配布し，記入後に回収した。

分析方法　適応的諦観，セルフ・コンパッション，楽観性，悲観性の各得点を算出し，相関を求めた。セルフ・コンパッション，楽観性，悲観性を説明変数，適応的諦観を目的変数として重回帰分析を行った。

【結果】

相関の結果を表 1 に示した。適応的諦観はセルフ・コンパッションと中程度の正の相関があり，楽観性と比較的強い正の相関があり，悲観性と中程度の負の相関があった。

表1　適応的諦観と各得点の相関

	セルフ・コンパッション	楽観性	悲観性
適応的諦観	.57**	.67**	−.58**

**p <.01

重回帰分析の結果を表 2 に示した。セルフ・コンパッションと楽観性は適応的諦観を有意に予測していた（R^2 = .496；セルフ・コンパッション：b = 0.33, SE = 0.07, β =.27, t (278) = 4.80, p = .000；楽観性：b = 0.40, SE = 0.06, β =.50, t (278) = 7.09, p = .000）。悲観性については有意な影響はみられなかった（b = −0.01, SE = 0.06, β = −.02, t (278) = 0.22, p = .819）。

表2　重回帰分析の結果

	適応的諦観	
セルフ・コンパッション	.265 **	
楽観性	.501 **	
悲観性	-.017	
R^2	.496 **	**p<.01

【考察】

適応的諦観は楽観性とセルフ・コンパッションとそれぞれ正の相関があり，悲観性と負の相関があった。挫折経験について，ネガティブな側面を受容しつつもそこにこだわらない前向きな態度が高いほど，自分に対して優しく接し，慈しみの気持ちを向けること，将来について楽観的に考え，悲観的に考えすぎないことが明らかとなった。重回帰分析の結果，楽観性とセルフ・コンパッションは適応的諦観を予測した。悲観性は適応的諦観を予測しなかった。挫折経験に対して，楽観的な諦観をもって思い悩まない認知的態度や，過度に自分を責めず，自分に対して優しく接し，慈しみの気持ちを向けることは建設的な諦めを予測すると考えられる。挫折経験において諦めのプロセスを考慮すると，セルフ・コンパッションと楽観性は，ネガティブな出来事を活かし，うまく現実と折り合いをつける割り切り方や，違う目標に前向きに向かうきっかけとなる再選択型の建設的な諦めをもたらすと示唆された。

【引用文献】

有光 興記・青木 康彦・古北 みゆき・多田 綾乃・富樫 莉子 (2016). セルフ・コンパッション尺度日本語版の 12 項目短縮版作成の試み　駒澤大学心理学論集, 18, 1-9.

姜 信善・清沢 彩夏 (2017). 挫折経験のとらえ方が個人に及ぼす影響についての検討　富山大学人間発達科学部紀要, 11, 1-11.

Neff, K. D. (2003). Ten development and validation of a scale to measure self-compassion. *Self and Identity*, 2, 223-250.

菅沼 慎一郎 (2015). 青年期において諦めることはどのように体験されるか―プロセスに着目して―　発達心理学研究, 26, 23-34.

菅沼 慎一郎・中野 美奈・下山 晴彦 (2018). 精神的健康における適応的諦観の意義と機能　心理学研究, 89, 229-239.

外山 美樹 (2013). 楽観・悲観性尺度の作成ならびに信頼性・妥当性の検討　心理学研究, 84, 256-266.

【利益相反】利益相反はありません。

（ほんだ あさこ）

花を用いた心理療法で作成された生け花画像の評価に関する検討

○内田誠也[1]　田中英明[1]　本村明嘉[2]（非会員）
（[1]一般財団法人 MOA 健康科学センター　[2]一般社団法人 MOA インターナショナル）

キーワード：心理療法、花画像、評価法

【目的】アメリカのアートセラピー協会によれば、アートセラピーは対象者の認知機能と感覚運動機能を改善し、自尊心と自己認識を育み、感情的な回復力を養い、洞察を促進し、社会的スキルを高め、葛藤と苦痛を軽減および解決し、社会的および生態学的変化を促進するために使用されると説明している。アートセラピーの研究は、統合失調症、外傷関連障害、躁うつ病、双極性障害（Mathew C, et al、2019）、認知症患者（Bree C, et al、2014）の患者に対して症状の改善効果が報告されている。

都内にある統合医療認定施設では、精神疾患の患者に対して、花を用いた精神療法がおこなわれている。画材を花に置き換え、花を用いて造形しているのでアートセラピーに類似していると考えられる。花を用いた精神療法では、自然のエネルギーを吸収して育つ花を用いて、人間の自然治癒力を高め、心身の調整を図ろうとすることを目的としている。具体的に、患者とその保護者がペアとなって、各々が一輪の花をいけ、それぞれがいけた花を一緒に配置して、鑑賞し、語り合いながら楽しむ方法である。本療法の特徴として、一輪の花のいけ方による情報だけではなく、患者と保護者がいけた花の配置した位置によって、両者の関係性が示される情報が含まれていることである。仮説として、それらの作品を定量評価することで、患者の心理状態や保護者との関係を評価できると考えた。

本研究の目的は花を用いた心理療法で作成された生け花画像を評価する方法を検討することである。

【方法】本研究は、当財団の倫理審査委員会から承認され、患者およびその保護者に研究の詳細を書面で説明し、同意を得て実施した。

精神疾患患者(40 歳代)とその保護者(70 歳代)が、施設で花を用いた心理療法を 2018/7/20(初回)、2022/10/21（2 回目）、2022/11/25（3 回目）、2022/12/16（4 回目）、2023/1/28（5 回目）の 5 回体験した。花を用いた精神療法を体験した時に、患者が花を 2 杯いけ、保護者が花を 2 杯いけた。まず、患者が 4 杯の花を配置し、全体を写真撮影した。次に保護者が 4 杯の花を配置し、全体を撮影した。

分析方法について、距離分析と印象評価分析を行った。距離分析について写真画像には 4 杯のいけ花が写っており、それらの花瓶および花の位置を実測した。次に各々の距離を算出し、平均距離と患者―保護者間距離を算出した。印象評価分析について、２０項目の画像の印象を問うアンケートを作成し、回答は「あてはまる」、「少しあてはまる」「あてはまらない」の 3 択とした。評価者は 4 名（男性 2 名、女性 2 名）であり、患者や保護者と面識がなく、患者の状態の情報を知らない状況で、回答した。４名の平均値を花画像の印象評価とした。

【結果】表 1 に花器の平均的な距離、保護者と患者の距離、印象評価得点の推移を示す。初回の花画像では、患者および保護者の配置の距離は短く、密集している状態であったが、5 回目には徐々に距離が離れていった。患者の画像について、患者－保護者間距離は 2 回目が最も短く、4 回目の画像では最も長くなった。保護者の画像では、初回の画像が最も短く、4 回目の画像では最も長くなった。患者および保護者の花の印象評価得点について、初回が最も低く、次に 4 回目が低く、5 回目が最も高かった。

初回の患者の状態は、前の主治医の死から悲観的なことが引き出されたと述べ、保護者は患者の件で疲れていたが、両者とも花を生けて癒された。2 回目の患者の状態は家族関係でモヤモヤすると述べていたが、切り替えが早くなってきた。保護者は患者のことで少し疲労感が見られたが、花を生けた後に癒された。3 回目の患者の状態は忙しく疲れていると述べていたが、調子は安定していた。保護者は忙しく体調を崩したことで、患者の頼もしさを実感した。4 回目の患者の状態は、悲しいことが重なり、不安定だが、切り替えが早くなってきた。保護者は少し疲労感が見えたが、花を生けて癒された。「今まで寄り添うように並べていたが、前回辺りから、意識が変わった。人間を見る目と一緒であり、花を通して学ばされる。」と述べた。5 回目の患者の状態は前回から今回までの間に親子間の衝突があり、前回の不安定さが続いている状態だったが、切り替えは早くなった。保護者の状態は、親子間の衝突あり、体調が悪かった。しかし、疲れていたからこそ、花を生けて癒され、花の力を実感された。

Table 1 花器の平均的な距離、保護者と患者の距離、印象評価得点の推移

	配置		初回 2018/7/20	2回目 2022/10/21	3回目 2022/11/25	4回目 2022/12/16	5回目 2023/1/28
平均距離 (cm)	患者	平均値	5.6	8.3	7.3	9.1	7.8
		SD	2.0	4.0	3.0	4.0	3.4
	保護者	平均値	3.6	6.5	6.4	6.2	6.4
		SD	1.0	2.8	2.2	2.7	2.2
患者－保護者間距離 (cm)	患者	計測値	4.8	0.9	8.1	10.3	8.8
	保護者	計測値	1.6	5.4	5.8	7.0	6.4
印象評価得点 評価者数4名	患者	平均値	33.8	44.3	44.3	39.0	48.5
		SD	3.4	8.1	6.3	9.1	1.3
	保護者	平均値	38.0	44.5	44.5	38.8	47.3
		SD	7.5	5.4	5.2	6.2	3.3

【考察】初回と 4 回目の花画像の印象得点が低かった。初回の時、患者は前の主治医の死の影響から悲観的な状態になり、保護者も患者の対応で疲れている状態だった。4 回目の時、患者は悲しいことが重なり、不安定であり、保護者も影響を受けていた。そのような状態でいけた花であるので、印象評価が低かった可能性がある。保護者が配置する患者－保護者間距離が、初回と比較し徐々に大きくなった。4 回目の保護者の発言から、寄り添うように配置してきたことを認識し、その後、意識の変化がみられたことから、花の配置の距離に影響した可能性がある。

本研究は、一症例に関する分析であるが、患者と保護者の心理状態がいけ花の配置に影響し、客観的に分析できる可能性が示唆されたと考える。今後は、例数を増やして検討したい。

【利益相反】本研究に関する利益相反（conflict of interest; COI）はありません。

【引用文献】

Mathew C., William B. R. & Xiaoduo F.(2019). Creative art therapy for mental illness. Psychiatry Res, 275:129-136.

Bree C., Angel D. & Anjan C. (2014). Art therapy for Alzheimer's disease and other dementias. J Alzheimers Dis, 39(1):1-11.

（うちだ　せいや・たなか　ひであき・もとむら　はるか）

「いい子」傾向がある者の心理的不適応について

○関谷美希[1]　村井あかり[1]　山口舞[1]　岡本吉生[1]
([1]日本女子大学大学院)
キーワード：いい子，過剰適応，葛藤

【目的】

本研究では、表面上は適応的に見える「いい子」に焦点を当て、「いい子」の抱える心理的不適応を検討することを目的とする。フォーカスグループインタビュー調査より、「いい子」は内的葛藤を引き起こしており、「嫌われたくない」といった動機が根底にあることが示された。そこで、自己を傷つきから守りたいという自己愛に基づく利己的動機が「いい子」としての行動に繋がり、その結果として心理的不適応を引き起こしていると仮説を立て、これを検証する。

【方法】質問紙調査

1)調査対象者：20～50代男女445名
2)調査時期：2023年5月
3)調査方法：インターネットのアンケートフォームを利用し質問紙を配布した。
4)使用尺度：「過剰適応尺度」(桑山,2003),「自己愛的脆弱性尺度短縮版尺度」(上地・宮下,2009),「Stress Response Scale-18（SRS-18)」(鈴木・嶋田・三浦・片柳・右馬埜・坂野,1997),「自尊感情尺度」(山本・松井・山成,1982)
5)分析の手続き：各尺度について「全く当てはまらない」から「よく当てはまる」の5件法で回答を求め、得られたデータを*SPSS*にて解析した。

【結果】

各尺度に関する質問項目について得点分布を確認したところ、全ての項目において大きな偏りは見られなかった。そこで、全項目を分析対象として、主因子法による因子分析を行った。「過剰適応尺度」では固有値の変化から2因子構造が妥当であると解釈した。十分な負荷量を示さなかった1項目を削除し、最終的に16項目2因子が抽出された。第一因子は「周りの人たちの評価が気になって、自分のしたいように行動できない」「間違ったことをしたり、言ったりするのが怖くて、引っ込み事案になる」といった10項目から成り立っており、自信のなさや左右のされやすさといった自己に関する項目が高い負荷量を示していた。そこで、先行研究に倣い「対自因子(α=.884)」と命名した。第二因子は「親や先生の期待にはできるだけ応えるように頑張る」「たいていの規則には従っている」といった6項目から成り立っており、周囲に良い印象を与えようとする他者指向性に関する項目が高い負荷量を示していた。そこで、「対他因子(α=.751)」と命名した。これらは先行研究（桑山,2003）と一致する結果であり、α係数は十分な値を示した。「自己愛的脆弱性尺度短縮版」では、固有値の変化から3因子構造が妥当であると解釈した。20項目から成り立っており、第一因子は「まわりの人に対して“もっと私の発言を尊重してほしい”と思うことがある」「他の人が私の発言や行動に注目してくれないと，自分が無視されているように感じることがある」といった自己中心的で注目や承認を求める10項目が高い負荷量を示した。そこで、「注目承認欲求(α=9.09)」と命名した。第二因子は「精神的に不安定になっているときには，だれかと話をしないと落ち着くことができない」「不安を感じているときには，だれかから大丈夫だと言ってもらわないと安心できない」といった6項目から成り立っており、「他者中心性(α=.849)」と命名した。第三因子は「他の人に自分のことを自慢するような話をしたあとで，後味の悪い感じが残ることがある」といった4項目から成り立っており「抑制不全(α=.824)」と命名した。「SRS-18」では、固有値の変化から2因子構造が妥当であると解釈した。十分な負荷量を示さなかった1項目を削除し、最終的に17項目2因子が抽出された。第一因子は「泣きたい気持ちだ」といった11項目が高い負荷量を示したため「抑うつ・無気力(α=.943)」と命名した。第二因子は「いらいらする」といった6項目から成り立っており「怒り(α=.924)」と命名した。「自尊感情尺度」では、1項目を削除した9項目1因子が妥当であると判断した(α=.904)。男女の得点差を t 検定により検討したところ、「対自」「対他」及び「他者中心性」因子において女性の方が有意に高かった。尺度ごとの相関を男女別に算出したところ、全項目で中～高程度の値が示された。そこで因子ごとの相関を算出し（表1、2)、仮説に基づき重回帰分析を行った。分析の結果、「注目承認欲求」「他者中心性」が「対自」「対他」因子に有意な正の影響を与えていた。

表1　過剰適応・自己愛的脆弱性・SRS-18・自尊感情の相関係数（男性）

	対他	注目承認欲求	他者中心性	抑制不全	抑うつ・無気力	怒り	自尊感情
対自	.336**	.584**	.716**	.272**	.608**	.344**	-.567**
対他		.250**	.241**	0.046	0.046	0.007	0.088
注目承認欲求			.572**	.648**	.572**	.491**	-.299**
他者中心性				.304**	.555**	.358**	-.466**
抑制不全					.376**	.343**	-0.058
抑うつ・無気力						.750**	-.636**
怒り							-.399**

**p < .01, *p < .05

表2　過剰適応・自己愛的脆弱性・SRS-18・自尊感情の相関係数（女性）

	対他	注目承認欲求	他者中心性	抑制不全	抑うつ・無気力	怒り	自尊感情
対自	.473**	.579**	.671**	.357**	.625**	.404**	-.535**
対他		.376**	.505**	.271**	.236**	.170*	-0.067
注目承認欲求			.668**	.690**	.670**	.620**	-.364**
他者中心性				.454**	.599**	.445**	-.371**
抑制不全					.457**	.360**	-.177*
抑うつ・無気力						.712**	-.670**
怒り							-.476**

**p < .01, *p < .05

【考察】

相関及び重回帰分析の結果から、男女ともに自己愛傾向が高い者ほど過剰適応的であり、ストレス反応や自尊感情の低下を引き起こしている可能性が示された。つまり、周囲に過剰に適応し自分の意見を抑制する者は、表面上は「いい子」として他者の目に映るが、内的には抑うつや怒りといったストレス反応を抱え、「これで良い」と自己を肯定的に捉えることができず葛藤を引き起こしていると推察できる。これは先行研究及びインタビュー調査で得た知見と一致しており、「いい子」が心理的不適応を抱えている点が明らかになったといえる。しかし、注目や承認を求め、他者に自己の傷つきを癒してもらうことで自己愛を満たそうとする者ほど過剰適応的であったことから、他者や周囲を慮っているように見える「いい子」としての行動には利己的動機が含まれていることが示唆された。したがって仮説は概ね支持され、自己のために「いい子」を続けていることからストレス反応などの内的葛藤が生じても「いい子」を辞めることができず、悪循環を引き起こしている可能性が仮定された。特に、「対自」「対他」得点は女性が有意に高く、男性に比べてストレス反応との関連性も強かったことから、こうした「いい子」の抱える葛藤や複雑な心理的メカニズムは女性のほうが経験しやすい傾向にあると推察される。今後は、対象者の年齢差についても検討するとともに、利己的動機に基づくいい子の心理的不適応について、パス解析等による分析を行う予定である。

【引用文献】

桑山久仁子(2003).外界への過剰適応に関する一考察：欲求不満場面における感情表現の仕方を手がかりにして　京都大学大学院教育学研究科紀要，*49*, 481-493.

(せきや みき・むらい あかり・やまぐち まい・おかもと よしお)

保育所等の預かり場面における子どもの不安を和らげる養育者の対応

－アタッチメント傾向との関連より－

○山口舞[1]　村井あかり[2]　関谷美希[2]　岡本吉生[3]
([1]日本女子大学大学院家政学研究科児童学専攻　[2]日本女子大学大学院人間生活学研究科人間発達学専攻
[3]日本女子大学家政学部児童学科)

キーワード：預かり場面、親子分離、アタッチメント

【目的】保育所等における預かり場面は、子どもだけでなく親にとっても子どもとの分離を経験する場面である。本研究では、養育者、特に母が経験する子どもとの分離不安に焦点を当てる。方法1では、預かり場面における母の対応と気持ち、母自身の幼少期の記憶に関するインタビューを行い、分離時の状況を整理する。方法2では、客観的な指標を用いてアタッチメントとの関連を探る。これらの結果から、保育所等での預かり場面において子どもの不安を和らげるための養育者側の対応について考察する。

【方法1】インタビュー調査

調査対象：保育所等への預かり経験のある母9名
調査時期：2023年1月～4月
調査方法：半構造化面接（対面またはzoom）
質問項目：子どもの特徴、預かり場面の状況、母自身の幼少期の記憶など
分析手続：逐語による言語データを分節化し、分類した

【結果1】

1)預かり場面における母の対応

分離がスムーズになったと母が感じた対応の代表例
G：「あのおもちゃ面白そう」と預け先の楽しさを伝える
N：「お昼寝したら迎えに行くよ」と迎えの目安を伝える
D：「ケーキを作っておくね」と帰宅後のことを伝える
H：「昨日の遊びができるね」と前日の期待感をつなぐ
E：「もうすぐ年中さんでしょ」と自覚を促す

2)預かり場面における母の気持ち

①子どもが預かりを嫌がっている時の肯定的感情
A：感情表現の育ちに成長を感じる
F：幼い頃から預けることは、人と関わることへの苦手意識を軽減するためのポジティブな経験である
②スムーズな時の否定的感情
D：泣かなくなって寂しいが、嬉しさの方が大きい

3)母自身の幼少期の記憶

①母自身の預かり場面の肯定的記憶
A：幼稚園に行きたくなかった記憶はない、小さい頃から遊んでいた近所の友だちと一緒に行くことが楽しみ
B：幼稚園に嫌な記憶はない、姉と同じ幼稚園に行けることが楽しみだった
②母自身の預かり場面の否定的記憶
E：友だちとのトラブルが原因で幼稚園がすごく嫌だったが、親が泣いている理由を聞いてくれなかった
F：幼稚園入園まで同年代の子と遊ぶ経験がない環境で育ったため、人見知りして行くのが嫌で怖かった

【考察1】

子どもの不安を和らげる対応として「見通しがもてるようにする」という共通点が浮かび上がった。

子どもがスムーズに離れることに対して否定的感情のみを抱く母はいなかった。「寂しい」という感情以上に嬉しさを感じていた。他方、預かりを嫌がるなど不安定な子どもの母は、預かりに「罪悪感」などの否定的感情を抱く傾向が認められた。

母自身の幼少期の預かり場面に関する否定的記憶は、現在の母の子育て観との関連性が見られた。そしてその一部は預かり場面にも影響していた。他方、幼少期の預かり場面の記憶について肯定的記憶のみを語ったのはAとBのみだった。どちらも「姉と同じ幼稚園に行ける」など親しい存在との繋がりが当時の母自身の預かり場面における安心感に繋がっていたが、その体験が現在の母自身の分離不安の緩和に繋がっているわけではなかった。

今後ほかの内容についても詳細に分析を重ねて検討する予定である。

【方法2】質問紙調査

調査対象：方法1の母及びその配偶者（父）18名
調査時期：2023年1月～5月
調査方法：方法1終了後インターネット上でのアンケートを配布、回収した
使用尺度：ECR-GO［愛着測定尺度一般他者版］（中尾・加藤，2004b）
分析手続：ECR-GOから「見捨てられ不安」「親密性の回避」の得点を算出し、インタビュー内容との関連性を探った

【結果2】

1)預かり場面における母の対応との関連

「見捨てられ不安」及び「親密性の回避」どちらの得点も低く、アタッチメントが安定的なIIは、預かり場面における子どもへの対応のバリエーションを一番多く語った

2)預かり場面における母の気持ちとの関連

「親密性の回避」得点が相対的に高いAとDが、スムーズな分離が見られたにもかかわらず、寂しさを感じていた

3)母自身の幼少期の記憶との関連

インタビュー内容からは関連性が見られなかった

【考察2】

「見捨てられ不安」「親密性の回避」の得点が共に低い安定的な母は、預かり場面において子どもにさまざまな対応の仕方をしていた。アタッチメントの安定性は相手や状況に応じて臨機応変に対応できる能力と関係していることが示唆された。父が送迎を行っている場合も多かったため、父のアタッチメント測定も行ったが、預かり場面における子どもへの対応との関連性は見られなかった。

「親密性の回避」得点が高い母に寂しいという感情が語られる傾向がみられた。親密性の回避とは、普段抑圧されていた寂しさという感情が、実際の分離場面では抑圧されきれず意識化されてしまう性質のものではないかと考えられた。

現段階では、母自身の幼少期の記憶とアタッチメントには明確な関連性は見られなかったが、今後多方面からさらなる分析を重ねて検討する予定である。

【引用文献】

中尾 達馬・加藤 和生(2004). 一般他者を想定した愛着スタイル尺度の信頼性と妥当性の検討　研究紀要「九州大学心理学研究」, *5*, 19-27

(やまぐち　まい・むらい　あかり・せきや　みき・おかもと　よしお)

SNSへの依存を多次元的に測定する尺度の日本語版作成の試み

—その信頼性の検討—

○加堂生織[1]（非会員）　鶴岡未悠[1]（非会員）　福井義一[2]
([1]甲南大学文学部人間科学科　[2]甲南大学文学部)

キーワード：SNS依存，行動嗜癖，信頼性

【目的】

近年，インターネット社会の急激な発展に伴い，新しいタイプの依存が注目され始めた（文部科学省，2002；中山，2015）。中でも，ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）への依存は，情緒不安定やひきこもり（橋元，2011），睡眠不足，健康状態の悪化（河井他，2011），心理的苦痛（古賀・川島，2022；Wong et al., 2020）などとの関連が報告されており，ギャンブルやゲームへの依存といった他の行動嗜癖と同様に，心身の健康や社会的適応を阻害する可能性がある。

行動嗜癖には，突出と気分変容，耐性，離脱症状，葛藤，再燃という6つの次元があるとされている（Griffiths, 2005）。しかしながら，わが国でSNS依存を測定するために開発された尺度（河合他，2011；古賀・川島，2022；久保他，2015；二宮，2017）の中で，これら6つの構成要素を全て同時に測定可能なものは存在しない。SNS依存の研究をさらに発展させるためには，行動嗜癖としてのSNS依存を多次元的に測定可能な尺度の開発が不可欠である。

本研究では，Griffiths（2005）が提唱した行動依存の6つの次元からSNS依存を測定可能であるSocial Networking Addiction Scale（SNAS; Shahnawaz & Rehman, 2020）の日本語版を試作し，その信頼性について検討した。

【方法】

協力者：大学生延べ303名（男性63名（不明1名））の協力を得た。平均年齢は19.91歳（*SD* = 1.71）であった。

手続き：事前に同意が得られた者に，約3週間間隔で，2回のオンライン調査を実施した。96名が初回のみ，25名が2回目のみ，91名がいずれにも参加した。

使用尺度：著者らと英語のネイティブ・スピーカーによるバックトランスレーションを繰り返し，SNAS（Shahnawaz & Rehman, 2020）の日本語版（21項目7件法）を作成した。

【結果】

原版と同じ6因子解を指定して，確認的因子分析を実施した結果，適合度は良好ではなかった（χ^2 = 439.71, GFI=.872, AGFI=.830, CFI=.906, RMSEA=.07, AIC = 553.71）。

そこで，探索的因子分析（最小二乗法・直接オブリミン回転）を実施し，因子負荷量が低かった項目1（突出）と，複数の因子に高い負荷量を示した項目5（気分変容），10（耐性），20（再燃）の4項目を削除し，5因子解を得た。第Ⅰ因子（離脱症状）は，原版の項目構成と完全に一致したため，第Ⅱ因子（再燃）と第Ⅳ因子（葛藤），第Ⅴ因子（気分変容）は，原版と同じ項目群のみで構成されたため，それぞれ原版と同じ因子名を採用した。第Ⅲ因子は，「突出」と「耐性」に相当する項目群と「葛藤」に属する1項目で構成されたため，「耽溺」と命名した。得られた5因子解について，確認的因子分析を実施した結果，適合度は上述した原版の6因子解より良好であった（χ^2= 201.36, GFI=.926, AGFI=.896, CFI=.957, RMSEA=.05, AIC = 289.36）が，十分な値ではなかった。

本尺度の内的整合性を検討するために，α係数を算出した結果，原版では全ての因子で十分な内的整合性（合成信頼性（CR）>.70）が示されたのに対して，日本語版では一部の下位尺度で不十分な値が見られた（Ⅰ：.86，Ⅱ：.87，Ⅲ：.75，Ⅳ：.76，Ⅴ：.60）。次に，再検査信頼性を検討するために，2回の得点間の相関係数を算出した結果，それぞれ有意な正の相関が得られた（Ⅰ：.74，Ⅱ：.67，Ⅲ：.77，Ⅳ：.74，Ⅴ：.51，合計得点：.83）。合計得点の相関係数は，原版（.88）とほぼ等しかったが，それを大幅に下回る下位尺度も見られた。以上から，本尺度の信頼性はやや不十分であることが分かった。

本尺度の全項目の記述統計量と因子分析，信頼性分析の結果をTable 1に，因子間相関と各下位尺度の記述統計量をTable 2に，それぞれ示した。

Table 2 因子間相関と記述統計量

	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	*M*	*SD*
Ⅰ	.582	.531	.441	.370	3.44	1.47
Ⅱ	–	.438	.448	.165	3.82	1.69
Ⅲ		–	.312	.336	4.36	1.21
Ⅳ			–	.242	2.96	1.62
Ⅴ				–	4.28	1.31

【考察】

本研究から，SNAS日本語版は，原版とは異なる因子構造を有することに加え，その信頼性もやや不十分であることが判明した。その原因が，邦訳の精度や元々の項目内容の瑕疵，文化的差違などのいずれに起因するのかについて，本研究から判断することは困難であった。

なお本研究では，2回の調査データを統合して，因子分析を実施したため，回答に91名の重複があった。本尺度の実用化には，翻訳の再検討後に，適切なサンプルサイズを確保した上で，再分析する必要があるだろう。

【利益相反】

本研究に関して，開示すべき利益相反はない。

（かどう いおり・つるおか みゆ・ふくい よしかず）

Table 1 SNAS日本語版の因子分析結果

項目内容	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	*M*	*SD*
Ⅰ　離脱症状（α =.86）							
11. SNSにログインできないと，悲しい感じがする	.776	.054	−.014	−.040	−.003	3.33	1.83
14. SNSのための時間がとれないと，落ち着かなくなる	.745	−.075	.058	.102	.143	3.37	1.70
13. SNSを使えないと，もどかしく感じる	.688	−.016	.235	.052	−.062	4.15	1.78
12. SNSにログインできないときは，いつでもイライラする	.680	.076	−.103	.033	.061	2.93	1.68
Ⅱ　再燃（α =.87）							
21. SNSにかける時間を短縮しようとする試みは，ことごとく失敗してきた	−.005	.819	.109	.033	.015	3.73	1.79
19. SNSを使うのを止めようとしたことがあるが，失敗した	−.000	.766	−.057	.115	.029	3.51	1.96
18. SNSにかける時間を削るのに失敗したことがある	.189	.624	−.061	.189	−.022	4.22	1.94
Ⅲ　耽溺（α =.75）							
3. 勉強中（または仕事中）でも，SNSの更新をチェックする	−.057	.020	.663	.023	.051	4.31	1.76
4. どんな課題や活動の開始前でも，SNSアカウントをチェックする	.012	−.012	.592	.107	.116	4.13	1.84
9. 昔に比べて今の方が，SNSにかける時間が増えた	.189	.158	.401	−.065	−.099	5.33	1.68
17. SNSをしなければならない（または，したい）がために，睡眠時間を犠牲にする	.069	.333	.389	−.106	.120	3.76	1.93
8. 近頃，ますますSNSにかける時間が増えた	.223	.142	.379	.013	.037	4.27	1.61
2. 起床後，すぐにSNSを見る	.084	−.059	.358	.135	.014	4.36	2.04
Ⅳ　葛藤（α =.76）							
15. 自分がSNSにかけている時間の長さをごまかそうとする	.098	.069	.017	.696	.064	3.21	1.81
16. 両親や他の人からSNSの利用状況について尋ねられたら，嘘をつく必要がある	−.025	.146	.096	.669	−.034	2.71	1.80
Ⅴ　気分変容（α =.60）							
7. SNSをしているときは，いつでもリラックスした感じがする	.030	−.032	−.067	.039	.753	3.74	1.57
6. SNSは，気分を上げるのに役立ってくれる	.021	.055	.119	−.044	.538	4.81	1.54
					計	3.88	1.10

箱庭療法により心身症状や人間関係を回復できた症例の治療過程の一考察

松浦　智子
（応用心理カウンセラー協会）
キーワード：箱庭療法、非言語的技法、自己治癒力

【はじめに】8 年間専門的分野で活躍していたベテラン看護師が、部署異動で職場環境が大きく変化し、不安感や疲労感を感じていた。不慣れな業務が優先され、同世代の上司にかけられた言葉をきっかけに、上司と対面するだけで動悸やめまいなどのストレス反応が出現し、思考力も低下し通常の業務ができなくなっていた。A氏は我慢強く真面目な性格であり、心療内科などを受診する思いはなかったが、同僚から友人であるカウンセラーの私にカウンセリングを受けてみるよう勧められ、今回のカウンセリングに至った。

【目的】職場の環境変化や人間関係の苦悩により出現したストレス反応が、精神分析的カウンセリングと箱庭療法を用いることで回復できた一症例のプロセスについて考察する

【方法】

1．対象者：ベテラン看護師 A氏　40 代女性

2．調査期間および制作場所

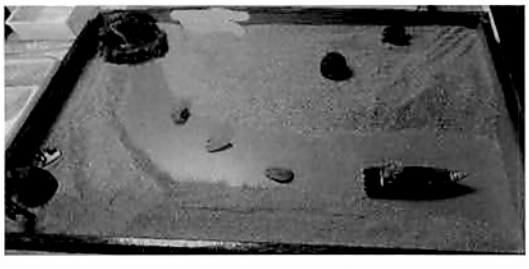
2021 年 10 月～2022 年 9 月

応用心理カウンセラー協会　箱庭療法ルーム内

3．実施方法：精神分析的カウンセリングに箱庭療法併用

【結果】箱庭制作初回、箱庭中心に地球儀、右側に渦巻く砂と荒波やネプチューンが置かれ、不安や抑圧された感情が表現されていると感じた。箱庭制作の感想は、「楽しかった、癒された」と答え、職場について多くは語らなかった。

2 回目（写真①）、中心に大きな川と中には 3 つの石があった。「この石に乗って川を渡れますか？」と尋ねると、渡れないとのことで橋も架かっていなかった。右上には赤い鬼が置かれており「これは何でしょう？」と尋ねたところ、「上司のように思う」と言われ、その後、徐々に上司との関係性について話された。「今までのスキルはしばらく封印し、管理職の仕事だけ考えるように」と言われたことで、今まで専門分野で頑張ってきた自分までも否定されたように感じ、仕事を一緒にすると考えるだけでも苦しくなり辛いと涙を流された。



［箱庭制作 2 回目　写真①］

箱庭における解釈では、中心を流れる川は自己である。外的方向へ進む船は母性・感情の位置にあり、時に船頭は箱庭を作成する上で、クライエントを見守りながら導くセラピストを意味する場合がある。A氏は、橋のない川（自己）と右上の赤鬼（上司）との距離を置くことでストレスを回避し、自己防衛していたと考えられた。クライエントとの関係性はできていると考え、「上司はあなたを否定したのではなく、スキルを認めた上で、更なるスキル向上を期待した言葉だったのではないでしょうか。今はお辛いでしょうから、上司との距離はおきつつ、自己成長のためと肯定的に考え、管理職の仕事を優先して学んでみてはいかがでしょうか。」と助言した。

3 回目、右上には鮭を捕えたクマが仁王立ちしている。「クマが一頭いますね」と伝えると、「山奥にいるため怖くない印象」と答えた。クマは上司であり未だ距離を置いている状況であるが、環境に適応してきたと考えられた。

4 回目（写真②）、右下の内的位置には家族が団欒し焚火がありエネルギーが感じられ、虹もかかり希望を見出せている印象であった。また川の中洲には両性類が置かれ、釣り人が魚を釣り上げており、スキルを活かした仕事ができていると示唆された。上司を象徴するパーツはなく、川には橋が架かり、内的と外的が統合され、不安や恐怖心を克服したことがうかがえ、A氏のストレス症状も軽減されていた。



［箱庭制作 4 回目　写真②］

【考察】箱庭療法は、ミニチュア玩具を通して、心の中が間接的に表現される。D. カルフは、「自由であると同時に保護された一つのある空間を、われわれの関係のなかに作り出す」（Kalff, 1996）と述べている。箱庭制作においてセラピストは母のようにそっと見守り、クライエントの作品を一緒に味わう。クライエントとラポールができた上で、作品の中に課題が示されているとセラピストが理解した場合、そのことを作品の感想として伝えていくことで、クライエントは無意識に抑圧していた感情に気づくことができる。箱庭療法によって、クライエントの内的世界が表出され、自然と心が癒され精神的安定につながることで、自己の課題に向き合うことができるのである。社会において、環境の変化や人間関係のストレスなどから、心身の障害を引き起こす危険性は誰にでも潜んでいる。しかし、通常は不安障害などの身体症状がない限り、カウンセリングを受けることはない。箱庭療法の特徴は、手軽さと非言語的技法、自己治癒力であり、心の内面が映し出される。今回の事例のように、感情表現ができず人間関係が上手くいかなくなった場合、箱庭療法を行うことにより無意識な感情が意識化され、自浄作用をもたらし心身のバランスを取り戻す一助となりうると考えられた。

【引用文献】Kalff. D.（1996）. Sandspiel（山中康裕監訳）「カルフ箱庭療法 1999

高嶋正士と偉大性心理学

― 鎌倉時代に生きた親鸞聖人の偉大性について（2） ―

藤田主一
（日本体育大学）
キーワード：高嶋正士、偉大性、親鸞聖人、鎌倉時代

1. 研究の背景と目的

2023年3月25日（土）～5月21日（日）の間、浄土真宗の宗祖である親鸞（1173-1262or63）の生誕850年を記念した「親鸞－生涯と名宝」展が京都国立博物館（京都市東山区）で開催された（筆者参観）。


国宝「親鸞聖人影像」

この特別展は過去最大規模の親鸞展で、生没地の京都に、国宝11件、重要文化財約70件を含む計約180件の肖像画や自筆の著作、手紙や彫像、ゆかりの名宝が集まった。その結集は真宗教団連合十派の協力によるものである。十派とは、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派・高田派・佛光寺派・興正派・木辺派・出雲路派・誠照派・三門徒派・山元派である。親鸞は、自身の人となりについてほとんど記述していないが、行年90（満89歳）の生涯は「伝絵（でんね）」をとおして語り継がれてきた。親鸞の主著『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』は自身の信仰を体系化したものであり、浄土真宗の根本聖典といってよい。


高嶋正士（1979年当時）

高嶋正士（1925-2021、本学会名誉会員）は人格の偉大性を研究した心理学者である。彼は新潟県中頸城郡（現在の上越市）の浄土真宗本願寺派の寺院に生まれ後年第16世住職になるのだが、京都の仏教系大学の学生だったころ心理学に興味を抱いていた。彼は戦後混乱期の只中で、生家を継承し仏教を極め生涯の職として生きるべきか、心理学を学んで新たな道を求めるべきかという大きな葛藤の中にいた。高嶋は、思い切って彼の大叔父で高名な仏教学者である高嶋米峰（1875-1949、東洋大学第12代学長）に相談し、米峰（べいほう）からの深い助言を得ることで、仏教を土台とする心理学者が誕生したのである。

高嶋が志した研究は、仏教心理学の体系化ならびに宗教的偉人の偉大性要因を明らかにすることであった。宗教的偉人については、ほぼ同時代（鎌倉時代）の法然（1133-1212）、親鸞、日蓮（1222-1282）を取り上げているが、なかでも自身の生い立ちと関連するため親鸞を中心にすることが多い。

ここでは、高嶋が明らかにしようとした宗教的偉人の偉大性（特に親鸞の人格形成）について、得られた心理学的な成果を検討することが目的である。（本文中の敬称略）

2. 方 法

人格の偉大性について高嶋が公表した著書や論文、日本応用心理学会や日本心理学会などの年次大会で発表した大会論文集の記録等をもとに、回顧展望する方法を用いた。

3. 結果と考察

（1）親鸞の誕生：親鸞は、1173（承安3）年4月1日（伝）現在の京都市伏見区日野に生まれた。その時代は平安末期になるが、保元の乱（1156）・平治の乱（1159）後の間もないころで、平家全盛とはいえ政治や社会は乱れすさんでいた。治承・寿永の乱（1180～1185）が起こり、養和の飢饉（1181）が発生したころの親鸞は9歳である。おそらく彼は、傾いてゆく一族の姿を見つめながら幼少期を過ごしていったのであろう。親鸞の人格形成を語るとき、このような時代（社会的環境）の影響を決して無視することはできない。

（2）親鸞の発達と人格形成：高嶋は、親鸞に関するさまざまな文献を渉猟して、親鸞の人となりに迫ろうとした。以下に、高嶋がまとめた親鸞の発達段階の特性を概観しよう。

（1）幼児期：親鸞（幼名；松若丸）4歳のとき、父の日野有範（平安後期の貴族）が戦死し、その数日前に母（貴光女／吉光女）が亡くなっている。伝記が正確であれば、幼児期に両親を亡くした家庭がどのようなものであったかは容易に想像できる。親鸞自身の精神的ショックは甚大だったはずで、伝記にはこの間の心的事実は明瞭でないが、親鸞の宗教的人格の形成の大きな要因になったことは事実であろう。

（2）児童期：治承5／養和元（1181）年、親鸞9歳のとき伯父の日野範綱にともなわれて京都粟田口の青蓮院に入り、天台宗の僧慈円（初名；道快）によって得度した。彼が出家した動機は、一族一家の没落、父母の死、孤独な生い立ちや行く末への不安などで世の無常を感じたことが背景にあり、故にひたすら出離（仏門に入ること）に道を求めたのではないか。何か親鸞に暗いものがただよい、それが少なからず人格形成に影響を与えたと思われる。心理学的な表現をすれば、家庭的な悩みが情緒的な不安を引き起こしていたのである。

（3）青年期：親鸞の青年時代については、ほとんど文献がなく、高嶋の力を以ってしても論ずることができない。

（4）壮年期：親鸞の壮年期は、全生涯を通じて感銘深い時期である。29歳のとき法然の弟子となって念仏に帰依し、31歳のとき持戒持律の清僧生活を捨て肉食妻帯生活を始めた。39歳のとき越後国府（新潟県上越市）へ流罪、39歳で赦免となる。それ以降は、もっぱら念仏普及のため各地を伝道して歩いた。親鸞の人格はこの時代に決定的なものとなる。

（5）老年期：晩年の親鸞は著述に専念し、著述の全部は彼が52歳以後のものであるといわれる。幼児期より恵まれない環境におかれた親鸞は十分に人間の苦しみを体験し、そこからいろいろな宗教的信念を把握していった。親鸞の立宗の意志は、寺を建てる気持ちも、教団の中心的人物なろうとする野心もなく、純に法義を弘布する（仏法を世間に広める）ことで報恩（恩返し）の微衷を尽くそうと働いている。

（3）高嶋は、鎌倉時代に生きた親鸞90年の生涯とその生き方や人格像を追い求めることで、偉人傑人や偉大性の意義を明白にしようとしたのである。（本研究に利益相反はない）

【引用文献】

高嶋正士（1997）偉人・天才の心理学，医学出版社.
藤田主一（2021）高嶋正士と偉大性心理学－偉人・天才の偉大性について－，日本応用心理学会第87回大会発表論文集，p.27.
藤田主一（2022）高嶋正士と偉大性心理学－鎌倉時代に生きた親鸞聖人の偉大性について－，日本応用心理学会第88回大会発表論文集（印刷中）.
（ふじた しゅいち）

心的外傷後成長に関連するライフスタイル因子について

○田中英明[1] 伊坂裕子[2] 伊藤令枝[2] 木村友昭[1]
([1]一般財団法人 MOA 健康科学センター　[2]日本大学

キーワード：心的外傷後成長、ライフスタイル、スピリチュアリティ

【目的】人生における危機的な出来事やつらい出来事と折り合いをつけていく過程で得られるポジテイブな心理的変容を心的外傷後成長（PTG）と呼ぶ（Tedeschi,1996）。PTG を後押しする要因について多くの研究が行われており、ソーシャル・サポート、スピリチュアリティ、社交性、楽観性など様々な要因との関連が示されている（Shaw,2005）。本研究では食に対する意識、美術文化活動に対する意識、宗教やスピリチュアリティに関わる意識と PTG との関連を調査した。

【方法】健康づくりに取り組む某団体に関わりのある 18 歳以上の青年学生、そして国内の某大学の学生に対して便宜的抽出法を用いてウェブ形式のアンケート(Survey Monkey)への協力を依頼した。研究趣旨、参加する上での注意点などを確認し、同意を得た上で調査を行った。スマートフォンあるいはパソコンを用いてアクセスの上入力を行ったが、一部の対象者は紙面を用いて実施した。質問項目は性別、年代、学歴、ライフスタイル関連項目（食意識、美術文化、6 問）および宗教・スピリチュアルな特性に関する質問（6 問）、SOC-13（5 件法）、中核的信念尺度（CBI-J,9 項目）、心的外傷後成長尺度（PTGI-X-J,25 項目）であった。本研究は MOA 健康科学センターの倫理審査委員会の承認を得て実施した。

2 変量解析を行い、相関のある項目については、PTGI-X-J の下位尺度(表 1 参照)のそれぞれを従属変数として、年代、性別を調整因子とし、ライフスタイル関連項目、宗教・スピリチュアルな特性の質問結果を合計したスピリチュアリティ・宗教性得点を独立変数として、多変量解析を行った。

【結果】18 歳から 40 歳代の研究参加者が合計 107 名おり、その内 84 名（男性 46、女性 37、答えたくない 1）の欠損のないデータを有効とした。年代は 10 代が 40%、20 代が 45%、30 代が 11%、40 代が 4%いた。参加者が体験した過去 5 年以内のつらい出来事は「対人関係トラブル」26.6%と「死別」22.8%が最も多く「その他」17.7%と「仕事・職場・学業の変化や問題」15.2%が続いた。

2 変量解析の結果、食意識、美術文化に関わるライフスタイルそして宗教・スピリチュアルな特性に関わる項目が PTGI-X-J の 5 つの下位尺度と有意に相関した。表 1 に各ライフスタイル項目と PTGI-X-J の 2 変量解析の結果を示す。また、性別と年齢を調整因子とし、PTGI-X-J の下位尺度を従属変数として多変量解析を行った結果、「他者との関係」は「食への感謝」(0.280,$p<0.05$) と有意に関連し、「新たな可能性」は「食への感謝」(0.232,$p=0.062$) と有意傾向を示し、「精神性的変容」は「スピリチュアリティ・宗教性得点」(0.505,$p<0.01$)と有意に関連し、「人生に対する感謝」は「スピリチュアリティ・宗教性得点」(0.402,$p<0.05$)と有意な関連を示し「食への感謝」(0.232,$p=0.06$) と有意傾向を示した。

【考察】つらい出来事を経験したとき、侵入的反芻と熟考を経ることを通して PTG へ至るとされており、感謝が熟考の修飾変数として PTG へ作用する事が報告されている（Kim,2019）。本研究においても「食への感謝」の習慣が PTG と関連している事が示された。食べるものと作る人への感謝の習慣は広義の感謝に包含されているものと考えられるため、先行研究における全般的な感謝と PTG との関連を裏付ける結果が得られていると考えられる。スピリチュアリティ・宗教性と PTG との関連は多く報告されており、今回の研究では、スピリチュアリティや宗教性に関する質問の 6 項目の中で「人生での出会いや出来事に対して特別な意味があると感じるかどうか」についての質問が PTG のそれぞれの下位尺度と強い相関を示した。スピリチュアリティ・宗教性の特性の中でも出来事や人との出会いに対して個人が特別な意味を感じるかどうかということが PTG に至る上で重要である可能性が示唆される。

本研究の限界としては便宜的に抽出されたサンプルであったため導かれた結果を一般に適用する事が困難である。また横断研究のため、相互作用や正確な因果関係を示すためにはサンプル数を増やした縦断研究を実施することが求められる。被験者に対して過去 5 年以内のつらい出来事を振り返ってもらい、その上で中核的信念の揺さぶりやその後の成長について答えてもらったが、参加者によっては記憶が正確でない場合や、正直に回答が行われていない可能性も考慮しなければならない。これらの限界を踏まえ、「食べ物と作る人への感謝」とスピリチュアリティ・宗教性の中でも特に「人生での出来事や出会いについて特別な意味を感じる」ことがＰＴＧと関連することが示唆された。

表 1　ライフスタスタイル項目と PTGI-X-J の 2 変量解析

	PTGI-X-J 下位尺度				
	他者との関係	新たな可能性	人間としての強さ	精神性的変容	人生に対する感謝
性別					
年齢		.277*	.238*	.287**	
生命力あふれる食材の食習慣	.336**		.266*	.341**	.270*
食への感謝	.405**	.300**	.263*	.266*	.335**
食の楽しみ	.228*				
自然美の楽しみ	.283**	.283**	.250*	.326**	.289**
美術・芸能の楽しみ	.238*				.232*
和歌・俳句・読書の楽しみ		.247*	.232*	.290**	.235*
スピ・宗教性得点	.366**	.425**	.387**	.587**	.465**
SOC-13			.272*		
CBI-J	.556**	.492**	.484**	.584**	.556**

*P<0.05 , **P<0.01

【利益相反】
本研究に開示すべき利益相反(Conflict of Interest;COI)はありません。

【引用文献】
1. Tedeschi, R. G., et al. (1996). The Posttraumatic Growth Inventory: Measuring the positive legacy of trauma. Journal of traumatic stress, 9, 455-471.
2. Shaw, A., et al. (2005). Religion, spirituality, and posttraumatic growth: A systematic review. Mental Health, Religion and Culture,8,1-11.
3. Kim, E., et al. (2019). Gratitude moderates the mediating effect of deliberate rumination on the relationship between intrusive rumination and post-traumatic growth. Frontiers in Psychology, 10, 2665.

（たなか ひであき・いさか ひろこ・いとう よしえ・きむら ともあき）

ソーシャルスキルと外見的魅力が異性への好意度に及ぼす影響

○藤澤虎太郎[1]（非会員）　小林里緒[2]（非会員）佐藤隆成[2]（非会員）深見将志[3]
([1]日本大学商学部経営学科　[2]日本大学商学部商業学科　[3]日本大学商学部)

キーワード：コミュニケーションスキル・青年期・好意度関係

【目的】ソーシャルスキル(Social skills)とは，言語的・非言語的な対人行動と，対人行動の発現を可能にする認知過程との両方を包含する概念である(相川，1996)．また，対人関係の希薄化やコミュニケーション不全の問題は，対人関係を円滑に進める能力であるソーシャルスキルの欠如によると考えられる（大坊，2003)．

外見的魅力が最も直接的にその効力を大きく発揮する対人相互作用場面は親密な関係性を求める異性との対人関係である(川名，2012)．また，青年期は異性を意識し始め，片思いを中心とする恋愛から互いに独立した存在であることを認め合い，実際に異性と交際し，親密な関係を作っていく時期である(今川，2017)．

そこで本研究では男性のソーシャルスキルと外見的魅力に着目し，これらの要因が異性への好意度に及ぼす影響について検討し，男性の好意的関係について明らかにすることを目的とした．

【予備調査】

【目的】本実験では，対人距離テストを行う．そのための男子大学生４人を選出することを目的に質問紙調査を行った．

【方法】対象者は，男子大学生 13 名(平均年齢 20.15±1.23 歳)とした．

調査には，２つの尺度を用いた．

①成人用ソーシャルスキル自己評定尺度(相川ら，2005)

「関係開始」，「解読」，「主張制」，「感情統制」，「関係維持」，「記号化」の６因子 35 項目について，「ほとんどあてはまらない」から「かなりあてはまる」の４段階評価で回答を求めた．

②外見的魅力尺度(ASI-R 日本語訳)(安保ら，2012)

自己評価が外見的魅力に基づいている程度を測定する SES 因子と外見的魅力を改善および維持するために心理的・行動的に労力を費やしている程度を測定する．２因子 18 項目からなり，「1：全くあてはまらない」から「5：非常にあてはまる」の５段階評価で回答を求めた．

【結果】

表１　成人用ソーシャルスキル自己評定尺度と外見的魅力尺度の得点

	成人用ソーシャルスキル自己評定尺度	外見的魅力尺度
A	119	67
B	78	58
C	133	56
D	96	69

A:ソーシャルスキル自己認定尺度，外見的魅力尺度得点がともに高い者，B:ソーシャルスキル自己認定尺度，外見的魅力尺度の得点がともに低い者，C:ソーシャルスキル自己認定尺度の得点が高いが，外見的魅力尺度のとくてんが低い者，D:ソーシャルスキル自己認定尺度の得点が低いが，外見的魅力尺度の得点が高い者の４名の男子学生を選出した．

【本実験】

【方法】異性への好意度に及ぼす影響について検討するため，北川(1998)の対人距離テストを行うこととした．

予備調査で選出した４名の男子大学生と実験対象者となる女子大学生 10 名程度の各１名ずつに１対１での対話を行うこととした．対話後，実験対象者に対人距離テストに回答してもらう．対人距離テストとは，その人物と会話するときに最も適当だと思う距離に○印をつけてもらう質問紙である．その距離は好意度に影響を及ぼす(池上ら，2007)．

【仮説】

外見的魅力尺度の値が高い人ほど、その出会いが運命だと感じられ好意的に感じられることが明らかとなっている(向居，2015)．

また，成人用ソーシャルスキル自己評定尺度の値が高い人は，相手に対して肯定的な印象を与える．反対に，値の低い人は相手に与えた印象を悪く予測される(谷村ら，2008)．

このことから，外見的魅力が高いと，人柄が良いと判断されやすいため，外見的魅力が高くソーシャルスキルが低い人は，外見的魅力が低くソーシャルスキルが高い人よりも好意的に感じられやすいと考えられる．本実験の結果については，教育発表にて示す．

【利益相反】本研究に関して，開示すべき利益相反関連事項はない．

【引用文献】

・相川充，藤田正美(2005)．成人用ソーシャルスキル自己評定尺度の構成　東京学芸大学紀要　第１部門(教育科学) *56*, 87-93.
・橋本剛(2000)．大学生における対人ストレスイベントと社会的スキル・対人方略の関連　教育心理学研究　*48*, 94-102
・川名好裕(2012)．　笑顔および外見による魅力変化　立正大学心理学研究所紀要　*10*, 31-47.
・今川真治(2017)．恋愛や結婚に関する親とのコミュニケーションと大学生の結婚観との関連　広島大学大学院教育学研究科紀要　*66*, 213-222.
・安保恵理子ら(2012)．外見スキーマを測定する尺度の開発および外見スキーマとボディチェッキング認知の関連性の検討　パーソナリティ研究　*3*, 155-166.
・北川歳昭(1998)．教室の座席行動と個人空間－教師への距離の調整としての学生の着席位置－　実験社会心理学研究　*2*, 125-135.
・池上貴美子，喜多由香理(2007)．対人距離に関する性・年齢・魅力・親密度の要因の検討　*56*, 1-12
・向居暁(2015)．外見的魅力と偶然性が「運命の出会い」に及ぼす影響　日本認知心理学会　*13*, 32-47.
・谷村圭介，渡辺弥生（2008)．大学生におけるソーシャルスキルの自己認知と初対面場面での対人行動との関係　教育心理学研究　*56*, 364-375.

(ふじさわ　こたろう・こばやし　りお・さとう　りゅうせい・ふかみ　まさし)

索　引

人名索引

あ
相原　美保　xiii, 72
青木　滉一郎　xviii, 107
青木　宏文　xii, 63
青山　朋実　xvi, 93
赤本　美羽　xiv, 82
秋保　亮太　viii, xvii, 39, 99
アニーシャ　ニシャート　xviii, 109
有木　永子　iii, 9
安藤　将太　xvi, 93
い
飯島　杏那　iv, 13
飯田　希未香　xiv, 82
飯田　翔大　xiii, 71
井梅　由美子　xii, xiv, xv, 68, 78, 86
井川　純一　x, 49
異儀田　はづき　xiii, 74
伊坂　裕子　i, xix, 1, 118
石井　文也　xvi, 94
石田　拓矢　xv, 84
石橋　裕子　xv, 85
磯和　壮太朗　xv, 87
ITAGAKI Fumihiko　i, 4
井手　健太　iv, xiv, xvii, xviii, 12, 75, 104, 105
ITOH Kenji　i, 4
伊東　新太郎　v, 20
伊東　昌子　xvi, 92
伊藤　令枝　iii, xix, 9, 118
稲野辺　奈緒子　xiii, 73
井上　裕珠　xvi, 90, 93, 94
猪瀬　詩乃　xii, 67
猪鼻　ももこ　xi, 56
今井　大智　xvii, 99
今井　靖雄　xviii, 106
今井田　貴裕　xv, 87
岩崎　和子　v, 16
う
浮谷　秀一　vii, 30
内田　誠也　xviii, 111
内山　伊知郎　vii, 34
え
江澤　美花　x, 53
お
大門　耕平　xv, 83
大谷　亮　iii, xii, 10, 64
大橋　恵　xii, xv, 68, 86
岡　恭正　v, 17
尾形　和男　xi, 58
岡田　麗子　xvi, 92
岡本　ひなこ　xvi, 95
岡本　吉生　xviii, xix, 112, 113
小川　悦史　ii, 6
荻本　竜也　xv, 83
小倉　有紗　x, 52
小野村　樹美　ix, 44
小原　彩輝　xii, 67
尾山　凜　xvi, 93
か
柿本　敏克　viii, 40
梶田　真実　iv, v, 15, 22
柏木　仁　i, 1
片岡　大輔　vii, 32
加堂　生織　xix, 115
加藤　博己　ii, 5
金山　英莉花　vii, 34
金内　さよ　vi, 24
軽部　幸浩　ix, xiii, 47, 69, 70
河本　敏彰　xiii, 72
菅　知絵美　ix, 48
神崎　明奈　v, 20
き
来田　宣幸　iii, v, vi, ix, xv, 8, 16, 17, 26, 27, 42, 45, 83
木村　友昭　i, xix, 1, 118
桐生　正幸　iv, xvii, xviii, 12, 15, 104, 105
く
九島　紀子　xvii, 98
久保田　健市　xvi, 97
栗延　孟　xiv, 81
黒澤　慶大　xi, 56
こ
古賀　真子　ii, 7
小嶋　理江　xii, 63
小菅　英恵　iii, 10
小林　里緒　xix, 119
紺野　剛史　iv, xiv, xvii, xviii, 12, 75, 104, 105
権野　めぐみ　iii, v, vi, 8, 16, 26, 27
さ
齊藤　了　viii, 36
佐々木　涼夏　x, 55
佐々木　美加　viii, 41
佐々木　美智子　xi, 61
佐藤　聖也　xvi, 93
佐藤　洋亮　xi, 56
佐藤　隆成　xix, 119

澤海　崇文　xii, 68
澤田　戒　xiv, 77
し
鹿内　菜穂　i, 3
静間　健人　vi, 29
島田　恭子　iv, 14
下薗　仁也　xvi, 94
庄司　正実　xv, 84
新里　知佳野　xiii, 69, 70
す
菅野　智子　xi, 57
杉森　絵里子　vii, 33
杉森　美佑奈　xi, 62
鈴木　信幸　i, 2
須永　範明　ix, 44
春原　愛美　xii, 67
諏訪　一輝　xiii, 71
せ
関　絢菜　xii, 67
関谷　美希　xviii, xix, 112, 113

た
戴　伸峰　viii, 37
高井　由佳　vii, 35
高木　玉江　xvii, 102
TAKAZAWA Mahiro　i, 4
高橋　明子　ix, 48
高橋　秀和　iii, 11
高橋　浩子　ii, 5
高橋　良博　ii, 5

竹内　倫和　x, 51
竹内　啓恵　ii, 5
田中　真介
ii, iv, xi, xvii, 7, 13, 59, 103
田中　春奈　x, 52
田中　英明　xviii, xix, 111, 118
谷口　淳一　xvi, 96
種ケ嶋　尚志　xviii, 107
田畑　智章　x, 53
TURK David　i, 4
ち
近野　恵　iv, xiv, xvii, xviii, 12, 75, 104, 105
つ
塚田　直也　iv, 13
塚原　悠斗　xiv, 82
辻井　寿典　ix, 45
TSUNODA Koichi　i, 4
露木　麻衣　x, 55
鶴岡　未悠　xix, 115
て
寺倉　麻結奈　xvi, 94
と
藤後　悦子　xii, xv, 68, 86
東条　敏　i, 2
銅直　優子　i, 1
時田　学　ix, xiv, 43, 82
外島　裕　iii, 9
戸松　太一　ii, 7
富田　瑛智　xiv, 81
富永　日向子　xvii, 100
寅嶋　静香　iii, vi, 8, 26, 27

な
中　萌里　xiii, 71
中井　宏　viii, xvii, 39, 99
中嶋　遥平　x, 55
中谷　智美　xiv, 76
中西　誠　iii, 10
中野　友香子　iii, vi, 10, 24
中村　創　v, 21
Nagongbiling　ii, 5
に
西川　一二　ii, 6
西澤　智恵子　xii, 63
西堀　まゆ　x, xii, 50, 67
の
野崎　愛乃　xiii, 72

は
橋本　博文　vi, x, 25, 54
長谷部　雅美　xi, 60
服部　敬子　vii, 35
濱　保久　xviii, 108
林　潔　ii, 5
林　幸範　xv, 85
春口　千津　viii, 36
伴　和徳　xii, 63
伴　碧　xvii, 101
ひ
東浦　拓郎　i, 3
平沼　博将　vii, 35
廣島　克佳　xiv, 80
ふ
深見　将志　xiii, xix, 71, 72, 119
福井　義一　xi, xiv, xv, xix, 62, 76, 77, 89, 115
福田　佳織　xi, 58
福田　睦　iv, 13
藤澤　虎太郎　xix, 119
藤澤　拓人　v, 20
藤田　主一　iii, vii, ix, xiii, xix, 9, 30, 47, 69, 70, 117
藤林　園子　iii, 8
藤原　莉子　xii, 67
古澤　伸晃　xiii, 69, 70
古矢　香里　viii, 38
古屋　健　xiii, 73, 74
ほ
細野　文雄　viii, 40
堀　恭子　v, 18
堀　淳　v, 21
堀　孝司　xv, 89

堀　洋元　x, xii, 50, 67
堀下　智子　x, 52
本多　麻子　xviii, 110

ま
前田　楓　vi, x, 25, 54
増子　涼香　xiv, 82
松浦　常夫　vi, 23
松浦　智子　xix, 116
松田　浩平　ii, ix, 6, 46

み
三品　誠　ix, 48
三島　浩路　xv, 88
三島　斉紀　xiv, 79
水上　静　xii, 67
三保　紀裕　ii, 6
宮川　眞衣　xii, 67
宮中　大介　iv, 14

む
村井　あかり　xviii, xix, 112, 113
村山　陽　xi, 60

も
持田　綾乃　xii, 67
本木　葵　xiv, 82
本原　琴美　ii, xi, 7, 59
本村　明嘉　xviii, 111
森　千紗　xi, 56
森　涼馬　xiv, 82
森泉　慎吾　xii, 66
森下　葉子　xi, 58
森本　康太郎　vii, 31

や
八木沢　誠　xiii, 69, 70
矢野　伸裕　vi, xii, 23, 65
山岡　咲喜　xvi, 94
山口　舞　xviii, xix, 112, 113
山口　茉優　vii, 33
山田　紗永　x, 55
山内　春佳　ix, 46
山村　豊　xi, 57
山本　勝則　v, 19, 20, 21
山本　睦　xvi, 91
山本　英彦　ii, 7
山本　真菜　x, xi, 55, 56

よ
横井川　美佳　ii, xvii, 7, 103
横山　千智　xii, 67
吉岡　節夫　vi, 28
吉田　浩之　ix, 42
吉田　裕　x, 52

り
李　潤杰　v, 16
李　同帰　ii, 5

れ
蓮花　一己　xii, xviii, 66, 106

わ
若林　鉄也　viii, 36
和田　一成　x, 52
和田　万紀　ix, 44
渡辺　めぐみ　xvi, 92

日本応用心理学会第 89 回大会　賛助団体等御芳名

本大会の開催にあたり、以下のとおり、団体・企業の皆様からご協賛を頂きました。深く感謝し、御礼申し上げます。

株式会社　北大路書房
株式会社　クロス・マーケティング
株式会社　三京房
トビー・テクノロジー　株式会社
株式会社　白桃書房
福村出版　株式会社

（敬称略・五十音順）

本大会の開催にあたり、以下のとおり、団体の皆様からご協力を頂きました。深く感謝し、御礼申し上げます。

一般財団法人　日本心理学諸学会連合心理学検定局
亜細亜大学ガムラン研究会
学校法人　亜細亜大学

本大会を開催するにあたり、以上の諸団体より多大なご支援を賜りました。ここに、その御芳名を記し感謝の意を表します。

2023 年 8 月吉日

日本応用心理学会第 89 回大会
大会委員長　高石光一

日本応用心理学会第 89 回大会委員会

大会委員長	髙石　光一	亜細亜大学　経営学部
大会副委員長	板垣　文彦	亜細亜大学　経営学部
大会事務局長	小川　悦史	亜細亜大学　経営学部
大会副事務局長	鹿内　菜穂	亜細亜大学　経営学部
委員	柏木　仁	亜細亜大学　経営学部
	鈴木　信幸	亜細亜大学　経営学部
	東浦　拓郎	亜細亜大学　国際関係学部
	伊坂　裕子	日本大学　国際関係学部
	伊藤　令枝	日本大学　理工学部
	伊波　和恵	東京富士大学　経営学部
	軽部　幸浩	日本大学　商学部
	関口　和代	東京経済大学　経営学部
	竹内　倫和	学習院大学　経済学部
	田畑　智章	東海大学　経営学部
顧問	小野　公一	亜細亜大学（名誉教授）
	外島　裕	日本大学（名誉教授）
	藤田　主一	日本体育大学（名誉教授）
名誉顧問	馬場　房子	亜細亜大学（名誉教授）

日本応用心理学会第89回大会論文集

発　行　日　　2023年8月21日
発　行　者　　日本応用心理学会
　　第89回大会委員長　高石光一
　　〒180-8629　東京都武蔵野市境5丁目8
印刷・製本　　株式会社　文伸

北大路書房

〒603-8303　京都市北区紫野十二坊町12-8
☎075-431-0361　FAX 075-431-9393
https://www.kitaohji.com（価格税込）

〈よそおい〉の心理学

ーサバイブ技法としての身体装飾ー　荒川　歩，鈴木公啓，木戸彩恵編著　A5・280頁・定価3740円　なぜ，私たちは今日も〈よそおい〉続けるのか？　普段の役割を降りるツール，自他の関係調整ツール，ジェンダーワークといった心理的社会的機能の観点から，衣服，化粧，ピアッシングなどの身体装飾の行為を考察。

パーソナリティのHファクター

ー自己中心的で，欺瞞的で，貪欲な人たちー　K. リー，M. C. アシュトン著　小塩真司監訳　四六・208頁・定価2640円　自分を利するために計算高く他人を操る，特別な地位や権利を得るに値すると自惚れている…… Hファクターの低い人々。パーソナリティのHEXACOモデルを発案した心理学者たちが，彼らに特徴的な性格傾向や行動様式を解説する。

コーチング心理学ガイドブック

S. オリオーダン，S. パーマー編著　徳吉陽河監訳　A5・336頁・定価4620円　心理学に基づくコーチングの基礎や研究等を紹介。信頼関係の築き方やアセスメント等の主要トピックから，会社やスポーツなどでの応用，コーチング心理学の限界と未来まで包括的に解説。個人と組織の持続的成長やウェルビーイング向上に貢献したい実践家・研究者必読の書。

実践！ 健康心理学

ーシナリオで学ぶ健康増進と疾病予防ー　日本健康心理学会編集　A5・208頁・定価2750円　医療・看護，福祉，産業，教育など，多様な人が活用できる健康心理学の「実践ガイド」を提供。まず，シナリオ形式で健康心理学の視点と方法論が役立つ状況を例示し，対応の仕方を解説。次いで，背景理論もしっかりと説明。

ドムヤンの学習と行動の原理［原著第7版］

M. ドムヤン著　漆原宏次，坂野雄二監訳　B5上製・424頁・定価7920円　学習心理学の泰斗・ドムヤンによる米国で評判のテキスト，待望の邦訳。行動の誘発，強化，制御，消去，変容に関わる学習の原理，およびその広範な活用について，神経科学の裏づけを加えつつ新たな研究知見を紹介。

感情制御ハンドブック

ー基礎から応用そして実践へー　有光興記監修　飯田沙依亜，榊原良太，手塚洋介編著　A5上製・432頁・定価6160円　本邦で展開されてきた多彩な感情制御研究を一望できる書。基礎理論に始まり，社会・人格・認知・発達・臨床・教育，さらには経済・司法・労働までの各分野における最新知見を8部31章21トピックスで紹介。

ワーキングメモリと発達障害［原著第2版］

ー教師のための実践ガイドー　T. P. アロウェイ，R. アロウェイ著　湯澤正通，湯澤美紀監訳　四六・296頁・定価2750円　学習の基礎となる認知的スキル，ワーキングメモリ。読字障害，算数障害，発達性協調運動症，注意欠如・多動症，自閉スペクトラム症，不安症群……障害ごとに支援方法を提案する。

非認知能力

ー概念・測定と教育の可能性ー　小塩真司編著　A5・320頁・定価2860円　「人間力」「やりぬく力」など漠然とした言葉に拠らず，心理学の知見から明快に論じる。誠実性，グリット，好奇心，自己制御，楽観性，レジリエンス，マインドフルネスなど関連する15の心理特性を取りあげ，教育や保育の現場でそれらを育む可能性を展望する。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事〔全20巻〕完結！

シリーズ監修　太田信夫

●A5判・148～232頁・定価2200～2530円

1 感覚・知覚心理学	2 神経・生理心理学	3 認知心理学	4 学習心理学	5 発達心理学
6 高齢者心理学	7 教育・学校心理学	8 臨床心理学	9 知能・性格心理学	10 社会心理学
11 産業・組織心理学	12 健康心理学	13 スポーツ心理学	14 福祉心理学	15 障害者心理学
16 司法・犯罪心理学	17 環境心理学	18 交通心理学	19 音響・音楽心理学	20 ICT・情報行動心理学

サビカス キャリア構成理論
四つの〈物語（ナラティブ）〉で学ぶキャリアの形成と発達
マーク・L・サビカス 著
水野修次郎、長谷川能扶子 監訳
■A５判／並製／428頁　◎定価3,850円
キャリアカウンセリングの大家サビカスの理論の集大成。4つの物語でキャリアの形成・発達を明らかにする。

Big Fiveパーソナリティ・ハンドブック
５つの因子から「性格」を読み解く
谷 伊織、阿部晋吾、小塩真司 編著
■A５判／並製／296頁　◎定価3,520円
Big Fiveパーソナリティの歴史から最新の研究までを網羅。その方向性と社会の中での応用の可能性を指し示す。

サブカルチャーの心理学２
「趣味」と「遊び」の心理学研究
山岡重行 編　サブカルチャー心理学研究会 著
■A５判／並製／272頁　◎定価2,970円
陰謀論、アニメ・マンガオタク、百合、オーディオマニア、ギャル、女子力、鉄道などを心理学的に分析する。

こころの行動と発達・臨床心理学
軽部幸浩 編著　長澤里絵、黒住享弘 著
■B５判／並製／168頁　◎定価2,530円
心理学の基礎を、初学者向け教科書として発達・対人関係・臨床心理・コミュニケーションを中心に概説。

恋の悩みの科学
データに基づく身近な心理の分析
松井 豊 編著
相羽美幸、古村健太郎、仲嶺 真、渡邊 寛 著
■四六判／並製／238頁　◎定価1,980円
多数のデータを基に恋の悩みを考えるヒントを紹介。身近な現象を実証的に検証する方法も学べる一冊。

はじめて学ぶ ビデオゲームの心理学
脳のはたらきとユーザー体験（UX）
セリア・ホデント 著
山根信二 監訳　成田啓行 訳
■A５判／並製／200頁　◎定価2,420円
長年ゲーム開発に携わってきた心理学の専門家が、ゲームのおもしろさと心理学の関係をわかりやすく解説。

ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）非認知能力を育てる教育フレームワーク
渡辺弥生、小泉令三 編著
■A５判／並製／248頁　◎定価2,860円
子どもの感情と社会性を育む国際的教育活動「SEL」の概要・導入・アセスメント・日本の実践例を紹介。

応用心理学ハンドブック
日本応用心理学会 企画
応用心理学ハンドブック編集委員会 編集
藤田主一、古屋 健、角山 剛、谷口泰富、深澤伸幸 編集代表
■B５判／上製／858頁　◎定価27,500円
16の領域・分野からホットなトピックを紹介。関連する研究の歴史、最新の動向と展望がわかるリファレンス。

心理職の仕事と私生活
若手のワーク・ライフ・バランスを考える
伊藤正哉、山口慶子、榊原久直 編著
■A５判／並製／256頁　◎定価2,970円
どうすれば仕事と私生活を両立できるのか？　実体験に基づいた、心理職として自分らしく生きるためのヒント。

宗教が拓く心理学の新たな世界
なぜ宗教・スピリチュアリティが必要なのか
松島公望、大橋 明、川島大輔 編著
■A５判／並製／324頁　◎定価3,300円
宗教・スピリチュアリティを心理学研究に取り入れることで生まれる、概念・実証・現場の連携と協働の試み。

卒業論文のデザイン
質問紙調査による社会心理学研究
川浦康至 著
■A５判／並製／160頁　◎定価2,750円
研究対象への迫り方が手に取るようにわかる一冊。卒論ゼミの雰囲気を再現しつつ、どこからでも楽しく読める！

「自己指導能力」を育てる生徒指導
一人一人の自己実現を支援する
松浪健四郎 監修
齋藤雅英、宇部弘子、市川優一郎、若尾良徳 編著
■A５判／並製／242頁　◎定価2,860円
改訂版生徒指導提要に準拠した教科書。性の問題、多様な背景を持つ児童生徒への対応など新しい課題を網羅。

心のなかはどうなっているの？
高校生の「なぜ」に答える心理学
日本青年心理学会 企画
若松養亮 責任編集
大野 久、小塩真司、佐藤有耕、
平石賢二、三好昭子、山田剛史 編集
■A５判／並製／244頁　◎定価1,980円
高校生の日々の悩みの正体を解説しつつ、心理学の基本的な考え方や青年心理学の主な領域を系統的に紹介。

人に優しいロボットのデザイン
「なんもしない」の心の科学
高橋英之 著
■A５判／並製／216頁　◎定価2,640円
人を癒やし勇気づけるロボットを創るには？　心理学・脳科学・哲学を用いて「何もしないロボット」を考える。

日本の心理教育プログラム
心の健康を守る学校教育の再生と未来
山崎勝之 編著
■A５判／並製／308頁　◎定価2,970円
子どもの心の健康と適応を守るための心理教育プログラム。学校での恒常的安定実施への壁とその突破口を探る。

進化精神病理学
心理学と精神医学の統合的アプローチ
マルコ・デル・ジュディーチェ 著
川本哲也、喜入 暁、杉浦義典 監訳
■B５判／上製／480頁　◎定価9,900円
統合失調症、パーソナリティ障害、抑うつなど、様々な精神障害を進化論の視点から分類・解説する。

福村出版　〒113-0034 東京都文京区湯島2-14-11　TEL 03-5812-9702　FAX 03-5812-9705　https://www.fukumura.co.jp
◎定価は税込み価格です。

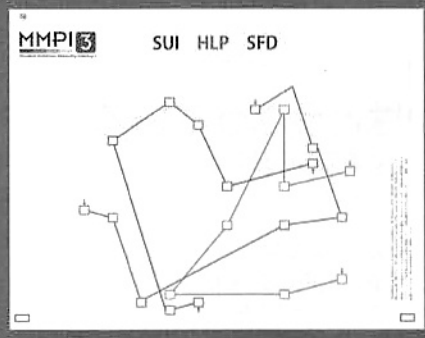
MMPI 3

Minnesota Multiphasic Personality Inventory-3

MMPI-3 日本版

原　　著　　Yossef S. Ben-Porath　Auke Tellegen

日本版作成　　MMPI-3 日本版研究会







精神医学に基づく多様な尺度を有する質問紙法人格検査

1. DSM-5 など最新の知見に基づく，MMPI の最新版
2. 335 の質問項目（旧版から 40%減）
3. 性別不要の男女同一基準
4. 10 の妥当性尺度と 42 の具体的な臨床尺度
5. 尺度の階層構造と明確な解釈指針

SKB 三京房

TEL 075-561-0071　FAX 075-525-1244

問い合わせ・資料請求フォーム：https://www.sankyobo.co.jp/form3.html

株式会社三京房は MMPI-3, MMPI の日本公式ライセンシーです。

幅広い心理学の知識を測定する、学術団体が直接行っている信頼できる検定です。

一般社団法人 日本心理学諸学会連合 認定

心理学検定

受検資格

学歴・年齢問わず受検を希望する全ての方に受検資格があります。

出題科目

心理学の10科目を出題します。科目は2領域に分類され、1科目あたり20問出題します。

A領域【原理・研究法・歴史】【学習・認知・知覚】【発達・教育】【社会・感情・性格】【臨床・障害】
B領域【神経・生理】【統計・測定・評価】【産業・組織】【健康・福祉】【犯罪・非行】

出題方式・試験時間

多肢選択方式で出題します。試験時間はA領域/B領域ともに100分間です。

試験方式

コンピューターを使用して試験を行うCBT方式で実施します。試験期間中、全国47都道府県にある試験会場からご都合の良い試験会場・日時を選ぶことができます。

資格認定

合格科目数に応じて、「特1級」「1級」「2級」の三種の級を認定します。

特1級 A領域5科目・B領域5科目 全10科目の合格者
1級 A領域4科目を含む合計6科目以上の合格者
2級 A領域2科目を含む合計3科目以上の合格者

合格科目有効制度

各科目の合格は、一定期間「合格」として認められます。一回の受検で資格認定基準を満たす必要はなく、複数回受検することで、より上位の級へ段階的に挑戦することができます。

受検料

受検領域	一般	団体※2
A領域	￥7,700	￥6,600
B領域	￥7,700	￥6,600
A・B領域※1	￥12,100	￥9,900

※1 A・B領域セット割引を適用した金額です。
※2 代表者による団体申込と20名以上の受検申込で適用されます。



一問一答形式の問題集！

公式問題集＆基本キーワードも発売中！

心理学を極める人も。
心理学を始める人も。

受検申込・受検予約方法

A領域／B領域 個別申込

受検予約サイトで試験会場・日時の予約
（コンビニ/Pay-easy/クレジット払い）
↓
予約した試験会場・日時で試験実施

A・B領域 割引セット

心理学検定ホームページより
A・B領域セット割引の申込
↓
受検料を指定口座へ振込
（受検チケット入手）
↓
受検予約サイトで試験会場・日時の予約
（受検チケット払い）
↓
予約した試験会場・日時で試験実施

※団体の方は、団体代表者からの案内に基づいて受検申込・受検予約を行ってください。

お問い合わせ
心理学検定局 〒113-0033 東京都文京区本郷5-26-5-901
E-mail : info@jupaken.jp Fax : 03-3830-0303

お申し込みはこちら。今すぐ詳細を確認！
https://jupaken.jp/



白桃書房　101-0021　東京都千代田区外神田 5-1-15
TEL 03-3836-4781　FAX 03-3836-9370
https://www.hakutou.co.jp　E-mail　info@hakutou.co.jp

D.L. ブルスティン 著　五十嵐敦・作田稔 監修
渡辺三枝子・中村恵・藤田真也 監訳

人間の仕事
意味と尊厳



定価 4,200 円

価格には消費税（10%）を含みます

［目次］
1．生きていること：生活の中心的役割としての仕事／2．生き残り，活き活きと働けること／3．他者と共にいること／4．私たち自身よりもっと大きなものの一部であること／5．やる気を出し，最高の自分になること／6．ケアできること／7．抑圧や嫌がらせを受けずに働けること／8．仕事がないこと／9．尊厳を持ち，機会を得て働けること：人間の生得権／概説．人間の仕事を理解する

ILO が提唱し政府も取組みを進める「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」に，日本でも注目が集まっている．膨大なインタビューから浮き彫りになった仕事・生活の崩壊による切実な心理的経験，心理学の知見から導かれる科学的考察をもとにした，「働くこと」の未来に向けた提言は，この不確実な時代の１つの道標となろう．

（既刊）

D.L. ブルスティン 編著　渡辺三枝子 監訳
『キャリアを超えて ワーキング心理学―働くことへの心理学的アプローチ』定価 7,040 円（税込）

tobii

目が語る心の秘密
アイトラッカーが心理学の扉を開く

アイトラッキングは...

- 注意や興味の可視化・数値化が可能
- 解釈が確かな生体計測マーケティング
- 意思決定プロセスを学ぶ
- 消費者の属性に合わせた戦略立案のための調査手法





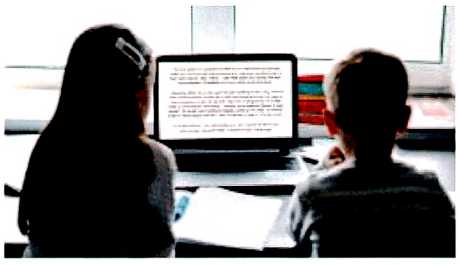
発達心理

- 赤ちゃんの認知/理解/感情の発達過程を定量化
- 親と子の共同注意
- 発達障害児と健常児の視線の違い



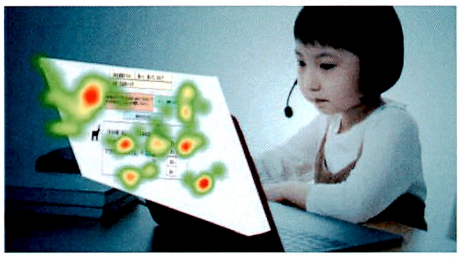
スポーツ心理

- アスリートの注意・意思決定を可視化
- トレーニングプログラムの強化・改善
- パフォーマンス評価



リーディングの研究

- 読みのプロセスを「見る」
- 読みやすい文章、読みにくい文章の判別
- 第二言語学習者の視線



教育に関する研究

- 教員/生徒が何を見ているか
- 教材や板書の評価
- 授業中/学習中の視線

最新のアイトラッキング研究動向がわかる

「Tobii アイトラッキングを使用した論文紹介 2022」PDF で配布中

ぜひブースへお立ち寄り下さい。

視線だけでなく、瞳孔径や目の開閉度（Eye openness）を取り入れた研究が増えています。
Tobii Pro フュージョンでは、新しく目の開閉度のデータ取得が可能になっております。

トビー・テクノロジー
sales.jp@tobii.com
03-6420-3990

この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。
GREEN PRINTING JAPAN P-010010